

平成 30 年度調査研究報告書

高齢者講習のドラレコ映像の交通安全教育への
活用に関する調査研究

報 告 書

平成 31 年 3 月

自動車安全運転センター

はじめに

加齢により、認知機能を含め様々な心身の能力が低下しますが、高齢運転者の方々にいかに安全に運転していただくかについては、わが国の喫緊の課題です。

70歳以上の方に運転免許証の更新時に受けていただく高齢者講習では、実車走行時に映像を記録しています。その映像を、75歳以上で認知機能の低下が疑われる受講者などに対して、個人指導の際に使用して指導することは、現状でも実施されていますが、本調査研究では、この映像をもっと効果的に活用できないか、あるいはこの映像を個人指導以外の用途にも活用して、高齢者講習における教育効果の向上に役立てられないかという観点から、実際の実車走行時の記録映像を取り寄せるとともに、全国の指定教習所に対してアンケートを実施し、検討を進めて参りました。

本報告書は、その検討結果をとりまとめたものです。高齢運転者教育の向上を図るための参考資料としてご活用いただければ幸いです。

末筆ではございますが、本調査研究にご参加下さり、ご指導をいただいた委員の皆様方、並びにご協力いただいた関係各位に深く感謝の意を表します。

平成31年3月

自動車安全運転センター

理事長 種谷 良二

平成 30 年度調査研究

「高齢者講習のドラレコ映像の交通安全教育への活用に関する調査研究」委員会委員名簿
(順不同、敬称略)

(委員会委員)

委 員 長 鎌田 実 東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻教授

委 員 今長 久	一般財団法人日本自動車研究所安全研究部安全基盤グループ研究員
〃 丸山 直紀	警察庁交通局交通企画課交通安全企画官兼運転免許課高齢運転者等支援室長
〃 小菅 律	科学警察研究所交通科学部交通科学第二研究室主任研究官
〃 西田 泰	公益財団法人交通事故総合分析センター研究部特別研究員兼研究第 1 課長
〃 西村 昭吾	一般社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会安全教育課長

オブザーバー 奥田 博也	警察庁交通局運転免許課係長
〃 小菅 英恵	公益財団法人交通事故総合分析センター研究部研究第 1 課研究員

事 務 局 中川 正浩	自動車安全運転センター調査研究部部長
〃 木平 真	自動車安全運転センター総務部調査役(調査研究担当)
〃 倉内 麻美	自動車安全運転センター調査研究課係長
〃 上原 厚美	自動車安全運転センター安全運転中央研修所指定教代表教官
〃 長沢 信三	株式会社都市交流プランニング代表取締役
〃 坂本 清明	株式会社都市交流プランニング技術部交通システム課長
〃 中山 正一	株式会社都市交流プランニング技術部交通システム課

目次

第1章 調査研究の概要	1
第1節 目的	1
第2節 調査項目等	1
第3節 認知機能検査及び高齢者講習について	3
1 認知機能検査	3
2 高齢者講習	4
3 認知機能検査と高齢者講習（75歳以上）の関係概略	4
第2章 認知機能検査受検者のその後の事故・違反	6
第1節 目的	6
第2節 分析方法	6
1 事故の基礎的集計	7
2 検挙違反の基本集計	9
3 事故の詳細集計	10
第3節 結果	11
1 事故の基本集計	11
2 検挙違反の基本集計	16
3 事故の詳細集計	21
第4節 まとめ	35
第3章 指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査	36
第1節 アンケート概要	36
1 目的	36
2 調査対象	36
3 アンケートの配布方法	36
4 アンケートの回収方法	37
5 期間	37
6 回収結果	37
第2節 アンケート結果	38
1 回答者及び教習所について	38
2 高齢者講習で使用しているドライブレコーダーについて	40
3 高齢者講習で撮影したドラレコ映像データの現在の保管環境について	46
4 映像データの保管期間の今後の方針について	47

5	今後どのような環境で保管することが適切と考えるか	55
6	現在の個人指導におけるドラレコ映像の使い方	57
7	高齢者講習のドラレコ映像の再利用について	61
8	ドラレコ映像データが今後よりよく活用されるために改善すべき問題点...	66
9	ドラレコ映像の活用について	67
	第3節 ヒアリング	67
1	ドラレコ等タイプ別のヒアリング	67
2	長期保存している教習所へのヒアリング	72
	第4節 まとめ	75
1	アンケート結果	75
2	ヒアリング結果	77
3	ドラレコ等で撮影した映像の運用にあたっての問題点	78
	第4章 3群分類別の一時停止場所における安全確認行動	79
	第1節 目的	79
	第2節 調査方法及び調査結果	79
1	調査対象サンプルの抽出	79
2	発話内容の文字起こし	80
3	一時停止標識前後における安全確認行動の分析	81
4	ドラレコ映像の加工	93
	第5章 教習所で使用されるドラレコの仕様調査	98
	第1節 目的	98
	第2節 調査対象	98
	第3節 調査内容	98
	第4節 調査結果	99
1	ドラレコの基本仕様及びドラレコのデータ保存方式等	99
2	機種ごとの専用ビューアー等の使い勝手	103
	第6章 GPS の利用について	105
	第1節 GPS について	105
	第2節 GPS データの利用についての提案	105
	第7章 ドラレコ映像の活用方策の検討	108
	第1節 目的	108

第2節 3群分類別の指導方法例の提案	109
1 ドラレコ映像の使用許諾や映像処理（モザイク処理等）の判断基準.....	109
2 ドラレコ映像の処理や保管等について	110
3 指導内容についての提案	112
第3節 講習指導員向の指導水準向上を目的とした利用の提案	118
第4節 GPSデータの利用についての提案.....	118

第1章 調査研究の概要

第1節 目的

高齢者講習では、運転免許更新を希望する高齢者に対して、ドライブレコーダー（以下「ドラレコ」という。）が装着された車両を運転させて、運転終了後に指導員と高齢者講習受講者が同時にドラレコの記録映像（以下「ドラレコ映像」という。）を確認しながら、交通安全教育を行うことになっている。

平成20年から平成29年までの10年間において70歳以上の運転免許保有者数は毎年増加しており、今後も増加することが見込まれることから、加齢等に伴い認知機能などが低下した高齢者が、高齢者講習における実車指導を通じて、自身の運転能力を自覚し、無理のない範囲で運転を継続できるようにすることが望ましい。また、安全な運転の継続に困難を感じた場合には自主的な免許返納が促されるような方策が望ましい。

本調査研究では、高齢者講習で記録されたドラレコ映像を交通安全教育において一層有効に活用することにより、高齢者講習と指導員教育をよりよいものとすることについて検討することとする。

第2節 調査項目等

本調査研究では、以下の項目について調査を実施した。

○ 背景調査、実態調査

- ① 運転免許の更新時に認知機能検査の受検が課せられている者（更新満了日に75歳以上の者）が、認知機能検査を受検した後に起こした交通違反（以下「違反」という。）及び事故について、認知機能検査により分類された第1分類の者、第2分類の者、第3分類の者の3つの群（以下「3群分類」という。）別に把握した。
- ② 全国各都道府県に合計約1,300か所存在する指定自動車教習所に対し、高齢者講習の実車指導で使用しているドラレコに関して、機種、保管方法、活用方法、問題点等についてアンケート調査を行い、実態を把握した。
- ③ ②のアンケートで回答の得られた指定自動車教習所のうち4校に対して、ドラレコ映像を用いて安全運転教育を行う際の工夫や問題点等についてヒアリングを行った。
- ④ 指定自動車教習所で使用されている4機種のドラレコ等について仕様調査を行った。

○ 3群分類別の安全確認行動の分析

- ⑤ 高齢者講習の実車指導で収集した3群分類別のドラレコ映像について、発話内容の文字起こしを行った。

⑥ 高齢者講習の実車指導で収集した3群分類別のドラレコ映像により、指導員の指導による受講者の安全確認行動（首振り回数）の変化等を調査した。

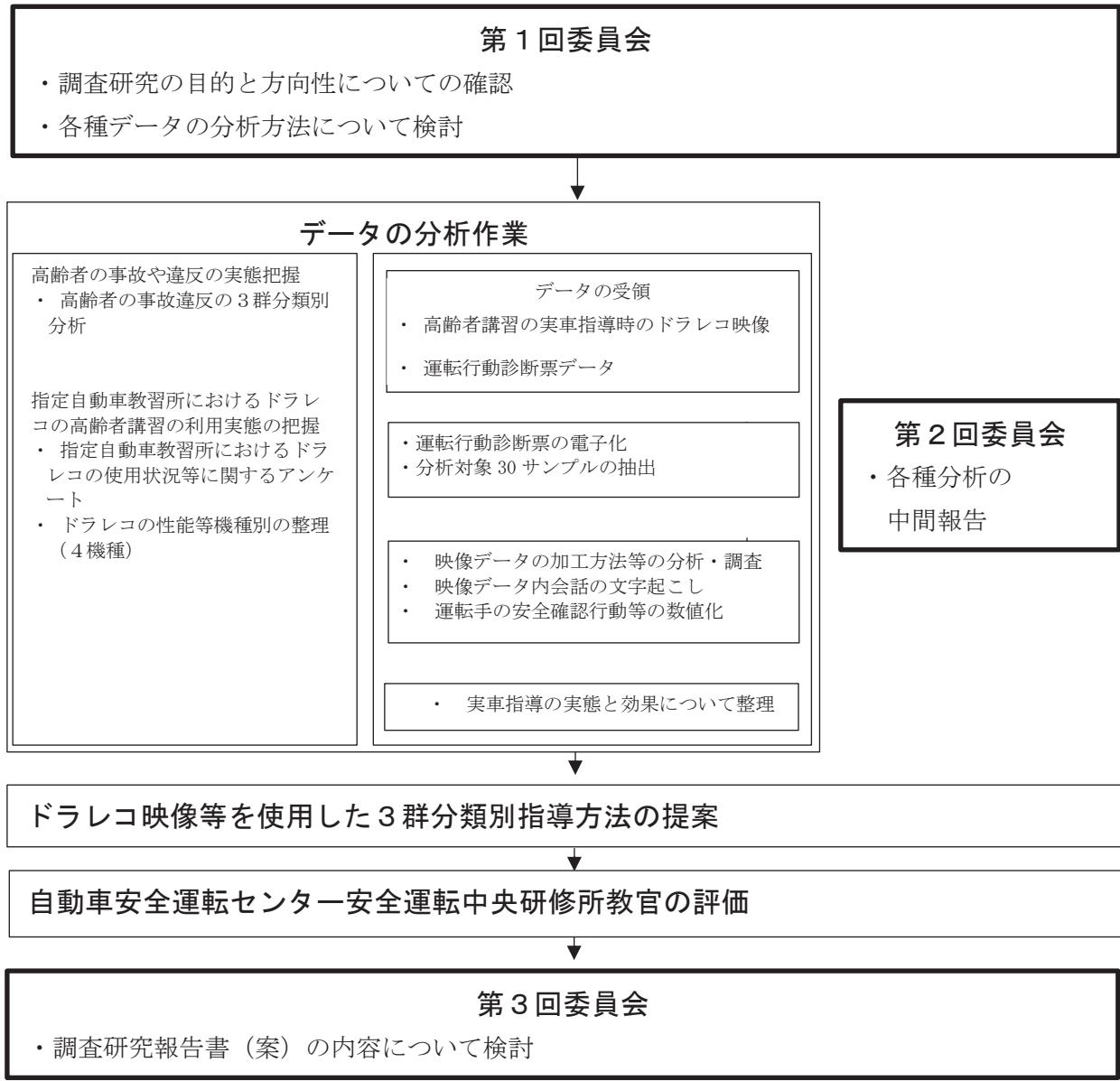
○ ドラレコ映像の3群分類別活用方法の検討

⑦ ①～⑥の結果を基に、高齢者講習と指導員教育のより良い手法について検討した。

⑧ ⑦で検討した内容について自動車安全運転センター安全運転中央研修所教官の評価を受け、課題等をまとめた。

⑨ 高齢者講習等で使用するドラレコ映像の活用法について提案を行った。

本調査研究全体の流れは以下のとおりである。



<図1 調査研究全体の流れ>

第3節 認知機能検査及び高齢者講習について

本調査研究では、高齢運転者の起こした事故や違反及び高齢者講習で収集された各種データ（実車指導時のドラレコ映像や運転行動診断票）と認知機能検査結果を紐づけし、分析等を行う。以下に、認知機能検査と高齢者講習の概略を示す。

1 認知機能検査

認知機能検査は、運転免許証の有効期間が満了する日（誕生日の1ヶ月後の日）の年齢が75歳以上のドライバーが高齢者講習の前に受検しなければならない検査で、時間の見当識、手がかり再生、時計描写の3項目で構成される。なお、平成29年3月12日以降は、運転免許証を保有する75歳以上の者が基準行為※を行った場合についても臨時の認知機能検査が行われる。検査内容は通常の認知機能検査と同様である。

※基準行為

- ・ 信号無視
- ・ 通行禁止違反
- ・ 通行区分違反
- ・ 横断等禁止違反
- ・ 進路変更禁止違反
- ・ しゃ断踏切立入り等
- ・ 交差点右左折等方法違反
- ・ 指定通行区分違反
- ・ 環状交差点左折等方法違反
- ・ 優先道路通行車妨害等
- ・ 交差点優先車妨害
- ・ 環状交差点通行車妨害等
- ・ 横断歩道等における横断歩行者等妨害
- ・ 横断歩道のない交差点における横断歩行者妨害
- ・ 徐行場所違反
- ・ 指定場所一時不停止等
- ・ 合図不履行
- ・ 安全運転義務違反

各検査項目の総得点により下記のとおり分類される。

第1分類 記憶力・判断力が低くなっている者

第2分類 記憶力・判断力が少し低くなっている者

第3分類 記憶力・判断力に心配のない者

【参考 URL】

警察庁「認知機能検査について」

<https://www.npa.go.jp/policies/application/license_renewal/ninchi.html>, 2018年6月13日
アクセス

2 高齢者講習

高齢者講習では、免許証の更新期間満了日の年齢が70歳以上の者に対しては、双方向型講義、運転適性検査器材による指導、実車による指導の講習項目が実施される。免許証の更新期間満了日の年齢が75歳以上の者で認知機能検査により第1分類又は第2分類の者は、これら3項目に加え、個人指導等が講習の最後に実施される（免許証の更新期間満了日の年齢が75歳以上の第3分の者は個人指導を実施しない。）。

なお、臨時高齢者講習では双方向型講義及び運転適性検査器材による指導は行われない。

（1）双方向型講義（臨時高齢者講習を除く）

講習指導員が主体となり、

- ・安全運転や危険予測に関する知識の確認
- ・加齢に伴う身体機能の変化
- ・地域における交通事故実態
- ・改正が行われた道路交通法令
- ・高齢者の交通事故の特徴と防止策

等について、教本や視聴覚教材を活用して講義を行う。講義内容について受講生と質疑応答を行い、講義内容の理解度について確認が行われる。

（2）運転適性検査器材等による指導（臨時高齢者講習を除く）

運転適性検査器材を使用し、視力、動体視力、夜間視力（視力回復時間、眩光下視力）、水平視野の測定を行い、検査結果に応じた指導が行われる。

（3）実車による指導

指導員の指示に従い、所定のコースを走行する。ドラレコ等で運転状況が記録される。必要に応じて記録された映像を確認し、指導員から助言を受ける。

（4）個人指導等（運転免許証の有効期間が満了する日の年齢が75歳以上の者で認知機能検査により第1分類又は第2分類と判定された者）

個別面接方式により、個々の具体的な運転行動について説明する。（3）実車による指導で撮影したドラレコ映像等を活用し指導を行う。

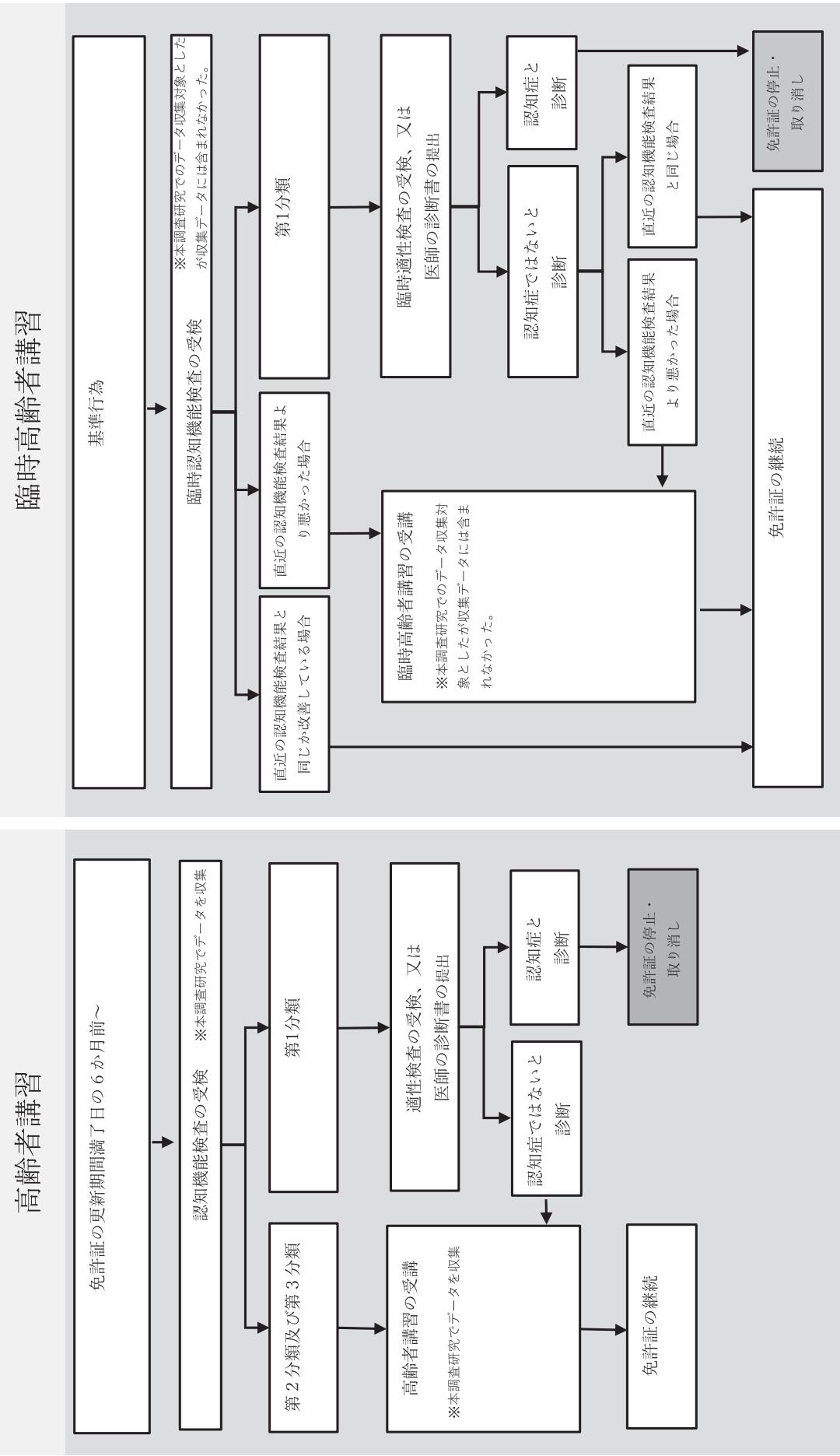
【参考 URL】

警察庁「高齢者講習の運用について」
<<https://www.npa.go.jp/pdc/notification/koutuu/menkyo/menkyo20161005-033.pdf>>, 2018年7月20日アクセス

3 認知機能検査と高齢者講習（75歳以上）の関係概略

運転免許証の有効期間が満了する日の年齢が75歳以上の者が運転免許更新前に受検する認知機能検査と高齢者講習の関係概略図及び、75歳以上の者が基準行為を行った際に受検する臨時認知機能検査と臨時高齢者講習の関係概略図を以下に示す。

<図2 認知機能検査及び高齢者講習の関係>



第2章 認知機能検査受検者のその後の事故・違反

第1節 目的

免許更新を行った高齢者が高齢者講習の受講後にどのような事故・違反に遭遇しているか実態を把握し、3群分類別の安全運転教育の検討に資することとした。

第2節 分析方法

交通事故総合分析センターで本調査研究用に構築した「違反」と「事故」の履歴を統合したデータベース（※1）を使い、平成26年中の免許更新で認知機能検査を受検した者を対象に（※2）、その後3年間に事故、交通違反（以下「違反」という。）に関連した者的人数を調査した。

※1 このデータベースは、平成26年中に認知機能検査を受検した者の認知機能検査履歴データに、平成26年から平成29年の検挙違反履歴及び平成26年から平成29年の交通事故統計データを統合したもので、本調査開始時点での交通事故総合分析センターに整備されていた平成29年末までのデータを使用した。

※2 この調査では、認知機能検査を受検した者が関連したその後3年間の事故、違反を追跡調査するため、平成26年を調査の起点とした。

認知症が進行すると認知機能の低下が進むことから、平成26年の認知機能検査を受検した者の事故・違反者数の経年による変化を、平成26年の認知機能検査結果別に1年単位（受講後1年未満、1年以上2年未満、2年以上3年未満）及び3年単位（受講後3年未満）で整理した。

なお、交通違反に関するデータは、取り締まりによる交通違反（以下「検挙違反」という。）、交通事故に関する交通違反（以下「法令違反」という。）があり、本調査では分析内容に応じて両データを使用した。また、各期間内で同一人物が同一の違反で1回検挙された場合も、複数回検挙された場合も1人として計上した。

今回使用したデータでは平成26年時点での高齢者講習受講履歴と認知機能検査結果を直接関連付けて集計することが出来ないため、認知機能検査結果と関連づけた集計が可能な認知機能検査受検者を対象に集計を行った。認知機能検査の受検後、受検者が高齢者講習の受講などそれ以降のプロセスに進まず、結果、運転免許の更新に至らない場合でも、現有している運転免許の有効期限までは合法的に運転を継続できる。そのため、集計結果は、一定数の認知機能検査を受けて免許を更新しなかった者（以下「未更新者」という。）を含んだものとなることから、高齢者講習受講者のみを対象とした場合の集計値よりも過大となる。特に、事故や違反を起こした（経験した）人数に対して、未更新者の運転免許が失効するまでの期間を含む受講後1年間の集計値については、それ以降の期間の集計値よりも未更新者が大きく影響すると考えられる。

なお、未更新者の割合を運転免許更新状況から推計すると、全受検者の0.5%、

認知機能検査結果別では第1分類の1.4%、第2分類の0.6%、第3分類の0.3%がそうであった(※3)。また、受検後1年間の事故経験者に占める未更新者の割合をみると、全受検者の0.7%、第1分類の3%、第2分類の1%、第3分類の0.3%が該当したが、受検後1年以降には事故経験者としての未更新者の計上はなくなつた。

調査は、下記1から5の観点で実施した

(※3) 平成26年中に認知機能検査を受検し、その後、高齢者講習を受講しなかつた者の人数求めるために、平成26年中に認知機能検査を受検した者の運転免許管理ファイルデータ(誕生日、性別、免許種別等の基本データ及び免許経歴、違反経歴、講習履歴等を含む)に交通事故統計データを統合したデータベースを使用した(集計対象の全運転者数を、事故・違反分析の対象人数と同数の1,437,841人とするため、平成26年中に認知機能検査を受検した者とした)。高齢者講習を受講しなかつた者は、その後、免許更新をしていないと仮定し、受検後平成26から平成27年に免許を失効した者として絞り込みを行った(平成26年中に認知機能検査を受けた者が、その後の高齢者講習や運転免許更新手続きを行わなかつた場合には、平成27年末までに運転免許を失効しているため)。

なお、個々人の受検回数は制限されていないため、認知機能検査を複数回受検した場合は、認知機能検査の結果が同じ場合も異なる場合も、複数回集計対象となっている可能性がある。このため、実質的な未受講者数はより少なくなるとともに、どの時点の認知機能検査結果を対象とするかにより検査結果分類別の構成率についても若干異なる可能性がある。

1 事故の基礎的集計

以下の集計を実施した。

(集計項目)

- ① 人身1当数(人)
- ② 人身1当数(本人死傷数)(人)
- ③ 死亡1当数(人)
- ④ 死亡1当数(本人死亡数)(人)
- ⑤ 無過失2当数(人)
- ⑥ 人身2当数(人)
- ⑦ 死亡2当数(人)
- ⑧ 無事故者数(人)
- ⑨ 免許保有者数(総数)(人)

※ 1当及び2当となる者がいるので、事故者数は1当数と2当数の合計にはならない。

(分析指標)

- ・ 構成比率 : 一定期間別 3 群分類別の集計項目①から⑧の各人数が、運転免許保有者数に占める割合に 100 を乗じた値。

- ・ 事故当事者率 : 一定期間内に交通事故の第 1 当事者となった道路利用者数が、運転免許保有者数に占める割合に 100 を乗じた値。
事故当事者率(%) = 人身 1 当数 / 免許保有者数 (総数) × 100

- ※ 第 1 当事者 (1 当) : 最初に交通事故に関与した車両等の運転者又は歩行者のうち、当該交通事故における過失が重い者をいう。なお、過失が同程度の場合には人身損傷程度が低い者をいう。
- ※ 第 2 当事者 (2 当) : 一般的には、「車両単独以外の人身事故の第 1 当事者が最初に衝突した車両又は車両の運転者あるいは歩行者、又は単独事故の”物件等” (道路上又は道路に接着する工作物や盛土等)」のことをいう。
ただし、今回の集計では、「車両単独以外の人身事故の第 1 当事者が最初に衝突した車両の運転者」とした。

- ※ 無過失 2 当 : 一般的には、「第 2 当事者に法令違反がない車両相互事故、又は法令違反なしで車両相互事故の第 2 当事者となった者」のことをいう。事故類型を車両相互事故とする理由は、人対車両事故の当事者となる率は自動車の運転頻度だけでなく歩行者交通量の影響が大きいためであり、車両単独事故の第 2 当事者には運転者はならないためである。
ただし、今回の集計では「原付以上の第 2 当事者に法令違反がない車両相互事故、又は原付以上運転中に法令違反なしで車両相互事故の第 2 当事者となった者」とした。

- ※ 一定期間 : 平成 26 年の認知機能検査受検日を起点とした、1 年未満、1 年以上 2 年未満、2 年以上 3 年未満の各 1 年間及び平成 26 年中の認知機能検査受検日から 3 年後の当該日の前日までの 3 年間。

- ※ 準道路暴露量 : 道路利用頻度を示す指標で、本調査では無過失 2 当数を使う。一定期間内に交通事故の第 1 当事者になる率は、運転方法の危険性だけでなく運転（道路利用）頻度の影響も受けとと考えられる。
- 一般には、運転（道路利用）頻度の指標として走行台キロが使われることが多いが、運転者の細かな属性別にこの値を求めるることは困難である。そこで、交通事故に関わる指標から運転頻度の指標として提案されたものが、無過失 2 当である。
- 相対事故率 : 一定期間内の準道路暴露量当たりの事故率。

$$\text{相対事故率} = \text{人身 1 当数} / \text{無過失 2 当数}$$
 - 準道路暴露率 : 一定期間内に無過失 2 当となった者の割合に 100 を乗じた値。（道路利用頻度の代替指標）

$$\text{準道路暴露率} (\%) = \text{無過失 2 当数} / \text{免許保有者数 (総数)} \times 100$$

2 検挙違反の基本集計

基準行為の 17 項目（「横断歩道等における横断歩行者等妨害」、「横断歩道のない交差点における横断歩行者妨害」は、違反件数を「横断歩行者等妨害」に合算した。）に携帯電話保持等を加えた 18 項目と、その他の違反の全 19 項目について検挙違反の人数の集計を行った。経年による特徴の変化も合わせて分析した。

(集計項目)

- 検挙違反人数

(分析指標)

- 構成比率 : 一定期間内の各検挙違反人数を、一定期間別の検挙違反人数の総数で割った値に 100 を乗じた値。
- 相対違反者率 : 一定期間内の準道路暴露量当たりの違反率。

$$\text{相対違反者率} = \text{ある期間の違反人数} / \text{無過失 2 当数}$$

3 事故の詳細集計

(1) 道路形状別・一時停止規制有無別法令違反有無別交通事故当事者数（平成29年分のみ）

平成29年3月12日から、加齢による認知機能の低下に着目した臨時認知機能検査制度や臨時高齢者講習制度が新設された。臨時認知機能検査の結果、第1分類とされた者は、臨時適性検査の受検または医師の診断書の提出が必要となり、その結果、認知症と診断された場合は免許証の停止や取り消しとなる（図2参照）。こうした新制度の影響を確認するため（※）、「道路形状別・一時停止規制有無別法令違反有無別交通事故当事者数」について平成29年分の集計を実施した。道路形状は、「信号交差点」、「無信号交差点」、「交差点付近」、「単路」の4分類。法令違反は、「信号無視」、「一時不停止」、「その他」、「違反なし」の4分類とした。

※ 集計結果には、平成29年1月1日から平成29年3月11日までの旧制度のデータを含むため、新制度の傾向の定性的な確認である。

（集計項目）

- ・ 死亡事故者数（人）
- ・ 人身事故者数（人）

（分析指標）

- ・ 構成比率： 3群分類別の各検挙違反人数を、一定期間別3群分類別の検挙違反人数総数で割った値に100を乗じた値。

(2) 道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数

3群分類別の一時不停止や信号無視等の違反について道路形状別一時停止規制の有無別に分析した。経年による特徴の変化も合わせて分析した。

集計項目は以下のとおりである。

（集計項目）

- ・ 死亡事故者数（人）
- ・ 人身事故者数（人）

（分析指標）

- ・ 構成比率： 一定期間別3群分類別の各検挙違反人数を、一定期間別3群分類別の検挙違反人数総数で割った値に100を乗じた値。

(3) 事故類型別交通事故当事者数

3群分類別の事故類型別の事故について確認をする。経年による特徴の変化も合わせて分析した。

(集計項目)

- ・ 死亡事故 1 当数及び 2 当数 (人)
- ・ 人身事故 1 当数及び 2 当数 (人)

(分析指標)

- ・ 構成比率
- ・ 相対事故率

第3節 結果

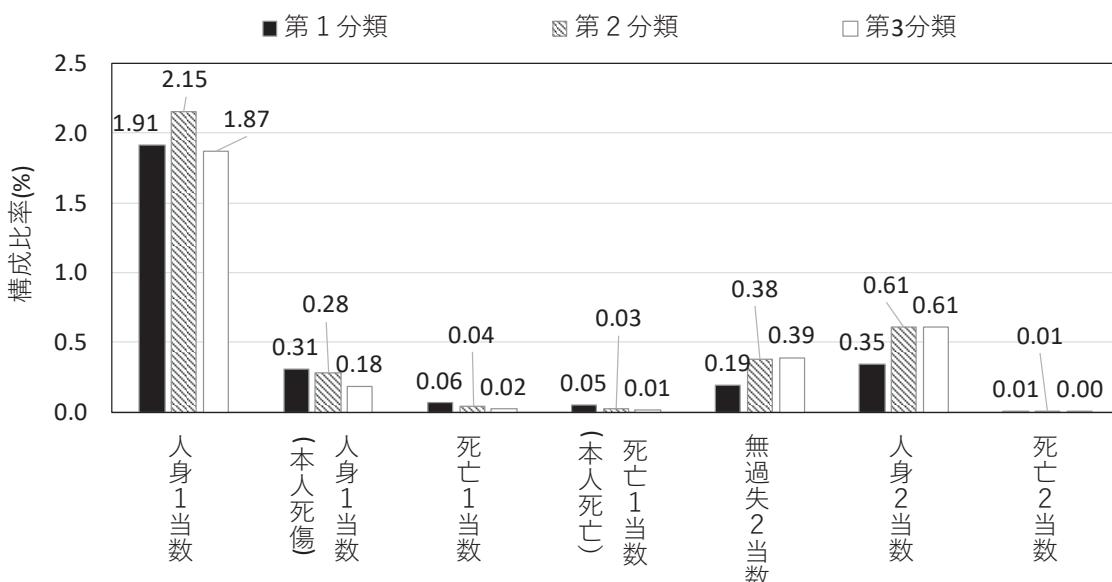
1 事故の基本集計

(※ 「事故の基本集計」の詳細は、付録の、付録-2 から付録-7 に掲載した。)

(1) 基本事項

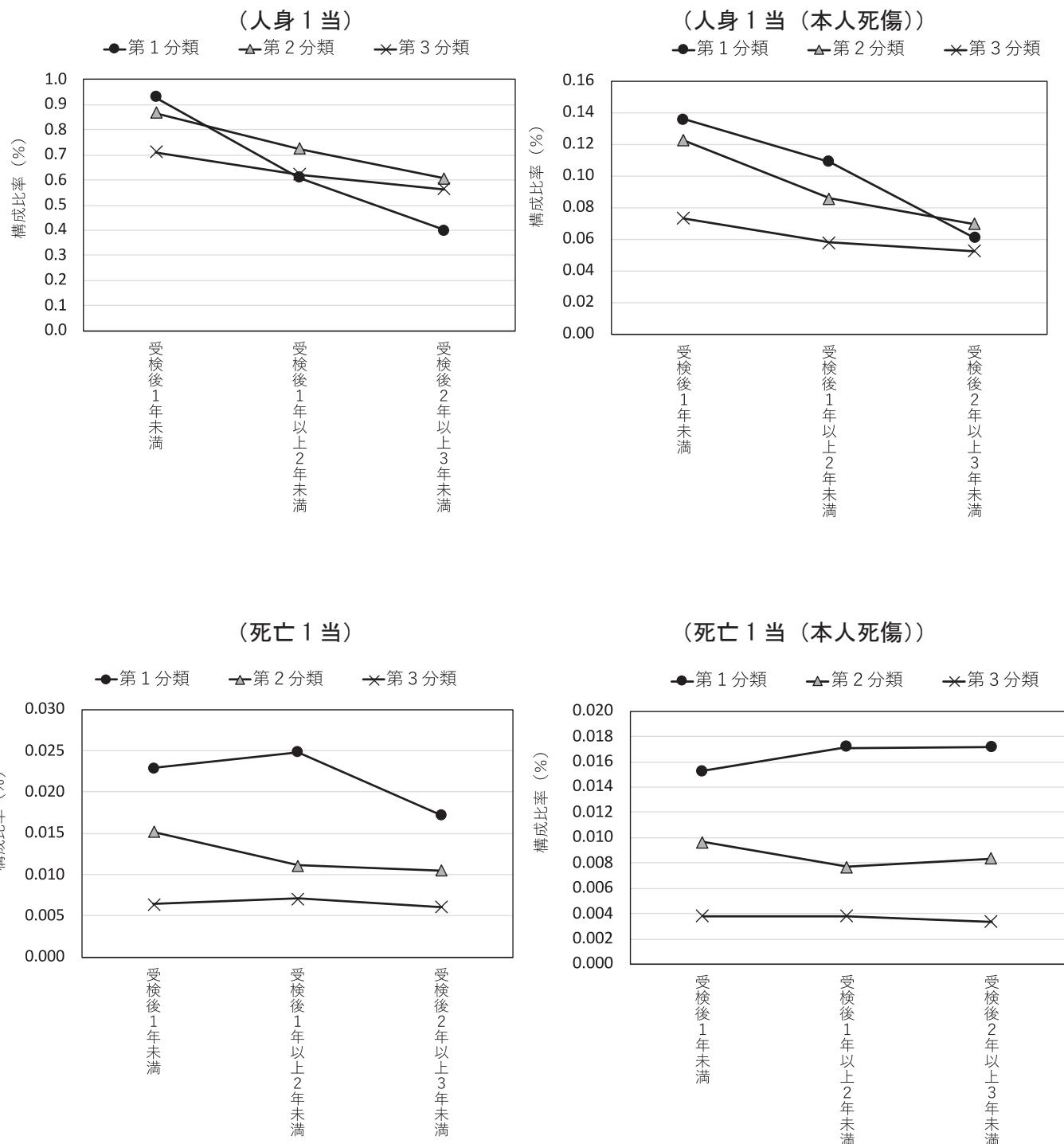
受検後 3 年間の構成比率について以下のことがわかった。

- ・ 人身 1 当は第 2 分類が最も高かった。
- ・ 人身 1 当 (本人死傷) は第 1 分類が最も高かった。
- ・ 死亡 1 当は第 1 分類が最も高かった。
- ・ 死亡 1 当 (本人死亡) は第 1 分類が最も高かった。
- ・ 無過失 2 当は第 3 分類が最も高く、第 2 分類も同程度に高かった。
- ・ 人身 2 当は第 3 分類が最も高く、第 2 分類も同程度に高かった。
- ・ 死亡 2 当は第 2 分類が最も高かった。ただし、その他分類と比較して大きな差はなかった。
- ・ いずれの分類においても、人身 1 当、人身 1 当 (本人死傷)、死亡 1 当 (本人死亡) の構成比率は経年と共におおむね減少していた。



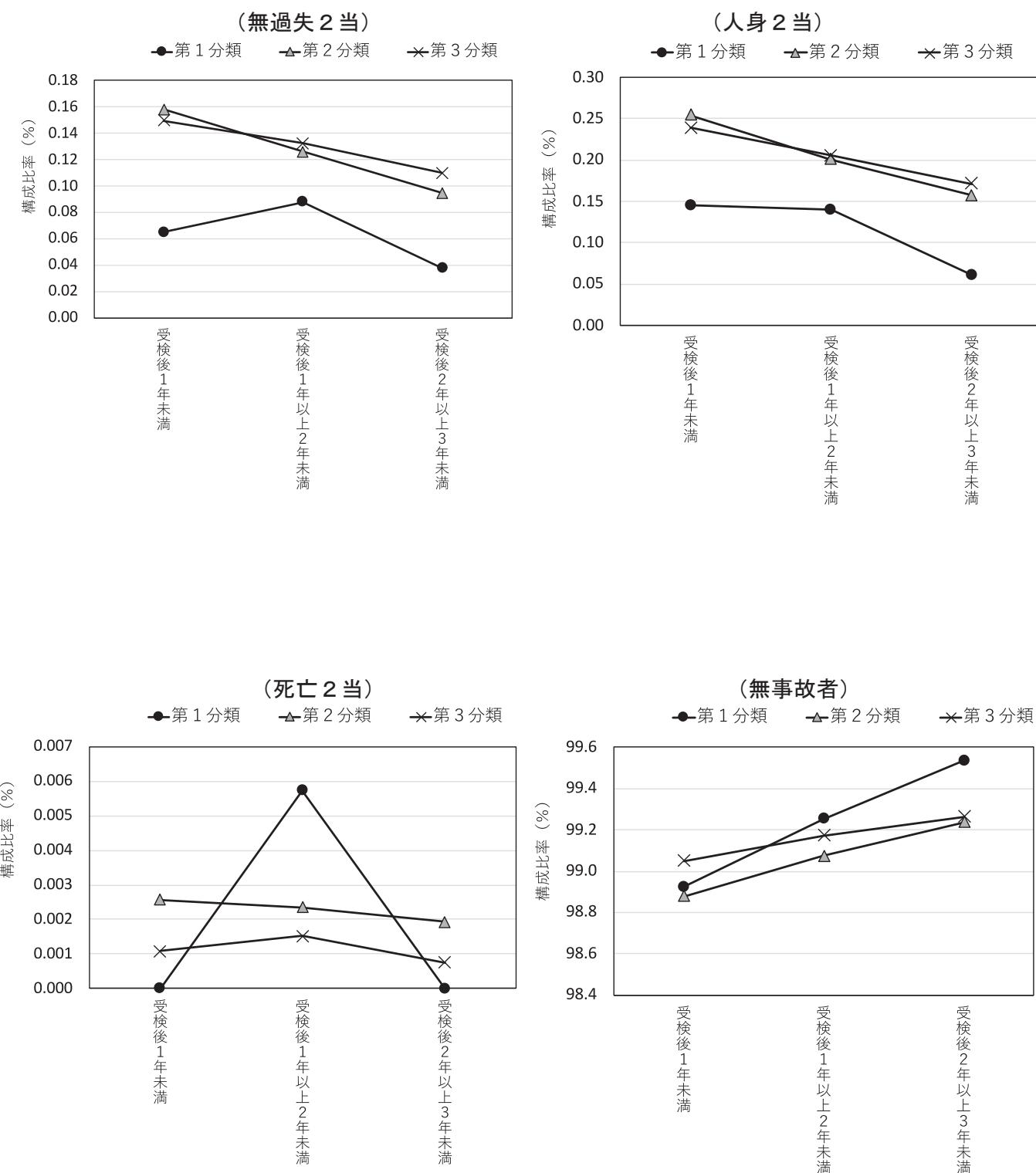
<図3 事故の基本集計(構成比率・受検後3年間)>

(付録2頁から4頁の、付録図1、付録図2、付録表1を参照)



<図4 事故の基本集計(1当・経年変化)>

(付録2頁から4頁の、付録図1、付録表1を参照)



<図5 事故の基本集計(2当・経年変化)>

(付録2頁から4頁の、付録図2、付録表1を参照)

＜表1 事故の基本集計＞

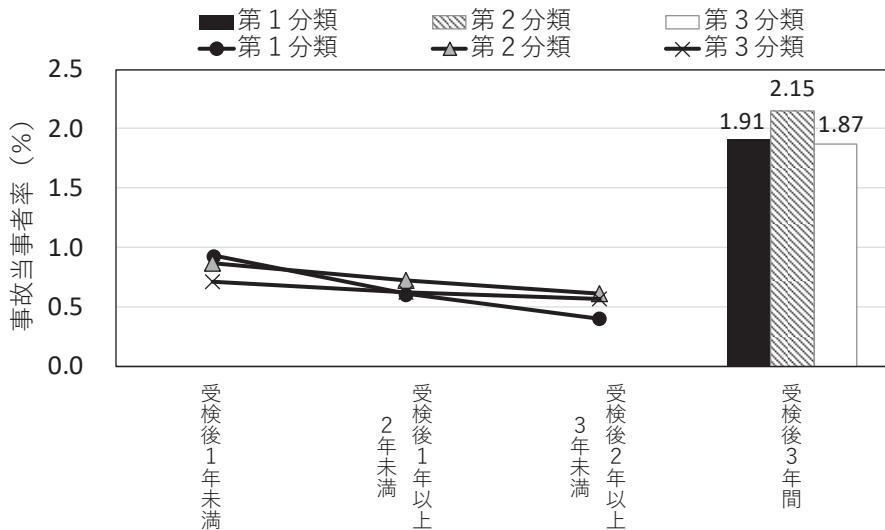
	集計期間	事故者数(人)				構成比率(%)			
		第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
人身1当数	受検後1年未満	487	4,050	6,528	11,065	0.93	0.87	0.71	0.77
	受検後1年以上2年未満	318	3,386	5,716	9,420	0.61	0.72	0.62	0.66
	受検後2年以上3年未満	210	2,829	5,178	8,217	0.40	0.61	0.56	0.57
	受検後3年間	1,001	10,065	17,168	28,234	1.91	2.15	1.87	1.96
人身1当数 (本人死傷)	受検後1年未満	71	572	673	1,316	0.14	0.12	0.07	0.09
	受検後1年以上2年未満	57	401	532	990	0.11	0.09	0.06	0.07
	受検後2年以上3年未満	32	325	483	840	0.06	0.07	0.05	0.06
	受検後3年間	160	1,297	1,686	3,143	0.31	0.28	0.18	0.22
死亡1当数	受検後1年未満	12	71	59	142	0.02	0.02	0.01	0.01
	受検後1年以上2年未満	13	52	65	130	0.02	0.01	0.01	0.01
	受検後2年以上3年未満	9	49	56	114	0.02	0.01	0.01	0.01
	受検後3年間	34	172	180	386	0.06	0.04	0.02	0.03
死亡1当数 (本人死亡)	受検後1年未満	8	45	35	88	0.02	0.01	0.00	0.01
	受検後1年以上2年未満	9	36	35	80	0.02	0.01	0.00	0.01
	受検後2年以上3年未満	9	39	31	79	0.02	0.01	0.00	0.01
	受検後3年間	26	120	101	247	0.05	0.03	0.01	0.02
無過失2当数	受検後1年未満	34	739	1,373	2,146	0.06	0.16	0.15	0.15
	受検後1年以上2年未満	46	589	1,217	1,852	0.09	0.13	0.13	0.13
	受検後2年以上3年未満	20	442	1,010	1,472	0.04	0.09	0.11	0.10
	受検後3年間	100	1,759	3,570	5,429	0.19	0.38	0.39	0.38
人身2当数	受検後1年未満	76	1,189	2,191	3,456	0.15	0.25	0.24	0.24
	受検後1年以上2年未満	73	938	1,887	2,898	0.14	0.20	0.21	0.20
	受検後2年以上3年未満	32	733	1,575	2,340	0.06	0.16	0.17	0.16
	受検後3年間	181	2,829	5,602	8,612	0.35	0.61	0.61	0.60
死亡2当数	受検後1年未満	0	12	10	22	0	0.00	0.00	0.00
	受検後1年以上2年未満	3	11	14	28	0.01	0.00	0.00	0.00
	受検後2年以上3年未満	0	9	7	16	0	0.00	0.00	0.00
	受検後3年間	3	32	31	66	0.01	0.01	0.00	0.00
無事故者	受検後1年未満	51,781	461,916	909,684	1,423,381	98.9	98.9	99.1	99.0
	受検後1年以上2年未満	51,955	462,823	910,795	1,425,573	99.3	99.1	99.2	99.1
	受検後2年以上3年未満	52,102	463,574	911,639	1,427,315	99.5	99.2	99.3	99.3
	受検後3年間	51,167	454,363	895,814	1,401,344	97.8	97.3	97.5	97.5

平成26年に認知機能検査を受検した運転免許保有者数(人)

第1分類	第2分類	第3分類	合計
52,344	467,131	918,366	1,437,841

(2) 事故当事者率

- 事故当事者率は認知機能検査受検後3年間合計でみると第2分類が最も高かった。
- いずれの分類も事故当事者率は経年とともに減少していた。

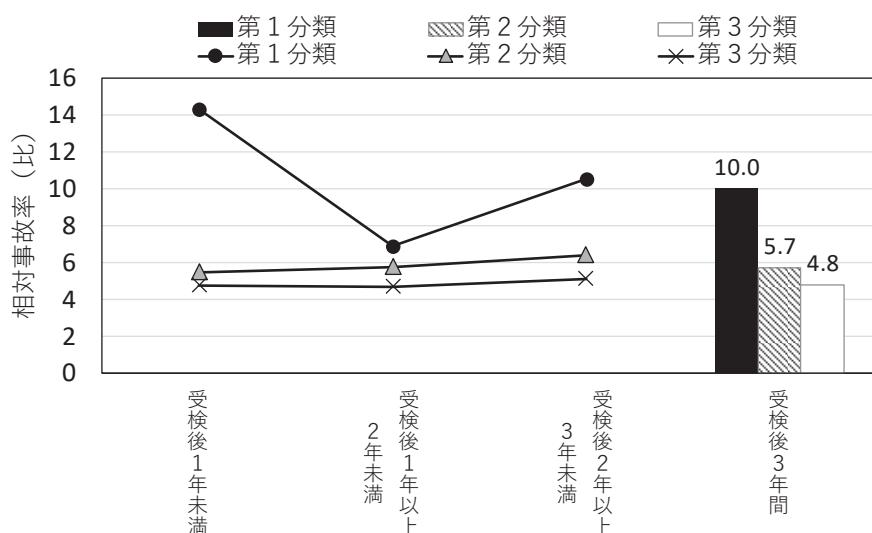


<図6 事故の基本集計（事故当事者率）>

(付録5頁の、付録図3を参照)

(3) 相対事故率

- 相対事故率は、いずれの期間においても第1分類、第2分類、第3分類の順で高かった。

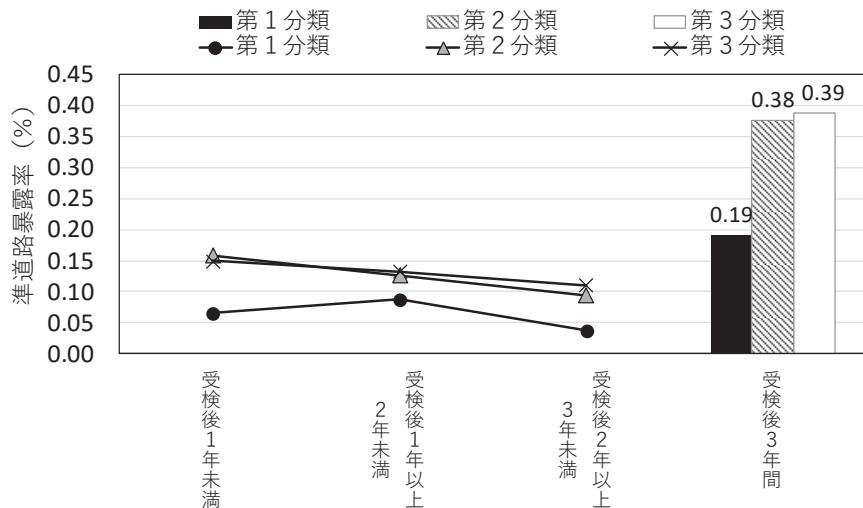


<図7 事故の基本集計（相対事故率）>

(付録6頁の、付録図4を参照)

(4) 準道路暴露率

- ・ 準道路暴露率は、いずれの期間においても第2分類、第3分類は同程度で、第1分類よりも高かった。
- ・ いずれの分類も経年による大きな増減はなかった。



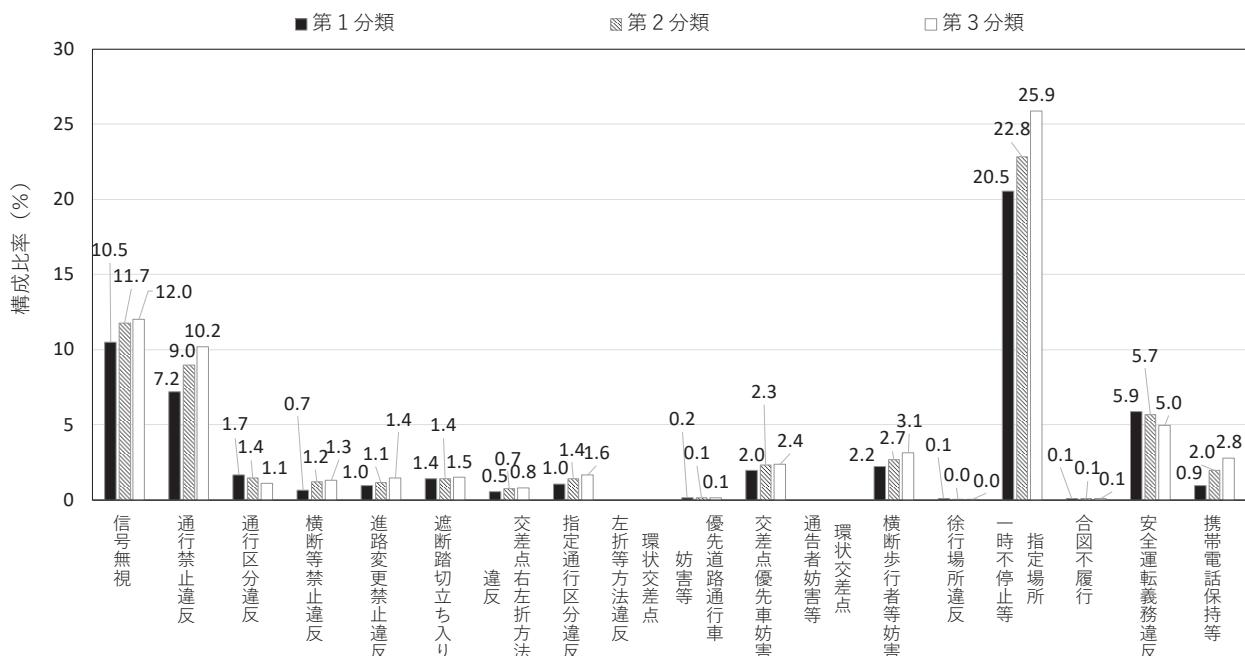
<図8 事故の基本集計（準道路暴露率）> (付録7頁の、付録図5を参照)

2 検挙違反の基本集計

(※ 「検挙違反の基本集計」の詳細は、付録の、付録-8から付録-34に掲載した。)

(1) 基本事項

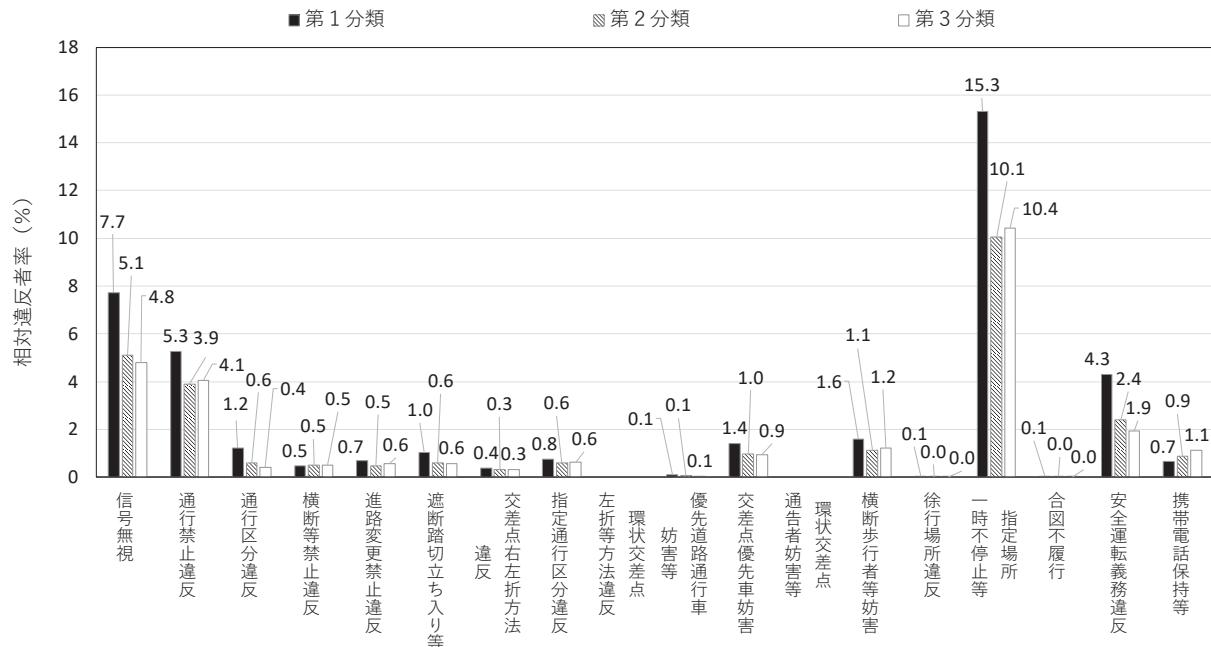
受検後3年間の構成比率は、いずれの分類も「指定場所一時不停止」の割合が最も高く、次いで「信号無視」、「通行禁止違反」が高かった。



<図9 検挙違反の基本集計（構成比率・認知機能検査受検後3年間）>

(付録8頁から13頁の、付録図6、付録図7、付録図8、付録図9を参照)

受検後3年間の相対違反者率は、第1分類の「指定場所一時不停止」が、第2分類、第3分類と比較して高く、その他違反も同様の傾向があるが、「携帯電話保持等」では第3分類がやや高かった。



<図10 事故の基本集計（相対違反者率・認知機能検査受検後3年間）>

(付録8頁から13頁の、付録図6、付録図7、付録図8、付録図9を参照)

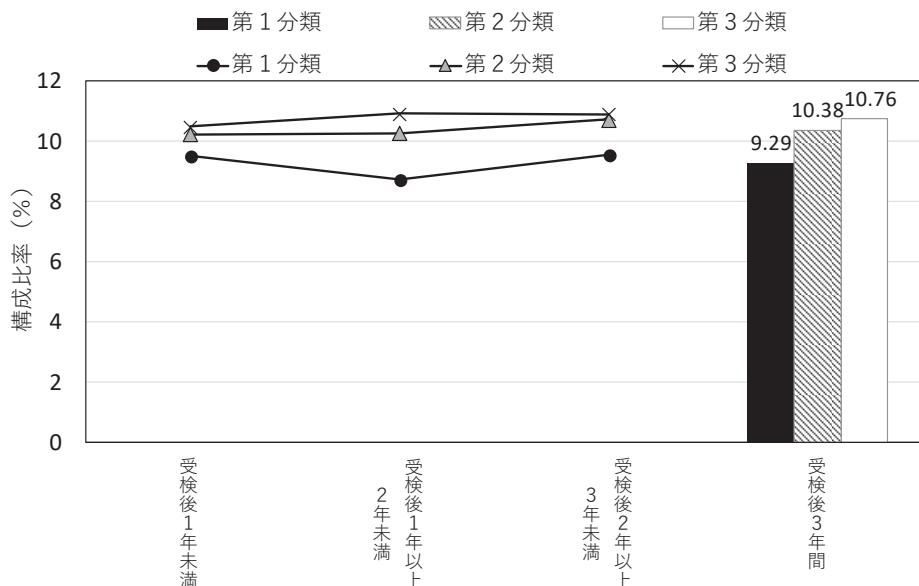
<表2 検挙違反の基本集計（認知機能検査受検後3年間）>

コード	違反	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
		第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V00	全違反種別	7,247	74,244	138,694	220,185	-	-	-	-	83.1	49.2	44.5	46.8
V01	信号無視	760	8,723	16,679	26,162	10.5	11.7	12.0	11.9	7.7	5.1	4.8	5.0
V02	通行禁止違反	520	6,674	14,103	21,297	7.2	9.0	10.2	9.7	5.3	3.9	4.1	4.0
V03	通行区分違反	120	1,066	1,514	2,700	1.7	1.4	1.1	1.2	1.2	0.6	0.4	0.5
V04	横断等禁止違反	48	899	1,842	2,789	0.7	1.2	1.3	1.3	0.5	0.5	0.5	0.5
V05	進路変更禁止違反	69	842	1,994	2,905	1.0	1.1	1.4	1.3	0.7	0.5	0.6	0.5
V06	遮断踏切立ち入り等	103	1,055	2,063	3,221	1.4	1.4	1.5	1.5	1.0	0.6	0.6	0.6
V07	交差点右左折方法違反	38	539	1,080	1,657	0.5	0.7	0.8	0.8	0.4	0.3	0.3	0.3
V08	指定通行区分違反	75	1,029	2,269	3,373	1.0	1.4	1.6	1.5	0.8	0.6	0.6	0.6
V09	環状交差点左折等方法違反	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
V10	優先道路通行車妨害等	11	111	181	303	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
V11	交差点優先車妨害	142	1,727	3,323	5,192	2.0	2.3	2.4	2.4	1.4	1.0	0.9	1.0
V12	環状交差点通告者妨害等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
V13	横断歩行者等妨害	159	1,994	4,366	6,519	2.2	2.7	3.1	3.0	1.6	1.1	1.2	1.2
V15	徐行場所違反	6	33	69	108	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
V16	指定場所一時停止等	1,487	16,956	35,867	54,310	20.5	22.8	25.9	24.7	15.3	10.1	10.4	10.4
V17	合図不履行	6	57	101	164	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
V18	安全運転義務違反	425	4,201	6,890	11,516	5.9	5.7	5.0	5.2	4.3	2.4	1.9	2.1
V19	携帯電話保持等	67	1,474	3,885	5,426	0.9	2.0	2.8	2.5	0.7	0.9	1.1	1.0
V20	その他	3,981	37,824	62,556	104,361	54.9	50.9	45.1	47.4	45.8	24.4	19.3	21.5
V20*	その他(V01からV19のない者)	3,452	31,444	51,720	86,616	47.6	42.4	37.3	39.3	43.0	22.6	17.9	19.9

(2) 受検後3年間で構成比率の高かった項目（信号無視、通行禁止違反、指定場所一時不停止）の構成比率及び相対違反者率

ア 信号無視

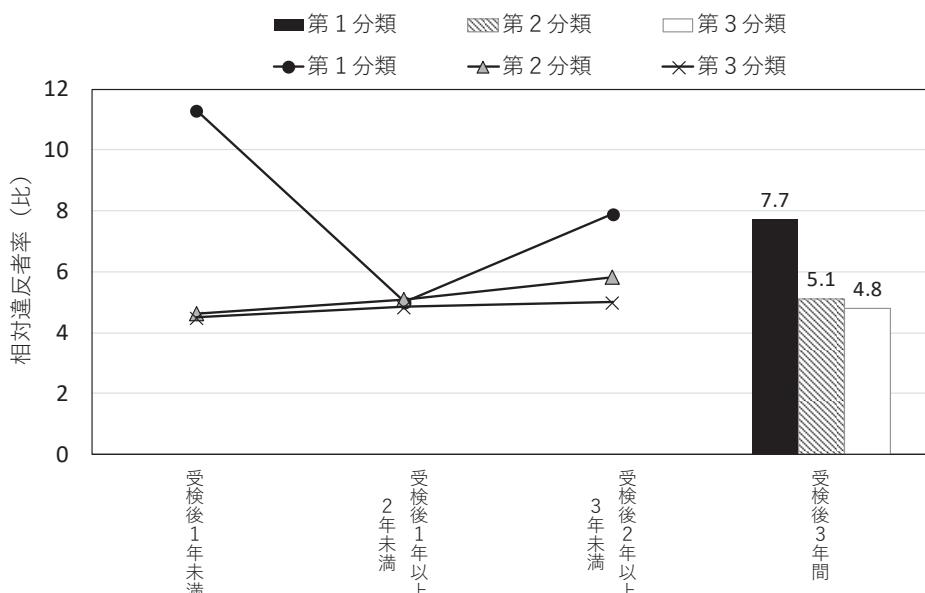
- 構成比率は、いずれの分類も経年と共に大きな変化はなかった。また、受検後3年間では、第3分類が最も高かった。



<図11 構成比率（信号無視）>

(付録14頁の、付録図10を参照)

- 相対違反者率は受検後3年間では第1分類が高かった。第2分類及び第3分類に大きな差はなかった。

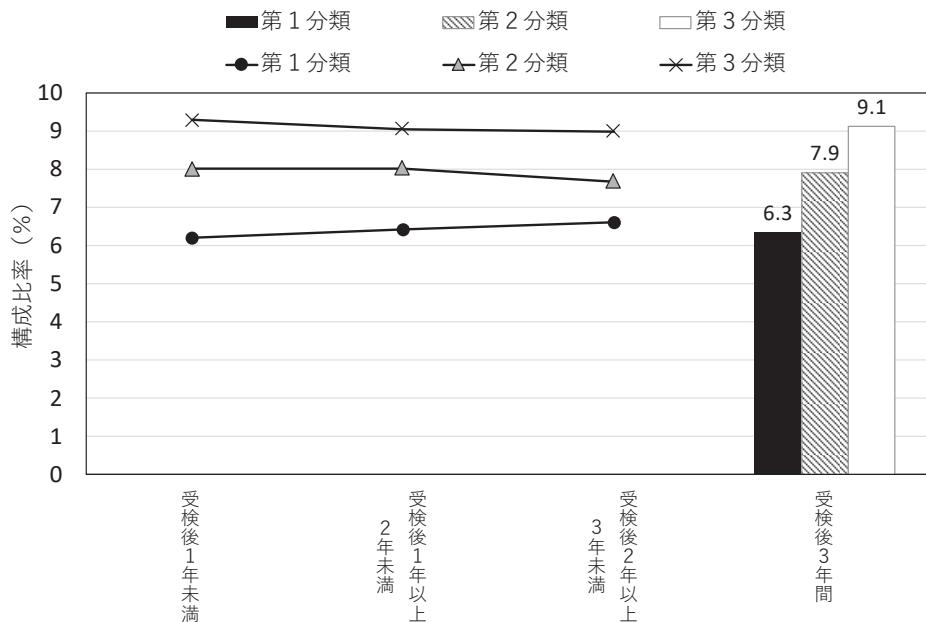


<図12 相対違反者率（信号無視）>

(付録14頁の、付録図10を参照)

イ 通行禁止違反

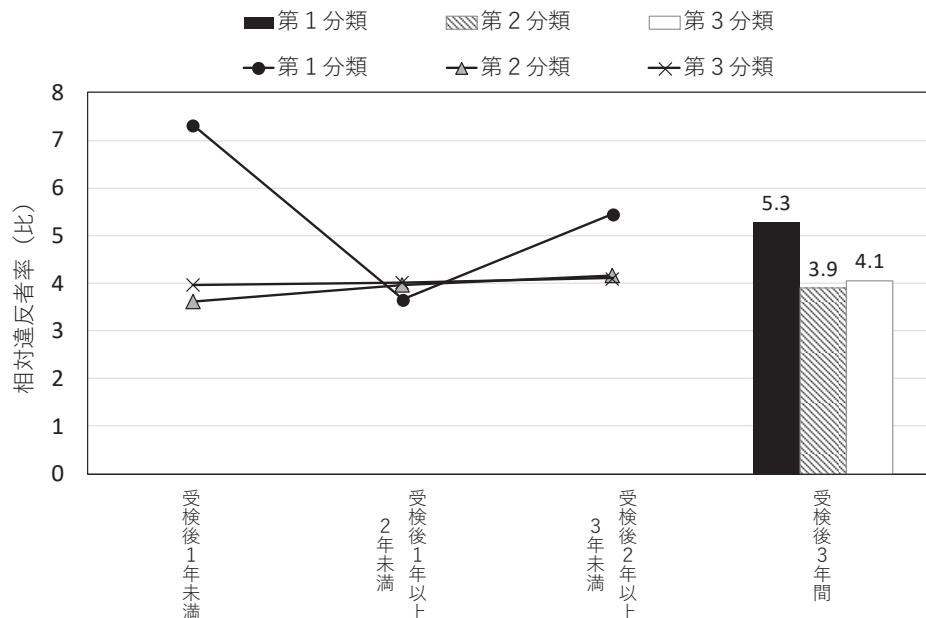
- 構成比率は、いずれの分類も経年と共に大きな変化はなかった。また、受検後3年間では、第3分類が最も高かった。



<図13 構成比率（通行禁止違反）>

(付録15頁の、付録図11を参照)

- 相対違反者率は受検後3年間では第1分類が高かった。第2分類及び第3分類に大きな差はなかった。

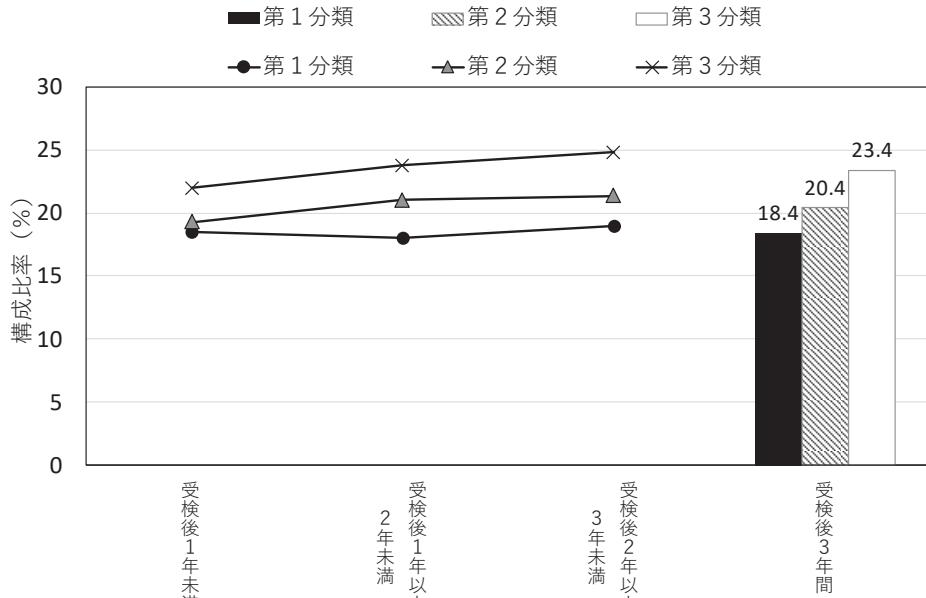


<図14 相対違反者率（通行禁止違反）>

(付録15頁の、付録図11を参照)

ウ 指定場所一時不停止等

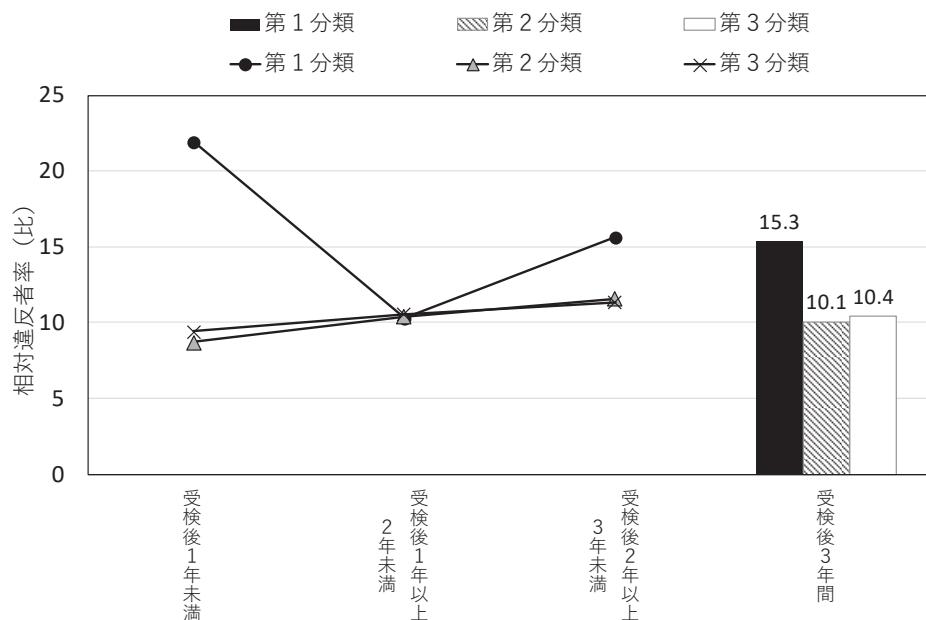
- 構成比率は、いずれの分類も経年でおおむね増加する傾向にあった。
- 受検後3年間では、第3分類が最も高かった。



<図15 構成比率（指定場所一時不停止等）>

(付録26頁の、付録図22を参照)

- 相対違反者率は受検後3年間では第1分類が高かった。第2分類及び第3分類に大きな差はなかった。



<図16 相対違反者率（指定場所一時不停止等）>

(付録26頁の、付録図22を参照)

3 事故の詳細集計

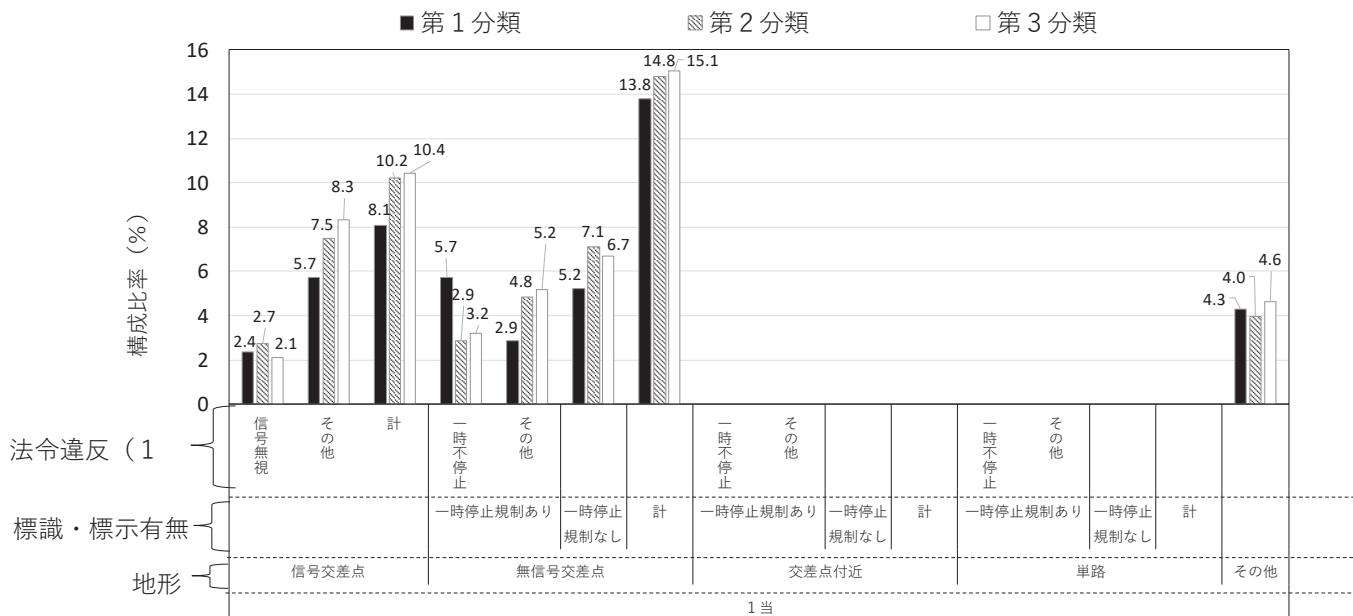
(※ 「事故の詳細集計」の詳細は、付録の、付録-33 から付録-75 に掲載した。)

(1) 道路形状別・一時停止規制有無別法令違反有無別交通事故当事者数（平成 29 年分のみ）

ア 第 1 当事者（1 当）

信号無視や一時不停止が関係する事故について以下のことがわかった。

- ・ 第 1 分類は、他の分類と比較して「無信号交差点における一時停止規制ありでの一時不停止」の構成比率が高かった。
- ・ 第 2 分類は、他の分類と比較して「信号交差点における信号無視」、「無信号交差点における一時停止規制なしでの一時不停止」の構成比率が高かった。
- ・ 第 3 分類は、他の分類と比較して、構成比率が高い条件（道路形状、標識・標示有無）はなかった。ただし、「無信号交差点における一時停止規制なしでの一時不停止」の構成比率は 2 分類と比較して若干低い程度であった。

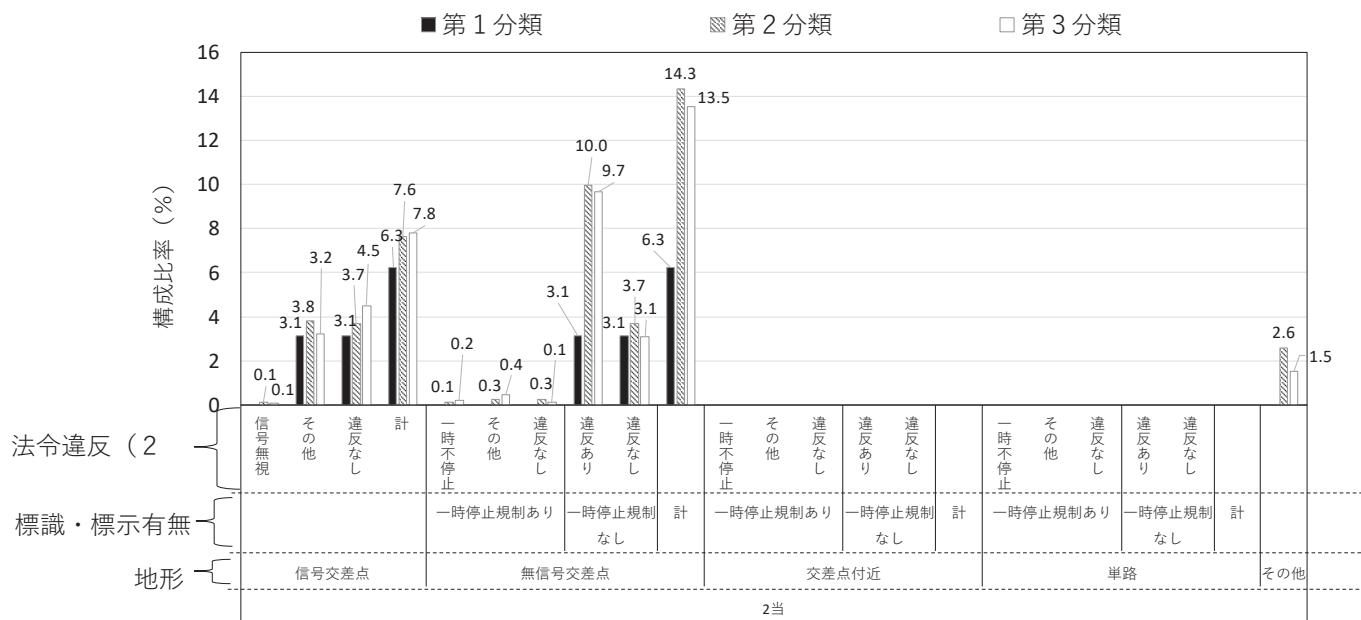


<図 17 「道路形状別・一時停止規制有無別法令違反有無別交通事故当事者数（平成 29 年分のみ）」(1 当・構成比率)>
(付録 32 頁から 34 頁の、付録図 28、付録表 2 を参照)

イ 第2当事者（2当）

信号無視や一時不停止が関係する事故について以下のことがわかった。

- 第1分類は、他の分類と比較して構成比率が高い項目はなかった。
- 第2分類は、他の分類と比較して「信号交差点の信号無視」、「無信号交差点の一時停止規制なしでの違反あり」の構成比率が高かつた。
- 第3分類は、信号無視や一時不停止が他の分類と比較して構成比率が高い条件（道路形状、標識・標示有無）はなかった。ただし、「無信号交差点の一時停止規制なしでの違反あり」の構成比率は第2分類と比較して若干低い程度であった。



＜図18 「道路形状別・一時停止規制有無別法令違反有無別交通事故当事者数（平成29年分のみ）」（2当・構成比率）＞

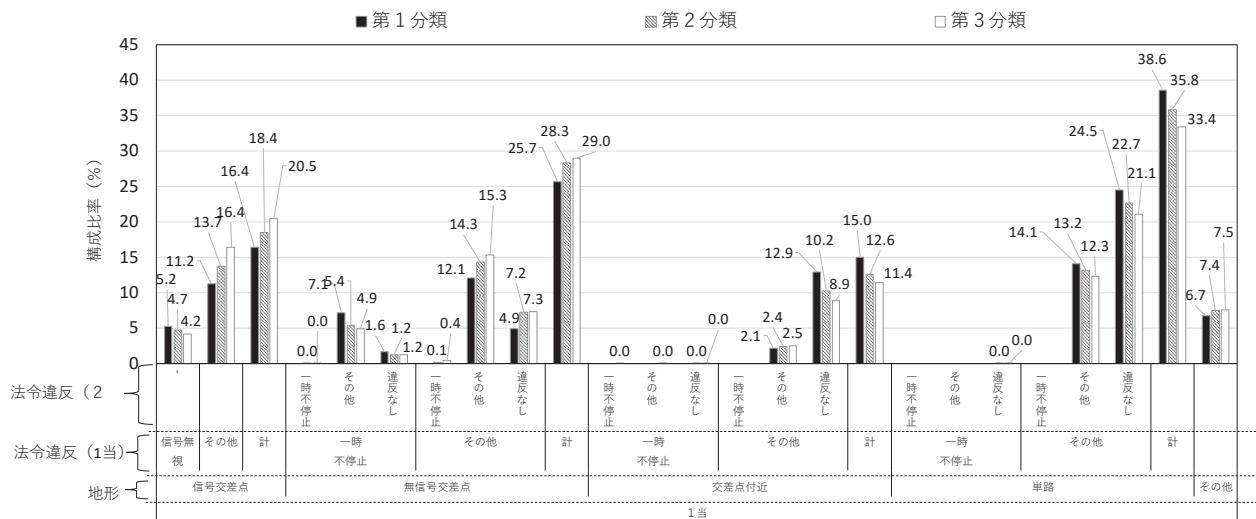
（付録32頁から34頁の、付録図29、付録表2を参照）

(2) 道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数

ア 第1当事者（1当）

認知機能検査受検後3年間の信号無視や一時不停止が関係する事故について以下のことがわかった。

- 第1分類は他の分類と比較して、「信号交差点における信号無視」、「無信号交差点における一時不停止（2当側法令違反その他（一時不停止以外））」、「無信号交差点における一時不停止（2当側法令違は違反なし）」の構成比率が高かった。
- 第2分類は他の分類と比較して構成比率が高い条件（道路形状）はなかった。ただし、「信号交差点における信号無視」、「無信号交差点における一時不停止（2当側法令違は違反なし）」は、第1分類と比較して若干低い程度であった。
- 第3分類は他の分類と比較して構成比率が高い条件（道路形状）はなかった。ただし、「無信号交差点における一時不停止（2当側法令違は違反なし）」は、第1分類と比較して若干低い程度であった。



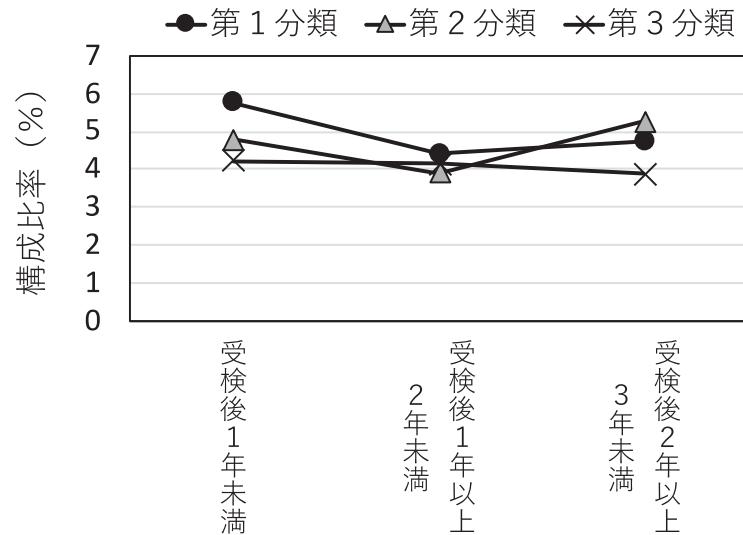
<図19 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」

(認知機能検査受検後3年間・1当・構成比率)>

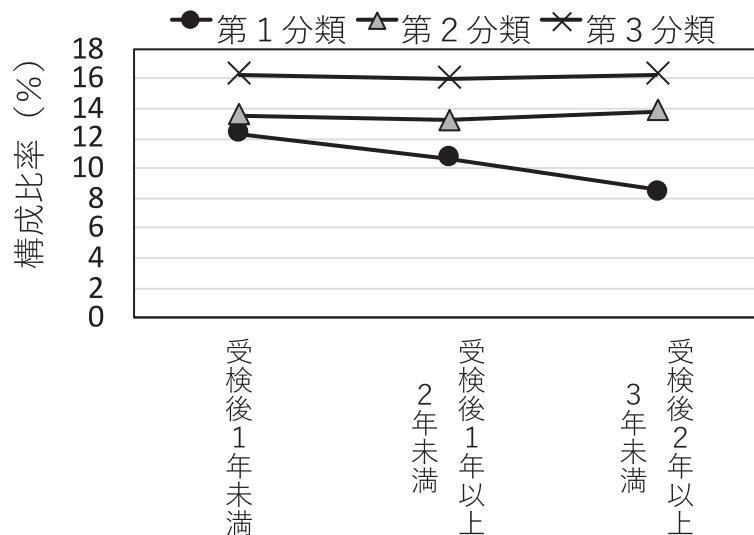
(付録44頁から46頁の、付録図44、付録表6を参照)

- 信号交差点における信号無視の構成比率は、第1分類は経年とともに減少傾向であるのに対し、第2分類、第3分類は経年による大きな増減はなかった。

(法令違反 1当：信号無視)



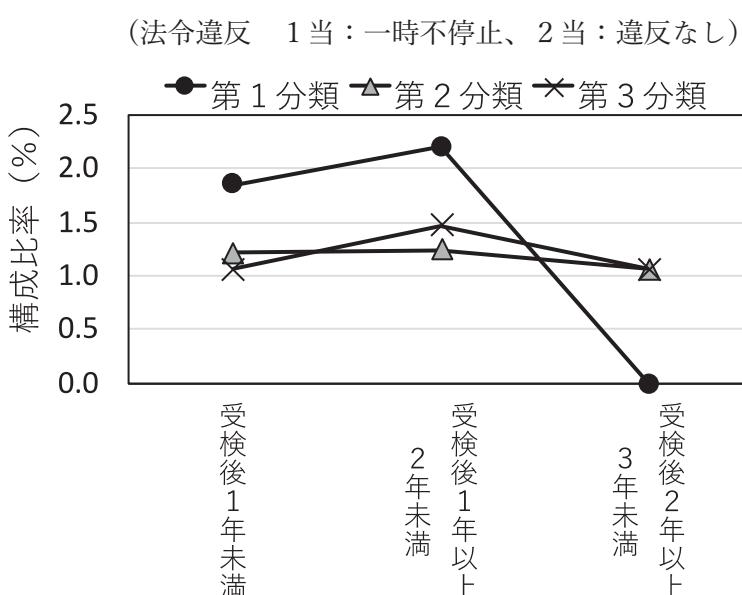
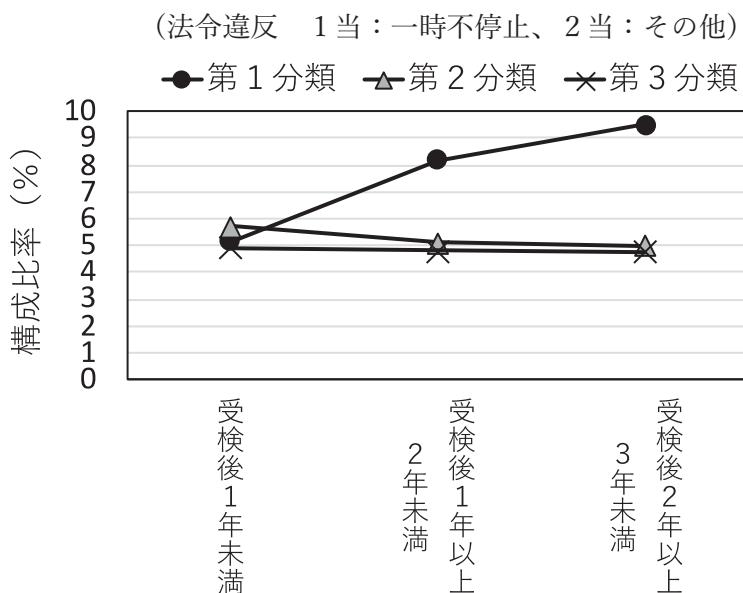
(法令違反 1当：その他)



<図 20 信号交差点における法令違反の構成比率の経年変化（1当）>

(付録 35 頁から 43 頁の各図表を参照)

- 無信号交差点における一時不停车の構成比率は、第1分類は経年とともに増加傾向であるのに対し、第2分類、第3分類は経年による大きな増減はなかった。



※ 無信号交差点における、「法令違反 1当：一時不停车、2当：一時不停车」での事故は確認されなかった。

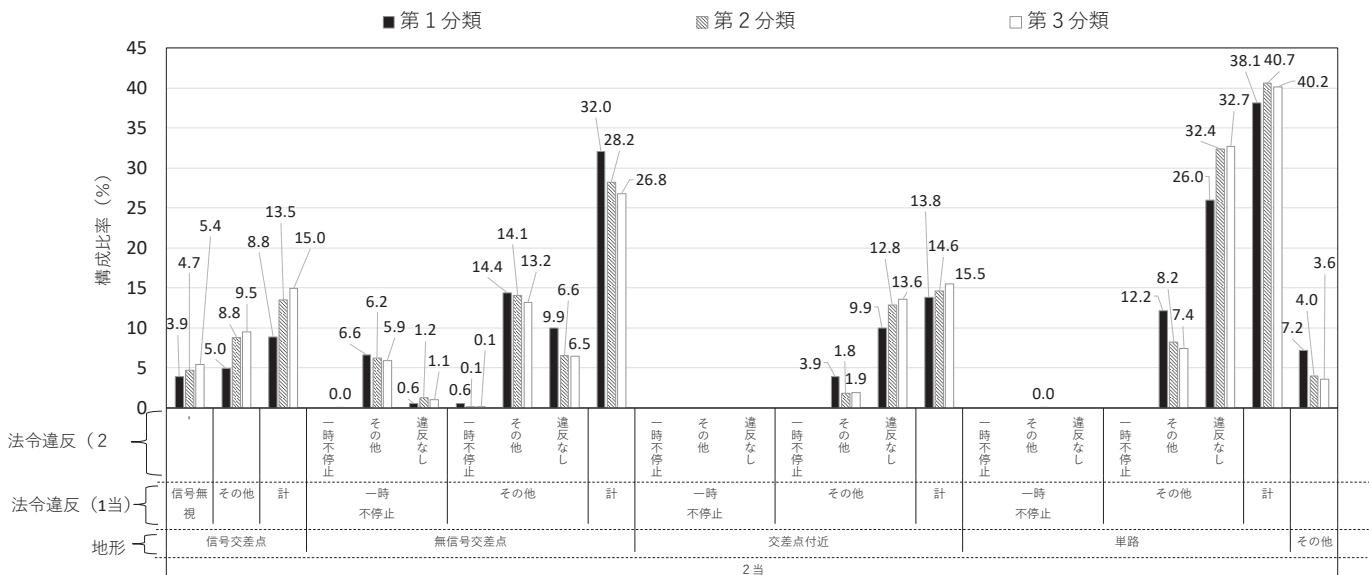
<図 21 無信号交差点における法令違反の構成比率の経年変化（1当）>

(付録 35 頁から 43 頁の各図表を参照)

イ 第2当事者（2当）

認知機能検査受検後3年間の信号無視や一時不停止が関係する事故について以下のことがわかった。

- 第1分類は他の分類と比較して、「無信号交差点におけるその他（一時不停止以外）（1当側法令違反は一時不停止）」の構成比率が他の分類よりもやや高かった。
- 第2分類は他の分類と比較して構成比率が高い条件（道路形状）はなかった。ただし、「信号交差点における法令違反なし（1当側法令違反は信号無視）」、「無信号交差点におけるその他（一時不停止以外）（1当側法令違は一時不停止）」は、他の分類と比較して若干低い程度であった。
- 第3分類は他の分類と比較して、「信号交差点における法令違反なし（1当側法令違反は信号無視）」の構成比率が高かった。
- 2当側で、構成比率が経年で大きく増減する項目はなかった。



<図22 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」

(認知機能検査受検後3年間・2当・構成比率) >

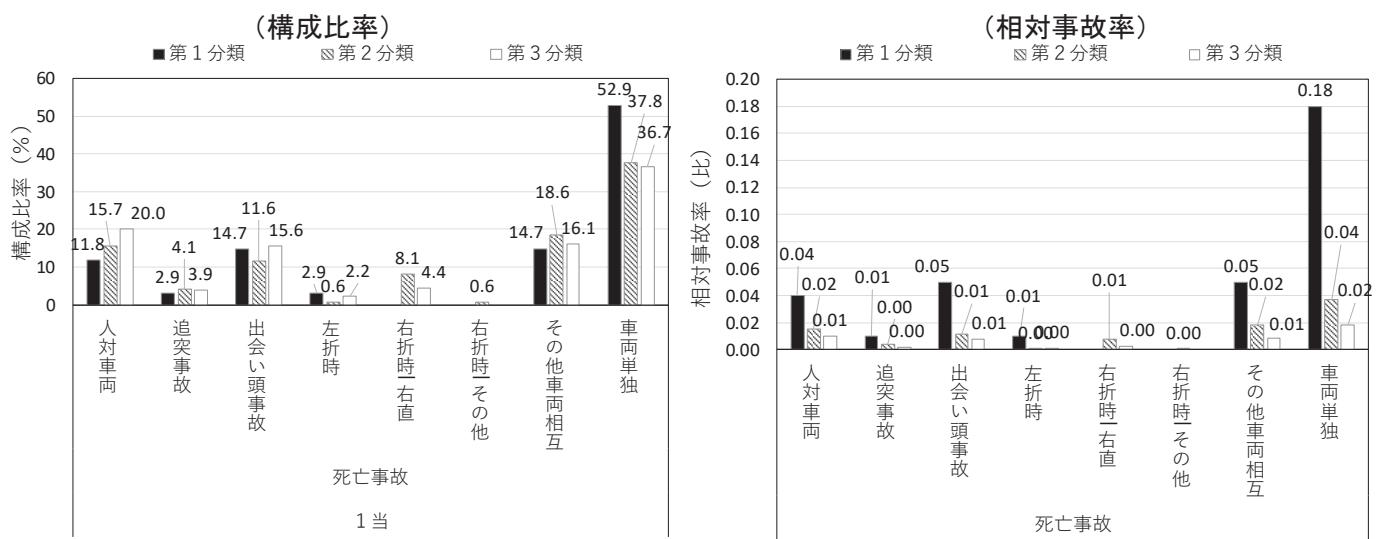
(付録44から46頁の、付録図45、付録表6を参照)

(3) 事故類型別交通事故当事者数

ア 死亡事故（1当）

認知機能検査受検後3年間の構成比率及び相対事故率について以下のことわかった。

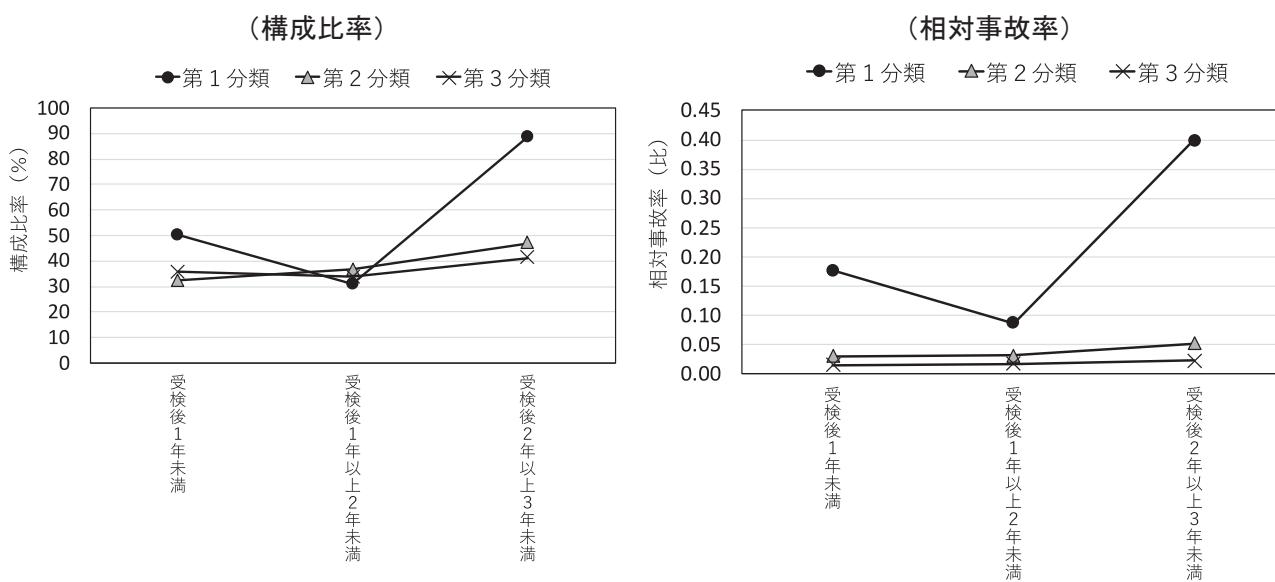
- 構成比率は、いずれの分類も車両単独が最も高かった。特に、第1分類の車両単独は他の分類と比較して高かった。
- 相対事故率は、第1分類の車両単独、出会い頭事故、人対車両が他の分類と比較して高かった。



<図23 事故類型別交通事故当事者数（死亡事故・1当）>

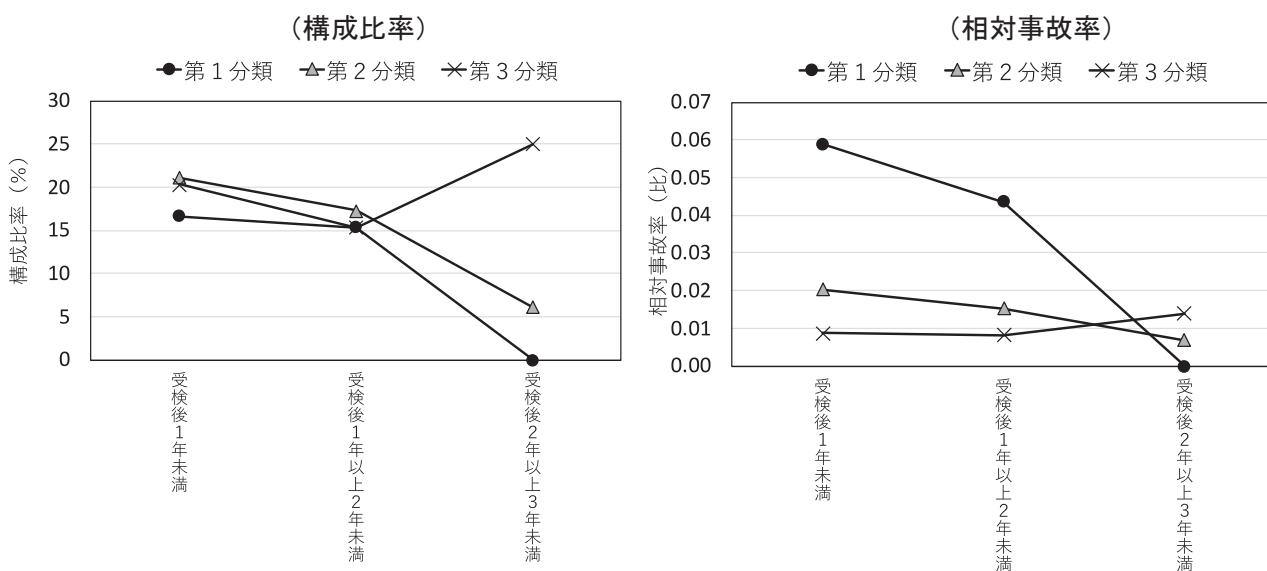
（付録62頁から66頁の付録図50、付録表10を参照）

- 車両単独の構成比率は、全ての分類で経年により増加する傾向にあった。ただし、第1分類は受検後1年以上2年未満で一旦減少した後に受検後2年以上3年未満で増加に転じた。



<図 24 車両単独の構成比率および相対事故率の経年変化>
(付録 47 頁から 61 頁の各図表を参照)

- 人対車両の構成比率は、経年により第1分類、第2分類は減少する傾向にあった。第3分類は受検後1年以上2年未満で一旦減少した後に、受検後2年以上3年未満で増加に転じた。

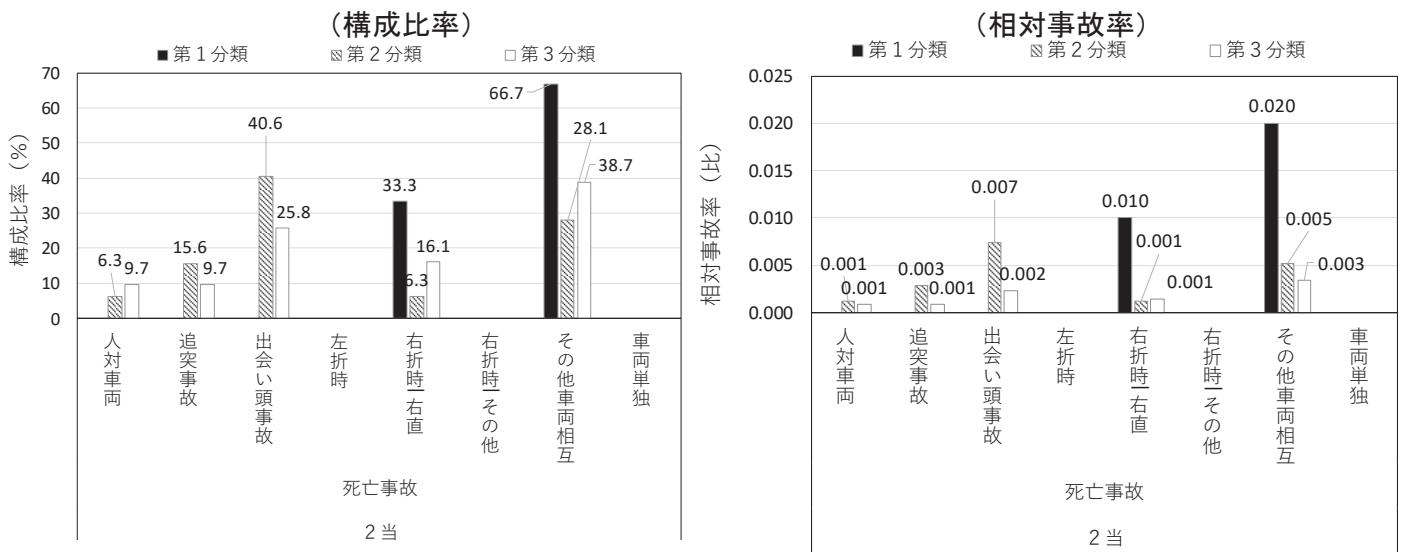


<図 25 人対車両の構成比率および相対事故率の経年変化>
(付録 47 頁から 61 頁の各図表を参照)

イ 死亡事故（2当）

認知機能検査受検後3年間の構成比率及び相対事故率について以下のことわかった。

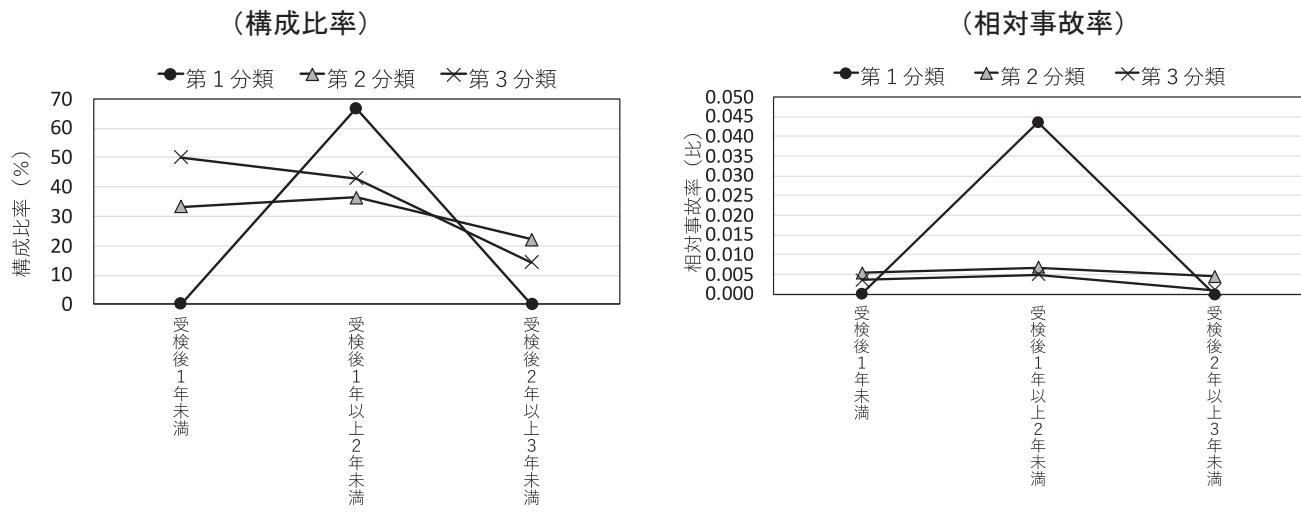
- 構成比率は、第1分類ではその他車両相互、右折時（右直）、第2分類では出会い頭事故、追突事故、第3分類では人対車両がその他分類より高かった。
- 相対事故率は、第1分類ではその他車両相互、右折時（右直）、第2分類では出会い頭事故、追突事故が他の分類と比較して高かった。



<図26 事故類型別交通事故当事者数（死亡事故・2当）>

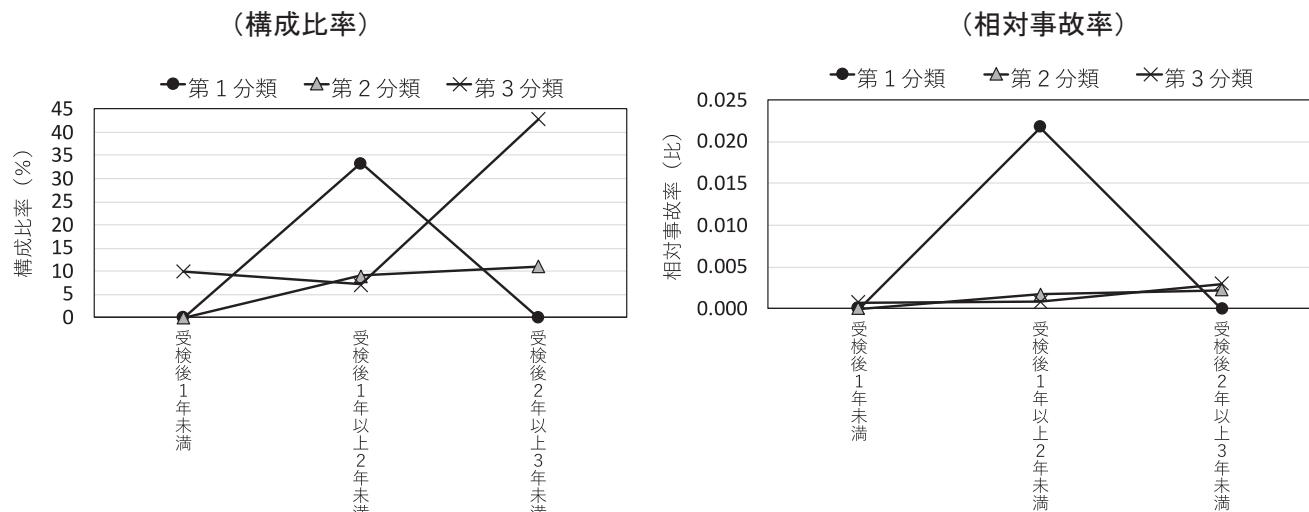
（付録62頁から66頁の付録図51、付録表10を参照）

- その他車両相互の構成比率は、第2分類、第3分類は経年により減少傾向にあった。第1分類でその他車両相互事故（2当）が発生したのは、1年以上2年未満のみであった。
- 右折時（右直）の構成比率は、第2分類、第3分類は経年により増加傾向にあった。第1分類で右折時（右直）事故（2当）が発生したのは、1年以上2年未満のみであった。



<図 27 その他車両相互の構成比率および相対事故率の経年変化>

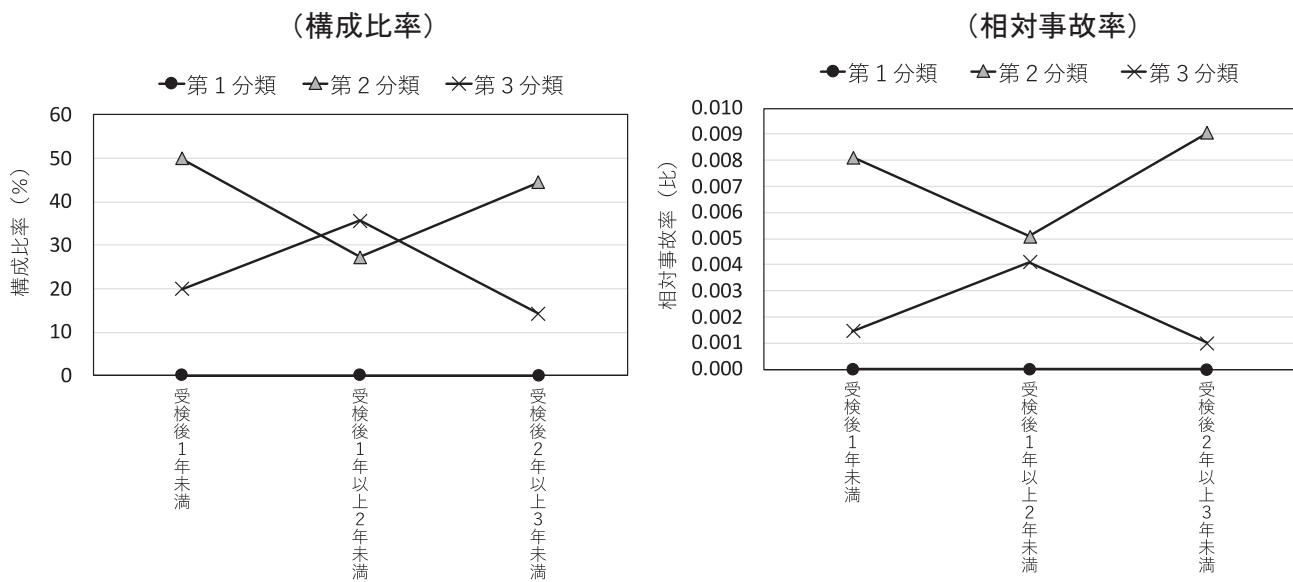
(付録 47 頁から 61 頁の各図表を参照)



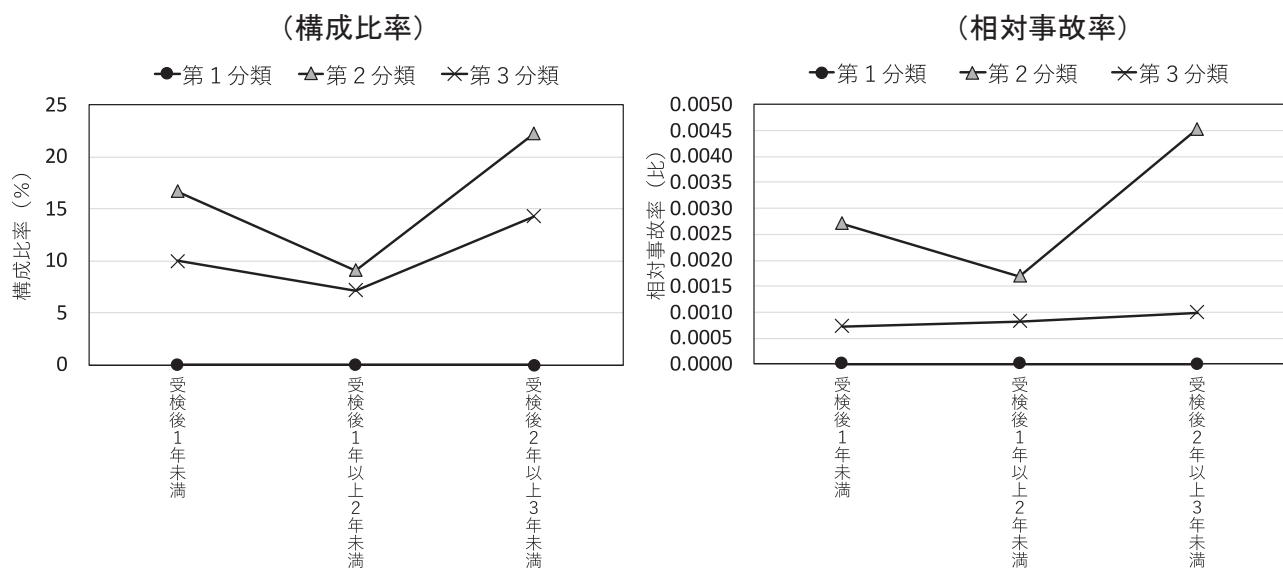
<図 28 右折時（右直）の構成比率および相対事故率の経年変化>

(付録 47 頁から 61 頁の各図表を参照)

- 出会い頭事故の構成比率は、第2分類がおむねその他分類よりも高いが、1年以上2年未満では第3分類と同程度であった。第1分類の出会い頭事故（2当）は発生しなかった。
- 追突事故の構成比率は、いずれの期間においても第2分類がその他分類より高かった。第1分類の追突事故（2当）は発生しなかった。

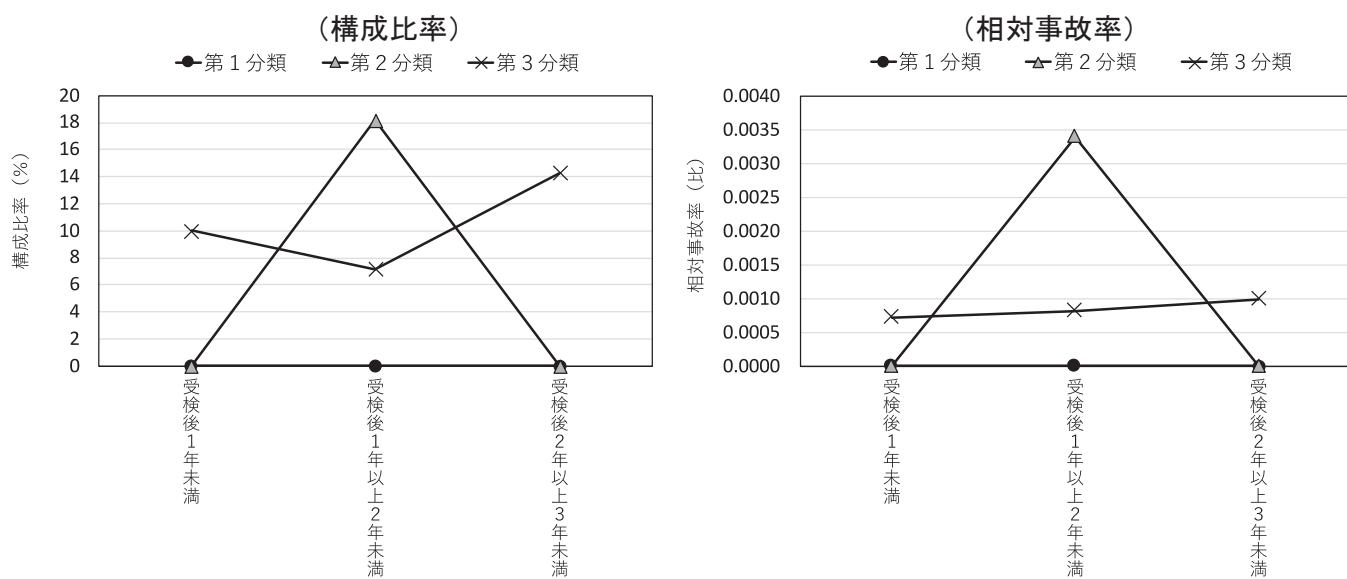


＜図29 出会い頭事故の構成比率および相対事故率の経年変化＞
(付録47頁から61頁の各図表を参照)



＜図30 追突事故の構成比率および相対事故率の経年変化＞
(付録47頁から61頁の各図表を参照)

- 人対車両の構成比率は、第3分類はおむね増加傾向にあった。第1分類の人対車両（2当）は発生しなかった。第2分類で人対車両（2当）が発生したのは、1年以上2年未満のみであった。



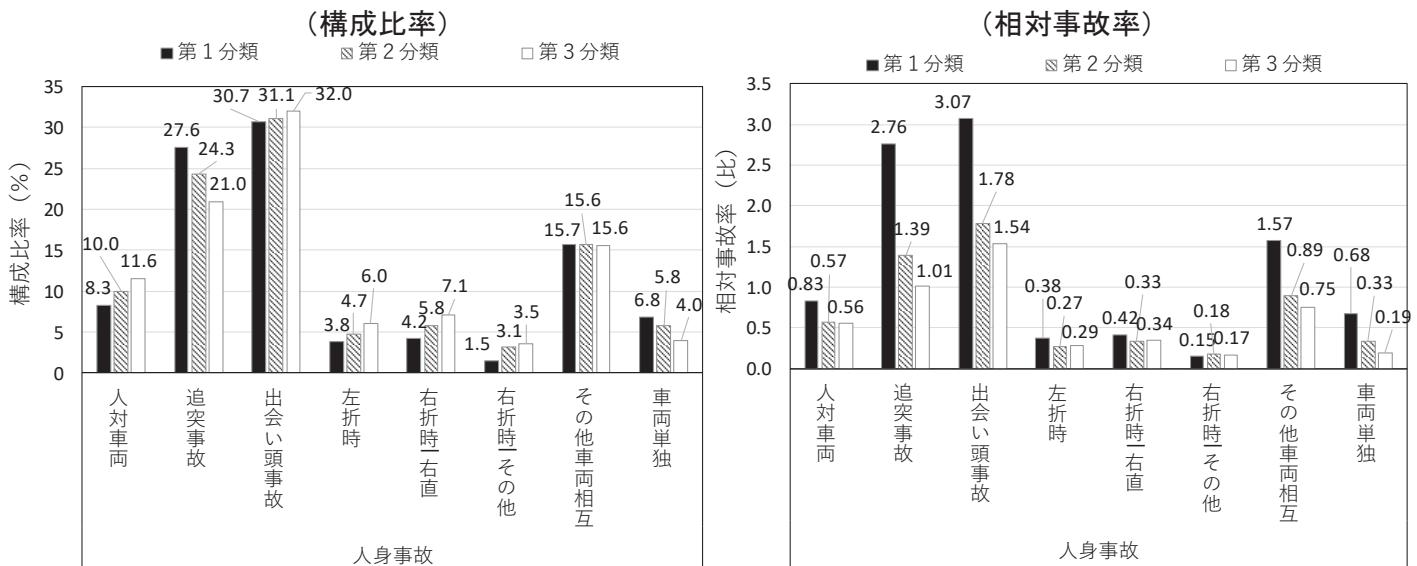
<図 31 人対車両の構成比率および相対事故率の経年変化>

(付録 47 頁から 61 頁の各図表を参照)

ウ 人身事故（1当）

認知機能検査受検後 3 年間の構成比率及び相対事故率について以下のことがわかった。

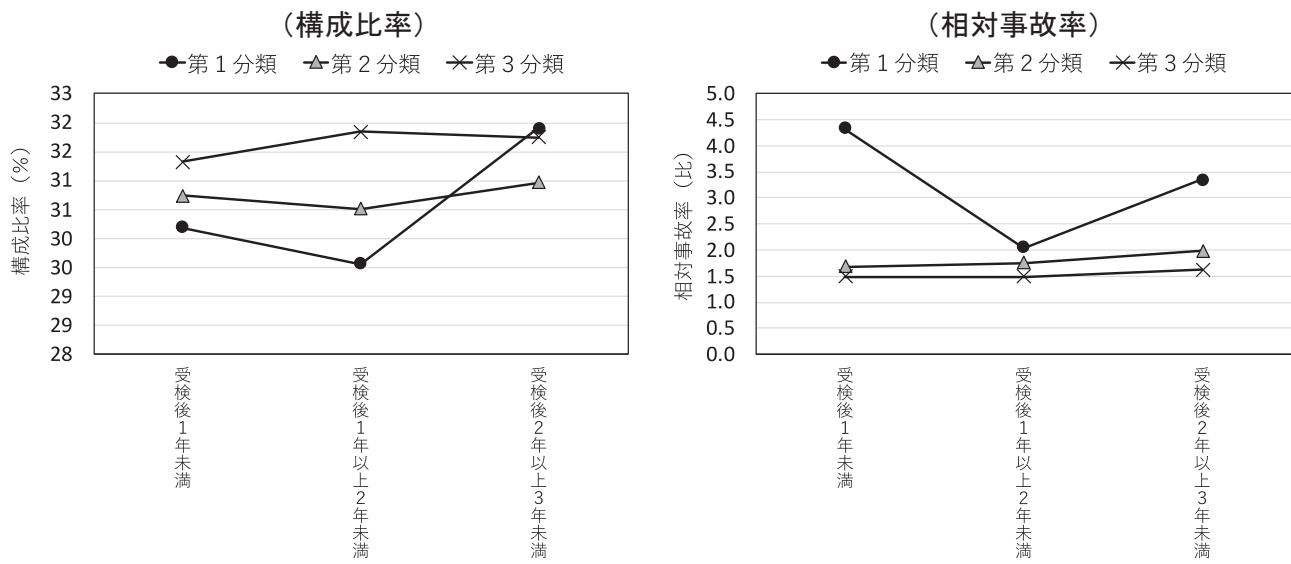
- 構成比率は、いずれの分類も出会い頭事故が最も高かった。
- 相対事故率は、第 1 分類の追突事故、出会い頭事故が他の分類と比較して特に高かった。



<図 32 事故類型別交通事故当事者数（人身事故・1当）>

(付録 62 頁から 66 頁の付録図 52、付録表 10 を参照)

- 出会い頭事故の構成比率は、第3分類がいずれの期間においてもおおむねその他分類よりも高かった。



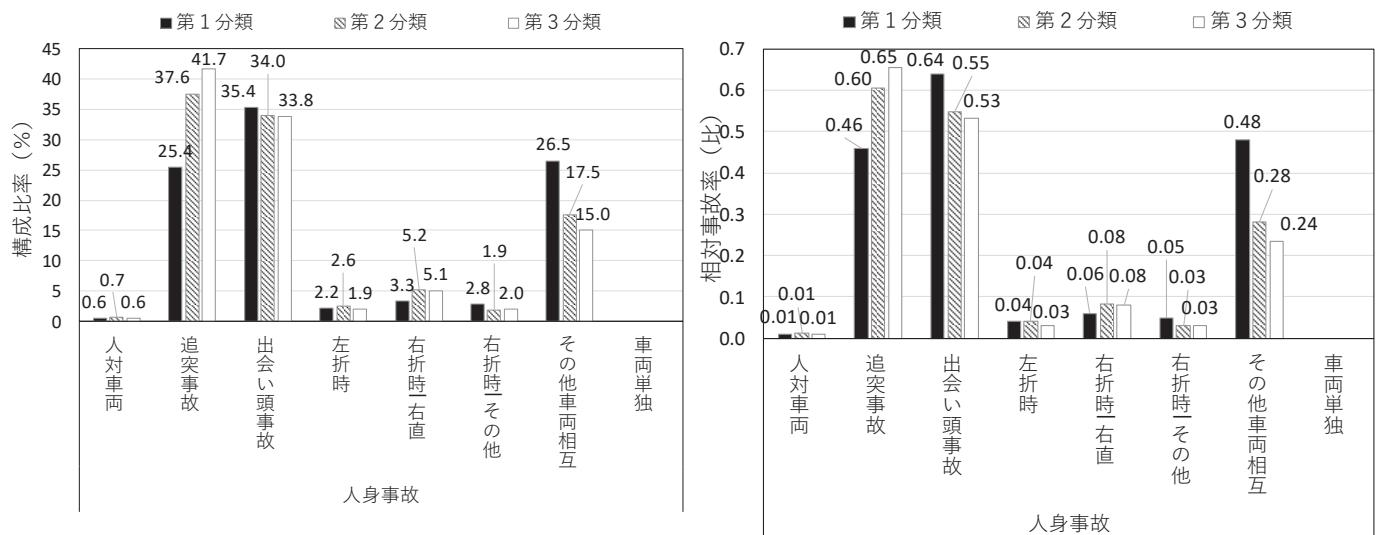
<図33 出会い頭事故の構成比率および相対事故率の経年変化>

(付録47頁から61頁の各図表を参照)

工 人身事故（2当）

認知機能検査受検後3年間の構成比率及び相対事故率について以下のことわかった。

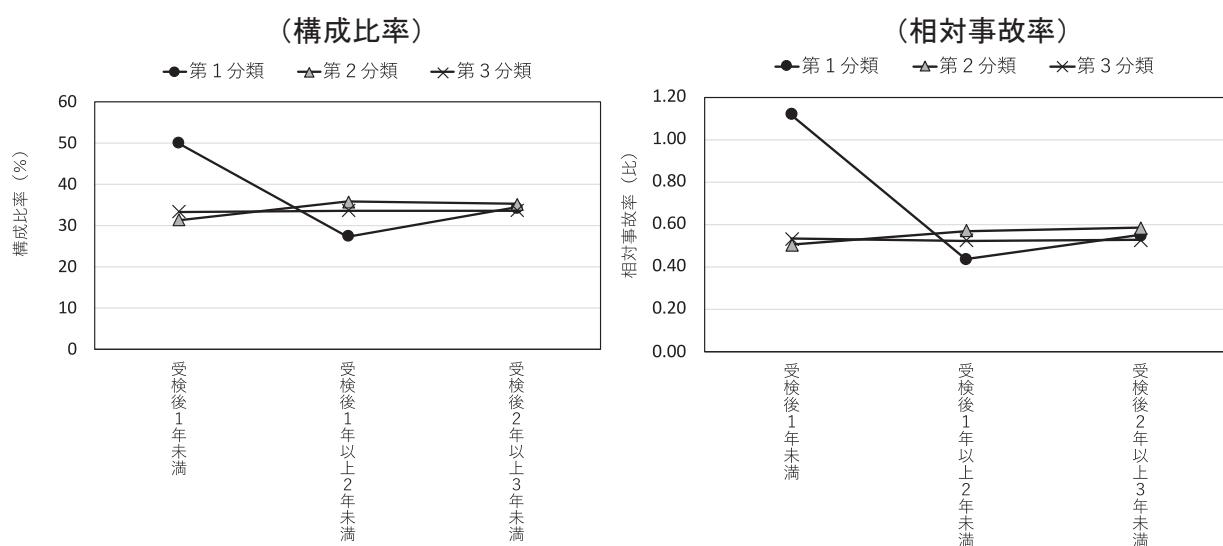
- 構成比率は、第1分類では出会い頭事故、第2分類、第3分類では追突事故が最も高かった。
- 相対事故率は、第1分類の出会い頭事故、その他車両相互、第3分類の追突事故が他の分類と比較して高かった。



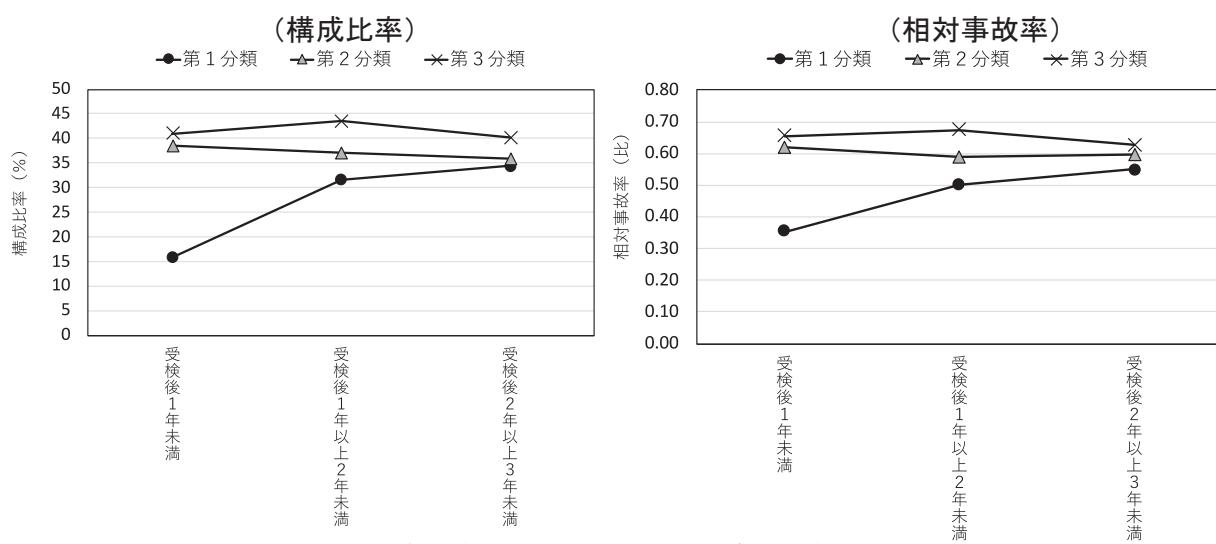
<図34 事故類型別交通事故当事者数（人身事故・2当）>

(付録62頁から66頁の付録図53、付録表10を参照)

- 出会い頭事故の構成比率は、第2分類、第3分類は経年による大きな増減は無かった。第1分類の構成比率は、1年未満では他の分類よりも高いが、1年以上2年未満でその他分類よりもやや低くなり、2年以上3年未満では他の分類と同程度となった。
- 追突事故の構成比率は、第2分類、第3分類は経年による大きな増減は無かった。第1分類の構成比率は1年未満では他の分類よりも低いが、1年以上2年未満でその他分類よりもやや低くなり、2年以上3年未満で他の分類と同程度となった。



<図35 出会い頭事故の構成比率および相対事故率の経年変化>
(付録47頁から61頁の各図表を参照)



<図36 追突事故の構成比率および相対事故率の経年変化>
(付録47頁から61頁の各図表を参照)

第4節 まとめ

本章では、免許更新を行った高齢者が高齢者講習の受講後にどのような事故・違反に遭遇したかについて3群分類別の分析を行った。集計対象を認知機能検査の受検者としたため、割合としては少量（約0.5%）の、高齢者講習を受講しない者や受講しても免許更新をしなかった者（その後免許を失効させた者）も含まれている。

検挙違反については、認知機能検査受検後3年間の構成比率をみると、いずれの分類も指定場所一時不停止等、信号無視、通行禁止違反の順で高かった。また、信号無視、通行禁止違反の構成比率は経年による変化が少ないが、指定場所一時不停止等の構成比率は、いずれの分類も経年で増加する（リスクが高くなる）傾向にあることがわかった。

事故については、認知機能検査受検後3年間の構成比率では、人身1当（本人死傷）や死亡1当（本人死亡）の構成比率は第1分類が最も高く、事故を起こした際に加害者となり、かつ自身が死傷するリスクが他の分類と比較して高いことがわかった。

認知機能検査受検後3年間の事故類型別の構成比率を確認したところ、死亡1当では、いずれの分類も車両単独事故が最も高く、分類別には、第1分類が特に高かった。車両単独事故の構成比率は、全ての分類で経年により増加する傾向にあった。人身1当では、いずれの分類も出会い頭事故、追突事故の順で高かった。

1当事故で、法令違反が指定場所一時不停止等や信号無視の事故に着目すると、信号交差点における信号無視や、無信号交差点における一時不停止の構成比率では第1分類が最も高く、第2分類、第3分類も同程度に高いことがわかった。

事故違反分析により判明した、特徴的な違反（指定場所一時不停止等、信号無視、通行禁止違反）については、実車指導中に受講者が行う可能性があるため、実車指導や個人指導での指導ポイントの一つとする等が考えられる。また事故については、指導員の補助ブレーキやハンドルの補助等により未然に防がれるため発生する可能性は極めて低いが、集計結果からも明らかとなった特徴的な事故（車両単独事故、出会い頭事故、追突事故等）に繋がる運転の癖や運転操作について実車指導や個人指導の中でドラレコ映像を利用して指摘すること等も考えられる。

第3章 指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査

第1節 アンケート概要

1 目的

高齢者講習の実車指導で使用されているドラレコの機種や、映像データの保管方針（現在・将来）、撮影したドラレコ映像の活用方法、今後よりよく活用するための改善すべき問題点等について把握することを目的とした。

2 調査対象

全国の指定自動車教習所 1266 箇所を調査対象とした。

3 アンケートの配布方法

- ① 自動車安全運転センターから依頼文を全国 1266 箇所の指定自動車教習所へ郵送した。
- ② 依頼文に従い各教習所の担当者がアンケートダウンロード用ウェブサイトからアンケートファイル（Microsoft Excel 用 xlsx 形式）をダウンロードした。

指定自動車教習所の皆様

こちらは、自動車安全運転センターのお願いしたアンケートのダウンロードサイトです。

「個別ダウンロード」アンケート票のみダウンロードします。

[ここをクリックして、アンケート票をダウンロードして下さい。](#)

「一括ダウンロード」依頼文書、アンケート票、印刷用ファイルの3つをダウンロードします。
[ここをクリックして、アンケート票をダウンロードして下さい。](#)

<図37 アンケートダウンロード用ウェブサイト>

- ③ ②のウェブサイトからファイルをダウンロードできない教習所へは、電子メールにアンケートファイルを添付し事務局から配布した。

4 アンケートの回収方法

各教習所の担当者が、アンケート結果回収用電子メールアドレス宛へアンケートファイルを送付した。

5 期間

平成 29 年 11 月 19 日（月）（依頼文の発送の日）から同年 12 月 20 日（木）

6 回収結果

送付数 : 1266 通

※ 郵送により送付した依頼文の数。ただし、1266 通中 2 通は「転居」及び「住所不備」の理由で返送されたため、当該教習所へは送付されなかった。

回答数 : 790 通

※電子メール等で回収した結果入力済みのアンケート数。

無効数 : 13 通

有効回収数 : 777 通

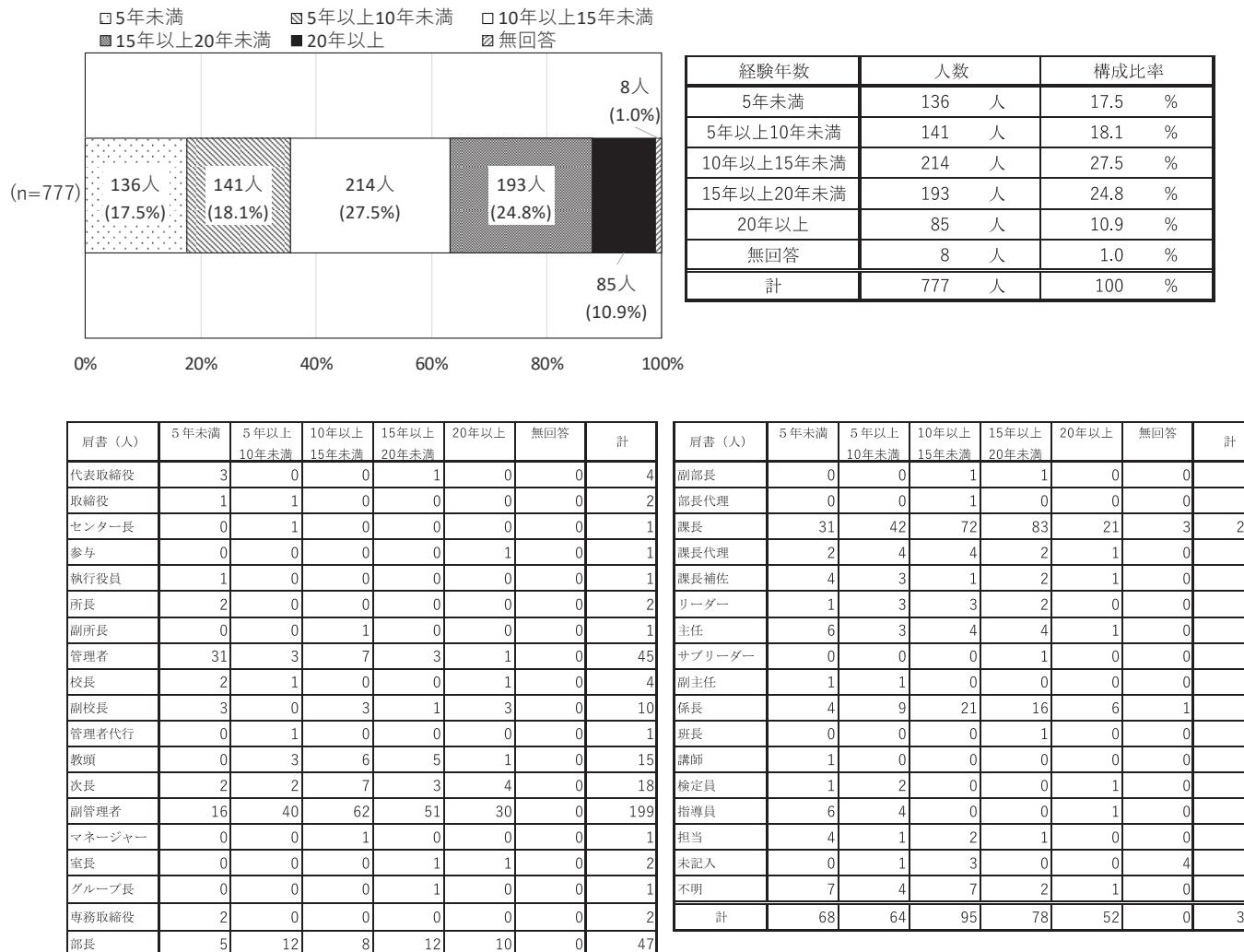
有効回収率 : 61.4%

第2節 アンケート結果

1 回答者及び教習所について

(1) これまでに高齢者講習を指導した経験年数

- 回答者は、高齢者講習の指導経験年数5年以上の者が全体の81.5%であった。
 - 高齢者講習の指導経験年数5年未満の者については、管理者や副管理者、課長等の役職者が多かった。
- ※ 指導経験がない場合は、0年と回答させた。



※ 個人名や課名のみなど、役職、役割が判別不能の場合は「不明」とした。

<図38 これまでに高齢者講習を指導した経験年数>

(2) 所在地

- 回答の得られた教習所数は、関東 165 か所、中部 155 か所、東北 102 か所、近畿 100 か所、九州・沖縄 97 か所、北海道 61 か所、中国 54 か所、四国 39 か所の順で多かった。

<表3 所在地>

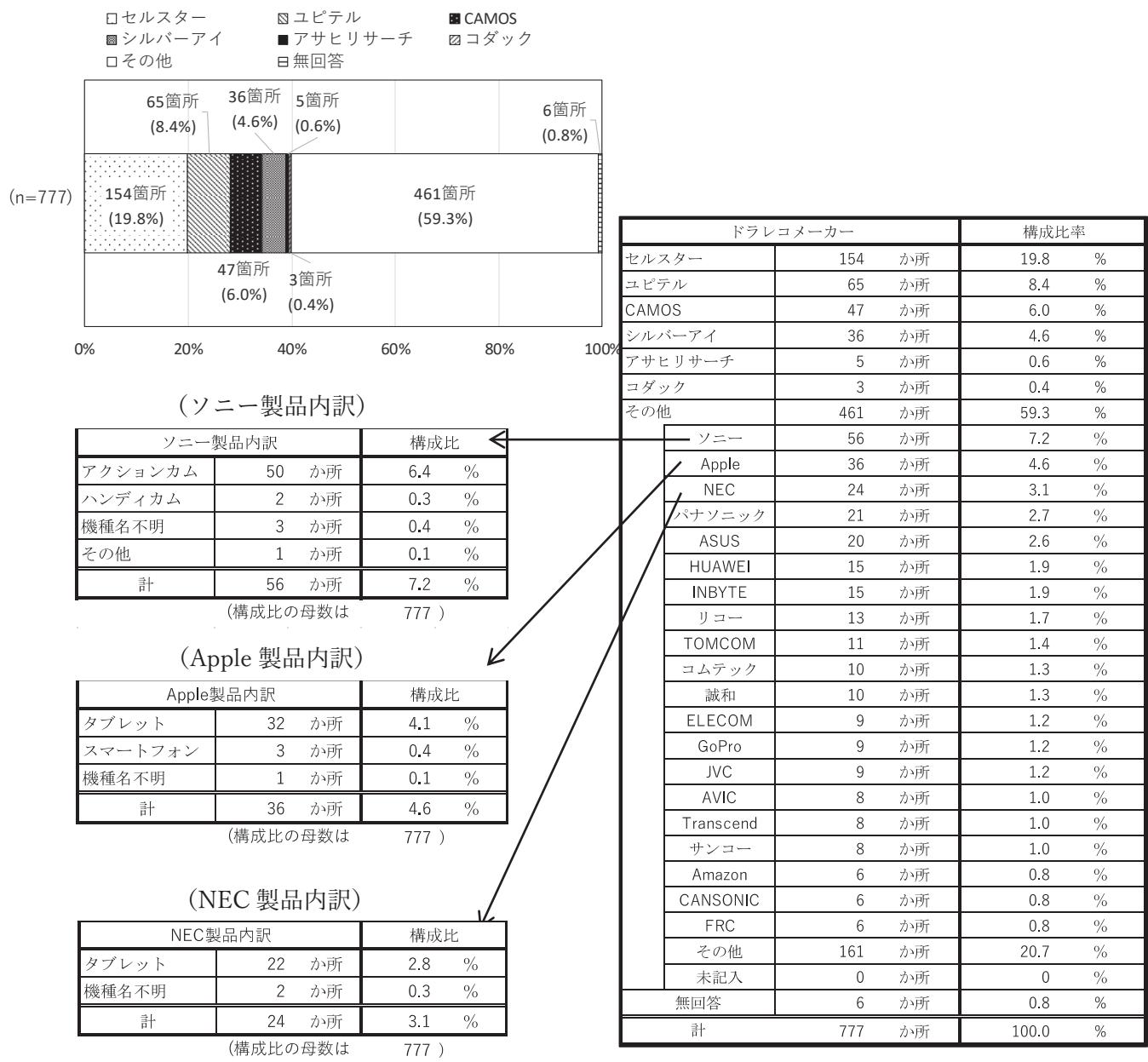
地方名	都道府県	教習所数	構成比率
北海道	北海道	61 か所	7.9 %
東北	青森県	12 か所	1.5 %
	岩手県	16 か所	2.1 %
	宮城県	18 か所	2.3 %
	秋田県	16 か所	2.1 %
	山形県	19 か所	2.4 %
	福島県	21 か所	2.7 %
	計	102 か所	13.1 %
関東	茨城県	16 か所	2.1 %
	栃木県	20 か所	2.6 %
	群馬県	17 か所	2.2 %
	埼玉県	27 か所	3.5 %
	千葉県	29 か所	3.7 %
	東京都	34 か所	4.4 %
	神奈川県	22 か所	2.8 %
	計	165 か所	21.2 %
中部	新潟県	27 か所	3.5 %
	富山県	14 か所	1.8 %
	石川県	8 か所	1.0 %
	福井県	3 か所	0.4 %
	山梨県	5 か所	0.6 %
	長野県	20 か所	2.6 %
	岐阜県	15 か所	1.9 %
	静岡県	28 か所	3.6 %
四国	愛知県	35 か所	4.5 %
	計	155 か所	19.9 %

地方名	都道府県	教習所数	構成比率
近畿	三重県	20 か所	2.6 %
	滋賀県	6 か所	0.8 %
	京都府	11 か所	1.4 %
	大阪府	20 か所	2.6 %
	兵庫県	31 か所	4.0 %
	奈良県	6 か所	0.8 %
	和歌山県	6 か所	0.8 %
	計	100 か所	12.9 %
中国	鳥取県	5 か所	0.6 %
	島根県	10 か所	1.3 %
	岡山県	11 か所	1.4 %
	広島県	18 か所	2.3 %
	山口県	10 か所	1.3 %
	計	54 か所	6.9 %
四国	徳島県	10 か所	1.3 %
	香川県	10 か所	1.3 %
	愛媛県	9 か所	1.2 %
	高知県	10 か所	1.3 %
	計	39 か所	5.0 %
九州・沖縄	福岡県	20 か所	2.6 %
	佐賀県	7 か所	0.9 %
	長崎県	11 か所	1.4 %
	熊本県	16 か所	2.1 %
	大分県	12 か所	1.5 %
	宮崎県	7 か所	0.9 %
	鹿児島県	14 か所	1.8 %
	沖縄県	10 か所	1.3 %
無回答	計	97 か所	12.5 %
	合計	777 か所	100.0 %

2 高齢者講習で使用しているドライブレコーダーについて

(1) メーカー等 (選択式)

- セルスター製品を使用している教習所が最も多く(19.6%)、次いでユピテル製品を使用している教習所が多かった(8.4%)。
- その他では、SONY製品を使用している教習所が最も多かった(7.2%)。SONY製品を使用している教習所56か所中50か所で、アクションカム(ヘルメットや自転車者のハンドルなどに取り付け可能な小型のデジタルカメラ。)を使用していた。
- その他の中で2番目、3番目に割合の大きかったApple製品やNEC製品を使用している教習所では、タブレット端末を多く使用していた。



<図 39 メーカー等>

(2) 機種・型番等

<表4 機種型番等(その1)>

メーカー名	機種名・型番等	教習所数 (か所)	計	メーカー名	機種名・型番等	教習所数 (か所)	計	
AKASO アクションカメラ	EK7000	1	1	DBPOWER	HD1080P	1	3	
Amazon	FIRE タフ レット	2	6		SPORTS HD DV (SJ4000)	1		
	FIREHD8	3			不明	1		
	FIREHD8 (PR53DC)	1			DN-PRO III	1	1	
Apple	iPad	17	36	ELECOM	ACTIMO	1	9	
	iPad (MP2G2J/A)	1			FULL HD	1		
	iPad Air	4			HDアクションカメラ (ACAM-H015BK)	1		
	iPad Air2	1			HDアクションカメラ (ACAM-H01SBK)	1		
	iPad Mini	4			LVR-HSD310HWG (LVR-HSD310HWG)	1		
	iPad Mini (MNWF2J)	1			LVR-SD501GHA (LVR-SD501GHA)	1		
	iPad3	2			アクションカメラ (ACAM-H01SBK)	2		
	iPad5 (MP2G2J/A)	1			フルHDアクションカメラ (ACAM-F01SBK)	1		
	iPhone	1	20	EONON	R0005	1	1	
	iPhone5s	1			FINEVU (T9)	3	3	
	iPhone6 (ME332J/A)	1			FIRSTCOM	1	1	
	iPod touch (A1367)	1		FRC	FC-DR202W	1	6	
	不明	1			FIRSTEC (FT-DR-ZERO)	1		
	TRANSBOOK (T101H)	1			FOCUSAVOR (FC-DR101 PLUS)	1		
	ZENPAD	5			FT-DR MEGA	1		
ASUS	ZENPAD (P00C)	4	20		FT-DR ZERO W	1	6	
	ZENPAD (P023)	1			NEXTEC (NX-DR200S)	1		
	ZENPAD 3S 10	1	FRG	FIRSTCOM	1			
	ZENPAD10	5		GOOSENCK (ACMFN-001)	1	9		
	ZENPAD10 (P01T)	1		GOPRO HERO+LCD (CHDHB-101-JP)	1			
	ZENPAD10 (Z300CNL-RG16)	1		Hero5	1			
	ZENPAD10 (Z300M)	1		Hero5 (CHDHX-501-JP)	1			
	VIEW-I HD	3		Hero5 SESSION	3			
AVIC	VIEW-I HD PRO	2		8			Hero6 BLACK	1
	VIEW-I HD セパレート	1					不明	1
	VIEW-IHD	2	HKS	DMR (DMR200)	1	3		
	DRIVE RECORDER (ST-102DA)	1		DMR-150D (49010-AK002)	1			
AYASE	トライブレコーカー (DRX-117)	1		2			タライクトマルチレコーダー (DMR-2000)	1
	液晶付きトライブレコーカー (DRX-315)	1	HONDA	不明	1	1		
BESCHOI	CRN0101	1		1	F335	1	4	
BESETO	存ZON (BST-100)	2		2	F500	1		
BLUEPUPILE	D02-1	1		1	X2210GX	1		
Broadwatch	R300 (CARG-TF-2CHD)	1		1	不明	1		
BUFFALO	BUFFALO WIDE ANGLE WEB CAMERA (BSW200MBK)	2	3	HUAWEI	HUAWEI	2	15	
	ウェアブルカメラ	1			HUAWEI (CEO682)	1		
CAMOS	2CH DRIVING VIDEO RECORDER	2	47		MEDIAPAD	1		
	2CH DRIVING VIDEO RECORDER (DR-210)	23			MEDIAPAD (JDN-W09)	1		
	2CH DRIVING VIDEO RECORDER (DR-210N)	11			MEDIAPAD T 10.0 (FDR-A01W)	7		
	2CH DRIVING VIDEO RECORDER (DR-220)	9			タワーレット	3		
	2CH DRIVING VIDEO RECORDER (DR-220N)	1	I-O DATA	MOTION PIX (DR-FH5M120)	3	3		
	CHANUN2 (KCC-REM-S88-CHANUN2)	1		CARPA-130 (KBB-007)	8	15		
CAMSOLUTION	CHANUN2	1		1	CARPA-130 (KBB-077)		1	
CANON	IVIS MINIX	1		2			CR-2000S+	1
	IXY180 (PC2275)	1					CR-2000S+ (CR-2000S-P)	1
CANSOMIC	FDV-7075	1	6	INBYTE	EAGLEVIEW (KBB-003)	1	15	
	GPS2 (X9DVRDL)	1			H29 PASSION(2)	1		
	TWINSCAM (FDV-707S)	1			ISDR-200	1		
	TWINSCAM (X9DVRDL)	2			WATCHDOG (KBB-005)	1		
	Z1WIDE&WIDE	1			JAPAN TAXI 株式会社	タクシードライブレコーダー-2 (AIOS-03A)	1	2
	DR-41	1			タクシードライブレコーダー-2 (NTDR-200-46380-0804)	1		
CASIO	EXILIM (EX-FR200)	1	1					
CHANUN	CX-100HD	1	1					
COWON	AW1 (AW1-8G-SLAW1-8G-SL)	1	1					
CUS	SPORTS DV MINI F9	1	1					

<表5 機種型番等（その2）>

メーカー名	機種名・型番等	教習所数 (か所)	計	メーカー名	機種名・型番等	教習所数 (か所)	計	
JVC	EVRCIO(イブリオ)	1	9	RICOH	アクションカム	2	13	
	EVRCIO(イブリオ) (GE-E66-R)	1			アクションカム (WG-M1)	8		
	EVRCIO(イブリオ) (GZ-E770)	2			アクションカム (WG-M2)	1		
	EVRCIO(イブリオ) (GZ-F100)	1			デジタルカメラ (WG-40)	1		
	EVRCIO(イブリオ) (GZ-F200-W)	1			不明	1		
	EVRCIO(イブリオ) (GZ-N1)	1		SEMISOLUTION	CHANUN (CX-100HD)	1	4	
	EVRCIO(イブリオ) (HDR-CX535)	1			ACTIONCAM2.0 (SJ5000)	1		
	不明	1			SJ 5000	1		
	BVT - 300 (誠和 VT-300)	1			SJ4000WIFI	1		
K-PRO					SJ5000X ELITE	1		
KENWOOD	DRV-MP740	1	5	SONY	アクションカム (FDR-X1000V)	1	56	
	KNA-DR300	1			アクションカム (FDR-X3000)	2		
	スラングアート・ドライブレコーダー (DRV-160)	1			アクションカム (FDR-X3000R)	1		
	スラングアート・ドライブレコーダー (DRV-610)	2			アクションカム (HDR-A300)	1		
KOOL RIVER	G160	1	2		アクションカム (HDR-A50)	1		
	HBM01	1			アクションカム (HDR-AS200V)	7		
KURUMAME	DRE (401)	1	1		アクションカム (HDR-AS200VR)	1		
KYB	クリマ (DRE-401)	1	1		アクションカム (HDR-AS300)	11		
KYBトロンテュール	DRE-401	1	1		アクションカム (HDR-AS300R)	3		
KYPLAZA	K6000	1	1		アクションカム (HDR-AS50)	16		
LENOVO	LENOVO YOGA TAB3 10 (ZA0H0027JP)	1	1		アクションカム (HDR-AS50R)	2		
LG	LG LNNOTEK (LGD-100)	1	2		アクションカム (HDR-AZ1)	2		
	LGD-100 (LGD-IR100)	1			アクションカム (HRD-AS200V)	1		
LG INNOTEK	ALIVELGD-100 (LGD-100)	1	1		アクションカム	1		
LOOK EAST	デュアルレンズ・ドライブレコーダー (LE-DCR02)	1	1		ハンディカム (HDR-CX170)	1		
MIDLAND	XTC270	1	1		ハンディカム (HDR-CX675)	1		
MITI	リカバ付きドライブレコーダー (HD-DVR7220RC)	1	1		ライブビューリモコン (RM-LYR3)	1		
NEANEEのタブレット	ANDROID6.0 10.1インチ型タブレット (ADP-1006LTE)	1	1		不明	3		
NEC	LAVIE Tab E (PC-TE510BAL)	19	24	STYLUS	STYLUS TG-TRACKER	1	1	
	LAVIE TAB (PC-TE508BAW)	1			R300	1		
	タブレット	2			TESTED	CANSONIC (D33G14)	1	1
	不明	2		TOHO	DIXIA (DX-CAM30)	2	3	
NEW SPACE DESIGN 株式会社	4CHビデオネットワークドライブレコーダー (BVR-04HD WI-FI)	1	1		DIXIA (DX-COM30)	1		
NEXTEC	NX-DR200S	1	1		カメラ一体型ドライブレコーダー (TM-V731A12-T1)	2	11	
Nikon	デジカメ (A10)	1	1		カメラ一体型ドライブレコーダー (TM-V731A12)	5		
OBPOWER	EX5000	1	1		カメラ一体型ドライブレコーダー (TM-V731A12B)	3		
OMNI	OMNI WATCHING HD (PAS-720HD)	4	5		カメラ一体型ドライブレコーダー (TM-V731A12)	1		
	不明	1	TOWOTO	不明	1			
OWLTECH	OWL-DR04-BK	2		2	TOYOTA	DRT-H66A (KN906733)	1	1
PANASONIC	CA-XDR50D	1	21	Transcend	DRIVEPRO BODY 52	1	8	
	HC-V480MS	1			DRIVEPRO200 (TS16GDP200-J)	1		
	HX-A500	1			DRIVEPRO200 (TS16GDP200M-J)	1		
	ウェアラブルカメラ (HX-500)	1			DRIVEPRO220 (TS16GDP220M-J)	1		
	ウェアラブルカメラ (HX-A1H)	2			DRIVEPRO520	4		
	ウェアラブルカメラ (HX-A500)	2		UPINTEK	不明	1	1	
	ビデオカメラ	1			VACRON	HD720P (CDR-E07)	3	
	ビデオカメラ (HC-V360MS)	2			VANTRUE	ONDASH (N2)	3	
	ビデオカメラ (HC-W580M)	8		VICO VATION	EXTREME HD (VICO-MARCUS4)	1	1	
	不明	2			VICTOR	不明		
PAPAGO JAOAN	GOSAFE 130	1	1	WATEX	XDR-2CAM	1	3	
PIONEER	DRIVEMAN BS-8 (ND-DVR10)	1	1		XDR-2CAM-HG	1		
POLAROID	CUBE	1	1		XLDR-LS2-IR-B	1		
PSD	DRIVE-ONE® HD	1	1	WIMIUS	アクションカム	1	1	
RAMASU	2カメラ搭載ドライブレコーダー (RA-DT500)	1	1		YAZAC-EYE/3LITE	1		
					ZTE ジャパン株式会社	BLADE V580	1	1

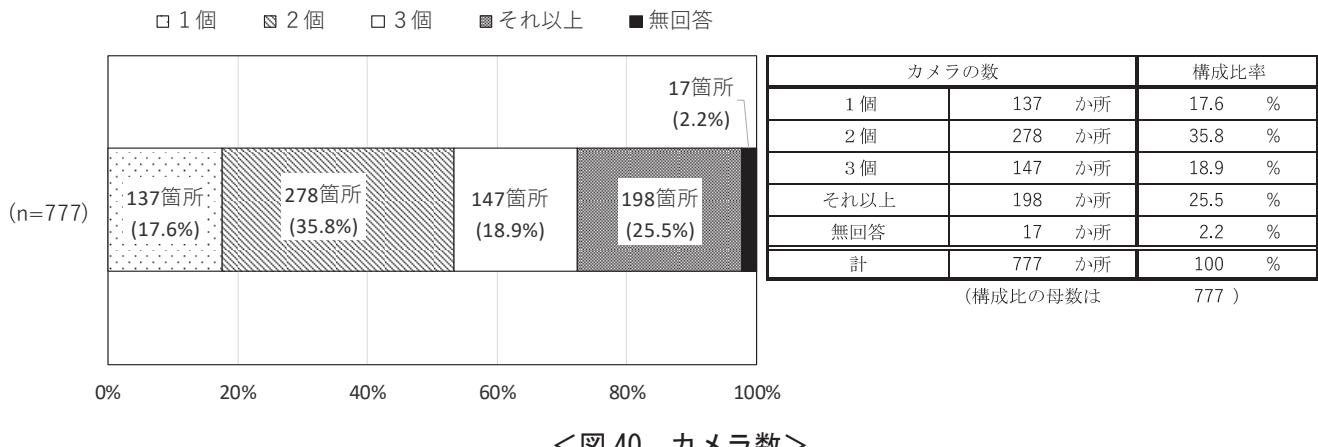
<表6 機種型番等（その3）>

メーカー名	機種名・型番等	教習所数 (か所)	計
アサヒリサーチ	ドライブマン (720α+)	1	5
	ドライブマン (TW-1)	4	
アルファデボ	VISION DRIVE	1	1
いいよねっと	GARMIN (GDR33J)	1	1
イノベイティブ販売	フルHDドライブ (DRX-G515)	1	1
クラリオン	CAMOS	1	4
	CL-2CM	1	
	シルバーアイ (STM-102)	2	
ケーワイプラザ	高機能ドライブレコーダー (DVR-G20)	1	1
コダック	ACTION CAM (SP360)	2	3
	PIXPRO SP360	1	
	FDR-351H	1	
コムテック	HDR-101	1	10
	HDR-102	2	
	HDR-951GW	1	
	ZDR-012	3	
	ZDR-013	1	
	ZDR-015	1	
	CANSONIC	2	
サンコー	デュアルレンズドライブレコーダー (DULCARD6)	3	8
	デュアルレンズドライブレコーダー2 (AT15DVRDL)	3	
	タクシードライブ	1	
ジャパンタクシー	ドライブレコーダー-2 (AIOS-03B)	1	2
	2CH ドライブレコーダー (DR-210)	2	
シルバーアイ	2CH ドライブレコーダー (DR-210N)	3	36
	業務用簡易型ドライブレコーダー (STM-101)	2	
	業務用簡易型ドライブレコーダー (STM-102)	25	
	業務用簡易型ドライブレコーダー (STM-109)	1	
	不明	3	
セキュリティAZ	AZ DR0202	1	1
セルスター	DRIVE RECORDER (CDS-350HD)	1	154
	DRIVE RECORDER (CSD-390HD)	138	
	DRIVE RECORDER (CSD-560FH)	3	
	DRIVE RECORDER (CSD-690FHR)	4	
	DRIVE RECORDER (TR390)	1	
	Dvr-GALUDA (CSD-290)	3	
	不明	4	
タイムテック	BEWEIS-V2	1	1
デンソー	DN-PROIII (DRDP-010)	3	3
ドライブ・カメラ	WITNESSIII	2	2
フタバシステム	OMNI WATCHING (PAS-7200HD)	1	1
マウスコンピューター	WN892V2	1	1

メーカー名	機種名・型番等	教習所数 (か所)	計
ユビテル	BDR-1	1	65
	BU-DR HD300	1	
	BU-DR HD330	4	
	BU-DR HD421	1	
	BU-DR HD431	1	
	BU-DR HD630T	1	
	BU-DR HD635T	19	
	DRY-100	1	
	DRY-AS375WGC	1	
	DRY-AS400WG	1	
	DRY-AS400WGC	1	
	DRY-FH210	1	
	DRY-FH96WG	1	
	DRY-MINI1LTD	1	
	DRY-MINI1LTD (X000HOB1L)	1	
	DRY-S100	2	
	DRY-S100C	9	
	DRY-ST1000	1	
	DRY-ST3000C	2	
	DRY-ST3000P	1	
	DRY-V2	1	
綾瀬設備工業	DRY-WIFI5C	2	10
	DRY-WIFI5C	2	
	MARUMIE (Q-01)	2	
	Q-01	2	
	STM-102	1	
	不明	2	
	CAR DVR NEXT V2X	1	
	IFD-439	1	
	T600	1	
	上海問屋	1	
誠和	BVR-04 08FHD	1	10
	VIEW-I	2	
	VIEW-I (VHSG-2101)	2	
	VIEW-I HD	4	
	VIEW-I HD S	1	
青木製作所	AMEX-A05	1	1
東海クリエイ	D-TEG (CL-2EM)	2	2
二葉計器株式会社	ファーストビュー (V1HD)	1	1
日交データーサービス	タクシードライブレコーダー (NTDR-200)	1	1
富士フィルム	XP	1	1
富士通テクノ株式会社	トヨタ純正品 (DRT-H59)	1	1
本田通信工業株式会社	EAGLE VIEW (KBB-003)	1	1
夢グループ	夢ドライブレコーダー	1	1
不明	アクションカメラ	1	21
	アクションカメラ (P4000)	1	
	タブレット	6	
	不明	13	

(3) カメラ数 (選択式)

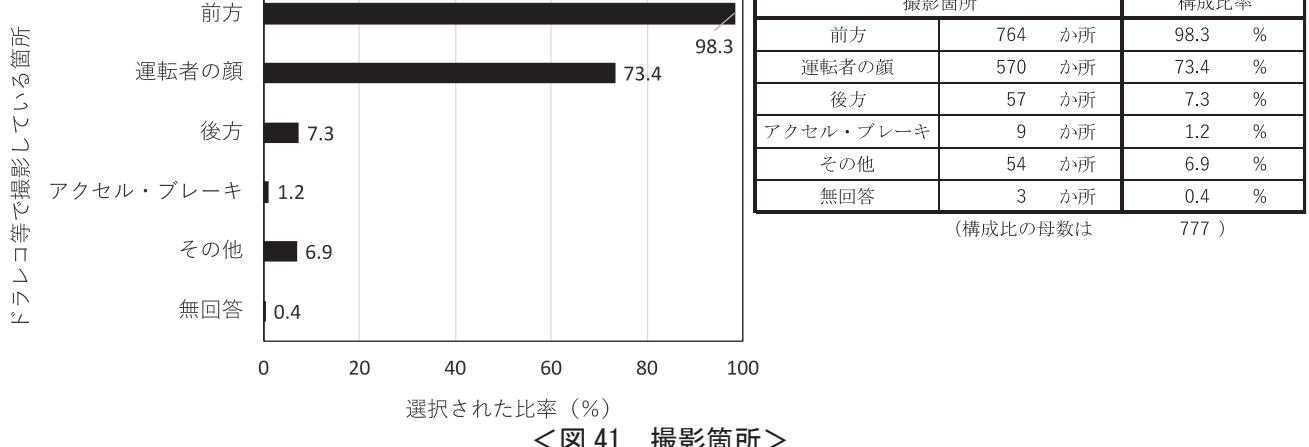
- この設問では、使用しているドラレコ等（1台）に何個のカメラが搭載されているかを意図した。「それ以上」(4個以上)と回答した教習所が198か所あるが、「(4)撮影箇所」の回答を確認すると、4か所以上を撮影している教習所は6か所のみであり、ドラレコの保有数を記入したといったことが考えられる。



<図40 カメラ数>

(4) 撮影箇所 (選択式・複数選択可)

- 「前方」と回答した教習所が最も多く(98.3%)、次いで、「運転者の顔」と回答した教習所が多かった(73.4%)。



<図41 撮影箇所>

撮影箇所の組合せの比較結果を表7に示す。

- カメラの撮影箇所「前方」+「運転者の顔」の組合せが最も多かった(64.1%)。
- 「前方」+「運転者の顔」と「前方」を合わせると全体84.7%となった。
- 「前方」のみが20.6%であるのに対し、「運転者の顔」のみは0.1%であった。

<表7 カメラで撮影している箇所の組合せ別構成比率>

カメラで撮影している箇所					教習所数	
前方	運転者の顔	アクセル・ブレーキ	後方	その他	(か所)	構成比
○	○				498	64.1%
○					160	20.6%
○	○		○		41	5.3%
○				○	29	3.7%
○	○			○	17	2.2%
○			○		8	1.0%
				○	6	0.8%
○	○	○			5	0.6%
○	○	○	○		4	0.5%
○	○		○	○	2	0.3%
	○				2	0.3%
	○		○		1	0.1%
無回答					3	0.4%
計					777	100.0%

回答が得られた教習所 777 か所の内、撮影箇所で「前方」を選択していない教習所が 10 か所あった。以下に 10 教習所で使用されているドラレコ等の撮影箇所等を示す。(表中の着色した教習所については、「その他」の内容から、前方も撮影された可能性がある。)

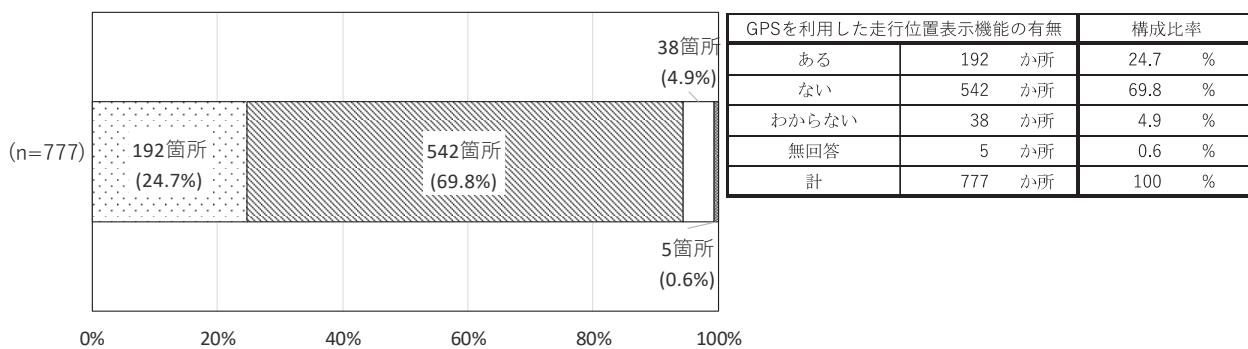
<表8 撮影箇所で「前方」を選択していない教習所で使用されているドラレコ等>

	メーカー	機種・型番	備考	撮影場所チェックか所、その他内容
1	AKASO アクションカメラ	EK7000	1カメラ (スポーツカム・Goproタイプ)	その他内容に「前方と運転者の上半身後ろ姿」
2	Apple	iPad Mini	タブレット	「後方」にチェック
3	コダック	ACTION CAM (SP 360)	全天球型。	その他内容に「360度」
4	セルスター	DRIVE RECORDER (CSD-390HD)	室内・前方2カメラ	「顔」にチェック
5	SJCAM	SJ5000X ELITE	1カメラ (アクションカム・Goproタイプ)	運転席後方から車両前方とドライバーの首振り
6	ユビデル	MARUMIE (Q-01)	全天球型。	その他内容に「360度」
7	VACRON	HD720P (CDR-E07)	室内・前方2カメラ	車外及び車内
8	KYPLAZA	K6000	1カメラ (ドラレコタイプ)	「顔」、「後方」にチェック
9	シルバーアイ	不明	不明	「顔」にチェック
10	PANASONIC	HC-V480MS	1カメラ (ハンディカム)	運転席後方

(5) GPS を利用して走行位置を地図上に表示する機能の有無 (選択式)

- GPS を利用した走行位置表示機能の有無について、「ない」と回答した教習所が全体の 69.8% であった。

□ある　　▣ない　　□わからない　　■無回答



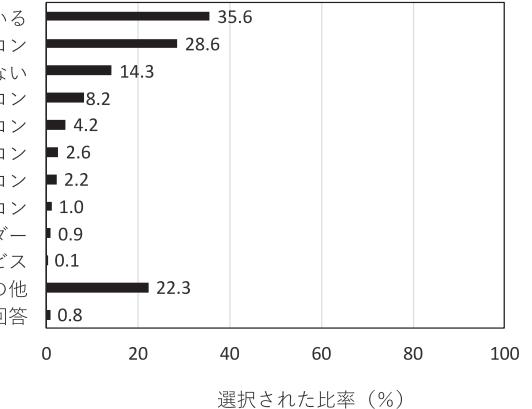
<図42 GPS を利用して走行位置を地図上に表示する機能の有無>

3 高齢者講習で撮影したドラレコ映像データの現在の保管環境について (選択式・複数選択可)

- 「ドラレコの記録メディア（SDカード等）をそのまま保管している」が最も多かった（35.6%）。
- 上位4つの回答は、ネットワークと接続せずに保管する方法であった。
- その他の内訳をみると、「講習後に削除」（保管していない）と回答した教習所が164箇所で最も多かった。

ドラレコの記録メディア（SDカード等）をそのまま保管している
ネットワークに繋げないほかの用途に用いない専用のパソコン
外部記憶媒体（DVD, Blu-ray, 外付けハードディスクなど）※ドラレコ記録メディアは含まない

ネットワークに繋げないほかの用途にも用いるパソコン
必要な際にインターネット等に繋げて用いるほかの用途にも用いるパソコン
インターネット等外部ネットワークに常時繋がったほかの用途にも用いるパソコン
内部ネットワークに繋げるほかの用途に用いない専用のパソコン
内部のみのネットワークに繋げるほかの用途にも用いるパソコン
所内のサーバー・共有フォルダー
外部のサーバー・クラウドデータサービス
その他
無回答



選択された比率 (%)

高齢者講習におけるドラレコ映像データの現在の保管環境		構成比率
ドラレコの記録メディア（SDカード等）をそのまま保管している	277 か所	35.6 %
ネットワークに繋げないほかの用途に用いない専用のパソコン	222 か所	28.6 %
外部記憶媒体（DVD, Blu-ray, 外付けハードディスクなど）※ドラレコ記録メディアは含まない	111 か所	14.3 %
ネットワークに繋げないほかの用途にも用いるパソコン	64 か所	8.2 %
必要な際にインターネット等に繋げて用いるほかの用途にも用いるパソコン	33 か所	4.2 %
インターネット等外部ネットワークに常時繋がったほかの用途にも用いるパソコン	20 か所	2.6 %
内部ネットワークに繋げるほかの用途に用いない専用のパソコン	17 か所	2.2 %
内部のみのネットワークに繋げるほかの用途にも用いるパソコン	8 か所	1.0 %
所内のサーバー・共有フォルダー	7 か所	0.9 %
外部のサーバー・クラウドデータサービス	1 か所	0.1 %
その他	173 か所	22.3 %
無回答	6 か所	0.8 %

(構成比の母数は 777)

その他内訳		構成比
講習後に削除	164 か所	94.8 %
保存していない	53 か所	30.6 %
保存していない（上書き）	38 か所	22.0 %
保存の予定なし	19 か所	11.0 %
講習終了後一定期間保存	10 か所	5.8 %
保存期間の規定なし	9 か所	5.2 %
公安委員会の指示に従う	4 か所	2.3 %
HDD等の保存用ストレージ容量上限まで保存	2 か所	1.2 %
一部保存（特異な受講者のみ）	1 か所	0.6 %
不明	11 か所	6.4 %

(構成比の母数は 173)

(自由意見の内容を分類して集計。複数意見ある場合はそれぞれ1意見としてカウントした。)

※ その他内訳の「HDD等の保存ストレージ容量上限まで保存」の教習所は、「外部記録媒体」等を選択せず、「その他」として内容を記述していた。

＜図43 高齢者講習で撮影したドラレコ映像データの現在の保管環境について＞

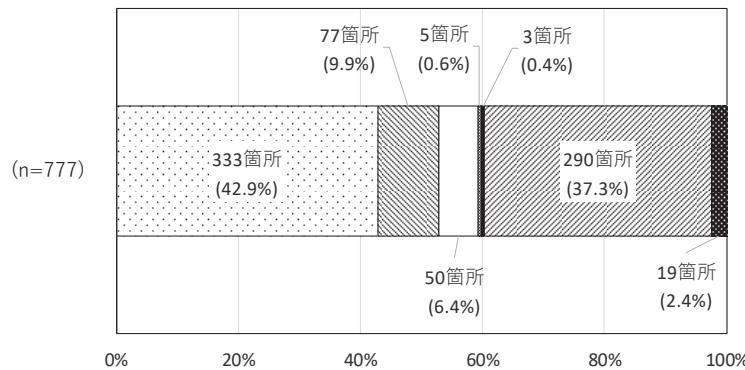
4 映像データの保管期間の今後の方針について

高齢者講習で撮影したドラレコ映像データの保管期間の今後の方針について、以下の回答が得られた。

(1) 保管期間（選択式）

- 「個人指導を実施した後、1年以内に廃棄する予定である。」が最も多かった（42.9%）。
- その他では、「講習後に削除」、「保存しない」、「保存しない（上書き）」の順で多かった。

- 個人指導を実施した後、1年以内に廃棄する予定である。
 □個人指導を実施した後、1～3年程度は保存する予定である。
 □個人指導を実施した後、次回の運転免許更新まで(最大4年程度)は保存する予定である。
 □個人指導を実施した後、5年以上の期間を定めて保存する予定である。
 ■保存期間を定めず、永年保管する予定である。
 □その他



高齢者講習におけるドラレコ映像データの保管期間の今後の方針			構成比率
個人指導を実施した後、1年以内に廃棄する予定である。	333 か所	42.9 %	
個人指導を実施した後、1～3年程度は保存する予定である。	77 か所	9.9 %	
個人指導を実施した後、次回の運転免許更新まで(最大4年程度)は保存する予定である。	50 か所	6.4 %	
個人指導を実施した後、5年以上の期間を定めて保存する予定である。	5 か所	0.6 %	
保存期間を定めず、永年保管する予定である。	3 か所	0.4 %	
その他	290 か所	37.3 %	
無回答	19 か所	2.4 %	
計	777	100 %	
(構成比の母数は 777)			



その他内訳			構成比
講習後に削除	166 か所	57.2 %	
保存しない	55 か所	19.0 %	
保存しない（上書き）	41 か所	14.1 %	
保存の予定なし	26 か所	9.0 %	
講習終了後一定期間保存	12 か所	4.1 %	
公安委員会の指示に従う	6 か所	2.1 %	
HDD等の保存用ストレージ容量上限まで保存	2 か所	0.7 %	
一部保存（特異な受講者のみ）	1 か所	0.3 %	
その他	1 か所	0.3 %	
(構成比の母数は 290)			

（自由意見の内容を分類して集計。複数意見ある場合はそれぞれ1意見としてカウントした。）

<図44 保管期間>

(2) (1)で回答した保管期間について、より長期間の保管を実施しない理由

(自由記述)

- 「個人情報保護のため」が最も多く(20.3%)、次いで「データが大きいため(映像データ容量、実施人数)」が多かった(14.3%)。

<表9 (1)で回答した保管期間について、より長期間の保管を実施しない理由>

より長期間の保管を実施しない理由	構成比
個人情報保護のため	158 か所 20.3 %
データが大きいため(映像データ容量、実施人数)	111 か所 14.3 %
保存義務がない、保管期間の具体的な指示がない、公安委員会等への問い合わせの結果	89 か所 11.5 %
保守費用がかかるため	39 か所 5.0 %
データ保存用の媒体が無い	38 か所 4.9 %
必要性を感じないため	34 か所 4.4 %
保管に手間がかかるため	33 か所 4.2 %
活用予定がないため	28 か所 3.6 %
活用しづらいため(特定受講者、特定場面の検索性が低い等も含む)	16 か所 2.1 %
特になし	10 か所 1.3 %
免許更新間隔から妥当と思われるため	6 か所 0.8 %
本人以外への利用が難しいため	5 か所 0.6 %
活用方法が分からない・示されていないため	3 か所 0.4 %
受講者からの要望	2 か所 0.3 %
映像指導の意味が無いと考えるため	1 か所 0.1 %
その他	25 か所 3.2 %
無回答	330 か所 42.5 %
(構成比の母数は 774)	

(自由意見の内容を分類して集計。複数意見ある場合はそれぞれ1意見としてカウントした。)

アで回答されたドラレコ映像データの今後の保管期間方針別(次記表の分類番号①から⑯別。⑯は無回答のため除く)に理由を確認した。

<表10 ドラレコ映像データの今後の保管期間方針分類>

分類番号	高齢者講習におけるドラレコ映像データの保管期間の今後の方針	構成比
①	個人指導を実施した後、1年以内に廃棄する予定である。	333 か所 42.9 %
②	個人指導を実施した後、1~3年程度は保存する予定である。	77 か所 9.9 %
③	個人指導を実施した後、次回の運転免許更新まで(最大4年程度)は保存する予定である。	50 か所 6.4 %
④	個人指導を実施した後、5年以上の期間を定めて保存する予定である。	5 か所 0.6 %
⑤	保存期間を定めず、永年保管する予定である。	3 か所 0.4 %
⑥	その他	290 か所 37.3 %
⑦	講習後に削除	166 か所 21.4 %
⑧	保存しない	55 か所 7.1 %
⑨	保存しない(上書き)	41 か所 5.3 %
⑩	保存の予定なし	26 か所 3.3 %
⑪	講習終了後一定期間保存	12 か所 1.5 %
⑫	公安委員会の指示に従う	6 か所 0.8 %
⑬	HDD等の保存用ストレージ容量上限まで保存	2 か所 0.3 %
⑭	一部保存(特異な受講者のみ)	1 か所 0.1 %
⑮	その他	1 か所 0.1 %
⑯	無回答	19 か所 2.4 %
(構成比の母数は 777)		

① 個人指導を実施した後、1年以内に廃棄する予定である。

- 「データが大きいため(映像データ容量、実施人数)」が最も多く(18.6%)、次いで「個人情報保護のため」が多かった(18.0%)。

<表11 「個人指導を実施した後、1年以内に廃棄する予定である。」の理由>

より長期間の保管を実施しない理由		構成比
データが大きいため(映像データ容量、実施人数)	62 か所	18.6 %
個人情報保護のため	60 か所	18.0 %
保存義務がない、保管期間の具体的な指示がない、公安委員会等への問い合わせの結果	31 か所	9.3 %
データ保存用の媒体が無い	21 か所	6.3 %
保管に手間がかかるため	17 か所	5.1 %
保守費用がかかるため	17 か所	5.1 %
必要性を感じないため	14 か所	4.2 %
活用予定がないため	7 か所	2.1 %
特になし	6 か所	1.8 %
本人以外への利用が難しいため	4 か所	1.2 %
活用しづらいため(特定受講者、特定場面の検索性が低い等も含む)	4 か所	1.2 %
免許更新間隔から妥当と思われるため	2 か所	0.6 %
活用方法が分からず示されていないため	1 か所	0.3 %
映像指導の意味が無いと考えるため	1 か所	0.3 %
受講者からの要望	1 か所	0.3 %
その他	8 か所	2.4 %
無回答	139 か所	41.7 %

(構成比の母数は 333)

② 個人指導を実施した後、1～3年程度は保存する予定である。

- 「データが大きいため(映像データ容量、実施人数)」が最も多く(18.6%)、次いで「保存義務がない、保存期間の具体的な指示がない、公安委員会への問合せ結果」が多かった(7.8%)。

<表12 「個人指導を実施した後、1～3年程度は保存する予定である。」の理由>

より長期間の保管を実施しない理由		構成比
データが大きいため(映像データ容量、実施人数)	10 か所	13.0 %
保存義務がない、保存期間の具体的な指示がない、公安委員会への問合せ結果	6 か所	7.8 %
個人情報保護のため	3 か所	3.9 %
保守費用がかかるため	3 か所	3.9 %
免許更新間隔から妥当と思われるため	3 か所	3.9 %
活用予定がないため	2 か所	2.6 %
必要性を感じないため	2 か所	2.6 %
保管に手間がかかるため	1 か所	1.3 %
活用しづらいため(特定受講者、特定場面の検索性が低い等も含む)	1 か所	1.3 %
データ保存用の媒体が無い	1 か所	1.3 %
特になし	1 か所	1.3 %
本人以外への利用が難しいため	0 か所	0.0 %
活用方法が分からず示されていないため	0 か所	0.0 %
映像指導の意味が無いと考えるため	0 か所	0.0 %
受講者からの要望	0 か所	0.0 %
その他	3 か所	3.9 %
無回答	45 か所	58.4 %

(構成比の母数は 77)

③ 個人指導を実施した後、次回の運転免許更新まで(最大4年程度)は保存する予定である。

- 「データが大きいため(映像データ容量、実施人数)」が最も多く(14.0%)、次いで「必要性を感じないため」が多かった(6.0%)。

＜表13 「個人指導を実施した後、次回の運転免許更新まで(最大4年程度)は保存する予定である。」の理由＞

より長期間の保管を実施しない理由	構成比
データが大きいため(映像データ容量、実施人数)	7か所 14.0 %
必要性を感じないため	3か所 6.0 %
保存義務がない、保管期間の具体的な指示がない、公安委員会等への問い合わせの結果	2か所 4.0 %
保守費用がかかるため	2か所 4.0 %
個人情報保護のため	1か所 2.0 %
保管に手間がかかるため	1か所 2.0 %
活用予定がないため	1か所 2.0 %
特になし	1か所 2.0 %
免許更新間隔から妥当と思われるため	1か所 2.0 %
本人以外への利用が難しいため	0か所 0.0 %
活用方法が分からず・示されていないため	0か所 0.0 %
映像指導の意味が無いと考えるため	0か所 0.0 %
活用しづらいため(特定受講者、特定場面の検索性が低い等も含む)	0か所 0.0 %
データ保存用の媒体が無い	0か所 0.0 %
受講者からの要望	0か所 0.0 %
その他	2か所 4.0 %
無回答	32か所 64.0 %

(構成比の母数は 50)

④ 個人指導を実施した後、5年以上の期間を定めて保存する予定である。

- その他1か所及び無回答が4か所と、有効な回答は得られなかつた。

⑤ 保存期間を定めず、永年保管する予定である。

- すでに永年保管する予定であるため、有効な回答は得られなかつた。

⑥その他

- 「データが大きいため(映像データ容量、実施人数)」が最も多く(51.4%)、次いで「個人情報保護のため」が多かった(32.1%)。

＜表14 「その他」の理由＞

より長期間の保管を実施しない理由		構成比
個人情報保護のため	149 か所	51.4 %
データが大きいため(映像データ容量、実施人数)	93 か所	32.1 %
保存義務がない、保管期間の具体的な指示がない、公安委員会等への問い合わせの結果	80 か所	27.6 %
データ保存用の媒体が無い	36 か所	12.4 %
保守費用がかかるため	34 か所	11.7 %
保管に手間がかかるため	31 か所	10.7 %
必要性を感じないため	29 か所	10.0 %
活用予定がないため	24 か所	8.3 %
活用しづらいため(特定受講者、特定場面の検索性が低い等も含む)	14 か所	4.8 %
特になし	8 か所	2.8 %
本人以外への利用が難しいため	5 か所	1.7 %
活用方法が分からず・示されていないため	3 か所	1.0 %
免許更新間隔から妥当と思われるため	2 か所	0.7 %
映像指導の意味が無いと考えるため	1 か所	0.3 %
受講者からの要望	1 か所	0.3 %
その他	19 か所	6.6 %
無回答	238 か所	82.1 %

(構成比の母数は 290)

⑦その他(講習後に削除)

- 「データが大きいため(映像データ容量、実施人数)」が最も多く(36.7%)、次いで「保存義務がない、保存期間の具体的な指示がない、公安委員会への問合せ結果」が多かった(13.9%)。

＜表15 「その他(講習後に削除)」の理由＞

より長期間の保管を実施しない理由		構成比
個人情報保護のため	61 か所	36.7 %
保存義務がない、保管期間の具体的な指示がない、公安委員会等への問い合わせの結果	23 か所	13.9 %
データが大きいため(映像データ容量、実施人数)	14 か所	8.4 %
活用予定がないため	11 か所	6.6 %
保管に手間がかかるため	8 か所	4.8 %
活用しづらいため(特定受講者、特定場面の検索性が低い等も含む)	8 か所	4.8 %
データ保存用の媒体が無い	7 か所	4.2 %
必要性を感じないため	6 か所	3.6 %
保守費用がかかるため	5 か所	3.0 %
本人以外への利用が難しいため	1 か所	0.6 %
活用方法が分からず・示されていないため	0 か所	0.0 %
映像指導の意味が無いと考えるため	0 か所	0.0 %
受講者からの要望	0 か所	0.0 %
特になし	0 か所	0.0 %
免許更新間隔から妥当と思われるため	0 か所	0.0 %
その他	5 か所	3.0 %
無回答	51 か所	30.7 %

(構成比の母数は 166)

⑧その他（保存しない）

- 「個人情報保護のため」が最も多く（14.5%）、次いで「データが大きいため（映像データ容量、実施人数）」が多かった（12.7%）。

＜表16 「その他（保存しない）」の理由＞

より長期間の保管を実施しない理由	構成比
個人情報保護のため	8 か所 14.5 %
データが大きいため（映像データ容量、実施人数）	7 か所 12.7 %
保存義務がない、保管期間の具体的な指示がない、公安委員会等への問い合わせの結果	5 か所 9.1 %
保守費用がかかるため	5 か所 9.1 %
保管に手間がかかるため	3 か所 5.5 %
必要性を感じないため	2 か所 3.6 %
活用しづらいため（特定受講者、特定場面の検索性が低い等も含む）	1 か所 1.8 %
本人以外への利用が難しいため	0 か所 0.0 %
活用方法が分からず・示されていないため	0 か所 0.0 %
活用予定がないため	0 か所 0.0 %
映像指導の意味が無いと考えるため	0 か所 0.0 %
データ保存用の媒体が無い	0 か所 0.0 %
受講者からの要望	0 か所 0.0 %
特になし	0 か所 0.0 %
免許更新間隔から妥当と思われるため	0 か所 0.0 %
その他	0 か所 0.0 %
無回答	8 か所 14.5 %

（構成比の母数は 55 ）

⑨その他（保存しない（上書き））

- 「個人情報保護のため」が最も多く（29.3%）、次いで「保存義務がない、保存期間の具体的な指示がない、公安委員会への問合せ結果」が多かった（26.8%）。

＜表17 「その他（保存しない（上書き））」の理由＞

より長期間の保管を実施しない理由	構成比
個人情報保護のため	12 か所 29.3 %
保存義務がない、保管期間の具体的な指示がない、公安委員会等への問い合わせの結果	11 か所 26.8 %
必要性を感じないため	6 か所 14.6 %
データが大きいため（映像データ容量、実施人数）	5 か所 12.2 %
データ保存用の媒体が無い	4 か所 9.8 %
保守費用がかかるため	3 か所 7.3 %
保管に手間がかかるため	2 か所 4.9 %
活用予定がないため	2 か所 4.9 %
活用方法が分からず・示されていないため	1 か所 2.4 %
活用しづらいため（特定受講者、特定場面の検索性が低い等も含む）	1 か所 2.4 %
特になし	1 か所 2.4 %
本人以外への利用が難しいため	0 か所 0.0 %
映像指導の意味が無いと考えるため	0 か所 0.0 %
受講者からの要望	0 か所 0.0 %
免許更新間隔から妥当と思われるため	0 か所 0.0 %
その他	1 か所 2.4 %
無回答	16 か所 39.0 %

（構成比の母数は 41 ）

⑩その他（保存の予定なし）

- 「個人情報保護のため」が最も多く（23.1%）、次いで「保存義務がない、保存期間の具体的な指示がない、公安委員会への問い合わせ結果」が多かった（15.4%）。

＜表18 「その他（保存の予定なし）」の理由＞

より長期間の保管を実施しない理由		構成比
個人情報保護のため	6 か所	23.1 %
保存義務がない、保管期間の具体的な指示がない、公安委員会等への問い合わせの結果	4 か所	15.4 %
保守費用がかかるため	4 か所	15.4 %
データ保存用の媒体が無い	3 か所	11.5 %
データが大きいため（映像データ容量、実施人数）	2 か所	7.7 %
保管に手間がかかるため	2 か所	7.7 %
活用予定がないため	2 か所	7.7 %
必要性を感じないため	1 か所	3.8 %
特になし	1 か所	3.8 %
本人以外への利用が難しいため	0 か所	0.0 %
活用方法が分からず・示されていないため	0 か所	0.0 %
映像指導の意味が無いと考えるため	0 か所	0.0 %
活用しづらいため（特定受講者、特定場面の検索性が低い等も含む）	0 か所	0.0 %
受講者からの要望	0 か所	0.0 %
免許更新間隔から妥当と思われるため	0 か所	0.0 %
その他	5 か所	19.2 %
無回答	18 か所	69.2 %

（構成比の母数は 26 ）

⑪その他（講習終了後一定期間保存）

- 「データが大きいため（映像データ容量、実施人数）」が最も多く（33.3%）、次いで「個人情報保護のため」が多かった（25.0%）。

＜表19 「その他（講習終了後一定期間保存）」の理由＞

より長期間の保管を実施しない理由		構成比
データが大きいため（映像データ容量、実施人数）	4 か所	33.3 %
個人情報保護のため	3 か所	25.0 %
保存義務がない、保管期間の具体的な指示がない、公安委員会等への問い合わせの結果	3 か所	25.0 %
活用予定がないため	2 か所	16.7 %
活用方法が分からず・示されていないため	1 か所	8.3 %
データ保存用の媒体が無い	1 か所	8.3 %
本人以外への利用が難しいため	0 か所	0.0 %
保管に手間がかかるため	0 か所	0.0 %
映像指導の意味が無いと考えるため	0 か所	0.0 %
保守費用がかかるため	0 か所	0.0 %
活用しづらいため（特定受講者、特定場面の検索性が低い等も含む）	0 か所	0.0 %
必要性を感じないため	0 か所	0.0 %
受講者からの要望	0 か所	0.0 %
特になし	0 か所	0.0 %
免許更新間隔から妥当と思われるため	0 か所	0.0 %
その他	0 か所	0.0 %
無回答	1 か所	8.3 %

（構成比の母数は 12 ）

⑫その他（公安委員会の指示に従う）

- 「保存義務がない、保存期間の具体的な指示がない、公安委員会への問合せ結果」（1か所）及び「データが大きいため（映像データ容量、実施人数）」が多かった（1か所）。

＜表20 「その他（公安委員会の指示に従う）」の理由＞

より長期間の保管を実施しない理由	構成比
保存義務がない、保管期間の具体的な指示がない、公安委員会等への問い合わせの結果	1 か所 16.7 %
データが大きいため（映像データ容量、実施人数）	1 か所 16.7 %
活用予定がないため	1 か所 16.7 %
個人情報保護のため	0 か所 0.0 %
本人以外への利用が難しいため	0 か所 0.0 %
活用方法が分からず・示されていないため	0 か所 0.0 %
保管に手間がかかるため	0 か所 0.0 %
映像指導の意味が無いと考えるため	0 か所 0.0 %
保守費用がかかるため	0 か所 0.0 %
活用しづらいため（特定受講者、特定場面の検索性が低い等も含む）	0 か所 0.0 %
データ保存用の媒体が無い	0 か所 0.0 %
必要性を感じないため	0 か所 0.0 %
受講者からの要望	0 か所 0.0 %
特になし	0 か所 0.0 %
免許更新間隔から妥当と思われるため	0 か所 0.0 %
その他	0 か所 0.0 %
無回答	4 か所 66.7 %

（構成比の母数は 6 ）

⑬その他（HDD 等の保存用ストレージ容量上限まで保存）

- 「保存義務がない、保存期間の具体的な指示がない、公安委員会への問合せ結果」と 1 か所の教習所が回答した。

＜表21 「その他（HDD 等の保存用ストレージ容量上限まで保存）」の理由＞

より長期間の保管を実施しない理由	構成比
保存義務がない、保管期間の具体的な指示がない、公安委員会等への問い合わせの結果	1 か所 50.0 %
個人情報保護のため	0 か所 0.0 %
本人以外への利用が難しいため	0 か所 0.0 %
活用方法が分からず・示されていないため	0 か所 0.0 %
データが大きいため（映像データ容量、実施人数）	0 か所 0.0 %
保管に手間がかかるため	0 か所 0.0 %
活用予定がないため	0 か所 0.0 %
映像指導の意味が無いと考えるため	0 か所 0.0 %
保守費用がかかるため	0 か所 0.0 %
活用しづらいため（特定受講者、特定場面の検索性が低い等も含む）	0 か所 0.0 %
データ保存用の媒体が無い	0 か所 0.0 %
必要性を感じないため	0 か所 0.0 %
受講者からの要望	0 か所 0.0 %
特になし	0 か所 0.0 %
免許更新間隔から妥当と思われるため	0 か所 0.0 %
その他	0 か所 0.0 %
無回答	1 か所 50.0 %

（構成比の母数は 2 ）

⑭その他（一部保存（特異な受講者のみ））

- ・ 「保存義務がない、保存期間の具体的な指示がない、公安委員会への問合せ結果」と1か所の教習所が回答した。

⑮その他（その他）

- ・ 「保存義務がない、保存期間の具体的な指示がない、公安委員会への問合せ結果」と1か所の教習所が回答した。

5 今後どのような環境で保管することが適切と考えるか（選択式・複数選択可）

4で回答した方針に従い高齢者講習のドラレコ映像データを保管することを想定した場合、今後どのような環境で保管することが適切と考えるか問い合わせ、以下の回答が得られた。

- ・ 「現在の保管環境」、「今後の適切と思われる保管環境」共に、上位4つの回答は、ネットワークと接続せずに保管する方法であった。また、上位4つの回答の合計は、「現在の保管環境」よりも「今後の適切と思われる保管環境」の方が多かった。
- ・ 「現在の保管環境」においては、大容量の保存媒体である「所内のサーバー・共有ホルダー」、「外部のサーバー・クラウドデータベース」の合計は1%であるが、「今後の適切と思われる保管環境」では、9.8%に増加していた。

＜表22 今後どのような環境で保管することが適切と考えるか＞
(今後の適切と思われる保管環境)

高齢者講習におけるドラレコ映像データの現在の保管環境			構成比率
外部記憶媒体 (DVD, Blu-ray, 外付けハードディスクなど) ※ドラレコ記録メディアは含まない	336 か所	43.2 %	
ネットワークに繋げないほかの用途に用いない専用のパソコン	235 か所	30.2 %	
ドラレコの記録メディア (SDカード等) をそのまま保管する	153 か所	19.7 %	
ネットワークに繋げないほかの用途にも用いるパソコン	67 か所	8.6 %	
所内のサーバー・共有フォルダー	42 か所	5.4 %	
外部のサーバー・クラウドデータサービス	34 か所	4.4 %	
内部ネットワークに繋げるほかの用途に用いない専用のパソコン	33 か所	4.2 %	
内部のみのネットワークに繋げるほかの用途にも用いるパソコン	15 か所	1.9 %	
必要な際にインターネット等に繋げて用いるほかの用途にも用いるパソコン	14 か所	1.8 %	
インターネット等外部ネットワークに常時繋がったほかの用途にも用いるパソコン	8 か所	1.0 %	
その他	77 か所	9.9 %	
無回答	21 か所	2.7 %	

(構成比の母数は 777)

その他内訳			構成比
保管を考えていない、保管しない	57 か所	74.0 %	
撮影端末の内部ストレージ	8 か所	10.4 %	
外部ネットワークから隔離したストレージやサーバ等で管理	3 か所	3.9 %	
データベース等を構築し保存及び抽出の環境を整える	2 か所	2.6 %	
高齢者講習用PC	2 か所	2.6 %	
公安委員会からの指示に従う	1 か所	1.3 %	
NAS	1 か所	1.3 %	
その他	6 か所	7.8 %	

(構成比の母数は 77)

(自由意見の内容を分類して集計。複数意見ある場合はそれぞれ1意見としてカウントした。)

(現在の保管環境) ※ 図43再掲載

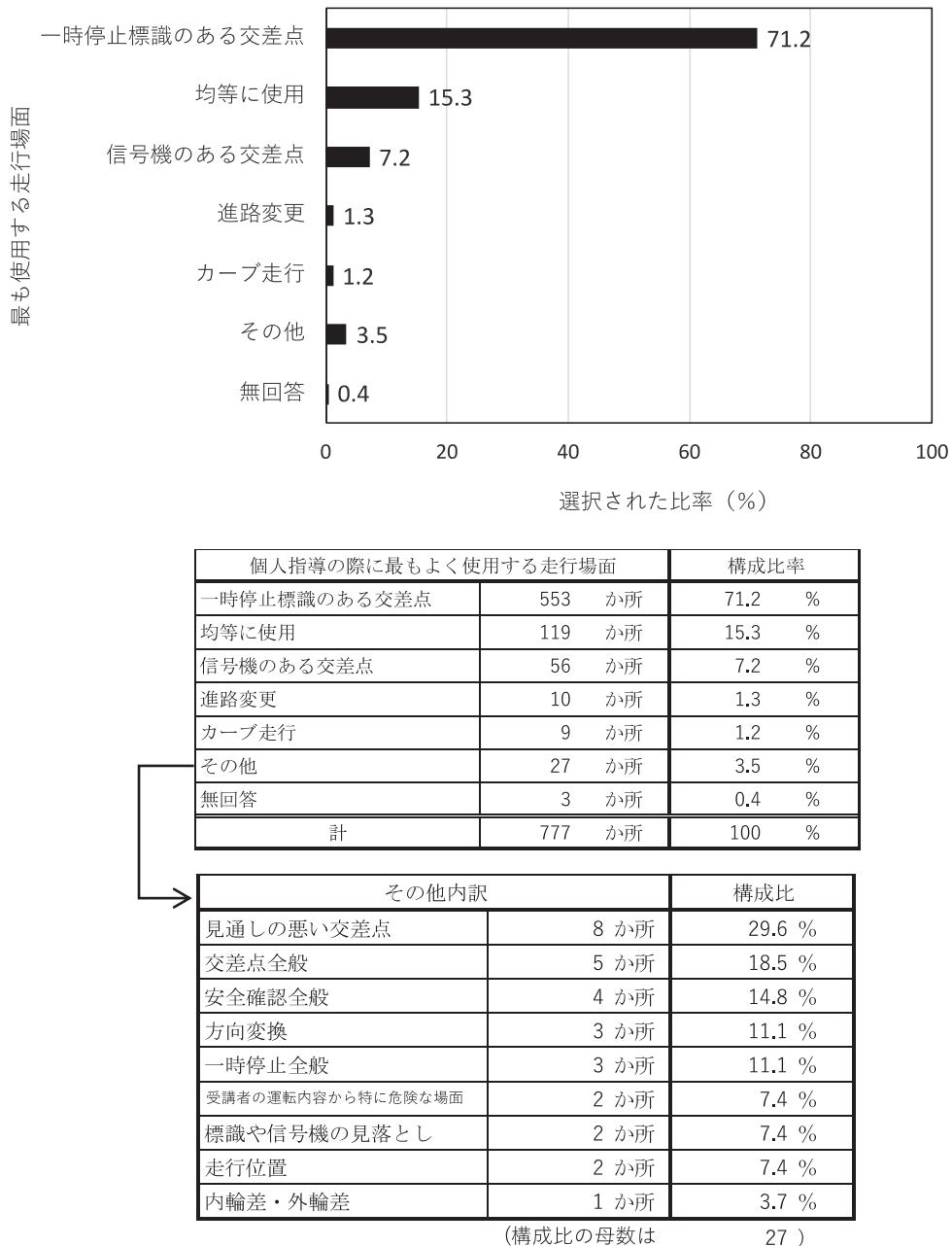
高齢者講習におけるドラレコ映像データの現在の保管環境			構成比率
ドラレコの記録メディア (SDカード等) をそのまま保管している	277 か所	35.6 %	
ネットワークに繋げないほかの用途に用いない専用のパソコン	222 か所	28.6 %	
外部記憶媒体 (DVD, Blu-ray, 外付けハードディスクなど) ※ドラレコ記録メディアは含まない	111 か所	14.3 %	
ネットワークに繋げないほかの用途にも用いるパソコン	64 か所	8.2 %	
必要な際にインターネット等に繋げて用いるほかの用途にも用いるパソコン	33 か所	4.2 %	
インターネット等外部ネットワークに常時繋がったほかの用途にも用いるパソコン	20 か所	2.6 %	
内部ネットワークに繋げるほかの用途に用いない専用のパソコン	17 か所	2.2 %	
内部のみのネットワークに繋げるほかの用途にも用いるパソコン	8 か所	1.0 %	
所内のサーバー・共有フォルダー	7 か所	0.9 %	
外部のサーバー・クラウドデータサービス	1 か所	0.1 %	
その他	173 か所	22.3 %	
無回答	6 か所	0.8 %	

(構成比の母数は 777)

6 現在の個人指導におけるドラレコ映像の使い方

(1) 最もよく使用する走行場面（選択式）

- 「一時停止標識のある交差点」が最も多く（71.2%）、次いで「均等に使用」が多かった（15.3%）。

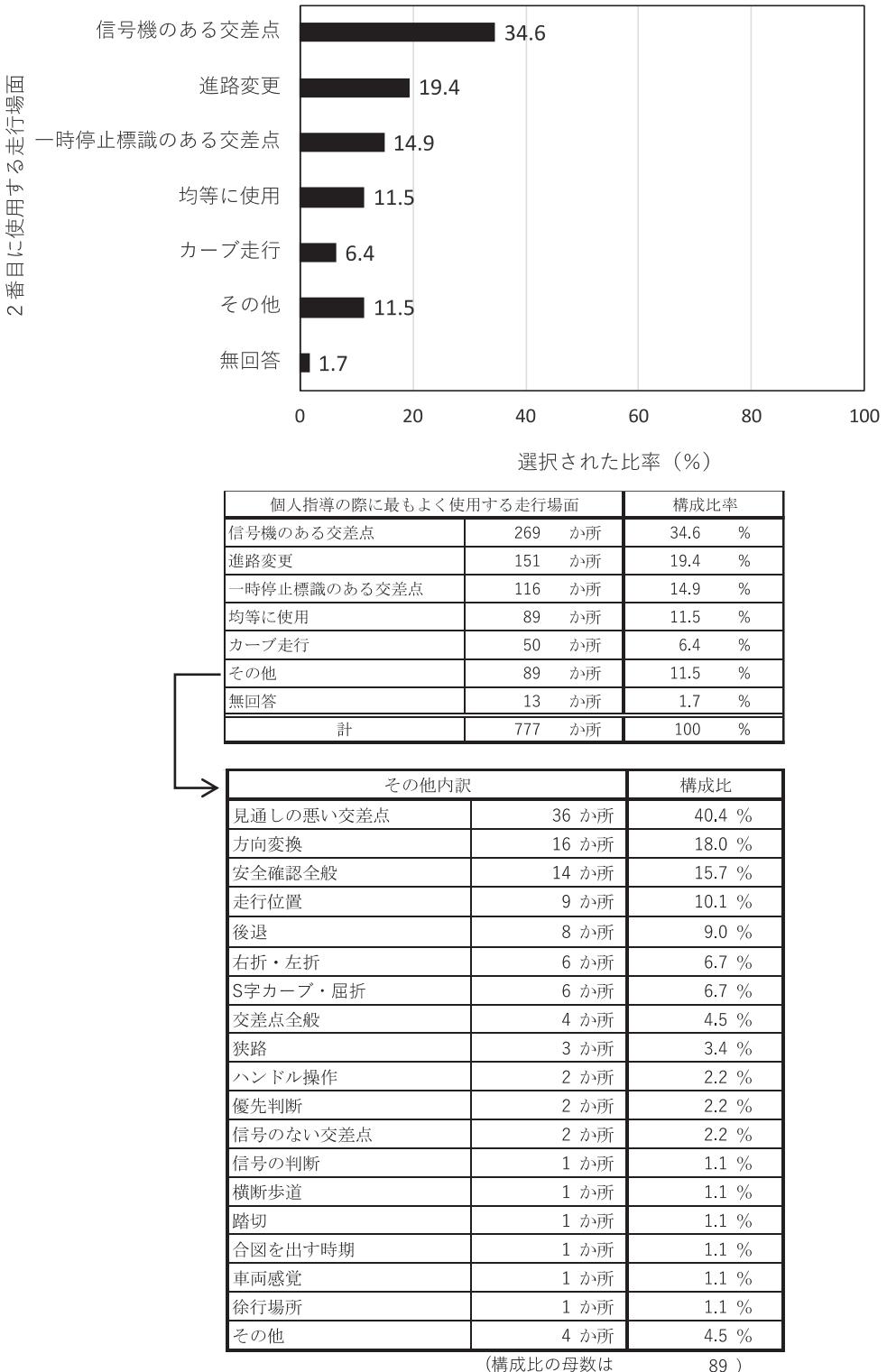


(自由意見の内容を分類して集計。複数意見ある場合はそれぞれ 1 意見としてカウントした。)

＜図 45 最もよく使用する走行場面＞

(2) 2番目によく使用する走行場面(選択式)

- 「信号機のある交差点」が最も多く(34.6%)、次いで「進路変更」が多くかった(15.3%)。

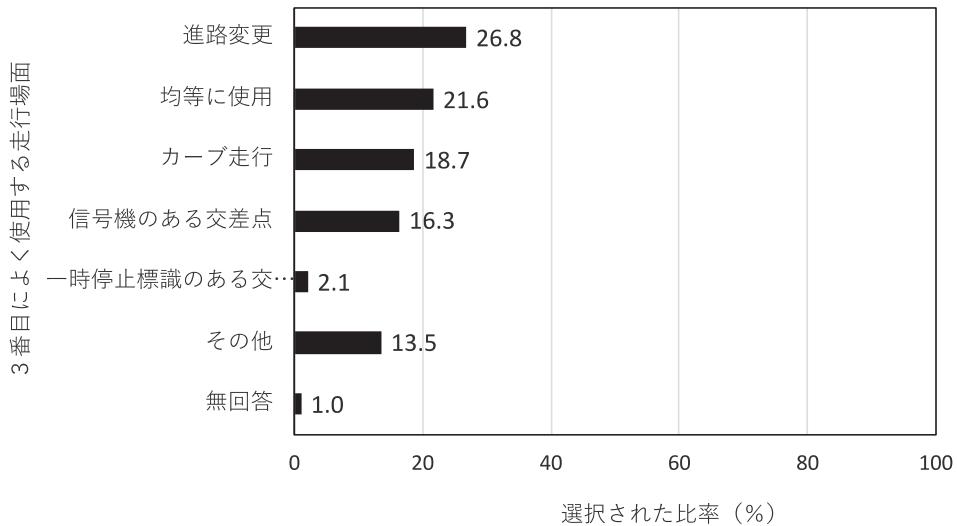


(自由意見の内容を分類して集計。複数意見ある場合はそれぞれ1意見としてカウントした。)

〈図46 2番目によく使用する走行場面〉

(3) 3番目によく使用する走行場面(選択式)

- 「進路変更」が最も多く(26.8%)、次いで「均等に使用」が多かった(21.6%)。



個人指導の際に最もよく使用する走行場面

		構成比率
進路変更	208 か所	26.8 %
均等に使用	168 か所	21.6 %
カーブ走行	145 か所	18.7 %
信号機のある交差点	127 か所	16.3 %
一時停止標識のある交差点	16 か所	2.1 %
その他	105 か所	13.5 %
無回答	8 か所	1.0 %
計	777 か所	100 %

その他内訳

	構成比
見通しの悪い交差点	61.9 %
交差点全般	11.4 %
安全確認全般	6.7 %
方向変換	3.8 %
一時停止全般	2.9 %
受講者の運転内容から特に危険な場面	2.9 %
標識や信号機の見落とし	1.0 %
走行位置	1.0 %
内輪差・外輪差	1.0 %

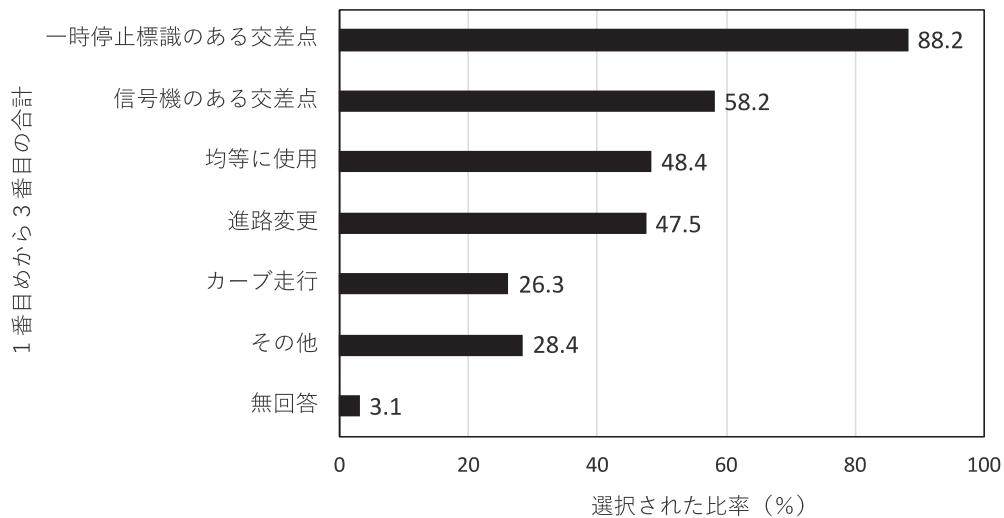
(構成比の母数は 105)

(自由意見の内容を分類して集計。複数意見ある場合はそれぞれ1意見としてカウントした。)

<図47 3番目によく使用する走行場面>

(4) 1番目から3番目の合計

- 「一時停止標識のある交差点」が最も多く(88.2%)、次いで「信号機のある交差点」が多かった(58.2%)。



個人指導の際に最もよく使用する走行場面		構成比率
一時停止標識のある交差点	685 か所	88.2 %
信号機のある交差点	452 か所	58.2 %
均等に使用	376 か所	48.4 %
進路変更	369 か所	47.5 %
カーブ走行	204 か所	26.3 %
その他	221 か所	28.4 %
無回答	24 か所	3.1 %
計	2331 か所	300 %

その他内訳		構成比
見通しの悪い交差点	109 か所	49.3 %
方向変換	31 か所	14.0 %
安全確認全般	21 か所	9.5 %
後退	15 か所	6.8 %
交差点全般	13 か所	5.9 %
走行位置	11 か所	5.0 %
S字カーブ・屈折	7 か所	3.2 %
右折・左折	7 か所	3.2 %
一時停止全般	3 か所	1.4 %
信号機のない交差点	3 か所	1.4 %
狭路	3 か所	1.4 %
受講者の運転内容から特に危険な場面	2 か所	0.9 %
標識や信号機の見落とし	2 か所	0.9 %
横断歩道	2 か所	0.9 %
ハンドル操作	2 か所	0.9 %
優先判断	2 か所	0.9 %
信号のない交差点	2 か所	0.9 %
内輪差・外輪差	1 か所	0.5 %
信号の判断	1 か所	0.5 %
踏切	1 か所	0.5 %
合図を出す時期	1 か所	0.5 %
車両感覚	1 か所	0.5 %
徐行場所	1 か所	0.5 %
その他	4 か所	1.8 %

(構成比の母数は 221)

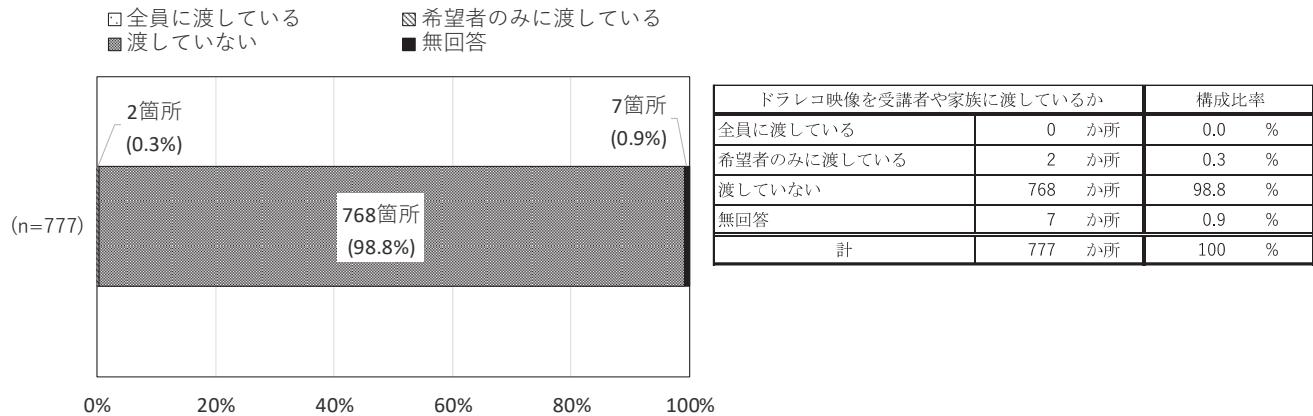
(自由意見の内容を分類して集計。複数意見ある場合はそれぞれ 1 意見としてカウントした。)

<図 48 1番目から3番目の合計>

7 高齢者講習のドラレコ映像の再利用について

(1) 撮影したドラレコ映像を、CD-R・DVD-R や USB メモリーにコピーするなどして、受講者本人やその家族に渡しているか。(選択式)

- 「渡していない」と回答した教習所が最も多かった(98.8%)。また、「希望者のみに渡している」と回答した教習所が2か所あった(0.3%)。

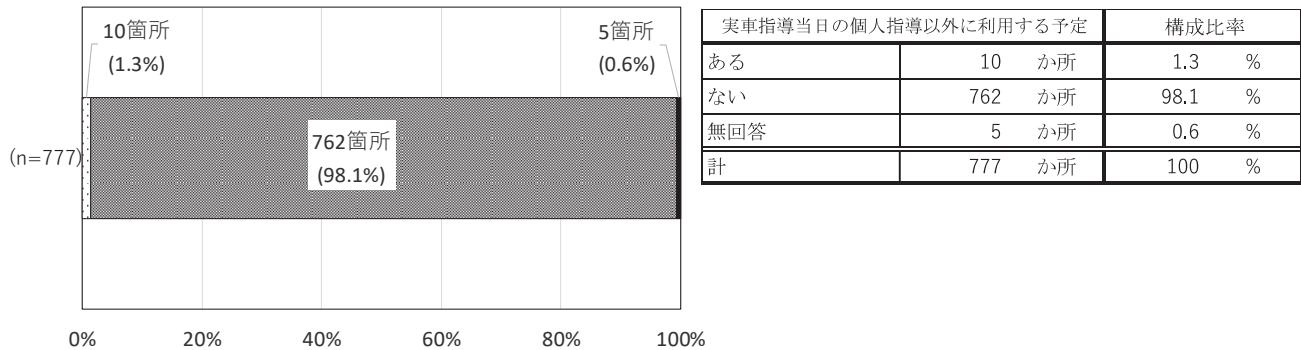


<図 49 撮影したドラレコ映像を、CD-R・DVD-R や USB メモリーにコピーするなどして、受講者本人やその家族に渡しているか。>

(2) ドラレコ映像を、受講日当日に行われる実車走行後の個人指導以外に利用する予定はあるか。(選択式)

- 「ある」と回答した教習所が10か所あった(1.3%)。

□ある ■ない ■無回答

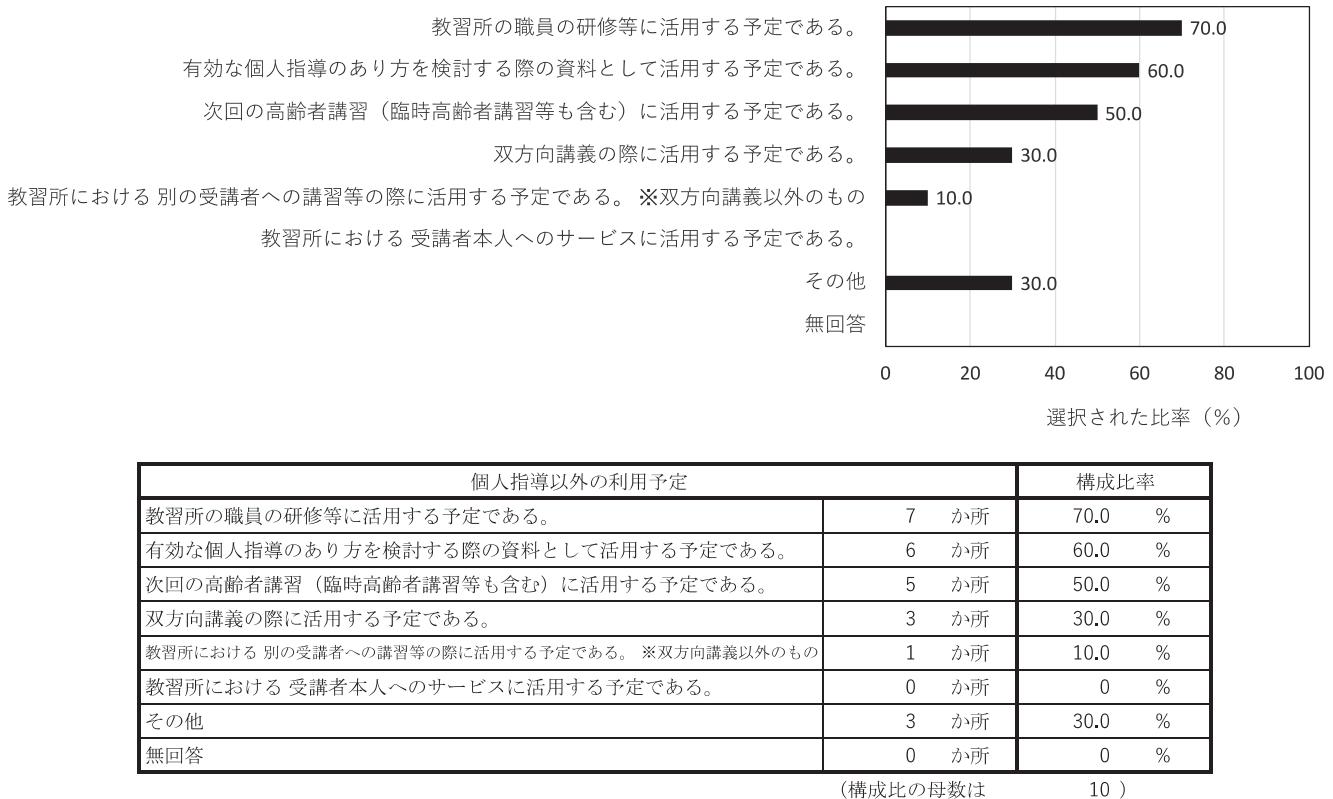


<図 50 ドラレコ映像を、受講日当日に行われる実車走行後の個人指導以外に利用する予定はあるか。>

(3) 個人指導以外での利用予定内容 (7 (2) で「ある」と回答した者のみ)

(選択式・複数選択可)

- 「教習所職員の研修等に活用する予定である。」が最も多く (70.0%)、次いで「有効な個人指導のあり方を検討する際の資料として活用する予定である。」が多かった(60.0%)。



<図 51 個人指導以外での利用予定内容>

(4) 個人指導以外での利用を行う理由 (自由記述)

- ドライブレコーダーで録画したファイルが破損して映像が再生できない時に（他人の映像を）（※）利用することもできる。（7 (3) で「教習所の職員の研修等に活用する予定である。」と回答した教習所）
(※) カッコ内の文言は、事務局による補足。
- 受講者自身の運転の注意点と前回との比較での活用等。（7 (3) で「有効な個人指導のあり方を検討する際の資料として活用する予定である。」と回答した教習所）
- 指導員間での指導方法について統一を図るための研修に活用するため。（7 (3) で「教習所の職員の研修等に活用する予定である。」「有効な個人指導のあり方を検討する際の資料として活用する予定である。」と回答

した教習所)

- ・ 職員の模範走行映像を見せることにより、正しい運転と事故防止に役立つもらうため。また、(高齢運転者全般の) 運転傾向の確認とその対策をするために活用をする予定。(7(3)で「教習所の職員の研修等に活用する予定である。」、「有効な個人指導のあり方を検討する際の資料として活用する予定である。」と回答した教習所)

(※) カッコ内の文言は、事務局による補足。

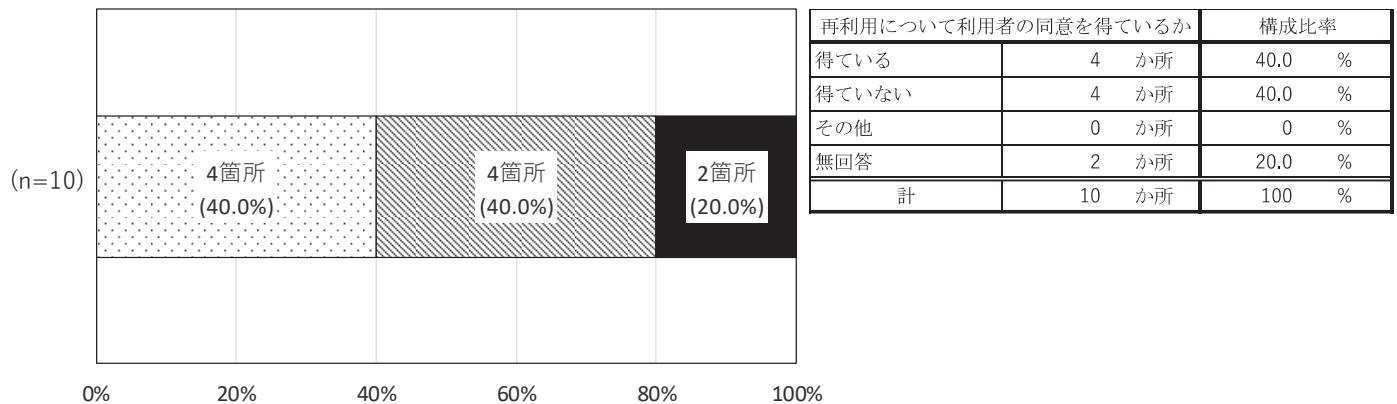
(5) 個人指導以外での利用を行う際の工夫等について（自由記述）

- ・ 受講者本人の走行と職員の模範走行を見比べ、問題点を理解してもらう。(7(3)で「教習所の職員の研修等に活用する予定である。」、「有効な個人指導のあり方を検討する際の資料として活用する予定である。」と回答)

(6) 個人指導以外での利用予定について、受講者の同意を得ているか（選択式）

- ・ 「得ている」と回答した教習所が4か所、「得ていない」と回答した教習所が4か所であった。

□得ている □得ていない ■その他 ■無回答



<図 52 個人指導以外での利用予定について、受講者の同意を得ているか>

(7) 受講者の同意を得る又は得ない理由と、同意を得ている場合はその取得方法について（自由記述）

○ 同意を得ている教習所の意見

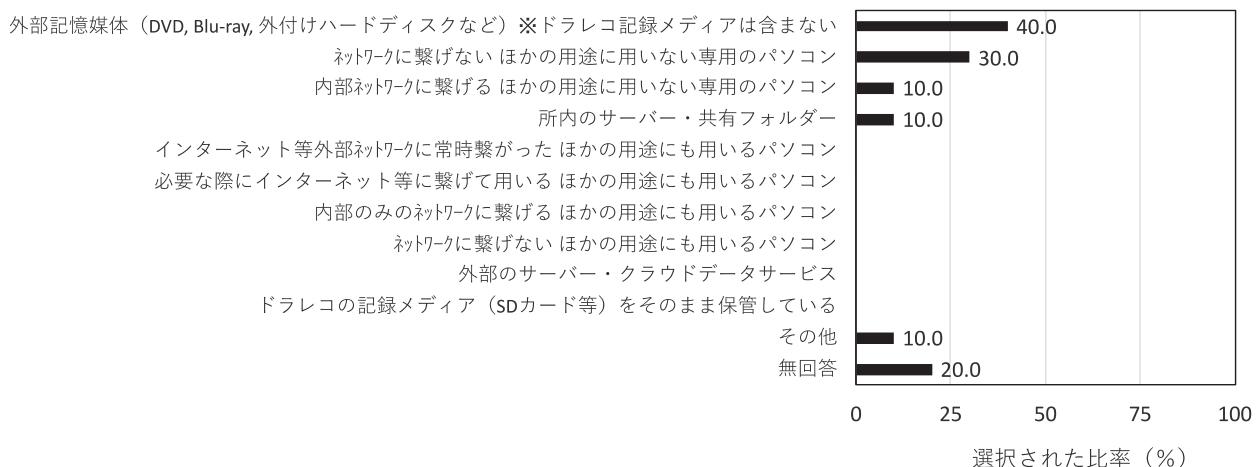
- ・ 指導員間での研修に使用したい旨を説明し、個人指導終了時に本人に直接同意を得ている。
- ・ 職員の映像を模範走行等で利用するにあたり、事前に朝礼等で説明し、同意を得ている。

○ 同意を得ていない教習所の意見

- ・ 同意の有無に関係なく、講習の個人指導に活用するため。
- ・ 受講者本人の映像を視聴してもらう。第三者には公開しないため。
- ・ 利用する予定はあるが、今のところ利用していないため特に同意を得てはいない。もし利用するならば受講前の問診票で利用の可否を問うのが良いと思う。

(8) 個人指導以外での利用予定について、高齢者講習のドラレコ映像データの保管のため今後どのような環境を整備することが適切と考えるか（現在、既に整備済みの場合も含める）（選択式）

- ・ 「外部記憶媒体（DVD, Blu-ray, 外付けハードディスクなど）※ドラレコ記録メディアは含まない」が最も多く（4か所）、次いで「ネットワークに繋げない、ほかの用途に用いない専用のパソコン」が多かった（3か所）。



高齢者講習のドラレコ映像がよりよく活用されるための改善点		構成比率
外部記憶媒体（DVD, Blu-ray, 外付けハードディスクなど）※ドラレコ記録メディアは含まない	4 か所	40.0 %
ネットワークに繋げないほかの用途に用いない専用のパソコン	3 か所	30.0 %
内部ネットワークに繋げるほかの用途に用いない専用のパソコン	1 か所	10.0 %
所内のサーバー・共有フォルダー	1 か所	10.0 %
インターネット等外部ネットワークに常時繋がったほかの用途にも用いるパソコン	0 か所	0 %
必要な際にインターネット等に繋げて用いるほかの用途にも用いるパソコン	0 か所	0 %
内部のみのネットワークに繋げるほかの用途にも用いるパソコン	0 か所	0 %
ネットワークに繋げないほかの用途にも用いるパソコン	0 か所	0 %
外部のサーバー・クラウドデータサービス	0 か所	0 %
ドラレコの記録メディア（SDカード等）をそのまま保管している	0 か所	0 %
その他	1 か所	10.0 %
無回答	2 か所	20.0 %

(構成比の母数は 10)

その他内訳		構成比
保存しない	1 か所	100 %

(構成比の母数は 1)

〈図 53 個人指導以外での利用予定について、高齢者講習のドラレコ映像データの保管のため今後どのような環境を整備することが適切と考えるか〉

(9) 7 (8) の理由 (自由記述)

○「外部記憶媒体 (DVD, Blu-ray, 外付けハードディスクなど) ※ドラレコ記録メディアは含まない」と回答した教習所の意見

- ・ 外部に漏洩する恐れがない外付けハードディスク等に保存するのが適切だと考える。

- ・ 教習所内で研修などに活用する目的で保管するため。その他受講生から再度問い合わせがあった場合の対策として保管する。

○「ネットワークに繋げない ほかの用途に用いない専用のパソコン」と回答した教習所の意見

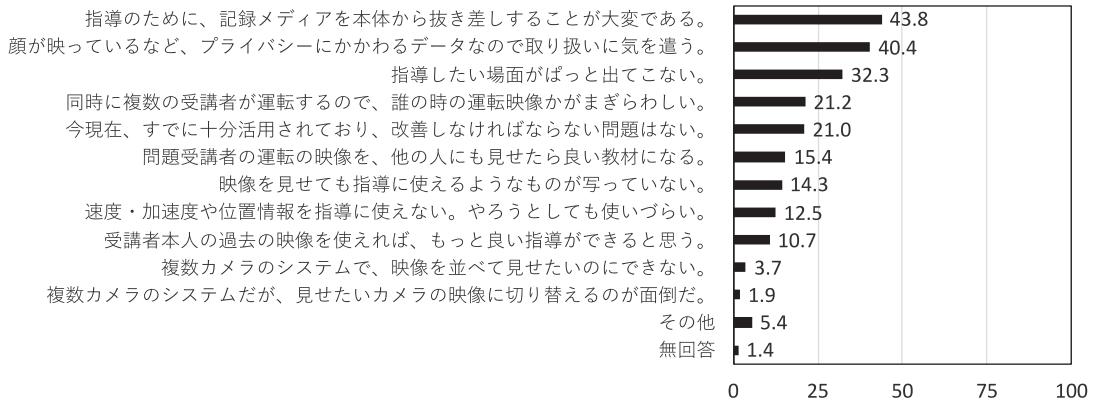
- ・ ネットワーク等に繋がっていることで、個人情報漏洩の危険性がある。そのため、ネットワーク等には繋げない形で専用のパソコンを使用したい。

○「ネットワークに繋げない ほかの用途に用いない専用のパソコン」と「外部記憶媒体 (DVD, Blu-ray, 外付けハードディスクなど) ※ドラレコ記録メディアは含まない」と回答した教習所の意見

- ・ 外部に情報が漏れないよう、専用パソコンを使用して外部記憶媒体に保存し、外部記憶媒体は施錠のかかる場所へ保管した方が良い。

8 ドラレコ映像データが今後よりよく活用されるために改善すべき問題点（選択式）

- 「指導のために、記録メディアを本体から抜き差しすることが大変である。」
が最も多く（43.8%）、次いで、「顔が映っているなど、プライバシーにかかわるデータなので取扱いに気を遣う。」が多かった（40.4%）。



高齢者講習のドラレコ映像がよりよく活用されるための改善点		構成比率	
指導のために、記録メディアを本体から抜き差しすることが大変である。	340 か所	43.8	%
顔が映っているなど、プライバシーにかかわるデータなので取り扱いに気を遣う。	314 か所	40.4	%
指導したい場面がぱっと出てこない。	251 か所	32.3	%
同時に複数の受講者が運転するので、誰の時の運転映像かがまざらわしい。	165 か所	21.2	%
今現在、すでに十分活用されており、改善しなければならない問題はない。	163 か所	21.0	%
問題受講者の運転の映像を、他の人にも見せたら良い教材になる。	120 か所	15.4	%
映像を見せて指導に使えるようなものが写っていない。	111 か所	14.3	%
速度・加速度や位置情報を指導に使えない。やろうとしても使いづらい。	97 か所	12.5	%
受講者本人の過去の映像を使えれば、もっと良い指導ができると思う。	83 か所	10.7	%
複数カメラのシステムで、映像を並べて見せたいのにできない。	29 か所	3.7	%
複数カメラのシステムだが、見せたいカメラの映像に切り替えるのが面倒だ。	15 か所	1.9	%
その他	42 か所	5.4	%
無回答	11 か所	1.4	%

(構成比の母数は 777)

その他内訳		構成比	
走行位置、停止位置、脱輪位置、方向変換、後退等を分かりやすくする。 (車内からの映像のみでは理解されにくい)	9 か所	21.4	%
高齢者講習に特化した機種があると良い (角度調整、左右を広く撮影、MTエンスト時に映像が切れない等)	8 か所	19.0	%
データの移動を改善する（メディアの抜き差しが大変。抜き差しによるメディアの損耗。機材を移動するのが大変）	4 か所	9.5	%
映像を使用する必要なし、効果が薄い	3 か所	7.1	%
コストの改善（データの保存や管理、機材購入）	3 か所	7.1	%
3分類に実施する（1、2分類の場合指導しても伝わらない）	1 か所	2.4	%
受講者の普段の映像を使用する	1 か所	2.4	%
ドラレコを支給する	1 か所	2.4	%
踏み間違えの指導のために足元を撮影する	1 か所	2.4	%
その他	13 か所	31.0	%
無回答	2	4.8	%

(構成比の母数は 42)

（自由意見の内容を分類して集計。複数意見ある場合はそれぞれ1意見としてカウントした。）

図 54 高齢者講習のドラレコ映像データが 今後よりよく活用されるためにどのような問題点を改善したら良いか>

9 ドラレコ映像の活用について（自由記述）

これまでの質問に当てはまらない活用方法等について、自由記述の解答欄を用意したが、回答はなかった。

第3節 ヒアリング

第1節で得られたアンケート結果についてより詳細な情報を収集するため、高齢者講習で一般的なドラレコ、アクションカム、タブレットを使用している教習所各1か所と、ドラレコ映像を長期保存している教習所1か所へのヒアリング調査を行った。

1 ドラレコ等タイプ別のヒアリング

(1) ヒアリング対象

- ・ 一般的なドラレコの中で使用数の多かった、「セルスター CSD-390HD」を使用している教習所1校。
- ・ アクションカムを使用している教習所の中で使用数の多かった、「Sony HDR-AS50」を使用している教習所1校。
- ・ タブレットを使用している教習所の中で使用数の多かった、「NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E」を使用している教習所1校。

(2) ヒアリング結果

ア ドラレコ又はカメラの具体的な設置位置はどこでどうか。(文章で回答いただきか、ドラレコを取り付けた位置が分かる写真を添付願います。)

一般的な ドラレコ	セルスター CSD-390HD	フロントガラス（中央）ルームミラーの後
アクション カム	Sony HDR-AS 50	<p>助手席ヘッドレストにプラスチックバーに取り付けて運用。</p> 
タブレット	NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E	<p>助手席のヘッドレスト部分。内臓のインカメラにて撮影（音声あり）</p> 

イ ドラレコ又はカメラの設置に関して、特に注意している点や工夫している点を教えて下さい。

一般的な ドラレコ	セルスター CSD-390HD	車内と車外の映像を録画し、受講者の安全確認状況及び運転操作の全般について指導できるようにしている。
アクション カム	Sony HDR-AS50	運転者の目線で映るようにしている。
タブレット	NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E	受講者の安全確認行動（首振り等）や、ハンドル操作が映るようにしている。ルームミラーに顔が映るようにしているが、座高の関係で一部映らない場合がある。また、標識標示等も映るようにしている。 

ウ ドラレコ等で撮影された映像は個人指導の中でどの様に利用されていますか。

一般的な ドラレコ	セルスター CSD-390HD	一時停止標識のある箇所での安全確認や車の停止状況を再生し指導している。交差点進入時の状況を再生し、安全確認の適・不適を指導している。重大事故に繋がる恐れのある箇所を再生し、なぜ特に注意しなければならないのかなどを指導している。
アクション カム	Sony HDR-AS50	危険な箇所を再生し、指導している。
タブレット	NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E	実車指導時に車中で指導した箇所（一時不停车等）を再生し、場合によっては映像を一時停止して指導している。 

エ 映像データの容量は、1人あたりおおむねどの程度の容量になりますか。(実施時間により変化すると思いますが、平均した場合、おおむねどの程度になるか教えて下さい。)

一般的な ドラレコ	セルスター CSD-390HD	1人当たり 600MB 程度。
アクション カム	Sony HDR-AS50	1人当たり 500MB 程度。
タブレット	NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E	1人当たり 350~400MB 程度 (3G Pファイル)。

オ 映像教育で映像の視聴を行う為に、映像データを記録した媒体(SDカード等)をパソコン等に移動する必要がありますか。

一般的な ドラレコ	セルスター CSD-390HD	SDカードに映像が保存されるので、SDカードをドラレコから抜き、映像再生用のパソコンにSDカードを挿す必要がある。
アクション カム	Sony HDR-AS50	本体 (HDR-AS50) を教習車から取り外し、パソコンとUSBケーブルで繋ぎ、データをパソコンに移動して視聴している。
タブレット	NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E	映像データはタブレット本体のメモリーに記録される。撮影後、タブレットを教習車から取り外し教室に持ち込む。タブレットの動画再生アプリで視聴するため、データの移動を行う必要はない。

**カ 受講者に映像を見せる時に便利なアプリケーション等を使用していますか。
使用している場合は利点などを教えて下さい。**

一般的な ドラレコ	セルスター CSD-390HD	パソコンに付属している動画再生ソフトを使用している。(特別なソフトは使用していない)
アクション カム	Sony HDR-AS50	パソコンに付属している動画再生ソフトを使用している。(特別なソフトは使用していない)
タブレット	NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E	タブレットに付属している動画再生ソフトを使用している。 (特別なソフトは使用していない)

キ 受講者に映像を見せる時に工夫していることがありましたら教えて下さい。

一般的な ドラレコ	セルスター CSD-390HD	映像を見せる前に受講者自身に運転行動診断時の自らの運転を評価してもらい、その後受講者自身が自覚していない危険行動場面を繰り返し見せて、どこが悪いか指導している
アクション カム	Sony HDR-AS50	危険な場面を繰り返し見せ、指導している。
タブレット	NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E	流れを思い出すように、最初にひと通り見せる。その後、問題のあった箇所から特に危険と思われる箇所を絞って、繰り返し見せる、又は一時停止して確認させる。

ク 映像データを保管する上で、セキュリティ上気をつけている点を教えて下さい。(一定期間データを保管している教習所のみ回答。)

一般的な ドラレコ	セルスター CSD-390HD	映像データは、1ヶ月単位でBD(Blu-ray Disc)に保存し、保管箱で保管している。
アクション カム	Sony HDR-AS50	保存していない。
タブレット	NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E	指導終了後、削除している。(特異者がいれば、特別保管するつもりだが、今のところ該当者なし)

ケ 映像データを保管する上で、データ容量節約のために実施しているがあれば教えて下さい。(一定期間データを保管している教習所のみ回答。)

一般的な ドラレコ	セルスター CSD-390HD	検査結果の1分類と2分類のみ保管している。
アクション カム	Sony HDR-AS50	保管していない。
タブレット	NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E	保管していない。

コ 映像データ活用のために工夫していることがありましたら教えて下さい。

一般的な ドラレコ	セルスター CSD-390HD	EXCELを使用し、講習日ごとに管理している。
アクション カム	Sony HDR-AS50	特になし。使用したらすぐ消去しているため。
タブレット	NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E	特になし。

サ 映像データの取り扱いについて困っていることがありましたら教えて下さい。

一般的な ドラレコ	セルスター CSD-390HD	映像データ容量が大きく、保存のためにデータを移動するのに時間がかかる。
アクション カム	Sony HDR-AS50	当初は保存を検討したが、データ量が大きく、保存等が困難となり、消去している。
タブレット	NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E	特になし。

シ ドラレコ映像データを使用した教育についての自由意見があれば教えて下さい。

一般的な ドラレコ	セルスター CSD-390HD	映像データを活用した個人指導を行っているが、その後の受講者の運転行動に生かせることを願う。
アクション カム	Sony HDR-AS50	特になし。
タブレット	NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E	特になし。

2 長期保存している教習所へのヒアリング

(1) ヒアリング対象

- ・ 保管期間を最長5年の予定としている教習所1校。(撮影機材は、本田通信工業株式会社 EAGLE VIEW (KBB-003) を使用。)

(2) ヒアリング結果

ア 映像データの容量は、1人あたりおおむねどの程度の容量になりますか。(実施時間により変化すると思いますが、平均した場合、おおむねどの程度になるか教えて下さい。)

300MB 程度。

イ 映像データを長期保存する際の保存媒体は何を使用されていますか。製品名等も分かりましたら教えて下さい。

外付けの HDD (製品名 Transcend StoreJet25M3)

ウ 映像データを長期保存する上でデータ容量節約のために工夫していることがありましたら教えて下さい。

1年ごとに HDD を変えて保存しているため、現在は圧縮等の作業は行っていない。

エ 映像データを長期保存する上で、セキュリティ上で工夫していることがありますたら教えて下さい。

外付け HDD にパスワードをかけて保存し、鍵のかかるロッカーに保管している。また、保存・管理に関しては特定の職員のみに行わせている。

オ 映像データを長期保存する上で、受講者の過去の映像を検索するために工夫していることがありますたら教えて下さい。

講習日、時間帯ごとにフォルダを分けて保存している。

カ 受講者に映像を見せる時に便利なアプリケーション等を使用していますか。使用している場合はアプリケーション名と利点などを教えて下さい。

ドラレコに付属している専用ビューアー (Eagle View) を使用している。

車内・車外の映像が映せるので、問題のあった運転行動について車の動きだけでなく、受講者本人の動き、視線等についても確認できる。

キ 受講者に映像を見せる時に工夫していることがありますたら教えて下さい。

問題のあった箇所を重点に見せ、また実際の事故事例をもとにどのような事故につながるかを説明している。

ク 映像データ活用のために工夫していることがありますたら教えて下さい。

現時点では、高齢者講習以外の目的で使用することではなく、個人情報の観

点から他の目的で使用することは考えていない。

ヶ 映像データの取り扱いについて困っていることがありましたら教えて下さい。

講習のたびに S D カードの抜き差しを行っているため手間がかかり、保存のための外付け HDD のコストもかかる。

コ ドラレコ映像データを使用した教育についての自由意見があれば教えて下さい。

高齢者講習に限らず、企業等の研修においてドラレコの映像を使用することは、運転行動について実際に見せながら説明ができ理解されやすいと思われるが、個人情報になるため、その時しか使用できないのが現状である。

第4節 まとめ

1 アンケート結果

(1) 回答者及び教習所について

回答者は、高齢者講習の指導経験年数5年以上の者が全体の81.5%であった。

回答の得られた教習所数は、関東165か所、中部155か所、東北102か所、近畿100か所、九州・沖縄97か所、北海道61か所、中国54か所、四国39か所の合計777か所であった。

(2) 高齢者講習で使用しているドライブレコーダーについて

ア 映像撮影機材等

セルスター製品を使用している教習所が最も多く、次いでユピテル製品を使用している教習所が多かった。また、ドラレコ以外のアクションカムやタブレット端末を使用して映像を撮影している教習所もあった。

イ 撮影箇所

「前方」と回答した教習所が最も多く(98.3%)、次いで、「運転者の顔」と回答した教習所が多かった(73.4%)。

複数カメラで複数箇所を撮影する教習所では、「前方」と「運転者の顔」の組合せが最も多かった(64.1%)。

ウ GPSを利用して走行位置を地図上に表示する機能の有無

GPSを利用した走行位置表示機能の有無について、「ない」と回答した教習所が全体の69.8%であった。

(3) 高齢者講習で撮影したドラレコ映像データの現在の保管環境について

「ドラレコの記録メディア(SDカード等)をそのまま保管している」が最も多かった(35.6%)。上位4つの回答は、ネットワークと接続せずに保管する方法であった。その他回答で「講習後に削除」(保管していない)と回答した教習所が164か所であった。

(4) 高齢者講習で撮影したドラレコ映像データの保管期間の今後の方針について

保管期間については、「個人指導を実施した後、1年内に廃棄する予定である。」が最も多かった(42.9%)。

また、より長期間の保管を実施しない理由については、「個人情報保護のため」が最も多く(20.3%)、次いで「データが大きいため(映像データ容量、実施人数)」が多かった(14.3%)。

(5) (4) の方針に従い高齢者講習のドラレコ映像データを保管することを想定した場合、今後どのような環境で保管することが適切と考えるか。

「現在の保管環境」、「今後の適切と思われる保管環境」共に、上位 4 つの回答は、ネットワークと接続せずに保管する方法であった。上位 4 つの回答の合計は「現在の保管環境」よりも「今後の適切と思われる保管環境」の方が多かった。

一方、「現在の保管環境」においては、大容量の保存媒体である「所内のサーバー・共有フォルダ」「外部のサーバー・クラウドデータベース」等のネットワーク接続が必要な保存方法の合計が 1 % であるが、「今後の適切と思われる保管環境」では、9.8% に増加していた。

(6) 現在実施している個人指導における高齢者講習のドラレコ映像の使い方にについて

個人指導で使用する走行場面は、「一時停止標識のある交差点」が最も多く(88.2%)、次いで「信号機のある交差点」が多かった(58.2%)。

(7) 高齢者講習のドラレコ映像の再利用について

撮影したドラレコ映像を、CD-R・DVD-R や USB メモリーにコピーするなどして、受講者本人やその家族に渡しているかという問いには、「渡していない」と回答した教習所が最も多かった(98.8%)。また、「希望者のみに渡している」と回答した教習所が 2 か所あった(0.3%)。ドラレコ映像を、受講日当日に行われる実車走行後の個人指導以外に利用する予定はあるかという問いに「ある」と回答した教習所が 10 か所あった(1.3%)。利用内容は、教習所職員の研修等に活用する予定である。」が最も多く(70.0%)、次いで「有効な個人指導のあり方を検討する際の資料として活用する予定である。」が多かった(60.0%)。また、個人指導以外での利用を行う際の工夫等について問うたところ、「受講者本人の走行と職員の模範走行を見比べ、問題点を理解してもらう。」等の取り組みを行っている教習所があった。

個人指導以外での利用予定に関連して、高齢者講習のドラレコ映像データの保管のため今後どのような環境を整備することが適切と考えるかという問いには、「外部記憶媒体 (DVD, Blu-ray, 外付けハードディスクなど) ※ドラレコ記録メディアは含まない」が最も多く(4 か所)、次いで「ネットワークに繋げない、ほかの用途に用いない専用のパソコン」が多かった。理由としては、個人情報を保護する目的を挙げる教習所が多かった。

(8) 高齢者講習のドラレコ映像データが 今後よりよく活用されるためにどのような問題点を改善したら良いか

「指導のために、記録メディアを本体から抜き差しすることが大変である。」が最も多く（43.8%）、次いで、「顔が映っているなど、プライバシーにかかわるデータなので取扱いに気を遣う。」が多かった（40.4%）。

2 ヒアリング結果

（1）ドラレコ等タイプ別のヒアリング

指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査で協力が得られた教習所の中から、一般的なドライブレコーダー（セルスター CSD-390HD）、アクションカム（Sony HDR-AS50）、タブレット（NEC PC-TE510BAL LAVIE TabE）を使用している教習所に対しヒアリングを行った。

一般的なドライブレコーダーを使用している教習所では、ルームミラー後ろのフロントガラスに設置することで、車外前方と車内の映像を撮影していた。

アクションカム、タブレットを使用している教習所では、助手席のヘッドレストにカメラやタブレットを固定する治具を取り付けていた。カメラが1つのため、受講者の後方から安全確認行動やハンドル、前方の標識や標示が映るように画角を調整する等の回答があった。

カメラ設置に関して特に注意している点や工夫している点として、アクションカムを使用している教習所では、運転者の目線で映るようにしているとの回答があった。また、タブレットを使用している教習所ではハンドル操作が映るように画角を調整し、さらにルームミラーに顔が映るようにする等の回答があった。（座高の関係で映らない場合もある。）

映像を視聴する際には、

- ・ SDカードに映像が保存されるので、SDカードをドラレコから抜き、映像再生用のパソコンにSDカードを挿す必要がある。
- ・ 本体（HDR-AS50）を教習車から取り外し、パソコンとUSBケーブルで繋ぎ、データをパソコンに移動して視聴している。
- ・ 映像データはタブレット本体のメモリーに記録される。撮影後、タブレットを教習車から取り外し教室に持ち込む。タブレットの動画再生アプリで視聴するため、データの移動を行う必要はない。

との回答があった。

アンケート結果で、「高齢者講習のドラレコ映像データが 今後よりよく活用されるためにどのような問題点を改善したら良いか」という問い合わせに対し、「指導のために、記録メディアを本体から抜き差しすることが大変である。」といった回答が最も多かったが、アクションカムの場合、アクションカム本体を車体の固定治具から取り外し、PCとUSBケーブルで接続することができる。タブレットの場合は、タブレット本体を車体の固定治具から取り外し、タブレット本体

のみで映像を視聴できる。

映像データを管理する上で、データ容量節約のために実施していることとして、一般的なドライブレコーダーを使用している教習所では、第1分類と第2分類のみ保管しているとの意見があった。また、同教習所ではセキュリティ対策として映像データを1ヶ月単位でBlu-ray Discに保存し、保管箱で保管する等の工夫がされていた。

映像データの取扱で困っていることとしては、アクションカムを使用している教習所で、当初は保存を予定していたが、データ量が大きく保存が困難になり消去しているとの意見があった。

(2) 長期保存している教習所へのヒアリング

ドラレコ映像の保管を最長5年の予定で実施している教習所に対しヒアリングを行った。

映像データを長期保存するために使用している記録媒体は、外付けHDD(Hard disk drive)で、映像データの圧縮等は行わず、1年毎にHDDを交換していると回答があった。

長期保存する上でのセキュリティ上で工夫している内容としては、外付けHDDにパスワードをかけて保存し、鍵のかかるロッカーで保管する。保存や管理は特定の職員のみに行わせている等の工夫がされていた。

映像データの取扱で困っていることとしては、講習のたびにSDカードの抜き差しを行っているため手間がかかること、保存のためのHDDのコストがかかることが挙げられていた。

3 ドラレコ等で撮影した映像の運用にあたっての問題点

(1) 撮影機材面

一般的なドラレコ、アクションカム、タブレット等、多様な撮影機材が使用されている。カメラ設置の自由度は、レンズの角度調整が可能か、吸盤の有無等々、機材によって異なるため、機材ごとに必要な映像（車外前方や受講者の安全確認行動等）が撮影できる最適な設置場所を検討する必要がある。

(2) 映像データの容量

映像データを長期間保管するためには大容量ストレージ（外付けHDDやサーバー等）が必要となる。多くの教習所が映像データを個人指導実施後1年以内に削除していると回答した。

(3) 保管費用

ストレージの保管場所の確保、ストレージ代金、保管作業のための人員費等。

(4) セキュリティ

ストレージの保管場所が所内の場合は、施錠できるロッカー等を使用する必

要があると考えられる。外部サーバーの使用については情報セキュリティ上望ましくないが、利用者への新たなサービス提供のため利用せざるを得ない場合は、個人情報保護法に従い、個人データの漏えいまたは、情報漏えいに備えて、個人の特定が可能にならないよう映像中の顔等の部分に予めモザイク処理を施しておく等の措置が必要と考えられる。その他、映像ファイル名を氏名等の個人を特定できるものにしないことや、映像ファイルと管理用ファイル（映像ファイルと受講者の対応表）を同じ場所に保管しない等も必要と考えられる。

第4章 3群分類別の一時停止場所における安全確認行動

第1節 目的

第2章「認知機能検査受検者のその後の事故・違反」から、基準行為及び携帯電話保持の中で、指定場所一時不停止の構成比率は認知機能検査受検後3年間のいずれの期間においても最も高い事が明らかになった。また、第3章「指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査」で、個人指導における高齢者講習のドラレコ映像の使い方で、最もよく使用する走行場面として、一時停止標識のある交差点が最も多いことが明らかになった。こうした結果から本調査では、一時停止標識のある交差点における安全確認行動について着目し、指導員の指導のタイミングや指導内容の分析を行い、3群分類別の効果的な指導方法（案）作成のための検討を行うこととした。

第2節 調査方法及び調査結果

1 調査対象サンプルの抽出

都市部の指定自動車教習所（武蔵境自動車教習所）で収集した高齢者講習受講者150人と地方部の指定自動車教習所（蒲郡自動車学校）で収集した高齢者講習受講者184人、合計334人のデータを収集した。334人中1人が辞退を申し出たため、対象者のデータを削除し、分析の対象から除外した。よって、サンプルは333人の中から30人を抽出した。認知機能検査結果の分類で、各群のサンプル数がなるべく均等になることを目標とした。ただし、第1分類は全数でも3人であったため、それ以外の分類において補填した。抽出結果は表23のとおり、第1分類3人、第2分類13人、第3分類14人となった。第2分類は都市部のサンプル数が少なかったため、地方部の教習所から余分に採用した。その結果として、都市部の教習所サンプルは合計で11人、地方部の教習所のサンプルは19人と地域に若干の偏りがある。なお、サンプルの抽出は、3群分類の構成比率以外に、運転行動診断票を確認し、成績の悪い例（重点指導項目※のチェックが多い例）や、成績の良い模範例、指導により改善のあった例、改善がなかった例、特徴的な例等についても事例的に抽出した。

なお、高齢者講習の受講者は、認知機能検査の結果が第1分類であっても、医師により認知症ではないと診断された者である。

＜表23 抽出サンプルの構成＞

地域	年齢	第1分類	第2分類	第3分類	計	
都市部	75歳未満	0人	0人	1人	1人	11人
	75歳以上80歳未満	1人	1人	3人	5人	
	80歳以上	0人	3人	2人	5人	
地方部	75歳未満	0人	0人	0人	0人	19人
	75歳以上80歳未満	1人	5人	5人	11人	
	80歳以上	1人	4人	3人	8人	
計		3人	13人	14人	30人	30人

※ 重点指導項目について

「高齢者講習における実車指導要領」(警察庁)に記載されている運転行動診断票の様式には、重要指導項目が設定されている。重要指導項目が達成できない場合課題失敗となり、指導時に指導員が特に重要視しているため、重要指導項目未達成の者を優先して抽出する。指導要領に記載されている運転行動診断票様式と、本調査研究で使用する運転行動診断票(案)は項目の表記が異なるため、表24のとおり読み替えた。

＜表24 警察庁から通達されている運転行動診断票内の重点指導項目と、本調査研究で使用した運転行動診断票内の項目の対応＞

警察庁から通達されている様式		本調査研究様式	
課題	項目（重点指導項目）	課題	項目
方向変換	・全項目（細目なし）	方向変換	・全項目
見通しの悪い交差点	・全項目（細目なし）	見通しの悪い交差点	・全項目
信号機のある交差点	・信号の確認 ・信号に従った運転	信号交差点	・見落とし ・信号無視（赤色・黄色） ・他社妨害 ・補助ブレーキの使用 ・合図なし
一時停止標識のある交差点	・一時停止標識の確認 ・確実な停止 ・交差道路の安全確認	一時停止交差点	・標識見落とし ・一時不停止 ・安全確認なし
進路変更	・合図の有無 ・安全確認	進路変更	合図なし 安全確認なし
カーブ走行	・曲がり具合に応じた速度 ・ふらつきのない運転	カーブ走行	・高速度 ・カーブ内でブレーキ ・蛇行 ・車線はみ出し ・脱輪

2 発話内容の文字起こし

(1) 目的

指導員と受講者の会話内容を、その後の分析に利用するためにテキストデータ化した。

(2) 調査方法

ア サンプル

「1 調査対象サンプルの抽出」で抽出した 30 サンプルを対象とした。

イ 文字起こしの手順

下記項目を時系列に沿って整理した。

- ① 整理番号 (受講者ごとに割り当てたユニークな数字)
- ② 認知機能検査結果の分類 (第1分類、第2分類、第3分類)
- ③ 重点指導項目チェック数
- ④ その他指導項目チェック数
- ⑤ 指導員 (30 サンプルの指導を行った指導員は 11 人であった。指導員の区別ができるように指導員をアルファベット A~K で分類した。)
- ⑥ 発話番号 (発言ごとに 1 から始まる連番を割り当てる。)
- ⑦ 動画時間 (発言のあった動画の再生時間。)
- ⑧ 発話者 (指導員、受講者、同乗者 (後部座席に同乗している者))
- ※ 発話内容に受講者の名前が出てきた場合は「○○」と表記。
- ※ 発話内容に受講者以外の人名が出てきた場合は「△△」と表記。
- ※ 発話内容が判別できない場合は、「???」と表記。
- ⑨ 一時停止標識付近の発言がある場合は※印を付ける。

整理番号 146	認知機能検査結果の分類		第2分類		○○: 受講者の名前 △△: 受講者以外の人名 ???: 判別不能な音声。	指導員 H
	年齢 80歳以上	性別 男性	重点指導項目チェック数 2	その他指導項目チェック数 0		
001	00	00	指導員	はい。		
002	00	02	受講生	行きます。		
003	00	03	指導員	じゃ、こちらね。外周ね、そのまま行きましょう。		
004	00	06	受講生	はい。		
005	00	22	指導員	はい、右車線変更。		
006	00	38	指導員	で、11番入りますよ。		
007	00	39	受講生	11番。		
008	00	42	指導員	ここね。		
009	00	44	指導員	もうちょっとゆっくり。もうちょっとゆっくり。危ない。		
010	00	47	指導員	あ、ぶつかる、ぶつかる。もっと回して。	右折時ハンドルを回しきれ ず、左車輪が縁石に乗り上げ そうになる。	
011	00	50	指導員	もっと回して。		
012	00	54	指導員	もうちょっとゆっくり走ってね。		

<図 55 発話内容の文字起こし (例) >

3 一時停止標識前後における安全確認行動の分析

(1) 目的

指導員の指導により一時停止標識前後における受講者の安全確認行動（首振りの回数）がどの程度改善するかを確認し、改善につながったと思われる指導員の指導方法等を認知機能検査結果の分類別に整理することを目的とした。

(2) 調査方法

ア サンプル

「1 調査対象サンプルの抽出」で抽出した 30 サンプルを対象とした。

イ 映像の分析

ア 定義等

(i) 一時停止すべき位置

一時停止すべきおおよその位置（映像上の風景）を第3分類で運転行動診断票中の一時停止項目にチェックがない者の映像から割り出した。

(ii) 停止線通過前

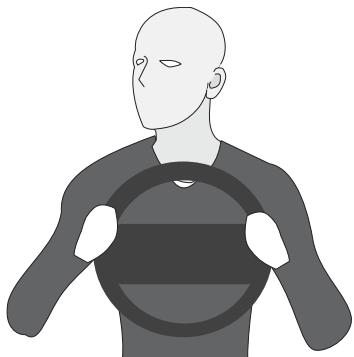
停止線で停止する 4 秒前から停止線前で停止するまで。（時速 10km で走行すると 1 秒間に約 2.8m 進み、4 秒走行すると約 11.1m 進む。）ただし、受講者が一時停止しなかった場合は、(i) の位置を通過する 4 秒前から (i) の位置までとした。

(iii) 停止線通過中

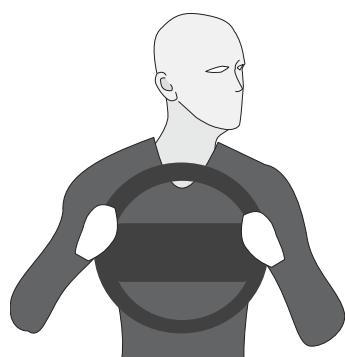
停止線手前で停止した後、再発進し、右左折のために曲がる方向へ首の角度を固定する直前までとした。ただし、受講者が一時停止しなかった場合は、(i) の位置を通過後から右左折のために曲がる方向へ首の角度を固定する直前までとした。

(iv) 首振りによる安全確認

安全確認のための首振り（以下「首振り」という。）の方向（左右）は、受講者を基準とした。首を振りドアウィンド越しに安全確認を行っている場合のみカウントし、目線のみでの確認はカウントしなかった。一時停止後に右左折する場合、右左折しながら進行方向へ首を向ける動きはカウントしなかった。



<図 56 右方向への首振り>



<図 57 左方向への首振り>

b 手順

下記手順に従い、一時停止標識前後における安全確認行動を記録した。

- ① 「一時停止すべき位置」を特定する。
- ② 映像中の「停止線通過前」について、首振りによる安全確認の順番と回数を左右別に記録する。
- ③ 一時不停止の場合は動画上の停止線通過時間、一時停止した場合はその時間を記録する。
- ④ 映像中の「停止線通過中」について、首振りによる安全確認の順番と回数を左右別に記録する。
- ⑤ 2段階停止の有無を記録する。

ウ 安全確認行動の分析

①一時停止標識前後の安全確認行動の改善具合（確認のタイミングや確認回数の変化）、②指導のタイミング（一時不停止直後、発着所に戻った後、一時停止標識の直前）、③指導内容について、「2 発話内容の文字起こし」のデータ等を整理した。

整理番号 168		認知機能検査結果の分類			第1分類	○○：受講者の名前	△△：受講者以外の人名	???：判別不能な音声。	指導員 D																																
		年齢 80歳以上	性別 男性																																						
		重点指導項目チェック数 2	その他指導項目チェック数 3																																						
は、受講者の安全確認行動。																																									
1 回 目	一時停止 1 (停止線通過時間 4:06, チェック開始時間 4:02) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">安全確認行動</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">タイミング</th> <th colspan="2">動画時間</th> <th rowspan="2">位置</th> <th rowspan="2">首振り方向</th> </tr> <tr> <th>分</th> <th>秒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">回数</td> <td>位置</td> <td>右</td> <td>左</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>-時停止線通過前</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>-時停止線通過後</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>					安全確認行動				タイミング	動画時間		位置	首振り方向	分	秒	-	-	-	-	回数	位置	右	左	計	-時停止線通過前	0	0	0	-時停止線通過後	0	0	0	計	0	0	0	備考 <input type="radio"/> 2段階停止なし <input type="radio"/> 一時停止線ではしっかりと止ましたが、安全確認のないまま合流。			
	安全確認行動																																								
タイミング	動画時間		位置	首振り方向																																					
	分	秒																																							
-	-	-	-																																						
回数	位置	右	左	計																																					
	-時停止線通過前	0	0	0																																					
	-時停止線通過後	0	0	0																																					
計	0	0	0																																						
指導のタイミング： 一時停止し、安全確認せずに発車した後、走行中の車内で実施。																																									
2 回 目	発話 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">番号</th> <th colspan="2">動画時間</th> <th rowspan="2">発話者</th> <th rowspan="2">発話内容</th> </tr> <tr> <th>分</th> <th>秒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>048</td> <td>04</td> <td>16</td> <td>指導員</td> <td>○○さん、今後ろの確認ってちゃんとやってくれました？</td> </tr> <tr> <td>049</td> <td>04</td> <td>19</td> <td>受講者</td> <td>ああ。</td> </tr> <tr> <td>050</td> <td>04</td> <td>20</td> <td>指導員</td> <td>うん。確認してくださいよ。</td> </tr> </tbody> </table>					番号	動画時間		発話者	発話内容	分	秒	048	04	16	指導員	○○さん、今後ろの確認ってちゃんとやってくれました？	049	04	19	受講者	ああ。	050	04	20	指導員	うん。確認してくださいよ。	備考 <input type="radio"/> 2段階停止なし <input type="radio"/> 左方向への確認は目線のみでも実施していない。													
	番号	動画時間		発話者	発話内容																																				
		分	秒																																						
	048	04	16	指導員	○○さん、今後ろの確認ってちゃんとやってくれました？																																				
049	04	19	受講者	ああ。																																					
050	04	20	指導員	うん。確認してくださいよ。																																					
成 功																																									

<図 58 指導員の指導と安全確認行動の変化（例）>

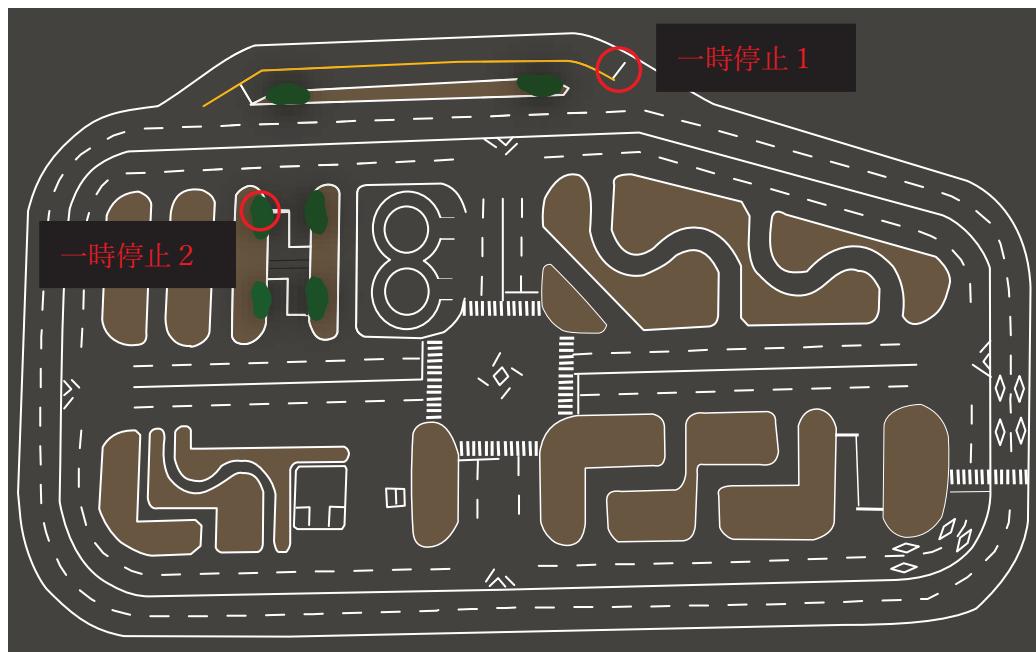
(4) 一時停止標識周辺の様子

ア 蒲郡自動車学校

蒲郡自動車学校の高齢者講習における実車走行コース上の一時停止標識は、坂道から外周優先道路への合流地点（一時停止 1）、見通しの悪い交差点（一時停止 2）に設置されていた。一時停止 1、一時停止 2 いずれも丁字路であった。

	写真	特徴
一時停止 1		<ul style="list-style-type: none"> 外周路との合流地点。 標識直前は下りの坂道。
一時停止 2		<ul style="list-style-type: none"> 見通しの悪い交差点。 標識直前は踏切あり。

<図 59 一時停止（蒲郡自動車学校コース概略図）>



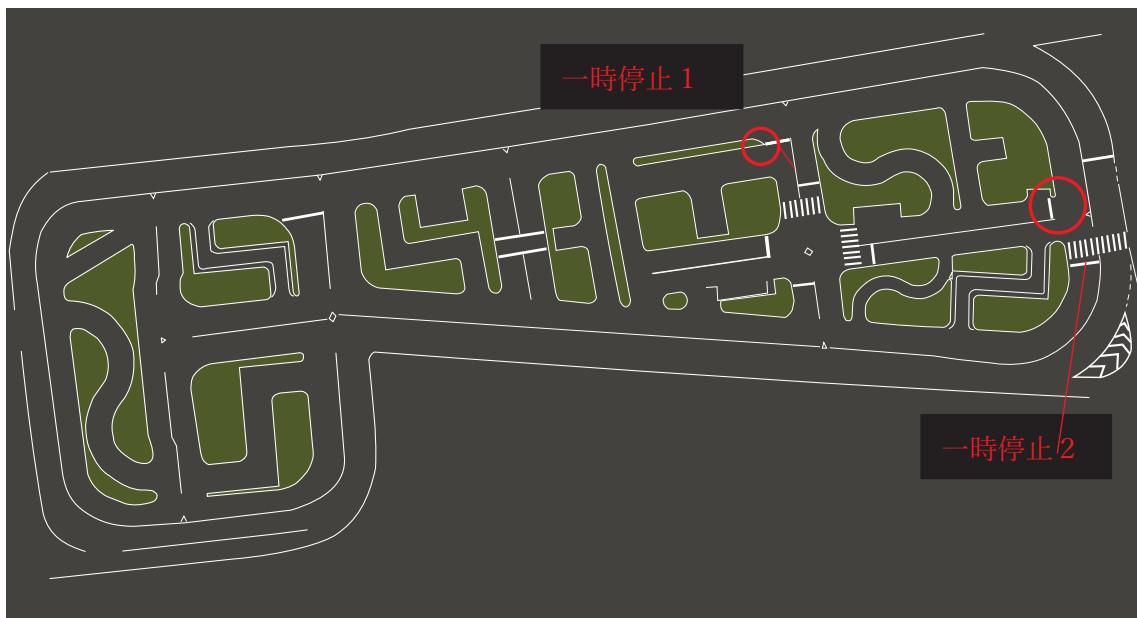
<図 60 蒲郡自動車学校コース概略図>

イ 武藏境自動車教習所

武藏境自動車教習所の高齢者講習における実車走行コース上の一時停止標識は、外周への合流地点（一時停止 1、一時停止 2）に設置され、左折をしてコース外周へ合流していた。一時停止 1、一時停止 2 いずれも丁字路であった。

	写真	特徴
一時停止 1		<ul style="list-style-type: none"> 外周路との合流地点。 標識直前は信号のある交差点。 受講者へはコースの混雑状況により右左折を指示。
一時停止 2		<ul style="list-style-type: none"> 左折直後に標識。 受講者へはコースの混雑状況により右左折を指示。

<図 61 一時停止（武藏境自動車教習所）>



<図 62 武藏境自動車教習所コース概略図>

(5) 結果

ア 一時停止標識前後における安全確認行動の分析

a 指導のタイミング

今回のサンプルデータから、一時停止に関する指導のタイミングを以下の8通りに分類した。

- ・ 発着所（実車指導の前半と後半の間に一度停車する。）
- ・ 一時停止標識前（標識が確認できない位置）
- ・ 一時停止標識前（標識が確認できる位置）
- ・ 一時不停止直後（停止線を越えて停車した直後）
- ・ 一時不停止直後（停止線を停止せずに越えた直後）
※ 危険な場合は、指導員の補助ブレーキにより停止。
- ・ 一時不停止後（一時停止場所から離れた位置）
※ 走行中や右折待ち等の時間を利用して実施
- ・ 一時不停止後（最後の一時停止以降。）
※ この指導タイミング以降一時停止標識の前を通過しなかった為、指導は行ったが一時停止の成否に影響していない。総括を含む。
- ・ 一時停止成功時

b 指導の内容

以下に、指導のタイミング別の指導内容を列挙する。表25「一時停止に関する指導タイミング別指導内容別の指導回数」中の数字は指導を受けた回数である。同じ受講者が複数回同じ指導を受けた場合は回数分計上した。

①発着所

- ・ 一時停止標識を見落としてなかったか確認。

②一時停止標識前（標識が確認できない位置）

- ・ 一時停止標識を認識させる。
- ・ 一時停止場所では一時停止しなくてはいけないことを指摘。
- ・ しっかり安全確認するように指示。

③一時停止標識前（標識が確認できる位置）

- ・ 一時停止標識の意味を問う。※5回あるが同一人物（第1分類）。
- ・ 一時停止標識を認識させる。
- ・ 一時停止標識や停止線を認識させ、しっかり止まるよう指示。
- ・ 一時停止標識や停止線を認識させ、しっかり安全確認するように指

示。

- ・ 一時停止標識を見落としてなかつたか確認。

④一時不停止直後（停止線を越えて停車した直後）

- ・ 停止線を越えて停車したことを口頭で指摘。
- ・ 停止線を越えて停車したことを助手席のドアを開けるなどして受講者に確認させる。
- ・ 停止線の手前で止まらなくてはいけないと指導。

⑤一時不停止直後（停止線を停止せずに越えた直後）

- ・ 一時停止場所であること伝える。
- ・ 停止線で完全に止まっていない事を指摘。
- ・ 一時停止場所では一時停止しなくてはいけないことを指摘。
- ・ 「気を点けましょう」等、具体的な指摘事項なし。

⑥一時不停止後、一時停止場所から離れた位置。

- ・ 停止線で完全に止まっていない事を指摘。
- ・ 一時停止標識を見落としてなかつたか確認。
- ・ 一時停止場所では一時停止しなくてはいけないことを指摘。
- ・ 安全確認をしつかりするよう指示。

⑦一時不停止後、最後の一時停止以降。

- ・ 一時停止場所では一時停止しなくてはいけないことを指摘。

⑧一時停止成功時

- ・ 成功したことを伝える。

＜表 25 一時停止に関する指導タイミング別指導内容別の指導回数＞

3群分類	①発着所	②一時停止標識前（標識が確認できない位置）		③一時停止標識前（標識が確認できる位置）					
		一時停止標識を見落としてなかつたか確認。	一時停止場所では一時停止しなくてはいけないことを指摘。	一時停止標識や停止線を認識させるように指示。	一時停止標識や停止線を認識させ、しっかりと止まるよう指示。	一時停止標識や停止線を認識させ、しっかりと安全確認するよう指示。	一時停止標識を見落としてなかつたか確認。	一時停止標識の意味を問う。	一時停止標識を認識させる。
第1分類	1回	-	-	-	-	-	1回	5回	1回
第2分類	-	-	1回	1回	2回	1回	-	-	-
第3分類	-	1回	-	1回	-	-	-	-	2回
計	1回	1回	1回	2回	2回	1回	1回	5回	3回

3群分類	④一時不停止直後（停止線を越えて停車した直後）			⑤一時不停止直後（停止線を停止せずに越えた直後）			
	停止線を越えて停車したことを口頭で指摘。	停止線を越えて停車したことを助手席のドアを開けるなどして受講者に確認させる。	停止線の手前で止まらなくてはいけないと指導。	一時停止場所であること伝える。	停止線で完全に止まっていない事を指摘。	一時停止場所では一時停止しなくてはいけないことを指摘。	「気を点けましょう」等、具体的な指摘事項なし。
第1分類	-	-	-	-	1回	-	-
第2分類	5回	1回	1回	4回	-	1回	1回
第3分類	-	-	-	3回	3回	2回	-
計	5回	1回	1回	7回	4回	3回	1回

3群分類	⑥一時不停止後、一時停止場所から離れた位置。				⑦一時不停止後、最後の一時停止以降。	⑧一時停止成功時
	安全確認をしつかりするよう指示。	一時停止標識を見落としてなかつたか確認。	一時停止場所では一時停止しなくてはいけないことを指摘。	停止線で完全に止まっていない事を指摘。		
第1分類	2回	1回	-	2回	-	-
第2分類	-	1回	1回	2回	1回	2回
第3分類	-	3回	3回	4回	2回	-
計	2回	5回	4回	8回	3回	2回

※ 同じ受講者が複数回同じ指導を受けた場合は回数分計上した。

※ 指導が行われなかった組み合わせには表中にハイフン（-）を記入した。

イ 指導内容と一時停止の成否

指導内容別の一時停止の成否を表 26 に示す。表中の人数は、当該指導を受けた者の内、最終的に一時停止を成功した人数である。表中で、当該指導を受けた者の中に課題成功者がいない場合は、0 人と表記した。

なお、指導が 1 度も行われなかつた組み合わせにはハイフン (-) と表記した。

○ 第 1 分類

- ・ 一時停止成功した者に対して行われた指導内容で突出した項目はなかつた。
- ・ 一時停止標識の見落としについての確認や、一時停止標識の意味を確認する指導は、今回の調査においては 1 回しか指導を実施しなかつた者（再び同じ指導を実施していない者）を含め効果が確認できなかつた。

○ 第 2 分類

- ・ 「一時不停止直後（停止線を超えて停車した直後）」に、「停止線を越えて停車した事を口頭で指摘」を行つた者（5 人）の内、5 人が最終的に一時停止に成功し、効果が確認された。
- ・ 「一時不停止後、一時停止場所から離れた位置」で行われた「一時停止標識の見落としの確認」は今回の調査においては 1 回しか指導を実施しなかつた者（再び同じ指導を実施していない者）を含め効果が確認できなかつた。

○ 第 3 分類

- ・ 「一時不停止直後（停止せずに停止線を超えた直後）」に、停止線で完全に止まつていない事を指摘された者（3 人）の内 3 人が最終的に一時停止に成功し、効果が確認された。また、「一時不停止後、一時停止場所から離れた位置」で、停止線で完全に止まつていない事を指摘された者（3 人）の内 3 人が最終的に一時停止に成功し、効果が確認された。
- ・ 「一時不停止後、一時停止場所から離れた位置」で行われた「一時停止標識の見落としの確認」や、「一時不停止直後（停止せずに停止線を超えた直後）」に行った「一時停止場所では一時停止しなくてはいけないことを指摘」については、今回の調査においては 1 回しか指導を実施しなかつた者（再び同じ指導を実施していない者）を含め効果が確認できなかつた。

＜表 26 一時停止に関する当該指導受けた課題成功人数＞

3群分類	①発着所	②一時停止標識前（標識が確認できない位置）			③一時停止標識前（標識が確認できる位置）				
		一時停止標識を見落としてなかつたか確認。	一時停止場所で一時停止しなくてはいけないことを指摘。	しっかり安全確認するように指示。	一時停止標識を認識させる。	一時停止標識や停止線を認識させ、しっかりと止まるよう指示。	一時停止標識や停止線を認識させ、しっかりと安全確認するよう指示。	一時停止標識を見落としてなかつたか確認。	一時停止標識の意味を問う。
第1分類	0人	-	-	-	-	-	0人	0人	1人
第2分類	-	-	1人	1人	2人	1人	-	-	-
第3分類	-	1人	-	1人	-	-	-	-	1人
計	0人	1人	1人	2人	2人	1人	0人	0人	2人

3群分類	④一時不停止直後（停止線を越えて停車した直後）			⑤一時不停止直後（停止線を停止せずに越えた直後）			
	停止線を越えて停車したことを見落として指摘。	停止線を越えて停車したことを助手席のドアを開けるなどして受講者に確認させる。	停止線の手前で止まらなくてはいけないと指導。	一時停止場所であること伝える。	停止線で完全に止まっていない事を指摘。	一時停止場所で一時停止しなくてはいけないことを指摘。	「気を点けましょう」等、具体的な指摘事項なし。
第1分類	-	-	-	-	1人	-	-
第2分類	5人	1人	1人	2人	-	1人	1人
第3分類	-	-	-	1人	3人	0人	-
計	5人	1人	1人	3人	4人	1人	1人

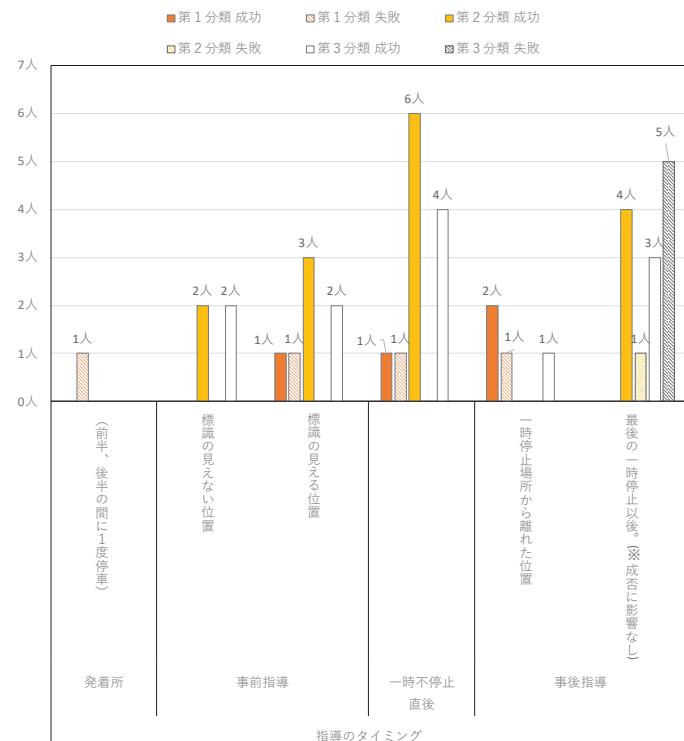
3群分類	⑥一時不停止後、一時停止場所から離れた位置。				⑦一時不停止後、最後の一時停止以降。	⑧一時停止成功時
	安全確認をしつかりするよう指示。	一時停止標識を見落としてなかつたか確認。	一時停止場所で一時停止しなくてはいけないことを指摘。	停止線で完全に止まっていない事を指摘。	一時停止場所で一時停止しなくてはいけないことを指摘。	成功したことを伝える。
第1分類	1人	0人	-	1人	-	-
第2分類	-	0人	1人	1人	1人	2人
第3分類	-	0人	1人	3人	1人	-
計	1人	0人	2人	5人	2人	2人

- ※ 当該指導を受けた者の中に課題成功者がいなかった場合、そのマスを青色に着色した。
- ※ 3群分類別に課題成功者が最も多かった指導について、そのマスを緑色に着色した。
- ※ 指導が行われなかった組み合わせには表中にハイフン (-) を記入した。

ウ 指導のタイミングと一時停止の成否

- 第1分類で指導後に課題に成功した者の中、2人が事後指導（一時停止場所から離れた位置での指導）を受けていた。
- 第2分類で指導後に課題に成功した者の中、6人が一時不停止直後に指導を受けていた。
- 第3分類で指導後に課題に成功した者の中、4人が一時不停止直後に指導を受けていた。

※ 一時不停止直後は、「停止線を越えて停車した直後」と「停止線を停止せずに越えた直後」の両タイミングを含む。

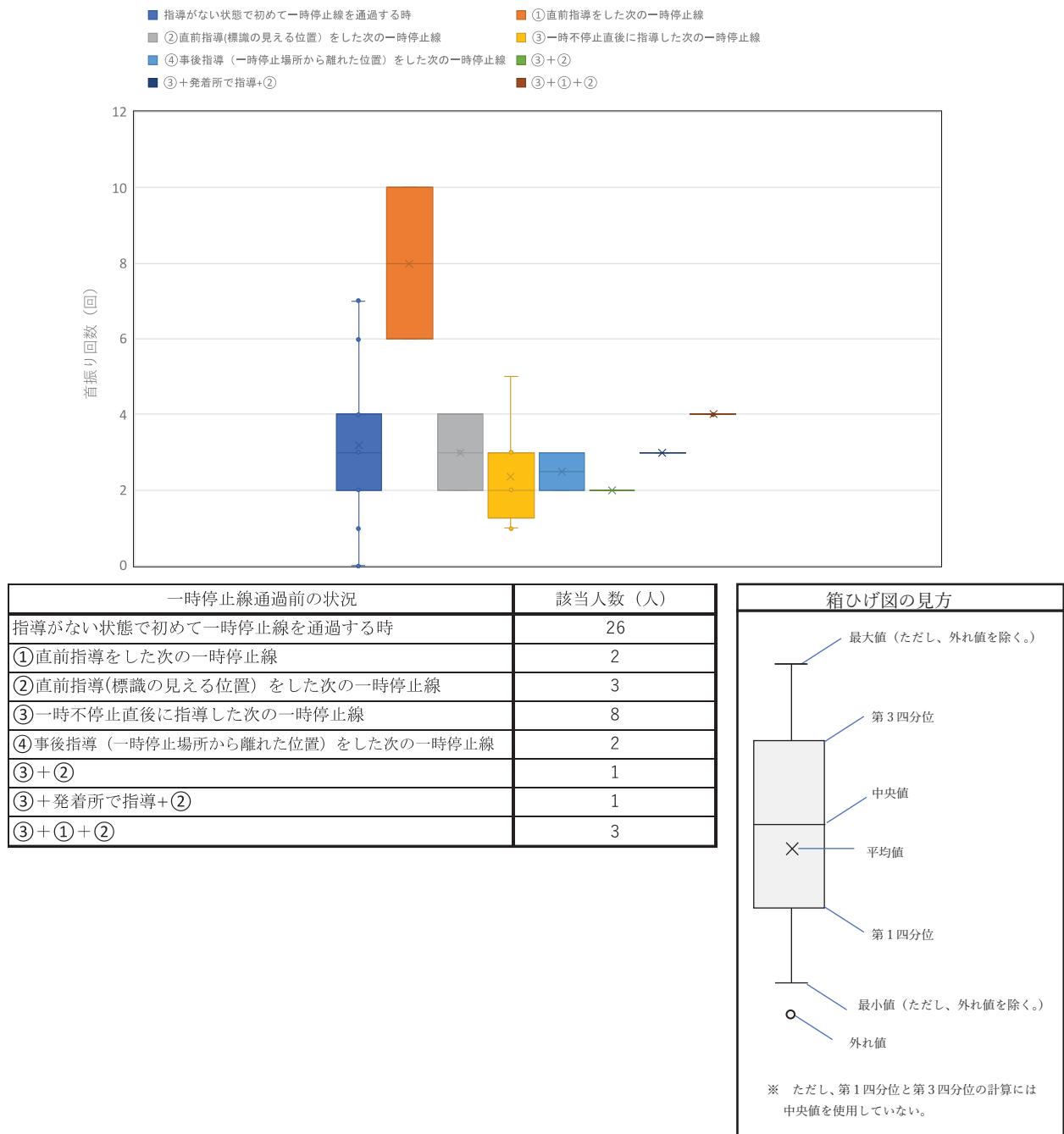


3群分類	一時停止 成否	指導のタイミング						計	
		発着所	事前指導		一時停止 直後	事後指導			
			(前半、後半の間に1度停車)	標識の見えない位置		-	-		
第1分類	成功	-	-	1人	1人	2人	-	4人	
	失敗	1人	-	1人	1人	1人	-	4人	
第2分類	成功	-	2人	3人	6人	-	4人	15人	
	失敗	-	-	-	-	-	1人	1人	
第3分類	成功	-	2人	2人	4人	1人	3人	12人	
	失敗	-	-	-	-	-	5人	5人	
計		1人	4人	7人	12人	4人	13人	41人	

<図 63 指導のタイミングと一時停止の成否>

エ 指導のタイミングと安全確認のための首振り回数

一時停止に関する指導のタイミングと、その指導後の一時停止線における首振り回数の関係を図 64 の箱ひげ図に示す。1 度も指導がない状態での一時停止交差点における首振り状況と、「①直前指導をした次の一時停止線」を除くその他の指導タイミングでの首振り回数の中央値に大きな差はない。「①直前指導をした次の一時停止線」は、安全確認のための首振り回数が他のタイミングと比較して多かった。



<図 64 指導のタイミングと安全確認のための首振り回数>

4 ドラレコ映像の加工

(1) 目的

ドラレコ映像の教育目的での再利用を想定し、プライバシー保護のため受講者の顔にモザイク処理を施す手順や処理時間等の整理を行い、教習所が実施する場合の問題点を確認する。

(2) 調査方法

ア サンプル

「1 調査対象サンプルの抽出」で抽出した 30 サンプルを対象とした。

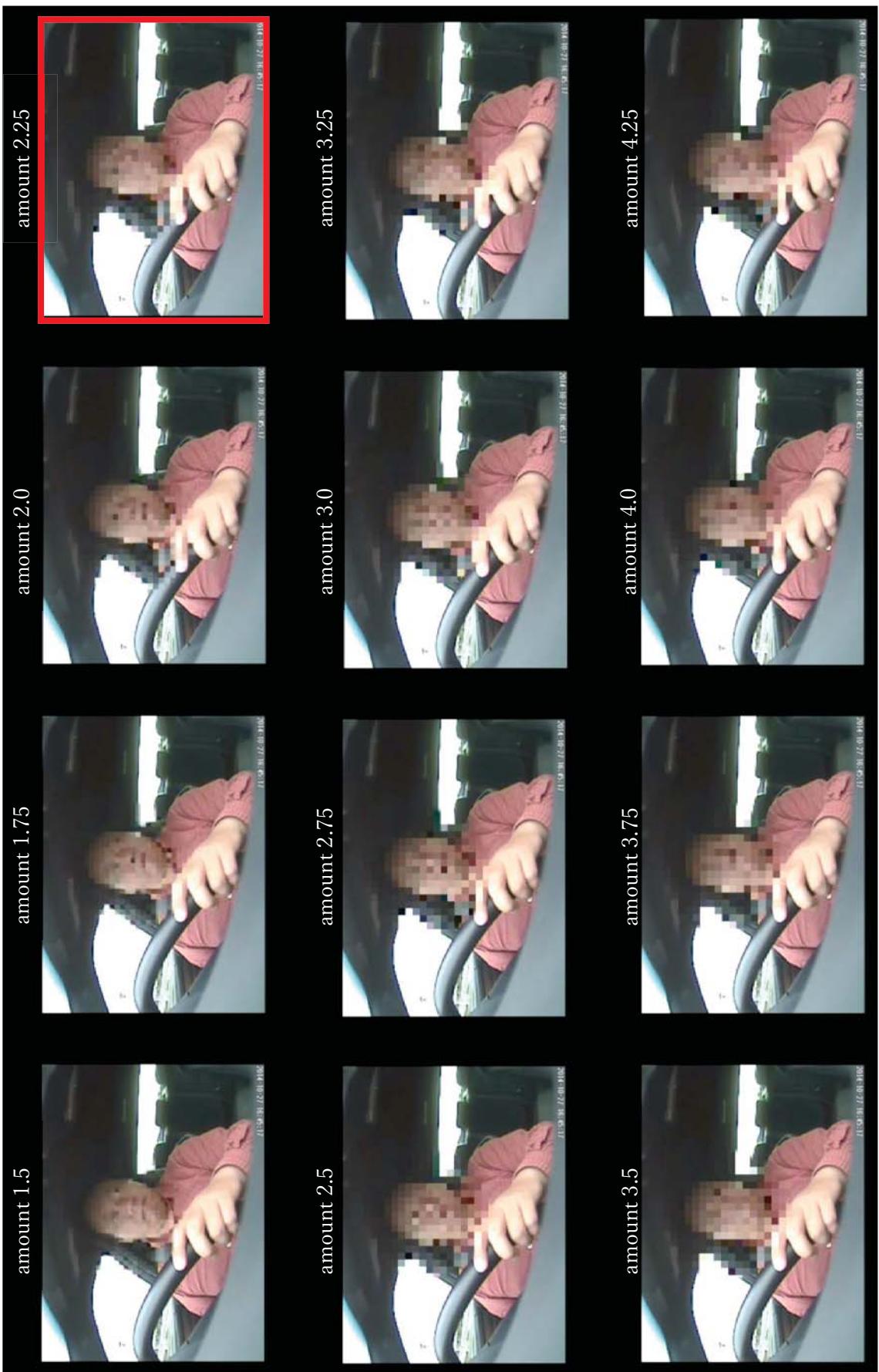
イ モザイクの強度等について

モザイクの強度や範囲は、安全確認時の首振りの回転方向や速度が判別でき、かつ個人が特定できない程度の粗さとした。

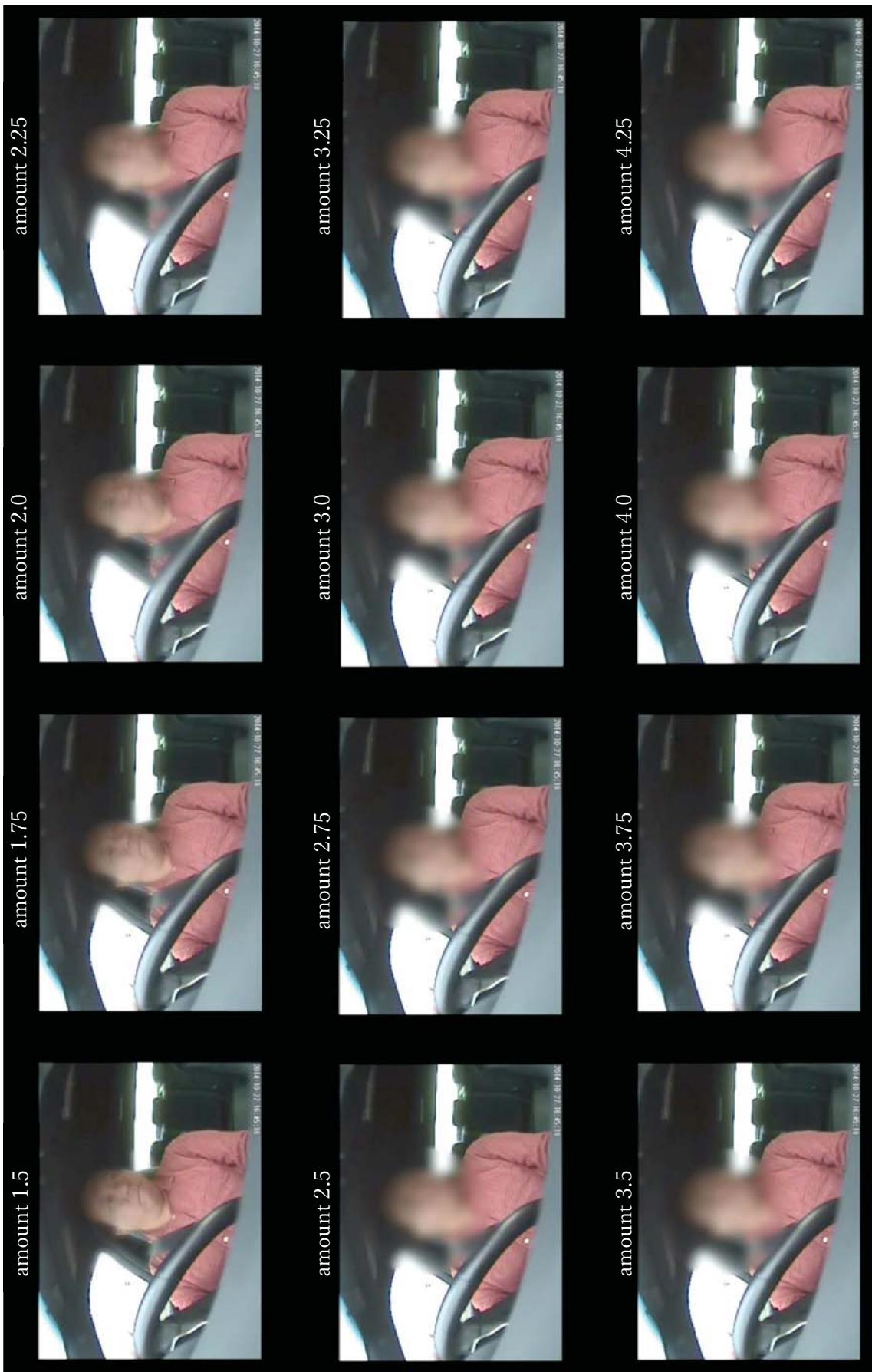
今回モザイク処理に使用する動画編集ソフト「Final Cut Pro X（バージョン 10.4.5）」では、モザイク等の種類、範囲、強度（粗さ）を指定することができる。本調査では、一般的な格子状のモザイク（Pixelate）とスリガラス状のボカシ（Bluer）の 2 種類について検討を行った。

モザイク処理の目的は、受講者の顔の特徴を消し、受講者本人を特定できないようにすることにあるが、検討の結果、Bluer は強度パラメータが同程度の Pixelate と比較し、映像がなめらかであるため、受講者の動きや角度によって顔の特徴が分かりやすい場面があった。よって、Pixelate は、Bluer と比較してより顔の特徴を消す能力に優れていることから、ドラレコ映像に使用するモザイク手法として望ましいとの結論に至った。モザイクの範囲は、映像中の受講者（後部座席の運転者以外の受講者も対象）の耳を含めた頭部全体とした。強度は「Google map's street view」を参考に、目や鼻の特徴は分からぬが、位置は判別できる程度とした。ソフトウェア内のパラメータは、武蔵境自動車教習所の場合 amount=2.25、蒲郡自動車学校の場合 amount=8.64 とした。2 つの教習所で amount 値が異なるが、これはドラレコ映像データの解像度が異なるためである。

<図 65 モザイクの強度変化によると映像の変化(Pixelate) >



<図 66 モザイクの強度変化によると映像の変化(Bluer)>



ウ 映像加工について

ドラレコには、専用ソフトを使用することにより、映像と同期して走行速度、3軸加速度、走行位置等を表示することが可能な製品があるが、これらの情報が映像ファイルに埋め込まれている場合、モザイク処理等を行う際の映像のエンコード（圧縮処理、変換処理等）を行う過程で情報が失われてしまう可能性がある。

本調査で収集したドラレコデータは、専用ソフト以外での正常な再生ができなかつたため、以下①から④の手順に従い映像の加工を行った。なお、専用ソフトを使わず、別途、映像加工ができる場合は、以下「キャプチャ」の処理は不要となる。

- ① パソコンでドラレコ映像を再生する専用ソフトを起動し、記録したい状態（走行速度を表示等）で映像を再生する。
- ② ①を動画として記録する。（以下「キャプチャ」という。）。
- ③ キャプチャした動画内の受講者の顔に、動画編集ソフトでモザイクの位置や大きさを設定する。
- ④ ファイルとして出力する。

各処置の詳細な手順は付録に掲載する。

（3）結果

以下に、本調査研究で使用したドラレコ映像のモザイク処理に要した作業時間を作業内容別に示す。モザイク処理の作業時間が、中央値10分に対し最大値が1時間24分と突出しているが、これは、他の受講者と比較して頭の位置が頻繁に動く1人の受講者がいたためである。頭が大きく動くとモザイクが顔から外れるため、モザイク位置を再設定する作業が発生する。受講者の顔の位置が頻繁に動いた理由としては、安全確認の動作が大きいことや、受講者の身長が低く、指導員の指示等で前方を確認する際に背伸びをする等、左右の頭の動き以外に上下の動きも頻繁にあったことが挙げられる。逆に、安全確認行動の頻度が低い者や、首振りの角度が小さい者はモザイクを動かす必要が少ないとため、モザイク処理の作業時間は短かい結果となった。

＜表27 モザイク処理に要した時間＞

(n=30)	作業時間		
	キャプチャ	モザイク処理	ファイル出力
最大値	23分 38秒	1時間 24分 0秒	5分 0秒
最小値	9分 13秒	3分 0秒	1分 0秒
平均値	13分 45秒	15分 24秒	2分 36秒
中央値	12分 57秒	10分 0秒	2分 30秒
標準偏差	3分 47秒	15分 36秒	54秒

なお、今回の映像処理に使用したPCのスペック概要は、CPU(2.9GHz 6コア Intel Core i9)、ストレージ(512GB SSD)、メモリ(32GB)、グラフィックボード(Radeon Pro 560X)である。

(4) 教習所がドラレコ映像加工（モザイク処理）を実施する場合の問題点

調査で映像加工を行ったドラレコデータは、専用ソフト以外での正常な再生ができなかったため、映像加工を行う前に、キャプチャを行った。この作業は、収録されている映像の再生時間と同じ時間が必要となるため、全受講者に対して処理を行う場合は、実車指導とほぼ同じ処理時間を要する。また、モザイク処理に関しては、受講者の安全確認の動作が大きいほどモザイク位置を移動させる必要が発生したため、より長い作業時間が必要となった。今回の調査では、モザイク処理のみで最長1時間24分を要する映像があった。教習所で作業する場合は、作業者の負担の増大や人件費の増大等が考えられる。

第5章 教習所で使用されるドラレコの仕様調査

第1節 目的

プライバシー保護のためのモザイク処理や映像の編集を行うまでの使用方法の比較を行う。

第2節 調査対象

第3章のアンケート調査で、追加で行ったドラレコ等タイプ別のヒアリング対象となった3機種（「セルスター CSD-390HD」、「Sony HDR-AS50」、「NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E」）と、一般的なドライブレコーダーとして使用率の高かった、「ユピテル BU-DRHD635T」を対象とする。

第3節 調査内容

- ① ドラレコの基本仕様及びドラレコのデータ保存方式等
- ② 機種ごとの専用ビューアー等の使い勝手（「第4章 3群分類別の一時停止場所における安全確認行動」で実施した映像加工処理等を想定）
を調査する。

第4節 調査結果

1 ドラレコの基本仕様及びドラレコのデータ保存方式等

(1) セルスター CSD-390HD

<表 28 「セルスター CSD-390HD」の基本仕様及びドラレコのデータ保存方式等>

寸法	幅	93.0 mm
	高	48.0 mm
	奥行き	23.0 mm
重さ		65 g
モニタサイズ		モニタなし（別売りの外部モニタと接続は可）
搭載センサ（GPS、加速度センサ等）		加速度センサあり。GPSセンサ（GPSユニット）は別売り。
視野角（車外カメラ/車内カメラ）		141° / 138°
映像フレームレート		30fps（車内カメラON時15fps）
動画フォーマット		AVI形式
映像解像度	車外	HD (1280x720) VGA(640x480)
	車内	VGA(640x480)
記録メディア	MP4	microSDHC(Class10以上)(8GB ~ 32GB)

ファイルの保存タイミング	<ul style="list-style-type: none"> ○ イベント録画の場合、3Gセンサで衝撃を検知した時刻の10秒前から30秒後までを記録。（保存容量の25%程度を仕様） ○ 常時録画の場合、DCコードが車両につながった状態でエンジンをかけると、数秒後に録画が開始する。1分単位で録画。保存容量を超えた場合は、古いファイルを削除して記録（保存容量の70%程度を仕様）。
緯度経度、センサ情報の保存方法	録画した動画ファイルに記録。専用ビューアーで確認が可能。
データの保存フォルダ等	○ イベント録画 microSD中のEVENTフォルダに保存。ファイルは1つ30秒。

(2) ユピテル BU-DRHD635T

<表29 「ユピテル BU-DRHD635T」の基本仕様及びドラレコのデータ保存方式等>

※サブカメラはオプションのため別途購入が必要。

寸法	本体	幅	80.0 mm
		直径	50.0 mm
		高さ	68.0 mm (取付けプランケット使用時)
	サブカメラ	幅	51.0 mm
		直径	33.0 mm
		高さ	37.0 mm (取付けプランケット使用時)
重さ	本体	152g	
	サブカメラ	40g	
モニタサイズ		モニタなし	
搭載センサ(GPS、加速度センサ等)		GPSセンサあり (16チャンネル/パラレル受信方式)。加速度センサあり。	
視野角 (本体カメラ、サブカメラ共通)		対角160° (水平128°、垂直96°)	
映像フレームレート		・ 1秒間に30、15、10、5、1コマ ・ 1分間に2又は1コマ ・ 1時間に12又は6コマ	
動画フォーマット		H.264	
映像解像度 (本体カメラ、サブカメラ共通)		1080pHD (1920x1080)	
		1080p (1440x1080)	
		720p (1280 x 720)	
		VGA (640x480)	
記録メディア		SDHC	

ファイルの保存タイミング	<ul style="list-style-type: none"> ○ イベント記録の場合、Gセンサーが一定以上の衝撃を検知した時刻前後合わせて最大60秒を記録。 ○ 常時録画の場合、DCコードが車両につながった状態でエンジンをかけると、録画が開始する。容量上限を超えると古いファイルに上書きして保存する。(保存容量の70%程度を仕様)
緯度経度、センサ情報の保存方法	録画した動画ファイルに記録。専用ビューアーで確認が可能。
データの保存フォルダ等	<ul style="list-style-type: none"> ○ イベント記録 (最大1分間) をSDカードに記録。 ○ 常時録画 (1ファイルの記録時間はフレームレートに依存) をSDカードに記録。 ○ 履歴記録 (GPS測位によって約1秒ごとに自車位置を記憶し、設定した時間(24時間、168時間、480時間)の履歴をSDカードに保存。

(3) Sony HDR-AS50

<表 30 「Sony HDR-AS50」の基本仕様及びドラレコのデータ保存方式等>

寸法	幅	24.2 mm
	高	47.0 mm
	奥行き	83.0 mm
重さ		83 g
モニタサイズ		モニタなし（画質やバッテリ量等の設定状況を表示する表示パネルはある）
搭載センサ（GPS、加速度センサ等）		なし
F値		F2.8
F値（35mm換算）	ワイド	f=18.4mm
	ナロー	f=21.8mm
映像フレームレート	MP4	PS : 1920x1080 60p/50p
		HQ : 1920x1080 30p/25p
		STD : 1280x720 30p/25p
		HS120(HS100) : 1280x720 120p/100p
	XAVC S HD	60p/50p : 1920x1080 60p/50p
		30p/25p : 1920x1080 30p/25p
		MP4 : MPEG-4 AVC/H.264
		XAVC S規格 : MPEG-4 AVC/H.264
映像解像度	MP4	PS : 1920x1080 60p/50p
		HQ : 1920x1080 30p/25p
		STD : 1280x720 30p/25p
		HS120(HS100) : 1280x720 120p/100p
	XAVC S HD	60p/50p : 1920x1080 60p/50p
		30p/25p : 1920x1080 30p/25p
		24p : 1920x1080 24p
		MP4
記録メディア	MP4	メモリースティックマイクロ（MARK2）
		マイクロSD/SDHC/SDXCメモリーカード（Class4以上推奨）
	XAVC S HD	マイクロSDHC/SDXCメモリーカード（Class10以上推奨）
ファイルの保存タイミング	通常のビデオカメラ同様、RECボタン押下で撮影開始となり、再度RECボタンを押下することで撮影が止まりファイルが保存される。 ※長時間連続して撮影することにより、本体の温度が上昇し、撮影が自動的に止ることがある。	
緯度経度、センサ情報の保存方法	GPS及び加速度センサは非搭載	
データの保存フォルダ等	データのPCへの取り込みは、マイクロUSBケーブルで接続し専用ソフト「Action Cam Movie Creator」を起動して行う。	

(4) NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E

<表 31 「NEC PC-TE510BAL LAVIE Tab E」の基本仕様及びドラレコのデータ保存方式等>

寸法	幅	247.4 mm
	高	171.9 mm
	奥行き	8.9 mm
重さ		522 g
モニタサイズ		10.1
搭載センサ(GPS、加速度センサ等)		GPSあり。加速度センサあり。
視野角(フロントカメラ(液晶画面側)/リアカメラ)		視野角等に関する記述なし。
映像解像度/フレームレート	MP4	HD: 1920×1080/30p
		HD: 1280×720/30p
		SD: 640x480 30p/25p
動画フォーマット		MP4 : MPEG-4
記録メディア	本体	16GB
	microSD	microSD、microSDHC メモリーカード、microSDXC メモリーカード

ファイルの保存タイミング	Android™ 5.0 (工場出荷時) 標準カメラアプリにより撮影。
緯度経度、センサ情報の保存方法	Android™ 5.0 (工場出荷時) ドラレコアプリ等の緯度経度に対応したアプリに依存。
データの保存フォルダ等	(映像) SDカード保存時: root/DCIM/Camera/ 本体保存時: root/内部ストレージ /DCIM/Camera/ (緯度経度、センサ情報) ドラレコアプリ等の緯度経度

2 機種ごとの専用ビューアー等の使い勝手

<表 32 機種ごとの専用ビューアー等の使い勝手>

		ドラレコ等機種名		ドラレコ等機種名		ドラレコ等機種名	
ビューア名	CSD-390HD ドライブレコーダービューア (CSD-350HD/CSD-360HD/CSD-390HD)	BL-DR0635T PC Browser	HR-AS50 Action Cam Movie Creator	HR-AS50 Action Cam Movie Creator	PC-T5510BAL LAVIE Tab E	Movies (Android5.0 工場出荷時の標準動画再生アプリ) ※専用ビューアは無いが、パソコンへのデータ取り込みを行う際に必要なソフト	Movies (Android5.0 工場出荷時の標準動画再生アプリ) ※専用ビューアは無いが、パソコンへのデータ取り込みを行う際に必要なソフト
対応OS	Microsoft® Windows®	Microsoft® Windows®7, Windows®8、Windows®10 ・Microsoft® Windows® (32bit/64bit)	Microsoft® Windows®7, Windows®8、Windows®10 ・Microsoft® Windows® (32bit/64bit)	Microsoft® Windows®7, Windows®8、Windows®10 Core2Duo相当2.0GHz以上 ※画像処理機能を動作させる場合、Core i5相当	Windows® 7 SP1/Windows® 8.1/Windows® 10 ・OS X v10.10-10.11 / macos 10.12-10.13 指定なし。	Androidアプリ。 工場出荷時の標準動画再生アプリで、獎勵環境においてはOS要件(5.0以上)以外不明。	Androidアプリ。 工場出荷時の標準動画再生アプリで、獎勵環境においてはOS要件(5.0以上)以外不明。
獎勵動作環境	OS CPU メモリ GPU HDD ディスプレイ フロントカメラ映像とバックカメラ映像の同時出力 走行位置 (地図表示) 走行位置 (緯度経度数値表示) 走行速度 数値表示あり。 走行速度 数値表示あり。 走行速度 グラフ表示あり。	Windows Vista/7/8 以上 Pentium4以上 1GB以上 DirectX9.0c以上に対応するGPU 4GB以上 指定なし。 可能。 あり。 表示なし。 表示なし。 数値表示あり。 グラフ表示あり。	Windows® 7 SP1/Windows® 8.1/Windows® 10 Core2Duo相当2.0GHz以上 ※画像処理機能を動作させる場合、8GB以上 指定なし。 指定なし。 1280×720 ドット以上 なし (カメラが1個のため)。 あり。 あり。 数値表示あり。 グラフ表示あり。	1280×720 ドット以上 なし (カメラが1個のため)。 なし。 GPSセンサー非搭載 なし。 GPSセンサー非搭載 なし。 GPSセンサー非搭載 なし。 センサー非搭載 なし。 センサー非搭載	不可 なし。 なし。 GPSセンサー非搭載 なし。 GPSセンサー非搭載 なし。 センサー非搭載 なし。	不可 なし。 なし。 なし。 なし。	不可 なし。 なし。 なし。 なし。
表示項目	ファイルの選択方法 画面右下にファイルを選択領域（ワイルリスト）がある。再生したいファイルをダブルクリックするか、再生したいファイルを選択状態にし、画面下端にある再生ボタン押下で再生開始。選択したファイルの再生が終わると、次のファイルが自動で選択され再生される。	画面右下にワイルリスト領域（ワイルリスト）がある。再生したいファイルを選択（複数選択可）した状態で、再生ボタンを押下し再生する。	画面右下にワイルリスト領域（ワイルリスト）がある。再生したいファイルを選択（複数選択可）した状態で、再生ボタン押下し再生する。（例 Windows Media Player, Mac: QuickTime）。	画面右下から、設定した値を超える速度や加速度を検索し、映像を表示可能。（※本機とワインカーランドを接続した場合）。緯度経度情報をGoogleEarthで読み込むファイルに変換することができる。	GPS履歴の中から、設定した値を超える速度や加速度を検索し、映像を表示可能。（※本機とワインカーランドを接続した場合）。緯度経度情報をGoogleEarthで読み込むファイルに変換することができる。	本体で再生ソフトが付属しているため、タブレット本体で視聴する場合は、PCへのコピー作業などが発生しない。 PCとUSBケーブルで接続すると、タブレット本体は外部ストレージとしてPCに認識されため、PC付属の動画再生ソフトも利用可能。	本体で再生ソフトが付属しているため、タブレット本体で視聴する場合は、PCへのコピー作業などが発生しない。 PCとUSBケーブルで接続すると、タブレット本体は外部ストレージとしてPCに認識されため、PC付属の動画再生ソフトも利用可能。
その他使い勝手に関する特筆事項	1画面ごとの表示サイズが固定されている。1画面ごとの表示サイズが拡大はできるが、その場合2画面同時出力が出来ない。	GPSユニットを接続し撮影した映像でスピード、加速度以外の、位置情報、速度を表示することができる。	GPS情報は、GoogleEarthで読み込めるファイルに変換することができる。	切り出し、文字の挿入、エフェクト（スロー、早回し、繰り返し等）等の簡単な動画編集機能がある。モザイク処理は行えない。	切り出し、文字の挿入、エフェクト（スロー、早回し、繰り返し等）等の簡単な動画編集機能がある。モザイク処理は行えない。	切り出し、位置情報、速度は、ビューアを使用しない場合と映像と同様表示出来ない。ビューアに表示した状態で映像をキャプチャする事でそれら問題を解消できるが、撮影時間と同じ時間が必要となる。	映像のPCへの取り込みに、Action Cam Movie Creatorを介する必要があるため、動画ファイルを取り込むためにインストールされた環境が必要となる。(SD等のメディアデータを直接操作することは非奨励で、データ破損の原因になる)
映像加工等を行うまでの問題点	1ファイルの中に2画面分の映像が記録されているため、映像編集ソフトでの直接の編集が困難。加速度、位置情報、速度は動画ファイルに保存され、ビューアを使用しないと表示出来ない。	GPSユニットを接続し撮影した映像でスピード、加速度は動画ファイルをキャプチャする事でそれら問題を解消できるが、撮影時間と同じ時間が必要となる。	ビューアーに表示した状態で映像をキャプチャーする事でそれら問題を解消できるが、撮影時間と同じ時間が必要となる。	映像のPCへの取り込みに、Action Cam Movie Creatorを介する必要があるため、動画ファイルを取り込むためにインストールされた環境が必要となる。(SD等のメディアデータを直接操作することは非奨励で、データ破損の原因になる)	映像のPCへの取り込みに、Action Cam Movie Creatorを介する必要があるため、動画ファイルを取り込むためにインストールされた環境が必要となる。(SD等のメディアデータを直接操作することは非奨励で、データ破損の原因になる)	工場出荷時の標準動画再生ソフトで、速度や緯度経度の位置情報を表示する機能がない。	工場出荷時の標準動画再生ソフトで、速度や緯度経度の位置情報を表示する機能がない。

一般的なドラレコであるセルスター CSD-390HD の映像データは、車外前方と車内の 2 つの映像が 1 つのファイルの中に保存されている特殊な映像ファイルで、2 画面を視聴するためには専用ビューアーが必須となる。カスタムファイルのため、今回使用した動画再生ソフトのうち、「Windows Media Player」、「QuickTime Player」では再生できなかった。また、「VLC media player」では車外の映像 1 画面のみ再生できたが、車内の映像は再生できなかった。動画編集を行う際も同様で、一般的な規格から外れたファイルのため、今回使用した映像編集ソフト「Final Cut Pro X」では、映像ファイルとして認識されず編集できなかった。よって、第 4 章の「4 ドラレコ映像の加工」で実施したキャプチャ（パソコン上の操作（今回の場合はビューアーでの動画再生）を動画として保存）を行い、モザイク処理の編集対象となる素材動画を作成する必要がある。また、加速度や緯度経度情報も映像ファイルに埋め込まれているため、これら数値等を表示する場合にも専用のビューアーで再生する必要がある。

一般的なドラレコであるユピテル BU-DRHD635T は、GPS 情報以外に、車速パルスを入力して速度をより高精度に記録することができる。また、ウィンカーの点灯状態もビューアーに表示することができる。CSD-390HD 同様、加速度や緯度経度情報と映像ファイルを同期して表示する場合は、専用のビューアが必要である。映像中に加速度や緯度経度情報を表示したい場合はキャプチャ作業が必要となる。

なお、キャプチャには、動画の再生時間と同じ時間が最低限必要となる。

一方、アクションカムと呼ばれる単眼カメラの Sony HDR-AS50 は、緯度経度や速度、加速度等の情報は記録されないが、保存される映像ファイルは一般的な規格の映像ファイルであるため、パソコンと USB 接続し、専用ソフト (Action Cam Movie Creator) を使用し、映像ファイルをパソコンに取り込むことで、モザイク処理の編集対象となる素材動画を取得できる。ただし、取り込みの際に専用ソフトが必要なため、動画編集作業を行うパソコンに専用ソフトがインストールされている必要がある。

NEC PC-TE510BAL も HDR-AS50 同様、一般的な規格の映像ファイルであるため、パソコンと USB 接続し外部ストレージとして認識させ、本体内の所定のフォルダからパソコンにファイルコピーすることでモザイク処理の編集対象となる素材動画を取得できる。

第6章 GPSの利用について

第1節 GPSについて

GPS (Global Positioning System) とは、原則4個以上のGPS衛星と受信機の距離を同時に計測することで、自身(受信機)の位置を決定するシステムである。GPS衛星から受信機の距離は、GPS衛星から発信された電波が受信機に到達するまでに要した時間から求める。GPS衛星から発信される電波には、衛星軌道情報や原子時計の時間情報等が含まれる。

第2節 GPSデータの利用についての提案

GPSに対応したドラレコでは、映像の他に、位置情報(緯度経度)を記録する機種があるため、こうしたGPS情報の活用について検討を行う。

第3章の指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査の中で、現在使用しているドラレコ等で、GPSを利用して走行位置を地図上に表示する機能があるかを尋ねたところ、「ある」と回答した教習所は全体の24.7%であり、現状としてGPS付きのドラレコやGPSユニット別売のドラレコでGPSユニットを導入している教習所は少ないことが判明した。GPS機能のあるドラレコへの変更やGPSユニットの追加購入については一定の費用がかかるため、今すぐの対応はハードルが高いと考えられるが、将来的にGPS機能付きのドラレコを導入することで、ドラレコ映像データを利用するまでの問題解決や円滑な利用の助けとなることが考えられる。以下にその例を挙げる。

(1) ドラレコ映像の仕分けやドラレコ映像の検索に利用

ドラレコで撮影される映像は、単位時間や単位ファイル容量毎に映像が保存される機種がある。これは、限られた保存容量で永続的に常時録画を行うため、保存容量が足りなくなった場合には記録日時の最も古いファイルを上書きし、録画を続けるための仕組みである。5章で仕様調査をしたセルスター CSD-390HDの場合は、1分間に1つのファイルが作成されるため、1人20分弱の高齢者講習の実車指導では、1人の受講者に対して複数ファイルが作成される。こうした複数の映像ファイルの中から、例えば一時停止標識付近のデータだけを抽出し保存するような利用場面を想定した場合に、GPSデータが活用できると考えられる。一時停止標識のある位置(緯度経度)と分割された各ファイル内の走行位置(緯度経度)をGoogle Maps等に表示し、距離が一定値以下(例えば一時停止場所における道路幅員の範囲内)となったファイルを保存する等が考えられる。この方法は、特定課題実施時の映像データをファイル内の映像を確認せずに識別できることや、必要な部分のみの保存が可能なため、作業時間の短縮や保存ストレージの容量節約につながると考えられる。

また、指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査では、「高齢者講習のドラレコ映像データが 今後よりよく活用されるためにどのような問題点を改善したら良いか」という問い合わせに対し、「指導したい場面がぱっと出てこない」という意見が 251 件あったが、こうした状況についても、同様の手法を用いることで指導したい場面の入った映像ファイルを抽出することができると考えられる。

(2) 走行位置、停止位置、脱輪位置および方向変換や後退時の車体の姿勢把握について

指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査では、「高齢者講習のドラレコ映像データが今後よりよく活用されるためにどのような問題点を改善したら良いか」という問い合わせに対し、「走行位置、停止位置、脱輪位置、方向変換、後退などを分かりやすくする（車内からの映像のみでは理解されにくい）」という意見が 9 件あった。こうした状況の対応を検討した。

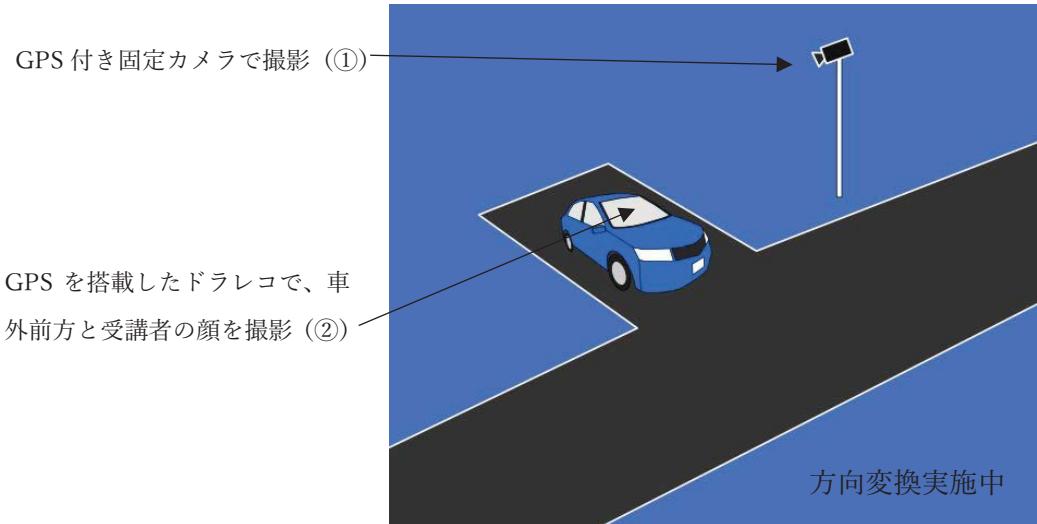
現行のドライブレコーダーには、走行位置を地図上に表示する機能を有する機種があるため、搭載している GPS や地図の精度によっては走行位置、停止位置、脱輪位置を地図上の点として把握することが可能である。ただし、車両位置を表示する地図ソフトが教習所内のコースを表示できなければならない。また、位置情報は点であるため、方向変換でコースに対する車体の姿勢を把握することは、ドラレコ映像と合わせて確認することで可能と思われるが、これにはある程度の時間が必要であると考えられる。GPS データの位置情報や GPS 時刻を利用し、以下のような活用方法が考えられる。

- ① 車体の姿勢を確認したい箇所に GPS を搭載したカメラを固定カメラとして設置し撮影する。車体の姿勢が分かりやすいように、やや高所から撮影する。
- ② ①と同時に、GPS を搭載したドライブレコーダー等の映像を撮影。（高齢者講習で撮影される映像）
- ③ ①と②の映像を GPS 時刻で同期して表示することで、車体の位置、車体のコースに対する姿勢を俯瞰で観察できる。また、受講者の安全確認状況などを同時に確認可能な映像を出力する。

※ GPS 付き固定カメラの中には、撮影した映像について Wifi を使用しパソコン等にダウンロードできる機種(Sony HDR-AS100V 等)もあるが、通信速

度や本体への給電方法等について別途検討が必要。

※ GPS 時刻で映像を同期し、同時出力するシステムは別途開発が必要。



<図 67 GPS 情報を使用した方向変換や後退時の車体の姿勢把握>

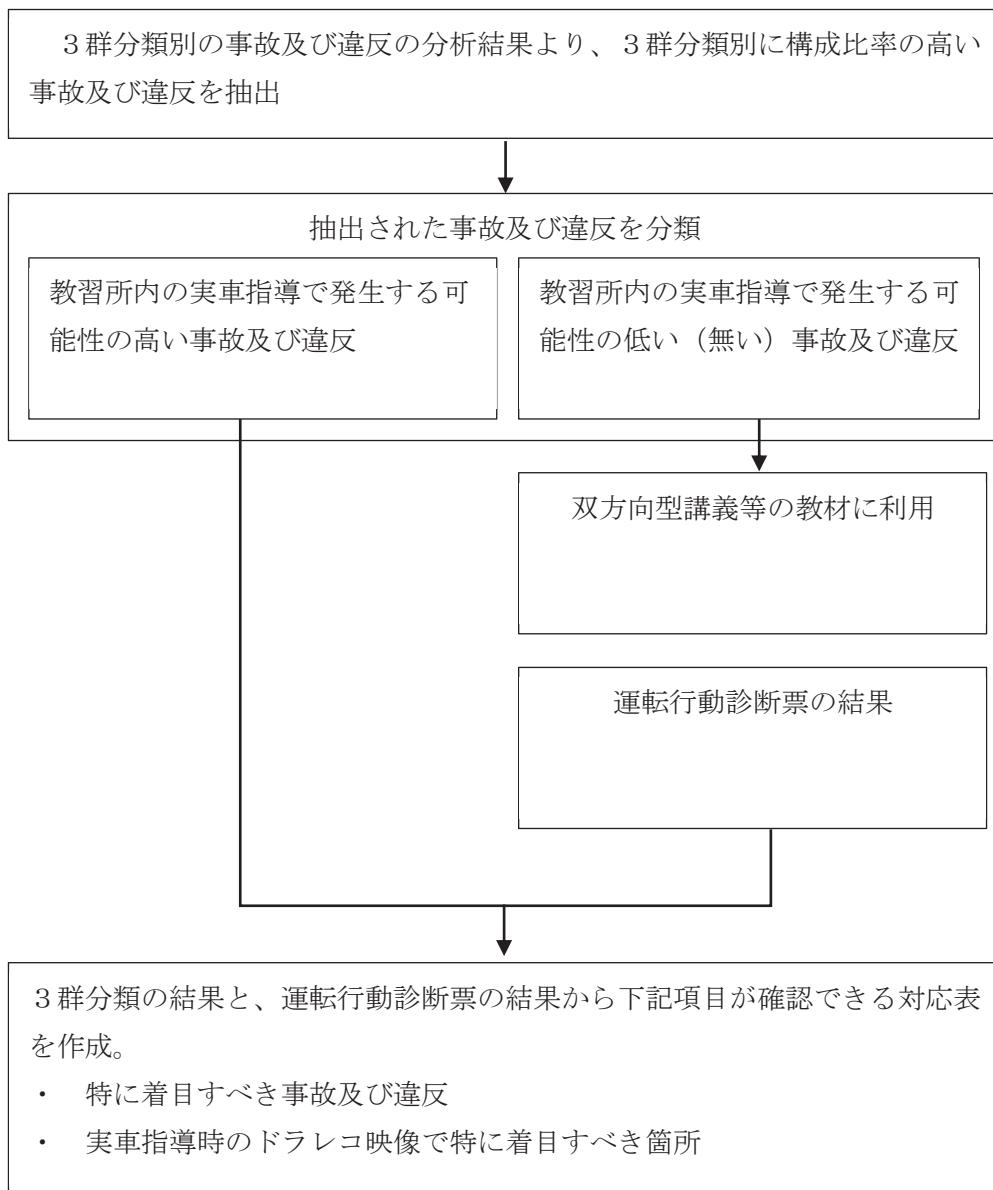
なお、全天球カメラは、カメラを中心に上下左右全方位の映像を記録できるカメラで、通常のドラレコよりも広い範囲を撮影することができる。カメラをダッシュボードの上に設置することで、車内と車外前方の広範囲が撮影できるため、通常のドラレコに比べ、車体の位置や車体の姿勢の把握をしやすいと考えられる。

第7章 ドラレコ映像の活用方策の検討

第1節 目的

第2章から第5章で整理分析したデータを基に、高齢者講習や高齢者講習の指導員教育におけるドラレコ映像の活用方法を提案する。提案の中にはドラレコ映像の全数保存が前提であるものや、個人情報保護のために映像にモザイク処理を施す必要がある等、教習所の負担が多く直ちに実施困難と思われる案もあるが、これらは、種々の問題が技術革新等により将来解決された場合に、ドラレコ映像の活用方法について検討する際の一助となることを期待するものである。

なお、本検討は普通乗用車についてのものであり、二輪車の高齢者講習は対象外とする。



<図 68 3群分類別運転行動診断票の結果別の高齢者が起こしやすい違反及び事故対応表の作成手順>

第2節 3群分類別の指導方法例の提案

1 ドラレコ映像の使用許諾や映像処理（モザイク処理等）の判断基準

ドラレコ映像の利用方法別に映像処理等が必要か否かの判断基準を以下に記す。ドラレコ映像は個人情報であるため、その取得（取得時の説明）・利用・管理は個人情報に関する法律（以下「個人情報保護法」という。）の定めに従って実施する必要がある。まず、単年度利用については、ドラレコ映像の使用を受講者本人の指導のみに限定した利用は本来の利用目的（※1）であるため、改めての使用許諾を得ることは不要と考えられる。次に、多年度利用については、受講者本人の個人指導のみに限定した場合でも本来の利用目的の範疇を超える可能性があることから使用許諾を得ることが望ましいと考えられる。モザイク処理等の個人情報保護処理については、単年度利用、多年度利用共に情報漏えいに備えモザイク処理等を行うことが望ましいと考えられ、所内の情報セキュリティレベルに応じて実施する（ただし、単年度利用で講習終了後直ちに削除する場合は除く。）。受講者本人の個人指導以外の目的に利用する場合（受講者本人以外の者への講習や、講習指導員向の指導水準向上を目的とした検討資料に利用する場合）には、モザイク処理等の個人情報保護処理や使用許諾が必要と考えられる。

ドラレコデータの保管場所別では、外付けHDD等のネットワークと切り離された環境に保管する場合や、所内のファイルサーバーに保管する場合は、情報漏えいに備えモザイク処理等を行うことが望ましいと考えられるが、所内の情報セキュリティレベルに応じた判断が必要である。前回の高齢者講習での本人映像を用いて指導を行うなどの多年度利用を本格的に考えた場合、必ずしも前回と同じ教習所で受けられるわけではないことから、教習所間でのドラレコ映像の共有を想定する必要がある。そういう手段の一つとして、例えば現時点ではインターネット上のファイルサーバー（※2）を利用することができるが、もしもそういう管理状態を想定した場合には、情報流出に備えモザイク処理等を行い、適切な個人情報保護の処理を行う必要がある。

いずれの保管期間、保管方法においても個人情報保護法に従い、個人データの漏えい防止その他の個人データの安全管理のために必要かつ適切な措置を講じる。

※1 運転行動診断票や録画した映像を活用しながら、実車指導との相乗効果が上がるよう指導すること。

【参考 URL】

警察庁「高齢者講習における個人指導要領」2頁(2) 実車指導映像等を活用したリマインド指導
<<https://www.npa.go.jp/pdc/notification/koutuu/menkyo/menkyo20161014-166.pdf>>,
2019年3月19日アクセス

※2 インターネット上のファイルサーバーでの保管は、情報セキュリティ上望ましくない。利用者への新たなサービスの提供等のために将来的にセキュリティ技術が向上し、そうした方法が許容されるようになった状況を想定して記載した。

2 ドラレコ映像の処理や保管等について

(1) 教習所内で発生した特徴的な事例の保存

指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査の中で、「高齢者講習で撮影したドラレコ映像データの保管期間の今後の方針」を尋ねたところ、42.9%が「個人指導を実施した後、1年以内に廃棄する予定である。」と回答した。また、その理由としては、「データ量が大きいため（映像データ容量、実施人数）」が18.6%で最も多く、現環境では多くの教習所で映像データの全数保存はハーダルが高いと考えられる。

一方、追加で行った教習所へのヒアリングで、「映像データを保管する上で、データ容量節約のために実施していること」として、「検査結果の1分類と2分類のみ保管している。」という意見や、「映像データを保管する上で、セキュリティ上気をつけている点」として、「指導終了後、削除している。（特異者がいれば、特別保管するつもりだが、今のところ該当者なし。）」という意見があった。

このため、ドラレコ映像を指導終了後削除している教習所においても、特徴的な事例の必要部分のみを保存することについては比較的実現性が高いと考えられ、下記手順でドラレコ映像を部分的に保存し、事例集を作成するなどの利用方法が考えられる。

（利用方法例）映像事例集の作成

- ① 分類を特定せずに、模範的な走行や、事故や違反に繋がる運転操作で特徴的な事例を保存する。映像中の受講者の顔には、モザイク処理等の個人情報保護対策を施す。
- ② 教習所の課題別にフォルダを作り、映像を保存する。

例) F:¥見通しの悪い交差点¥指定場所一時停止¥001.mp4

(2) 全数保存

(1) で記述したとおり、現環境でドラレコ映像データの全数保存はハードルが高いと考えられるが、保存ストレージの高性能化や低価格化等により全数保存を行う上で現実的な環境が整った際に、より高度な安全運転教育を実施するための教材とするため全数保存を行い、受講者の過去の自身の運転と現在の運転の比較を行うこと等が考えられる。全数保存を行う上で以下の問題を考えられる。

- ① 保守費用（ストレージ、セキュリティ対策、映像の個人情報保護作業）。
- ② 数量が日々増大していく映像データの中から、利用したい特定の映像を検索するためのシステム（データベース）等を構築する必要がある。（本章4節3でGPSデータを利用した案を掲載。）
- ③ 受講者は常に同じ教習所で高齢者講習を受講する必要はなく、運転免許更新期間満了日の6か月前から、更新期間満了日の間で予約がとれた教習所で高齢者講習を受講する。このため、個々の教習所でドラレコ映像を保管した場合、受講者の過去の映像がない場合も考えられる。このため各教習所の映像データをオンラインの映像サーバに保存し、各教習所からネットワークを介して映像にアクセスする必要も考えられる。ただし、こうしたシステムを構築するためには多額の費用がかかることや、実施機関の負担も大きいことから現状の制度の範囲内でまかなうことは困難であると考える。

(3) ファイルの保管方法についての注意

ドラレコ映像の保管場所や、いずれの保存方法（教習所内で発生した特徴的な事例の保存、全数保存）でも、ファイルの識別に氏名や運転免許番号などの個人情報から切り離し、情報セキュリティに配慮する必要があると考えられる。また、映像ファイルと管理用ファイル（映像ファイルと受講者の対応表）を同じ場所に保管しないこと等も必要と考えられる。

3 指導内容についての提案

(1) 双方向型講義

双方向型講義の中では安全運転・危険予測等に関する質疑や、地域における交通事故実態の説明が行われるが、こうした講義内容に、本調査により明らかとなった認知機能検査の分類別の事故違反の傾向を反映させることも考えられる。また、第3分類の者は実車指導後の個人指導を実施しないため、前項「(1) 教習所内で発生した特徴的な事例の保存」で保存した事例から第3分類の起こしやすい違反（「指定場所一時不停止等」、「信号無視」、「通行禁止違反」）に関連する映像を視聴させることも考えられる。

(2) 実車による指導

- 一時停止に関する指導

第1分類は、ノンストップ方式で講習が行われるため、失敗した課題や、苦手な課題として2回目以降実施した場合に指導を行う。第1分類は、体調によっては指導員の指示や質問を理解することが困難な場合があり得ることを想定して、受講者が指示や質問を理解できるよう言葉や表現を変えた複数通りの方法を用意する等の工夫を行う。一時停止標識の設置された交差点における指導と指導後の改善の様子について調査を実施したところ、第2分類の者は、「一時不停止直後（停止線を超えて停車した直後）」に、「停止線を越えて停車した事を口頭で指摘」を行った者に改善が見られた事例があった。第3分類の者では、「一時不停止直後（停止せずに停止線を超えた直後）」や、「一時不停止後、一時停止場所から離れた位置」で、「停止線で完全に止まっている事を指摘」を行った者に改善が見られた事例があった。

また、いずれの分類の者についても、一時停止線直前の指導（一時停止標識があることを認識させる）を行ったことで、安全確認回数の改善が見られた事例があった。（本調査ではドラレコ映像中の一時停止標識のある全ての場所で安全確認行動（首振り）の数をカウントしたため、一時停止標識のある一時停止場所を複数回通過した場合には、改善の有無が確認できた。）

これら調査によって得られた結果を、実際の実車指導における指導内容に反映させることが考えられる。また、今回は30サンプルを対象として調査を実施したが、各教習所で同様なデータ整理を行い、より効果的な指導方法を考案することなども考えられる。

- ドラレコ等の撮影について

安全運転の基本となる安全確認行動（首振り等）と共に、「指定場所一時不停止等」、「信号無視」、「通行禁止違反」の違反や、「出会い頭事故」、「追

「突事故」の事故の可能性を受講者が容易に確認できるような方法で映像を撮ることで、実情に合った指導が行えると考えられる。第3章「指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査結果」から、ドラレコ等の撮影機材については、一般的なドラレコ以外に、アクションカム等の単眼カメラやタブレットを使用している教習所も多いため、以下にそれぞれの設置（例）を示す。

(一般的なドラレコ)

車外前方と車内を同時に撮影できる一般的なドラレコ（2つ以上のカメラを搭載）であればメーカー指定の位置に設置し、車外前方と受講者の顔が映るように画角を調整する。

(アクションカム・タブレット・1つのカメラのみ搭載したドラレコ)

アクションカムなどカメラが単眼の場合や、タブレットの様に複数カメラはあるが同時に1カメラしか使用できない様な撮影機材の場合は、助手席のヘッドレスト等に本体の固定治具を設置し本体を固定する。車両前方と運転している受講者の頭部が映るように画角を設置する（図69は、ヒアリングに協力していただいた教習所のアクションカムとタブレットの設置例）。こうした取付けが困難な場合は、カメラで前方を撮影し、安全確認行動は指導員の目視により記録した運転行動診断票の評価内容を活用する。



(アクションカムの取り付け事例)



(タブレットの取り付け事例)

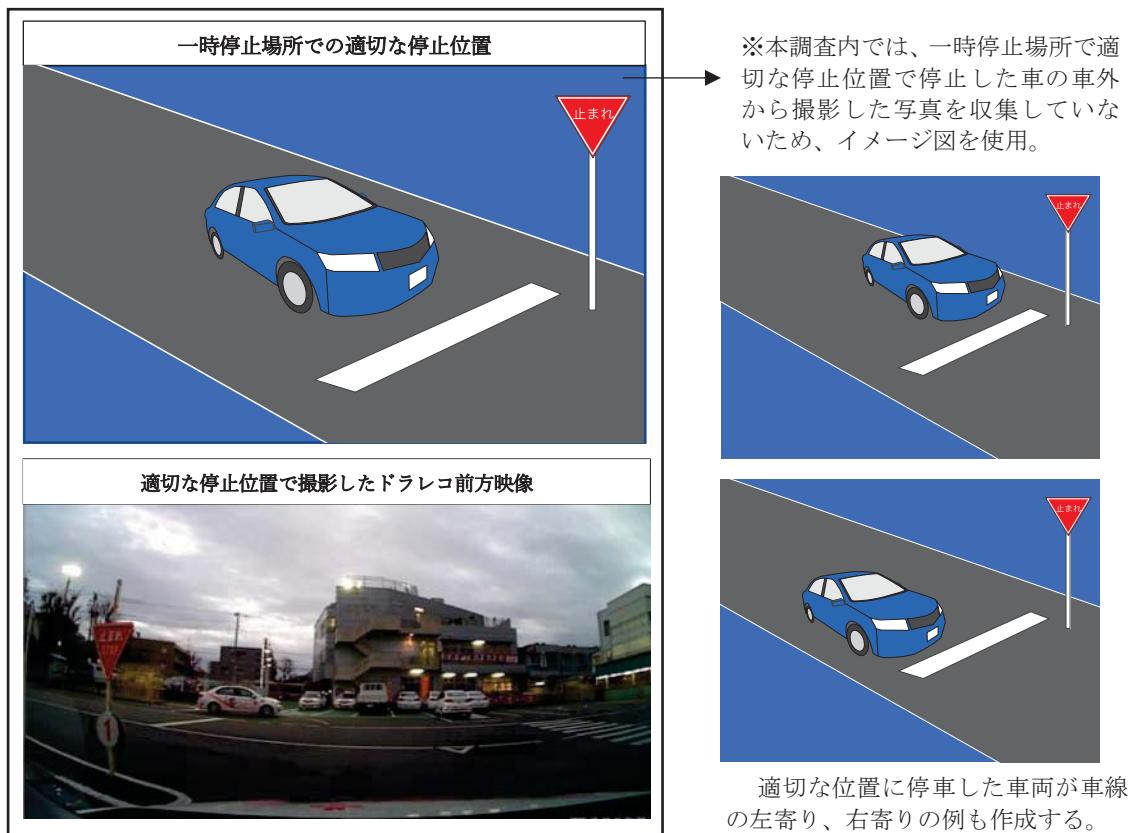
＜図69 アクションカムやタブレットの取付け例＞

(3) 個人指導（75歳以上で第1分類、第2分類の者）

ア ドラレコ映像の単年度利用の提案

ドラレコ映像の保管期間については、指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査結果から、「個人指導を実施した後、1年内に廃棄する予定である」や、「講習後に削除」等が多く、理由としては「個人情報保護のため」や「データが大きいため」等が多く、そうした実情に配慮し、過年度のドラレコ映像を必要としない単年度利用（案）を以下に記す。

- ・ 指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査では、個人指導で一時停止標識のある交差点の走行場面を利用している教習所が最も多かった。適切な停止位置か否かは、前方カメラの映像のみでは分かりにくいため、適切な停止位置で停止した場合に見える前方映像（画像）を用意し、受講者の映像と比較して適切な停止位置を理解するための助けとする。車両の停車位置が車線の左寄りなのか右寄りなのかによって画角が変わるために、停止線に対して適切な位置に停車した車両の写真が、車線の中央、左寄り、右寄りの3パターン程度あると良いと考えられる。



<図 70 一時停止場所における適切な停止位置説明資料（例）>

- ・ 交差点での安全確認不足については、出会い頭事故につながる可能性が高いと考えられるので、安全確認行動に問題がある受講者に対しては、安全確認の方法(首振りの角度や頻度、安全確認では何を確認すべきか等)について受講者のドラレコ映像を見ながら指導する。
- ・ 追突事故の原因となるような事象（運転中に前走車がいる状況で、運転以外に気を取られる等）は、講習中に発生しにくいと思われるが、前走車との車間が詰まった状態で前走車のブレーキランプが点灯するような映像が撮影されていた場合には、その場面で映像を止め、受講者に「ここで、外の風景に気を取られてよそ見をしてしまったらどうなりますか？」等の質問を投げかけるなどし、よそ見等で前走車のブレーキに気づかなかった場合には、前走車との車間が無くなり追突事故発生することについて説明する。

イ ドラレコ映像の多年度利用の提案

a 教習所内で発生した特徴的な事例の活用

教習所内で発生した特徴的な事例を使用し、同年代の者が同じコースや同じ課題を実施した時の模範例や、問題のある例を視聴させ、自身の運転との比較を行い、自らの運転行動の特徴を自覚させるような交通安全教育を目指すこと等が考えられる。このように、受講者本人以外にドラレコ映像を使用する場合は、映像中の受講者の顔にモザイク処理を行い、個人情報保護に十分配慮する。

b 過去の自分の運転との比較

受講者の過年度の運転と現在の運転の比較を行い、自らの運転行動の特徴を自覚させるような交通安全教育を目指すこと等が考えられる。この場合ドラレコ映像の全数保存が前提となるが、前述のとおり、現環境でドラレコ映像データの全数保存はハードルが高いと考えられるため、全数保存のための現実的な環境が整った際の提案となる。過去に成功した課題を失敗した場合や、安全確認行動の頻度について低下が見られた場合に適切な指導を行う。逆に過年度失敗した課題を成功した場合や、安全確認行動に改善があった場合(例えば、前回受講時の指導内容を遵守する態度が持続していたなど)は褒める等する。

＜表 33 3群分類別の指導方法（案） 双方向型講義＞

双方向型講義	第 1 分類		
	第 2 分類	第 3 分類	
ドラレコ映像を利用した指導	-	第 3 分類 第 3 分類の者は実車指導後の個人指導を実施しないため、前項「(2) 教習所内で発生した特徴的な事例の保存」で保存した事例から第 3 分類の起こしやすい違反（「信号無視」、「通行禁止違反」）に関する映像を視聴させることがある。	

※ ドラレコ映像を利用した指導部分を太線で囲った。

＜表 34 3群分類別の指導方法（案） 実車による指導＞

実車による指導	第 1 分類		
	第 2 分類	第 3 分類	
死亡事故（1当）について	全ての分類で、死亡事故（1当）は、構成比、相対事故率（運転頻度を考慮）と共に「車両単独事故」が最も高い。車両単独事故に繋がる運転操作や、習慣について指導する。第 1 分類の相対事故率は特に高いため、重点的に行う。	第 3 分類 第 3 分類の者では、「一時不停止直後（停止せずに停止線を超えた直後）」や、「一時不停止後、一時停止場所から離れた位置」で、「停止線で完全に止まつてない事を指摘」を行った者に改善が見られた事例があつた。	
一時停止に関する指導	第 2 分類 第 2 分類では「一時不停止直後（停止線を超えて停車した直後）」に、「停止線を越えて停車した事を口頭で指摘」を行った事例があつた。 第 1 分類は、ノントップ方式で講習が行われるため、失敗した課題や、苦手な課題として2回目以降実施した場合に指導を行なう。第 1 分類は、体調によつては指導員の指示や質問を理解することが困難な場合もあり得るため、受講者が指示や質問を理解できるよう言葉や表現を変える等の工夫を行う。	第 3 分類 いづれの分類も、一時停止線直前の指導（一時停止標識があることを認識させる）をしたことで、安全確認回数の改善が見られた事例があつた。（本調査ではドラレコ映像中の一時停止標識のある全ての場所で安全確認行動（首振り）の数をカウントしている。第 3 分類であつても一時停止標識のある一時停止場所を複数回通過した場合には、改善の有無が確認できた。）	

<表 35 3群分類別の指導方法（案）個人指導>

個人指導 (75歳以上で第1分類、 第2分類の者)	第1分類		第3分類 個別指導なし
	第2分類	第3分類	
ドラレコ映像の単年度利用による指導 指定場所一時不停止	適切な停止位置か否かは、前方カメラの映像のみでは分かりにくいため、適切な停止位置で停止した場合に見える前方映像(画像)を用意し、受講者の映像と比較し適切な停止位置で停車した(していない)ことを説明する。車両の停車位置が車線の左寄りなのか右寄りなのかによって画角が変わるために、停止線に対して適切な位置に停車した車両が車線の中央、左寄り、右寄りの3パターンあると良いと考えられる。	交差点での安全確認不足については、出会い頭事故につながる可能性が高いと考えられるので、安全確認行動が少ない受講者に対しては重点的に指導する。	
出会い頭事故 追突事故		追突事故の原因となるような事象(運転中に前走車がいる状況で、運転以外に気を取られる等)は、講習中に発生しにくいと思われるが、前走車に追従するような映像が撮影されていた場合は映像を止め、質疑形式等で追突事故の発生プロセスを説明する。(ここで、外の風景に気を取られてよそ見をしてしまったらどうなりますか?等)	
用ドにラによる指映像の多年度利 用 教習所内で発生した特徴的な事例の活用		教習所内で発生した特徴的な事例から、同年代の者が同じコースや同じ課題を実施した時の模範例や、問題のある例を視聴させ、自身の運転との比較を行う。	過年度の受講者の運転と現在の比較を行う。過去に成功した課題が、加齢による身体能力の低下や認知機能の低下により失敗した場合は、指導を行う。また、安全確認行動の頻度についても低下が見られた場合は指導を行う。 過去の自分の運転との比較
※ ドラレコ映像を利用した指導部分を太線で囲った。			

第3節 講習指導員の指導水準向上を目的とした利用の提案

教習所内で発生した特徴的な事例を蓄積し、課題別の指導方法（課題別に効果的な指導タイミングや指導内容の把握等）についての検討材料とする。また、高齢者講習指導員としての経験が浅い者等が、ベテラン指導員の指導方法やコース指示の方法を学ぶ教材等として使用する等が考えられる。

第4節 GPS データの利用についての提案

指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査結果から、現在、GPS 付きのドラレコや GPS ユニット別売のドラレコで GPS ユニットを導入している教習所数は 24.7%と少数であることが判明した。GPS 機能のあるドラレコへの機種変更や GPS ユニットの追加購入については一定の費用がかかるため、ただちに対応することは難しいと考えられるが、将来的に GPS 機能付きのドラレコを導入した場合、ドラレコ映像の中から指導したい場面をすみやかに検索できるように利用したり、走行位置、停止位置、脱輪位置および方向変換や後退時の車体の姿勢把握に利用したりする等、ドラレコ映像データを利用するまでの利便性の向上に活用することが考えられる。

付 錄

3 群分類別の事故・違反実態集計結果	1
1 事故の基本集計	2
2 檢挙違反の基本集計	8
3 事故の詳細集計	32
映像加工方法	75
安全確認行動の分析	86
指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査 アンケート票	108

3群分類別の事故・違反実態集計結果

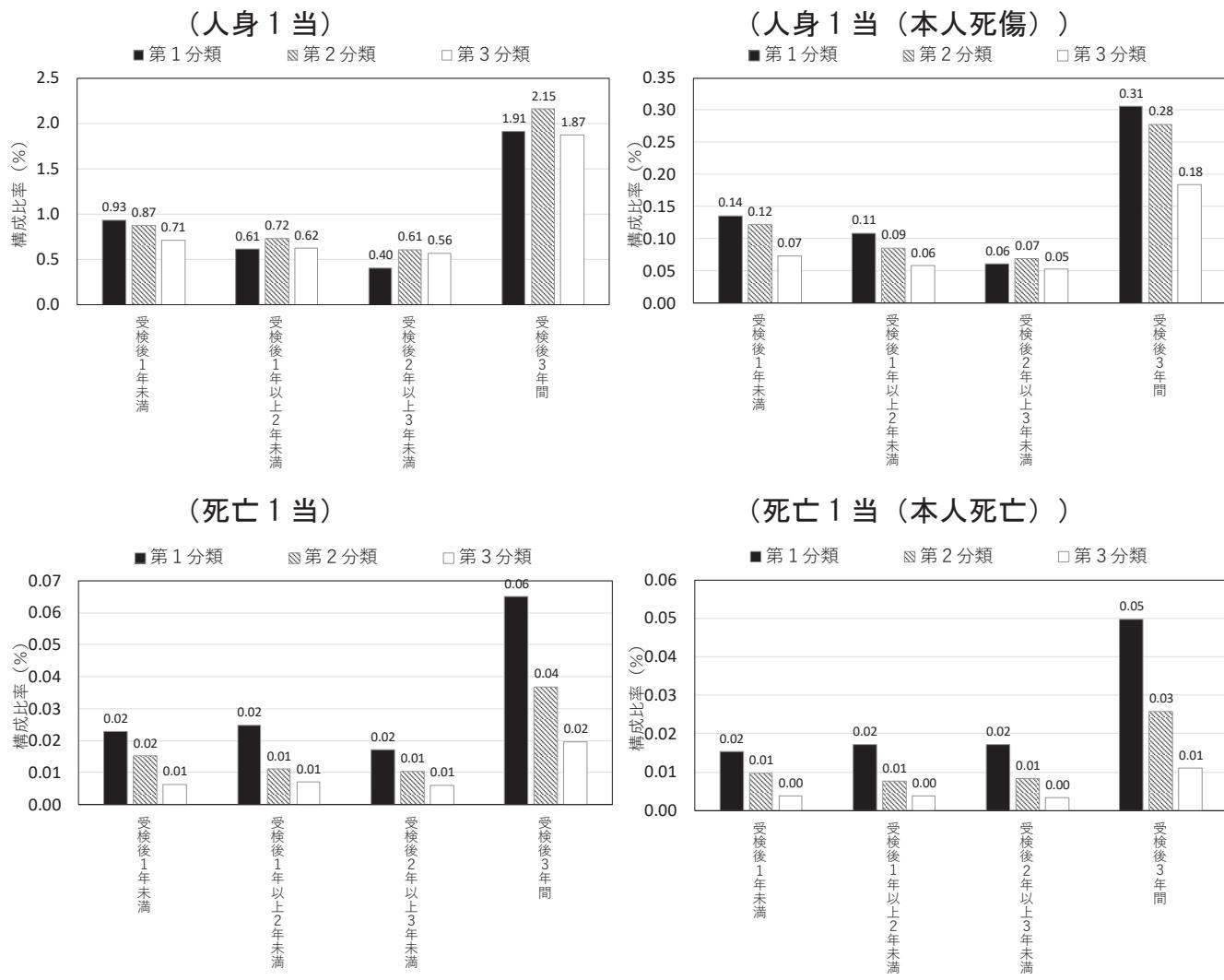
1 事故の基本集計

(1) 構成比率

受検後3年間の構成比率では、

- ・ 人身1当は第2分類が最も高かった。
- ・ 人身1当（本人死傷）は第1分類が最も高かった。
- ・ 死亡1当は第1分類が最も高かった。
- ・ 死亡1当（本人死亡）は第1分類が最も高かった。

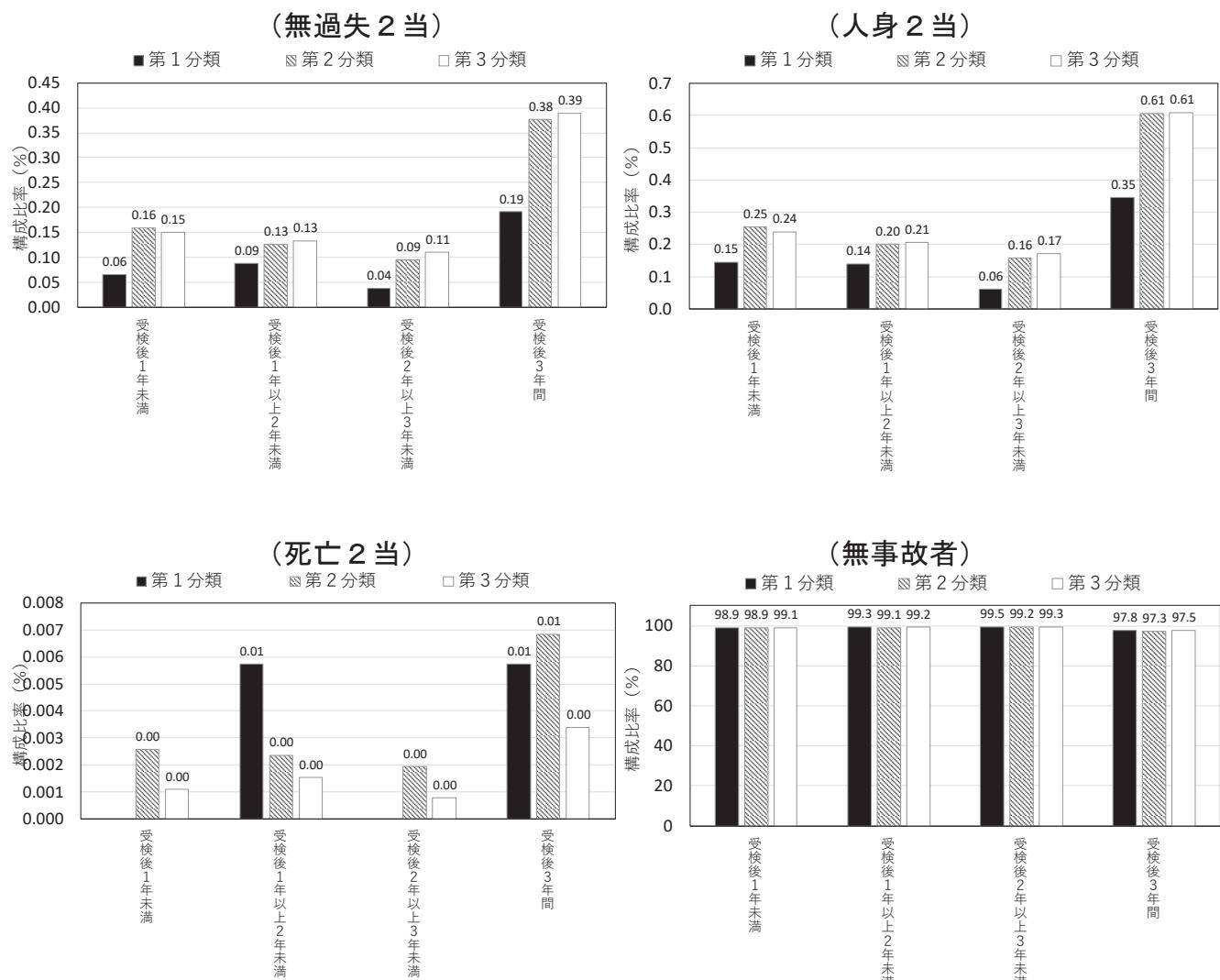
いずれの分類においても、人身1当、人身1当（本人死傷）、死亡1当、死亡1当（本人死亡）の構成比率は経年と共に概ね減少していた。



<付録図1 事故の基本集計（1当）>

受検後3年間の構成比率でみると、

- ・ 無過失2当は第3分類が最も高く、第2分類も同程度に高かった。
- ・ 人身2当は第3分類が最も高く、第2分類も同程度に高かった。
- ・ 死亡2当は第2分類が最も高く、次いで第1分類、第3分類の順で高かった。



<付録図2 事故の基本集計（2当）>

<付録表1 事故の基本集計>

	集計期間	事故者数(人)				構成比率(%)			
		第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
人身1当数	受検後1年未満	487	4,050	6,528	11,065	0.93	0.87	0.71	0.77
	受検後1年以上2年未満	318	3,386	5,716	9,420	0.61	0.72	0.62	0.66
	受検後2年以上3年未満	210	2,829	5,178	8,217	0.40	0.61	0.56	0.57
	受検後3年間	1,001	10,065	17,168	28,234	1.91	2.15	1.87	1.96
人身1当数 (本人死傷)	受検後1年未満	71	572	673	1,316	0.14	0.12	0.07	0.09
	受検後1年以上2年未満	57	401	532	990	0.11	0.09	0.06	0.07
	受検後2年以上3年未満	32	325	483	840	0.06	0.07	0.05	0.06
	受検後3年間	160	1,297	1,686	3,143	0.31	0.28	0.18	0.22
死亡1当数	受検後1年未満	12	71	59	142	0.02	0.02	0.01	0.01
	受検後1年以上2年未満	13	52	65	130	0.02	0.01	0.01	0.01
	受検後2年以上3年未満	9	49	56	114	0.02	0.01	0.01	0.01
	受検後3年間	34	172	180	386	0.06	0.04	0.02	0.03
死亡1当数 (本人死亡)	受検後1年未満	8	45	35	88	0.02	0.01	0.00	0.01
	受検後1年以上2年未満	9	36	35	80	0.02	0.01	0.00	0.01
	受検後2年以上3年未満	9	39	31	79	0.02	0.01	0.00	0.01
	受検後3年間	26	120	101	247	0.05	0.03	0.01	0.02
無過失2当数	受検後1年未満	34	739	1,373	2,146	0.06	0.16	0.15	0.15
	受検後1年以上2年未満	46	589	1,217	1,852	0.09	0.13	0.13	0.13
	受検後2年以上3年未満	20	442	1,010	1,472	0.04	0.09	0.11	0.10
	受検後3年間	100	1,759	3,570	5,429	0.19	0.38	0.39	0.38
人身2当数	受検後1年未満	76	1,189	2,191	3,456	0.15	0.25	0.24	0.24
	受検後1年以上2年未満	73	938	1,887	2,898	0.14	0.20	0.21	0.20
	受検後2年以上3年未満	32	733	1,575	2,340	0.06	0.16	0.17	0.16
	受検後3年間	181	2,829	5,602	8,612	0.35	0.61	0.61	0.60
死亡2当数	受検後1年未満	0	12	10	22	0	0.00	0.00	0.00
	受検後1年以上2年未満	3	11	14	28	0.01	0.00	0.00	0.00
	受検後2年以上3年未満	0	9	7	16	0	0.00	0.00	0.00
	受検後3年間	3	32	31	66	0.01	0.01	0.00	0.00
無事故者	受検後1年未満	51,781	461,916	909,684	1,423,381	98.9	98.9	99.1	99.0
	受検後1年以上2年未満	51,955	462,823	910,795	1,425,573	99.3	99.1	99.2	99.1
	受検後2年以上3年未満	52,102	463,574	911,639	1,427,315	99.5	99.2	99.3	99.3
	受検後3年間	51,167	454,363	895,814	1,401,344	97.8	97.3	97.5	97.5

平成26年に認知機能検査を受検した運転免許保有者数(人)

第1分類	第2分類	第3分類	合計
52,344	467,131	918,366	1,437,841

(2) 事故当事者率、相対事故率、準道路暴露率

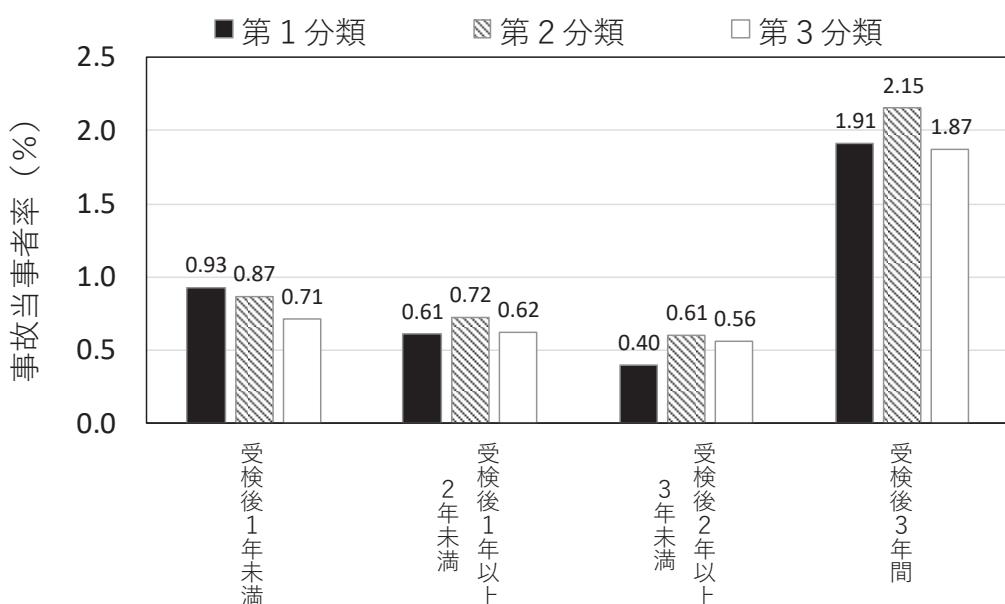
- 事故当事者率は、認知機能検査受検後3年間では第2分類が最も高かった。

- いずれの分類においても経年と共に減少していた。減少は、第1分類、第2分類、第3分類の順で大きかった。

(第1分類 認知機能検査受検後1年未満:0.93% → 2年以上3年未満:0.4% -0.53 ポイント)

(第2分類 認知機能検査受検後1年未満:0.87% → 2年以上3年未満:0.61% -0.26 ポイント)

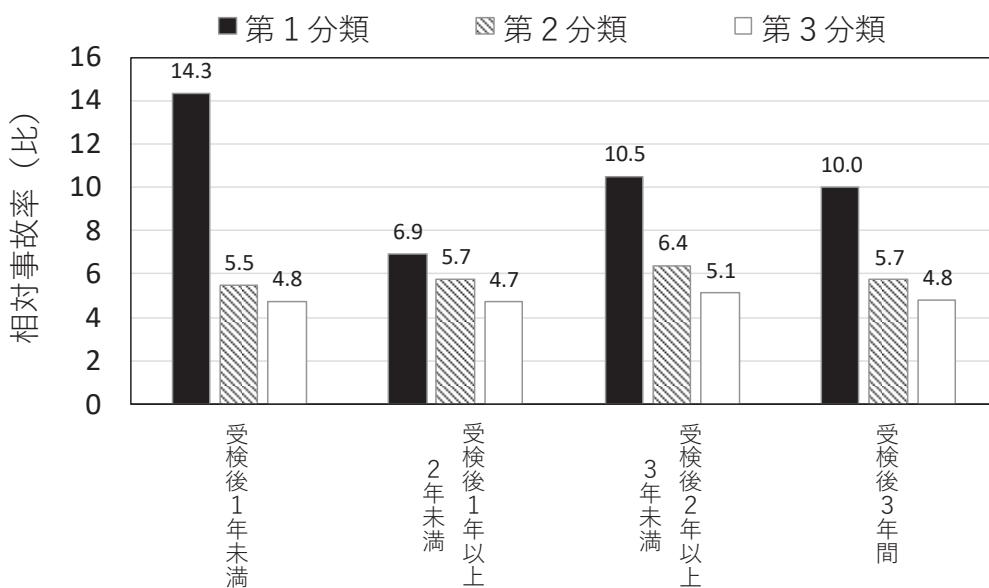
(第3分類 認知機能検査受検後1年未満:0.71% → 2年以上3年未満:0.56% -0.15 ポイント)



	集計期間	第1分類	第2分類	第3分類
事故当事者率 (%)	受検後1年未満	0.93	0.87	0.71
	受検後1年以上2年未満	0.61	0.72	0.62
	受検後2年以上3年未満	0.40	0.61	0.56
	受検後3年間	1.91	2.15	1.87

<付録図3 事故の基本集計(事故当事者率)>

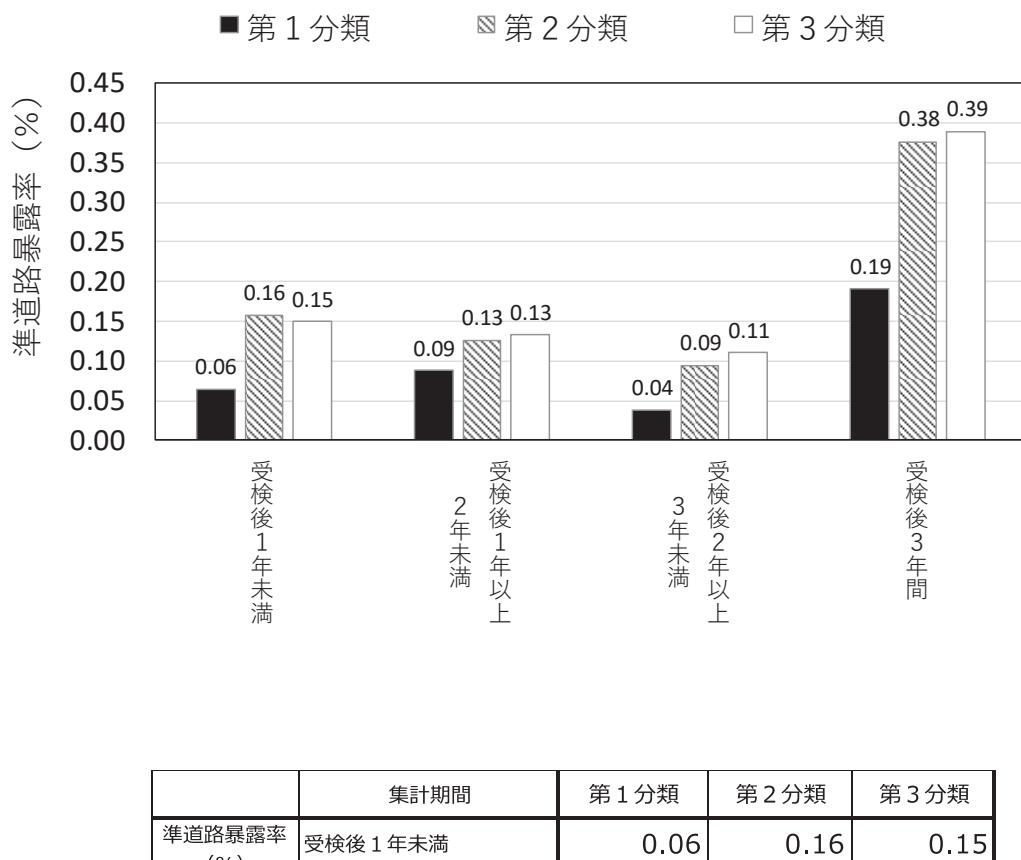
- 相対事故率は、認知機能検査受検後から1年ごと及び3年間の累計いずれの場合も第1分類、第2分類、第3分類の順で高かった。
- 第2分類、第3分類あった者の相対事故率は経年による大きな増減はなかった。
 (第2分類 認知機能検査受検後 1年未満:6.4 → 2年以上3年未満:5.5)
 (第3分類 認知機能検査受検後 1年未満:4.8 → 2年以上3年未満:5.1)



	集計期間	第1分類	第2分類	第3分類
相対事故率 (比)	受検後1年未満	14.3	5.5	4.8
	受検後1年以上2年未満	6.9	5.7	4.7
	受検後2年以上3年未満	10.5	6.4	5.1
	受検後3年間	10.0	5.7	4.8

<付録図4 事故の基本集計（相対事故率）>

- ・ 準道路暴露率は、いずれの期間においても第2分類、第3分類は同程度で、第1分類よりも高かった。いずれの分類も経年による大きな増減はなかった。



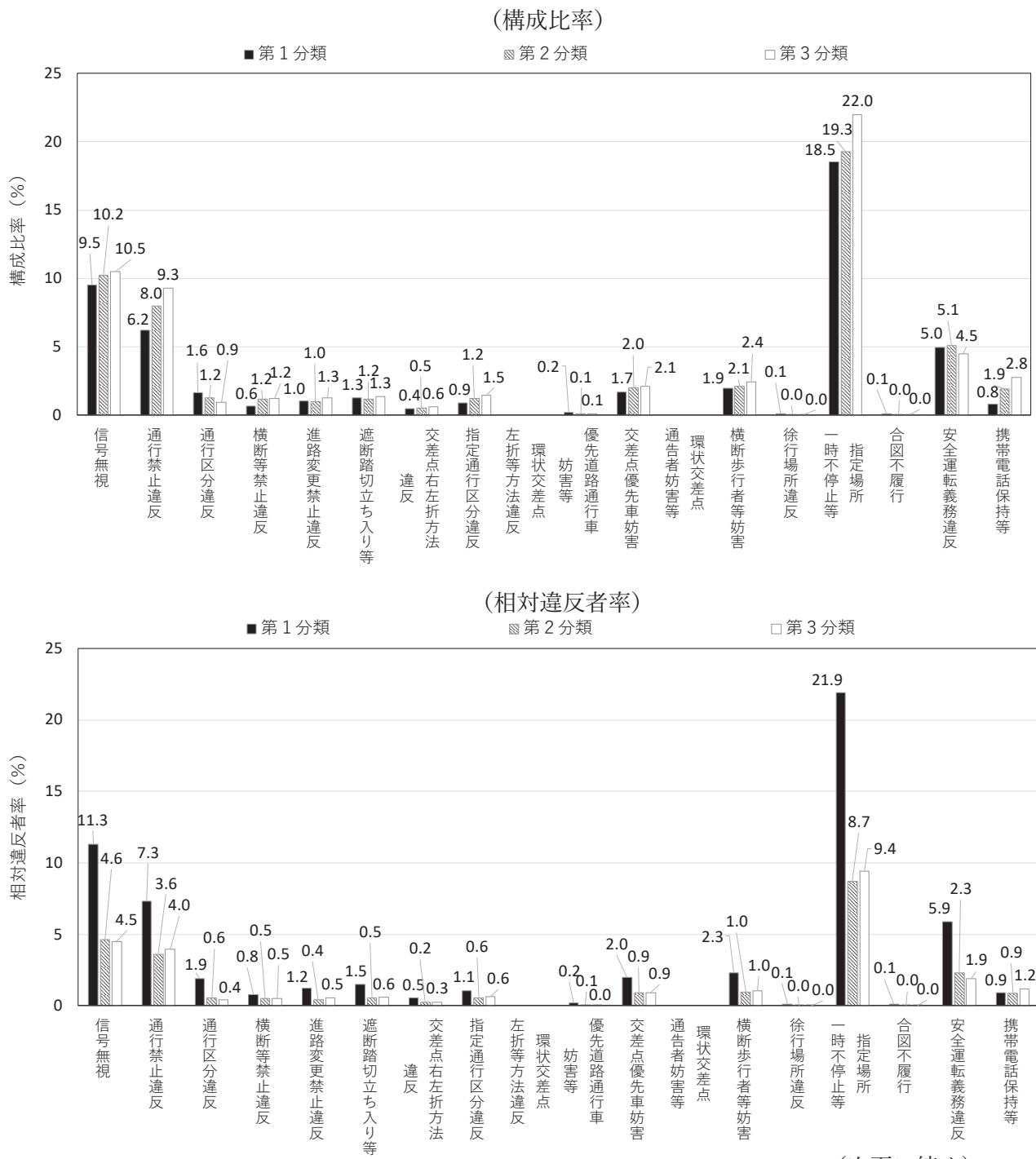
<付録図5 事故の基本集計（準道路暴露率）>

2 検挙違反の基本集計

(1) 期間別

ア 認知機能検査受検後1年未満

- 構成比率では、いずれの分類も「指定場所一時不停止」の割合が最も高く、次いで「信号無視」、「通行禁止違反」が高かった。
- 第1分類の「指定場所一時不停止」の相対違反者率は、第2分類、第3分類と比較して高く、その他違反も同様の傾向があるが、「携帯電話保持等」では第3分類がやや高かった。



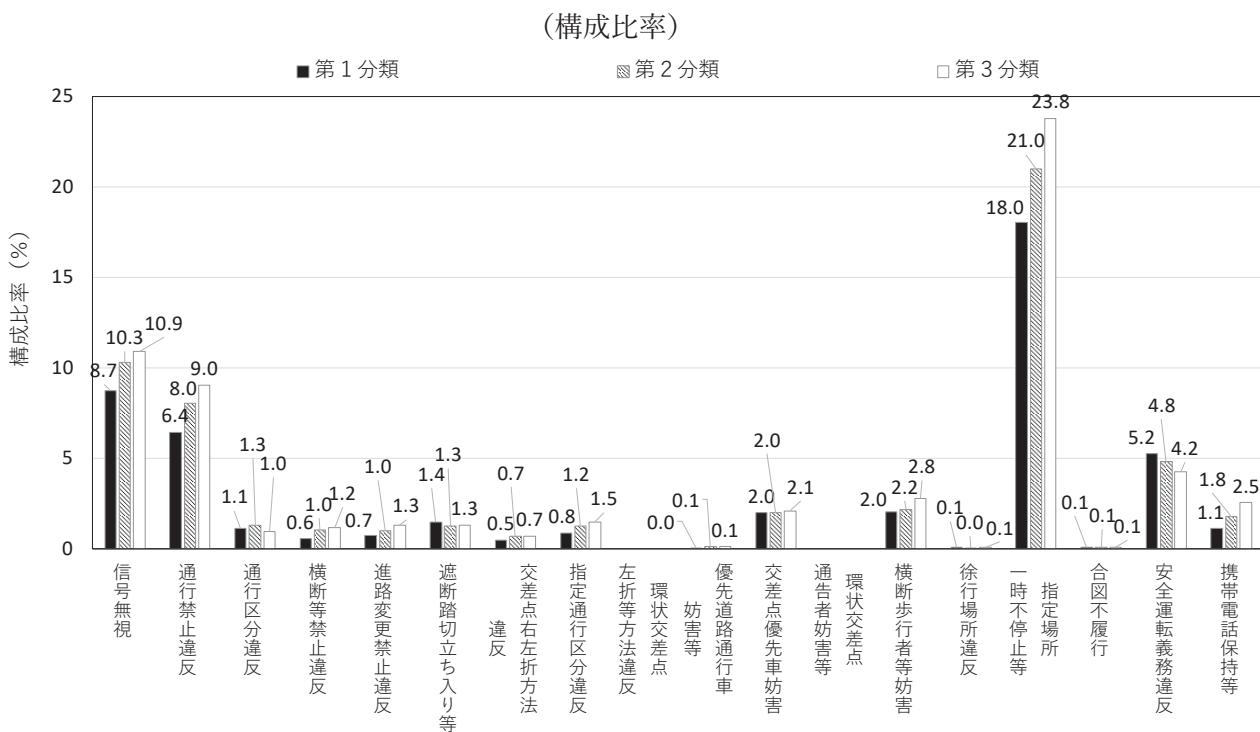
(次頁に続く)

コ ド	違反	違反検挙人数 (人)				構成比率 (%)				相対違反者率 (比)			
		第 1 分類	第 2 分類	第 3 分類	合計	第 1 分類	第 2 分類	第 3 分類	合計	第 1 分類	第 2 分類	第 3 分類	合計
V00	全違反種別	4,027	33,418	58,819	96,264	-	-	-	-	118.4	45.2	42.8	44.9
V01	信号無視	384	3,420	6,176	9,980	9.5	10.2	10.5	10.4	11.3	4.6	4.5	4.7
V02	通行禁止違反	249	2,670	5,452	8,371	6.2	8.0	9.3	8.7	7.3	3.6	4.0	3.9
V03	通行区分違反	65	414	550	1,029	1.6	1.2	0.9	1.1	1.9	0.6	0.4	0.5
V04	横断等禁止違反	26	386	708	1,120	0.6	1.2	1.2	1.2	0.8	0.5	0.5	0.5
V05	進路変更禁止違反	41	320	750	1,111	1.0	1.0	1.3	1.2	1.2	0.4	0.5	0.5
V06	遮断踏切立ち入り等	51	396	789	1,236	1.3	1.2	1.3	1.3	1.5	0.5	0.6	0.6
V07	交差点右左折方法違反	18	174	353	545	0.4	0.5	0.6	0.6	0.5	0.2	0.3	0.3
V08	指定通行区分違反	36	409	853	1,298	0.9	1.2	1.5	1.3	1.1	0.6	0.6	0.6
V09	環状交差点左折等方法違反	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
V10	優先道路通行車妨害等	7	37	57	101	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0
V11	交差点優先車妨害	68	675	1,244	1,987	1.7	2.0	2.1	2.1	2.0	0.9	0.9	0.9
V12	環状交差点通告者妨害等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
V13	横断歩行者等妨害	78	704	1,414	2,196	1.9	2.1	2.4	2.3	2.3	1.0	1.0	1.0
V15	徐行場所違反	4	14	22	40	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
V16	指定場所一時不停止等	745	6,440	12,922	20,107	18.5	19.3	22.0	20.9	21.9	8.7	9.4	9.4
V17	合図不履行	4	16	23	43	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
V18	安全運転義務違反	200	1,693	2,630	4,523	5.0	5.1	4.5	4.7	5.9	2.3	1.9	2.1
V19	携帯電話保持等	31	642	1,623	2,296	0.8	1.9	2.8	2.4	0.9	0.9	1.2	1.1
V20	その他	2,188	16,861	26,552	45,601	54.3	50.5	45.1	47.4	64.4	22.8	19.3	21.2
V20*	その他 (V01からV19のない者)	2,054	15,612	24,549	42,215	51.0	46.7	41.7	43.9	60.4	21.1	17.9	19.7

<付録図 6 検挙違反の基本集計>

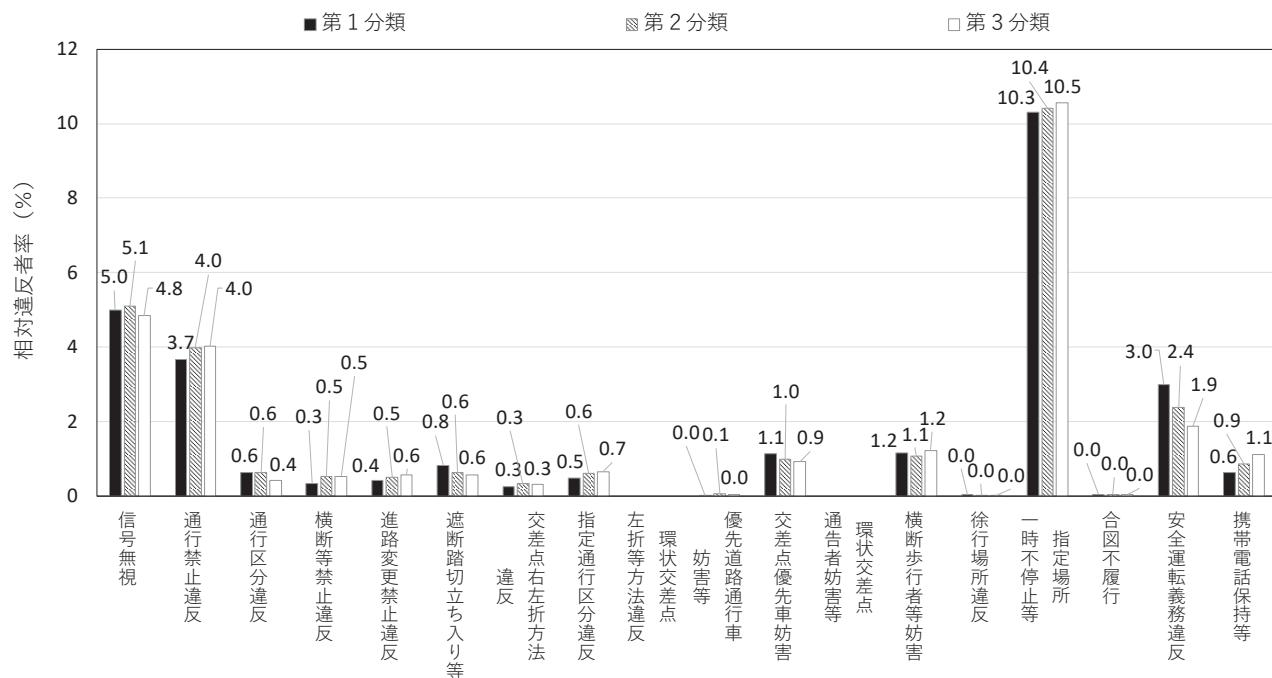
イ 認知機能検査受検後 1 年以上 2 年未満

- 構成比率では、いずれの分類も「指定場所一時不停止」の割合が最も高く、次いで「信号無視」、「通行禁止違反」が高かった。
- 相対違反者率では、「安全運転義務違反」で第 1 分類が第 2 分類、第 3 分類と比較して高いが、その他違反では第 1 分類が第 2 分類、第 3 分類と同程度かやや低かった。



(次頁に続く)

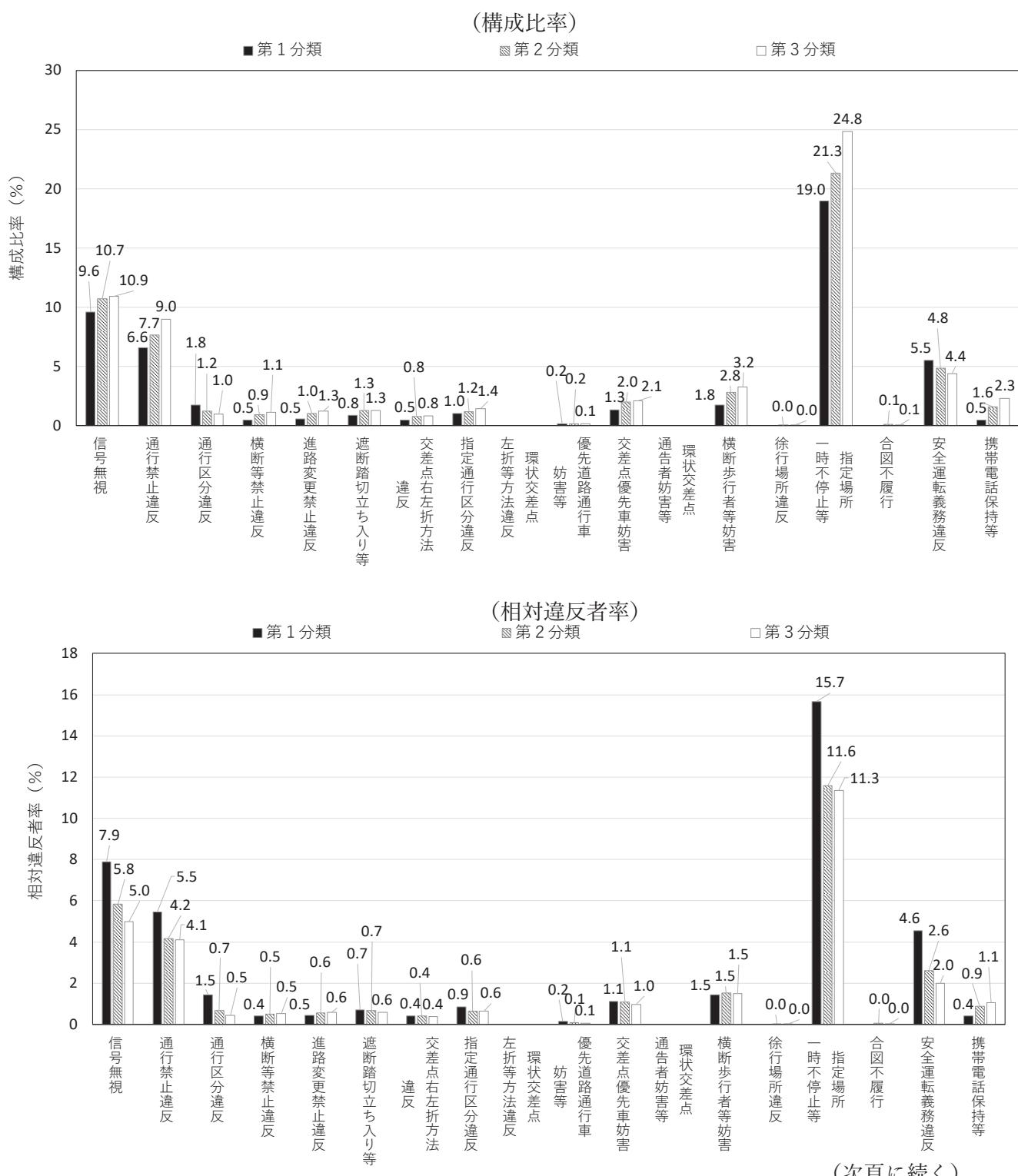
(相対違反者率)



コード	違反	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
		第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V00	全違反種別	2,632	29,217	54,013	85,862	-	-	-	-	57.2	49.6	44.4	46.4
V01	信号無視	230	3,001	5,898	9,129	8.7	10.3	10.9	10.6	5.0	5.1	4.8	4.9
V02	通行禁止違反	169	2,340	4,886	7,395	6.4	8.0	9.0	8.6	3.7	4.0	4.0	4.0
V03	通行区分違反	29	371	519	919	1.1	1.3	1.0	1.1	0.6	0.6	0.4	0.5
V04	横断等禁止違反	15	303	633	951	0.6	1.0	1.2	1.1	0.3	0.5	0.5	0.5
V05	進路変更禁止違反	19	294	695	1,008	0.7	1.0	1.3	1.2	0.4	0.5	0.6	0.5
V06	遮断踏切立ち入り等	38	366	701	1,105	1.4	1.3	1.3	1.3	0.8	0.6	0.6	0.6
V07	交差点右左折方法違反	12	195	374	581	0.5	0.7	0.7	0.7	0.3	0.3	0.3	0.3
V08	指定通行区分違反	22	358	798	1,178	0.8	1.2	1.5	1.4	0.5	0.6	0.7	0.6
V09	環状交差点左折等方法違反	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
V10	優先道路通行車妨害等	1	36	58	95	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
V11	交差点優先車妨害	52	584	1,119	1,755	2.0	2.0	2.1	2.0	1.1	1.0	0.9	0.9
V12	環状交差点通告者妨害等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
V13	横断歩行者等妨害	53	631	1,488	2,172	2.0	2.2	2.8	2.5	1.2	1.1	1.2	1.2
V15	徐行場所違反	2	12	28	42	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
V16	指定場所一時不停止等	474	6,137	12,838	19,449	18.0	21.0	23.8	22.7	10.3	10.4	10.5	10.5
V17	合図不履行	2	21	42	65	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
V18	安全運転義務違反	138	1,403	2,285	3,826	5.2	4.8	4.2	4.5	3.0	2.4	1.9	2.1
V19	携帯電話保持等	29	512	1,368	1,909	1.1	1.8	2.5	2.2	0.6	0.9	1.1	1.0
V20	その他	1,472	14,434	23,330	39,236	55.9	49.4	43.2	45.7	32.0	24.5	19.2	21.2
V20*	その他(V01からV19のない者)	1,389	13,367	21,609	36,365	52.8	45.8	40.0	42.4	30.2	22.7	17.8	19.6

ウ 2014 年中の認知機能検査受検後 2 年以上 3 年未満

- 構成比率では、いずれの分類も「指定場所一時不停止」の割合が最も高く、次いで「信号無視」、「通行禁止違反」が高かった。
- 第 1 分類の「指定場所一時不停止」の相対違反者率は、第 2 分類、第 3 分類と比較して高く、その他違反も同様の傾向があるが、「携帯電話保持等」では第 3 分類がやや高かった。



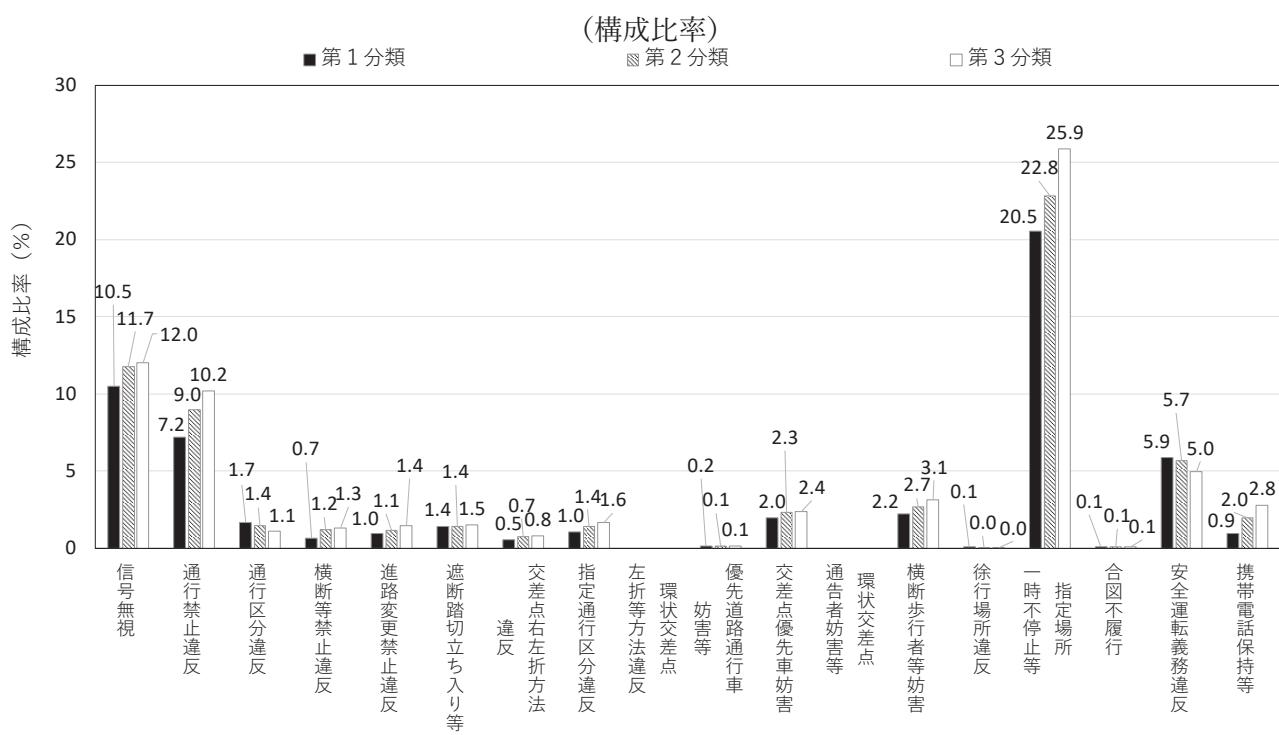
(次頁に続く)

コ ード	違反	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
		第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V00	全違反種別	1,650	23,987	46,194	71,831	-	-	-	-	82.5	54.3	45.7	48.8
V01	信号無視	158	2,574	5,039	7,771	9.6	10.7	10.9	10.8	7.9	5.8	5.0	5.3
V02	通行禁止違反	109	1,840	4,151	6,100	6.6	7.7	9.0	8.5	5.5	4.2	4.1	4.1
V03	通行区分違反	29	296	458	783	1.8	1.2	1.0	1.1	1.5	0.7	0.5	0.5
V04	横断等禁止違反	8	224	519	751	0.5	0.9	1.1	1.0	0.4	0.5	0.5	0.5
V05	進路変更禁止違反	9	245	579	833	0.5	1.0	1.3	1.2	0.5	0.6	0.6	0.6
V06	遮断踏切立ち入り等	14	301	589	904	0.8	1.3	1.3	1.3	0.7	0.7	0.6	0.6
V07	交差点右左折方法違反	8	186	381	575	0.5	0.8	0.8	0.8	0.4	0.4	0.4	0.4
V08	指定通行区分違反	17	286	656	959	1.0	1.2	1.4	1.3	0.9	0.6	0.6	0.7
V09	環状交差点左折等方法違反	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
V10	優先道路通行車妨害等	3	38	66	107	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1
V11	交差点優先車妨害	22	479	973	1,474	1.3	2.0	2.1	2.1	1.1	1.1	1.0	1.0
V12	環状交差点通告者妨害等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
V13	横断歩行者等妨害	29	674	1,498	2,201	1.8	2.8	3.2	3.1	1.5	1.5	1.5	1.5
V15	徐行場所違反	0	7	19	26	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
V16	指定場所一時不停止等	313	5,117	11,460	16,890	19.0	21.3	24.8	23.5	15.7	11.6	11.3	11.5
V17	合図不履行	0	20	36	56	0	0.1	0.1	0.1	0	0.0	0.0	0.0
V18	安全運転義務違反	91	1,158	2,023	3,272	5.5	4.8	4.4	4.6	4.6	2.6	2.0	2.2
V19	携帯電話保持等	8	384	1,072	1,464	0.5	1.6	2.3	2.0	0.4	0.9	1.1	1.0
V20	その他	919	11,597	19,132	31,648	55.7	48.3	41.4	44.1	46.0	26.2	18.9	21.5
V20*	その他(V01からV19のない者)	861	10,740	17,848	29,449	52.2	44.8	38.6	41.0	43.1	24.3	17.7	20.0

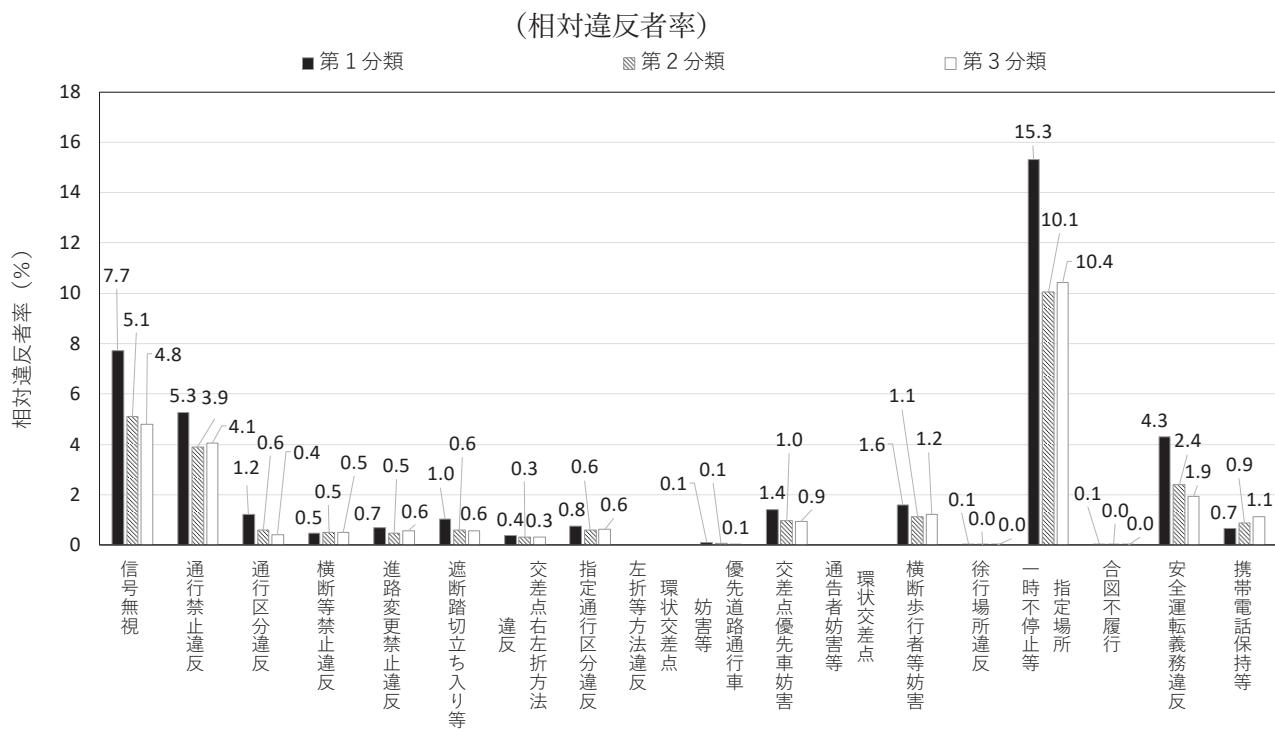
＜付録図8 検挙違反の基本集計（認知機能検査受検後2年以上3年未満）＞

エ 2014年中の認知機能検査受検後3年間

- 構成比率では、いずれの分類も「指定場所一時不停止」の割合が最も高く、次いで「信号無視」、「通行禁止違反」が高かった。
- 第1分類の「指定場所一時不停止」の相対違反者率は、第2分類、第3分類と比較して高く、その他違反も同様の傾向があるが、「携帯電話保持等」では第3分類がやや高かった。



(次頁に続く)



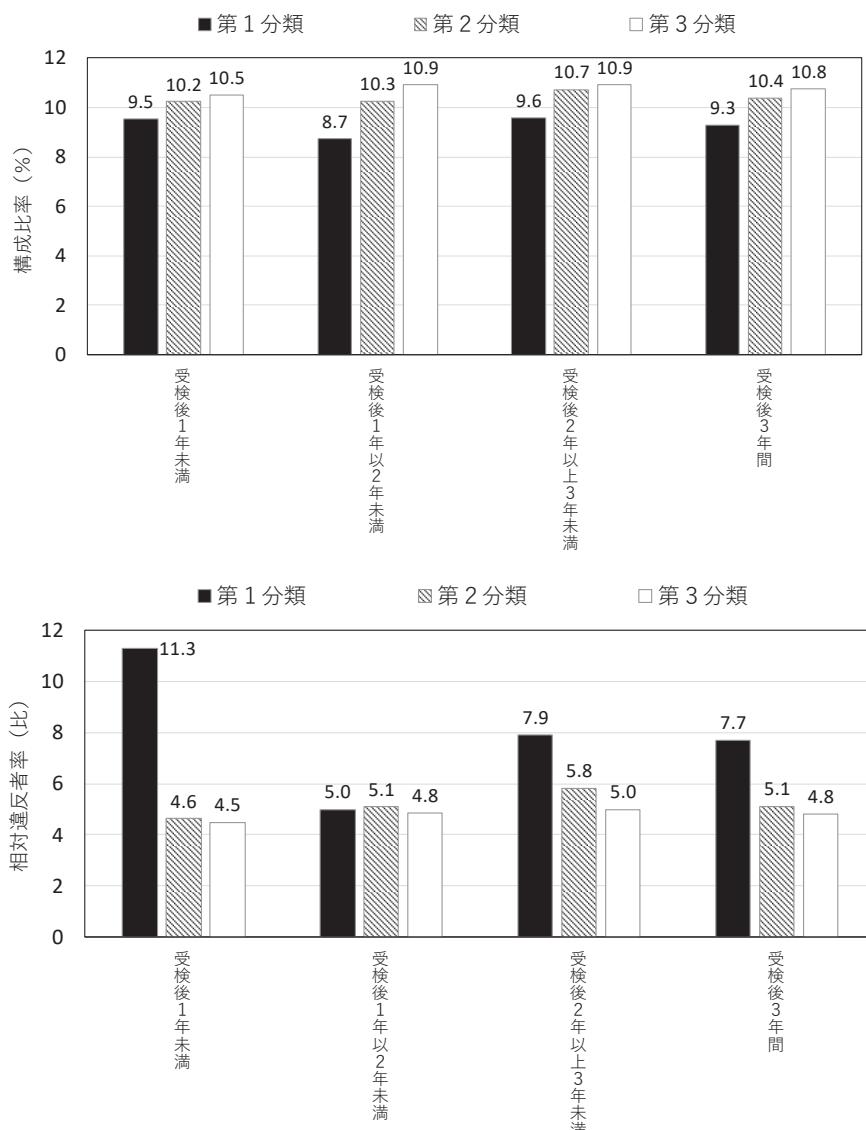
コード	違反	違反検挙人数 (人)				構成比率 (%)				相対違反者率 (比)			
		第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V00	全違反種別	7,247	74,244	138,694	220,185	-	-	-	-	83.1	49.2	44.5	46.8
V01	信号無視	760	8,723	16,679	26,162	10.5	11.7	12.0	11.9	7.7	5.1	4.8	5.0
V02	通行禁止違反	520	6,674	14,103	21,297	7.2	9.0	10.2	9.7	5.3	3.9	4.1	4.0
V03	通行区分違反	120	1,066	1,514	2,700	1.7	1.4	1.1	1.2	1.2	0.6	0.4	0.5
V04	横断等禁止違反	48	899	1,842	2,789	0.7	1.2	1.3	1.3	0.5	0.5	0.5	0.5
V05	進路変更禁止違反	69	842	1,994	2,905	1.0	1.1	1.4	1.3	0.7	0.5	0.6	0.5
V06	遮断踏切立ち入り等違反	103	1,055	2,063	3,221	1.4	1.4	1.5	1.5	1.0	0.6	0.6	0.6
V07	交差点右左折方法違反	38	539	1,080	1,657	0.5	0.7	0.8	0.8	0.4	0.3	0.3	0.3
V08	指定通行区分違反	75	1,029	2,269	3,373	1.0	1.4	1.6	1.5	0.8	0.6	0.6	0.6
V09	環状交差点左折等方法違反	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
V10	優先道路通行車妨害等	11	111	181	303	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
V11	交差点優先車妨害	142	1,727	3,323	5,192	2.0	2.3	2.4	2.4	1.4	1.0	0.9	1.0
V12	環状交差点通告者妨害等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
V13	横断歩行者等妨害	159	1,994	4,366	6,519	2.2	2.7	3.1	3.0	1.6	1.1	1.2	1.2
V15	徐行場所違反	6	33	69	108	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
V16	指定場所一時不停止等	1,487	16,956	35,867	54,310	20.5	22.8	25.9	24.7	15.3	10.1	10.4	10.4
V17	合図不履行	6	57	101	164	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
V18	安全運転義務違反	425	4,201	6,890	11,516	5.9	5.7	5.0	5.2	4.3	2.4	1.9	2.1
V19	携帯電話保持等	67	1,474	3,885	5,426	0.9	2.0	2.8	2.5	0.7	0.9	1.1	1.0
V20	その他	3,981	37,824	62,556	104,361	54.9	50.9	45.1	47.4	45.8	24.4	19.3	21.5
V20*	その他 (V01からV19のない者)	3,452	31,444	51,720	86,616	47.6	42.4	37.3	39.3	43.0	22.6	17.9	19.9

<付録図9 検挙違反の基本集計 (認知機能検査受検後3年間) >

(2) 検挙違反の経年変化

ア 信号無視

- 構成比率は、いずれの分類も経年と共に大きな変化はなかった。また、受検後3年間では、第3分類が最も高かった。
- 相対違反者率はいずれの期間においても概ね第1分類が最も高かった。ただし、1年以上2年未満では、第2分類、第3分類と同程度であった。また、第2分類及び第3分類に大きな差はなかった。

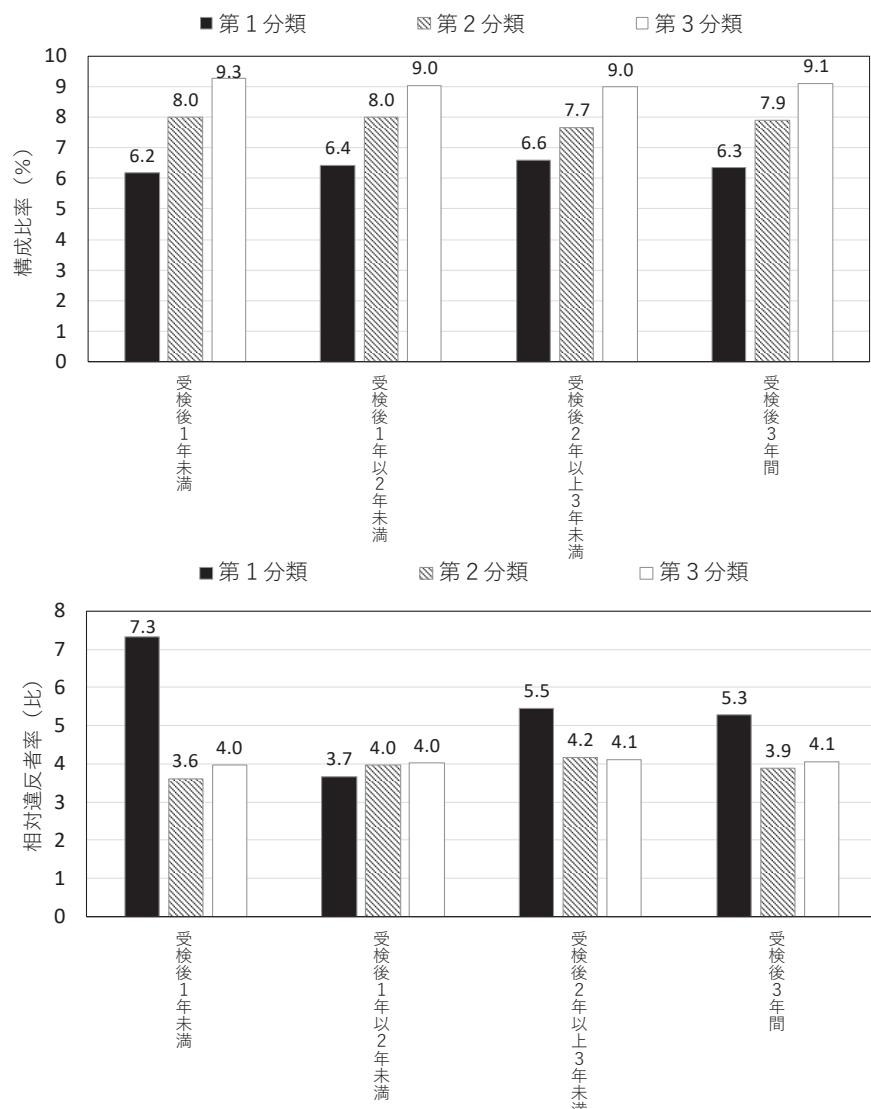


コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V01	信号無視	受検後1年未満	384	3,420	6,176	9,980	9.5	10.2	10.5	10.4	11.3	4.6	4.5	4.7
		受検後1年以2年未満	230	3,001	5,898	9,129	8.7	10.3	10.9	10.6	5.0	5.1	4.8	4.9
		受検後2年以上3年未満	158	2,574	5,039	7,771	9.6	10.7	10.9	10.8	7.9	5.8	5.0	5.3
		受検後3年間	772	8,995	17,113	26,880	9.3	10.4	10.8	10.6	7.7	5.1	4.8	5.0

<付録図 10 信号無視>

イ 通行禁止違反

- 構成比率は、いずれの分類も経年と共に大きな変化はなかった。また、受検後3年間では、第3分類が最も高かった。
- 相対違反者率はいずれの期間においても概ね第1分類が高かった。ただし、1年以上2年未満では、第2分類、第3分類と同程度であった。また、第2分類及び第3分類に大きな差はなかった。

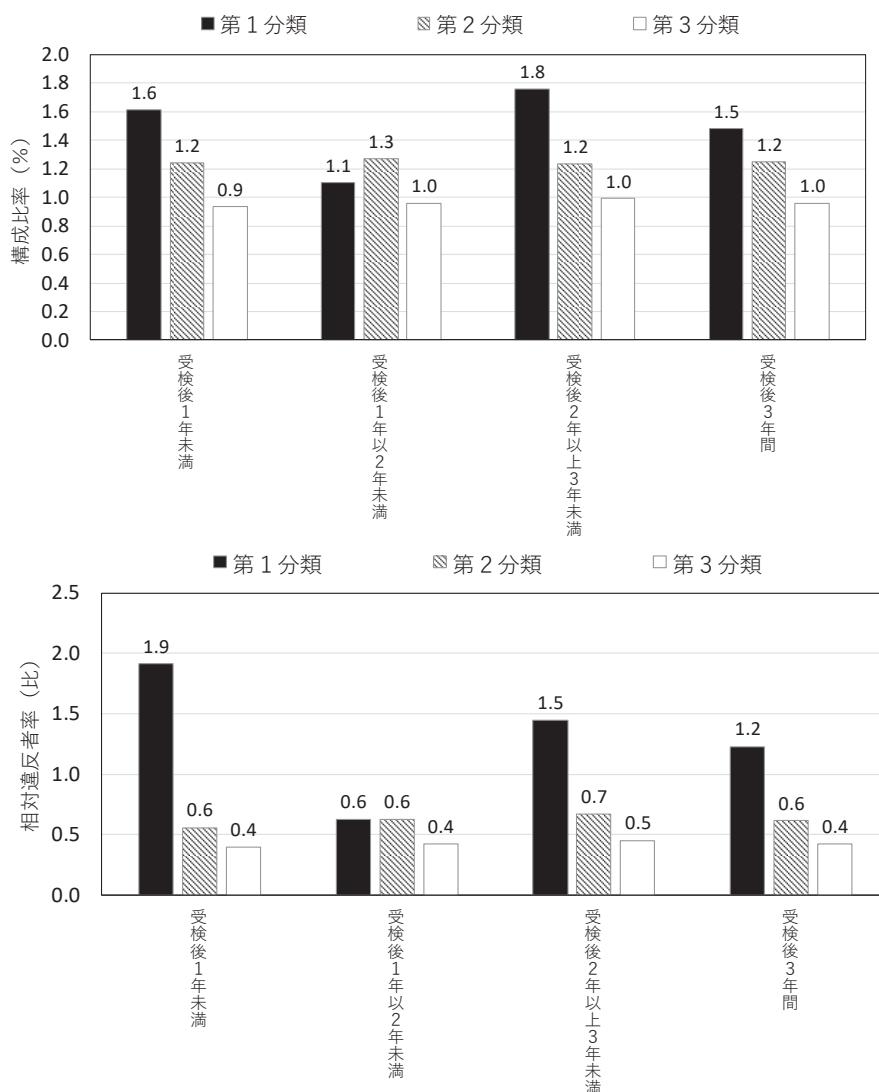


コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V02	通行禁止違反	受検後1年未満	249	2,670	5,452	8,371	6.2	8.0	9.3	8.7	7.3	3.6	4.0	3.9
		受検後1年以2年未満	169	2,340	4,886	7,395	6.4	8.0	9.0	8.6	3.7	4.0	4.0	4.0
		受検後2年以上3年未満	109	1,840	4,151	6,100	6.6	7.7	9.0	8.5	5.5	4.2	4.1	4.1
		受検後3年間	527	6,850	14,489	21,866	6.3	7.9	9.1	8.6	5.3	3.9	4.1	4.0

＜付録図11 通行禁止違反＞

ウ 通行区分違反

- 構成比率は、第1分類では受検後1年以上2年未満が最も低く、第2分類は受検後1年以上2年未満が最も高かった。第3分類は経年による大きな増減はなかった。受検後3年間では、第1分類が最も高かった。
- 相対違反者率は、第1分類では受検後1年以上2年未満で一旦減少し、受検後2年以上3年未満では増加に転じた。第2分類、第3分類では経年による大きな増減はなく、受検後3年間では、第1分類が最も高かった。

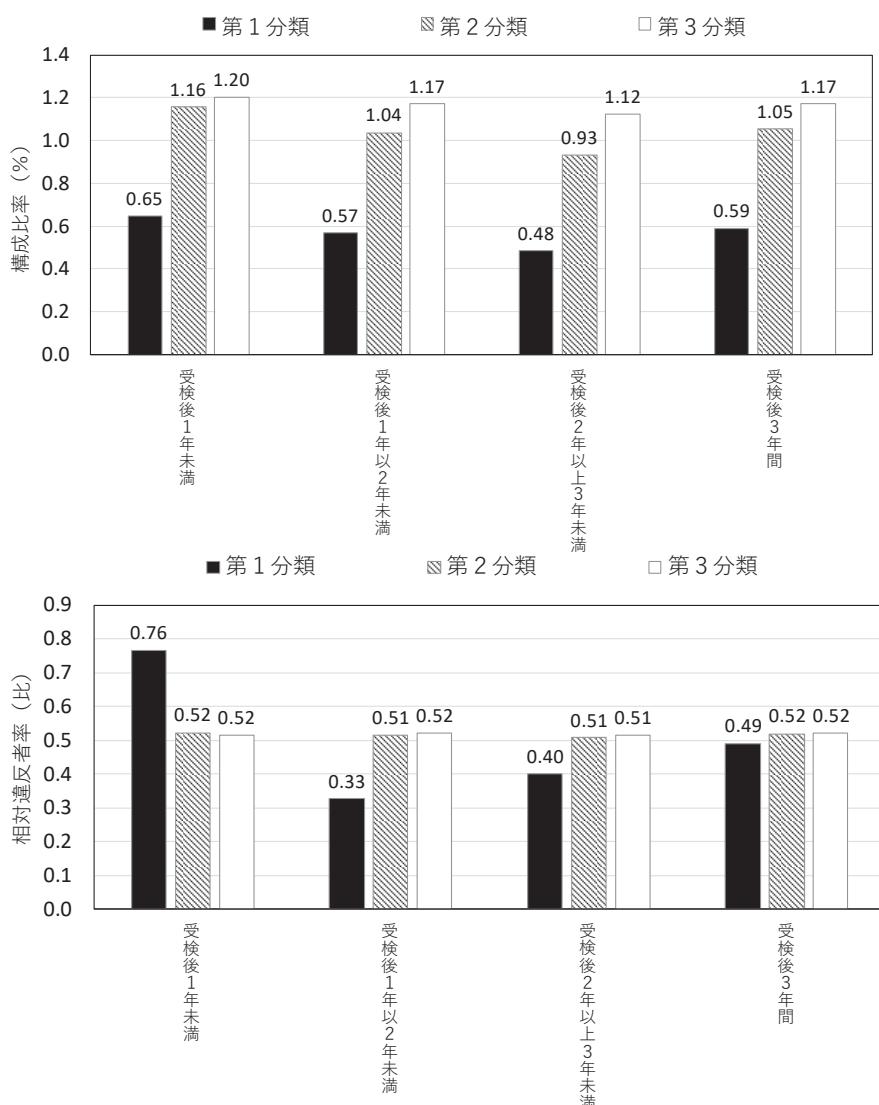


コ イ ド	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V03	通行区分違反	受検後1年未満	65	414	550	1,029	1.6	1.2	0.9	1.1	1.9	0.6	0.4	0.5
		受検後1年以2年未満	29	371	519	919	1.1	1.3	1.0	1.1	0.6	0.6	0.4	0.5
		受検後2年以上3年未満	29	296	458	783	1.8	1.2	1.0	1.1	1.5	0.7	0.5	0.5
		受検後3年間	123	1,081	1,527	2,731	1.5	1.2	1.0	1.1	1.2	0.6	0.4	0.5

＜付録図12 通行区分違反＞

工 横断等禁止違反

- 構成比率は、全ての分類で経年による大きな増減はなかった。また、受検後3年間では、第3分類が最も高かった。
- 相対違反者率は、受検後1年未満では第1分類が最も高いが1年以上の期間では、第2分類、第3分類より低かった。第2分類及び第3分類は経年による大きな増減はなかった。

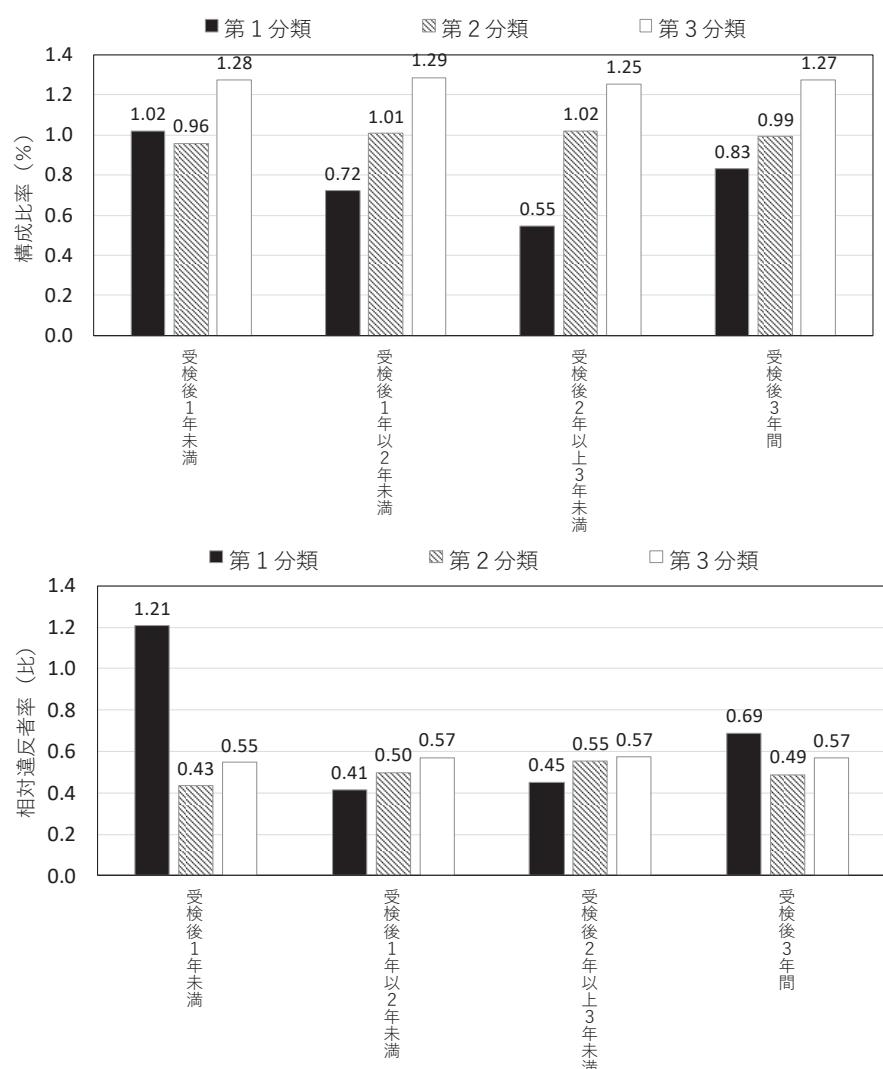


コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V04	横断等禁止違反	受検後1年未満	26	386	708	1,120	0.6	1.2	1.2	1.2	0.8	0.5	0.5	0.5
		受検後1年以2年未満	15	303	633	951	0.6	1.0	1.2	1.1	0.3	0.5	0.5	0.5
		受検後2年以上3年未満	8	224	519	751	0.5	0.9	1.1	1.0	0.4	0.5	0.5	0.5
		受検後3年間	49	913	1,860	2,822	0.6	1.1	1.2	1.1	0.5	0.5	0.5	0.5

<付録図13 横断等禁止違反>

才 進路変更禁止違反

- 構成比率は、第2分類、第3分類は経年による大きな増減はなかった。第1分類は経年により減少する傾向にあった。また、受検後3年間では、第3分類が最も高かった。
- 相対違反者率は、受検後1年未満では第1分類が最も高いが1年以上の期間では、第2分類、第3分類より低かった。受検後3年間では、第1分類が最も高かった。

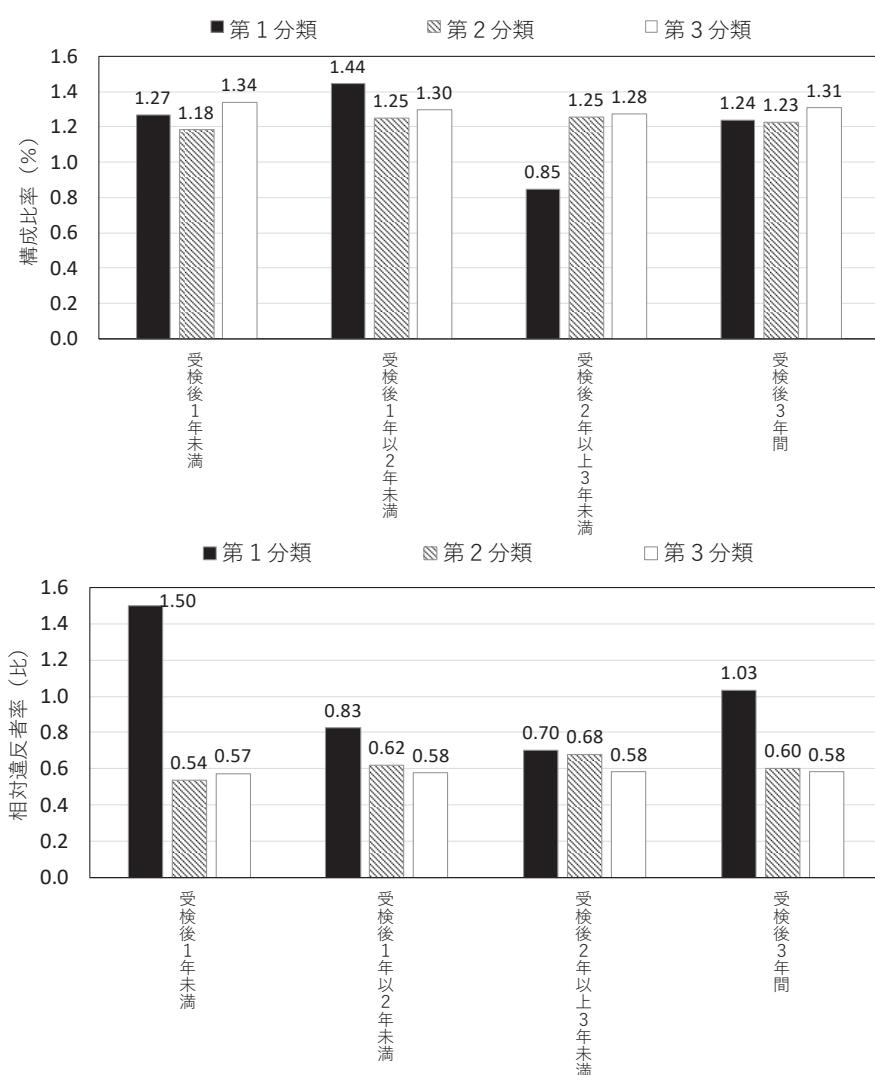


コ ー ド	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V05	進路変更禁止違 反	受検後1年未満	41	320	750	1,111	1.0	1.0	1.3	1.2	1.2	0.4	0.5	0.5
		受検後1年以2年未満	19	294	695	1,008	0.7	1.0	1.3	1.2	0.4	0.5	0.6	0.5
		受検後2年以上3年未満	9	245	579	833	0.5	1.0	1.3	1.2	0.5	0.6	0.6	0.6
		受検後3年間	69	859	2,024	2,952	0.8	1.0	1.3	1.2	0.7	0.5	0.6	0.5

<付録図 14 進路変更禁止違反>

力 遮断踏切立ち入り等

- 構成比率は、第2分類、第3分類は経年による大きな増減はなかった。第1分類は1年以上2年未満で一旦増加するが、2年以上3年未満で減少に転じた。
- 相対違反者率は、第1分類は受検後1年未満が最も高く、2年以上3年未満でその他の分類と同程度となった。第2分類、第3分類は経年で大きな変化はなかった。受検後3年間では、第1分類が最も高かった。

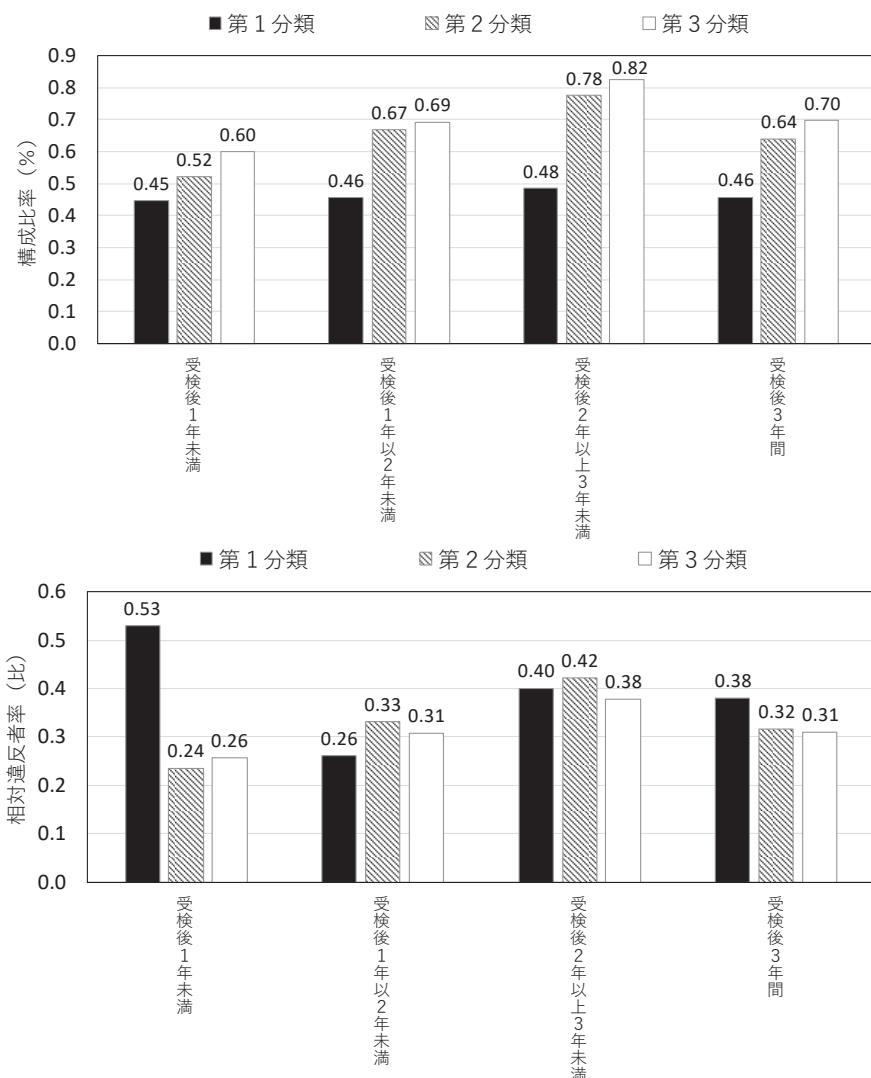


コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V06	遮断踏切立ち入り等	受検後1年未満	51	396	789	1,236	1.3	1.2	1.3	1.3	1.5	0.5	0.6	0.6
		受検後1年以上2年未満	38	366	701	1,105	1.4	1.3	1.3	1.3	0.8	0.6	0.6	0.6
		受検後2年以上3年未満	14	301	589	904	0.8	1.3	1.3	1.3	0.7	0.7	0.6	0.6
		受検後3年間	103	1,063	2,079	3,245	1.2	1.2	1.3	1.3	1.0	0.6	0.6	0.6

<付録図 15 遮断踏切立ち入り等>

キ 交差点右左折方法違反

- 構成比率は、第2分類、第3分類は経年と共に概ね増加傾向にあった。第1分類は経年による大きな増減はなかった。受検後3年間では、第3分類が最も高かった。
- 相対違反者率は、受検後1年未満は第1分類が最も高く、2年以上3年未満でその他分類と同程度となった。第2分類、第3分類は経年で増加傾向にあった。受検後3年間では、第1分類が最も高かった。

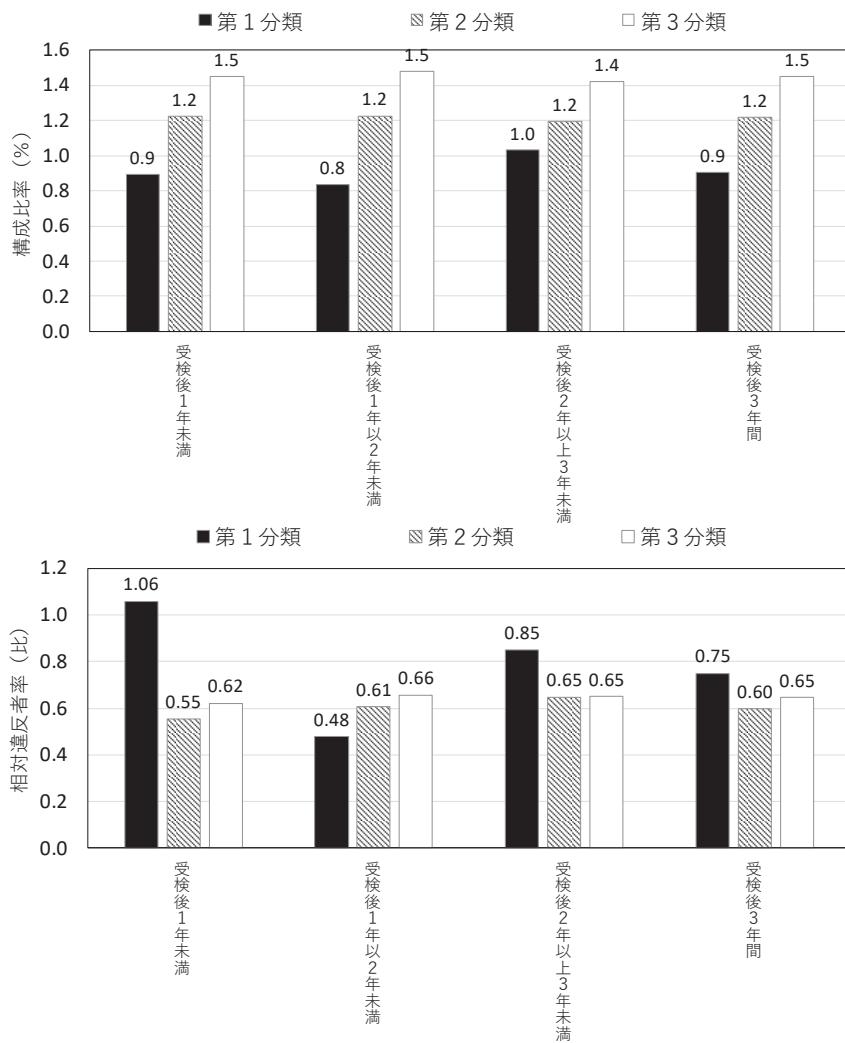


コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V07	交差点右左折方法違反	受検後1年未満	18	174	353	545	0.4	0.5	0.6	0.6	0.5	0.2	0.3	0.3
		受検後1年以2年未満	12	195	374	581	0.5	0.7	0.7	0.7	0.3	0.3	0.3	0.3
		受検後2年以上3年未満	8	186	381	575	0.5	0.8	0.8	0.8	0.4	0.4	0.4	0.4
		受検後3年間	38	555	1,108	1,701	0.5	0.6	0.7	0.7	0.4	0.3	0.3	0.3

<付録図 16 遮断踏切立ち入り等>

ク 指定通行区分違反

- 構成比率は、いずれの分類も経年による大きな増減はなかった。また、受検後3年間では、第3分類が最も高かった。
- 相対違反者率は、第1分類は受検後1年未満が最も高く、1年以上2年未満で一旦減少するが、2年以上3年未満で増加に転じた。第2分類、第3分類は経年による大きな増減はなかった。受検後3年間では、第1分類が最も高かった。



コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V08	指定通行区分違反	受検後1年未満	36	409	853	1,298	0.9	1.2	1.5	1.3	1.1	0.6	0.6	0.6
		受検後1年以上2年未満	22	358	798	1,178	0.8	1.2	1.5	1.4	0.5	0.6	0.7	0.6
		受検後2年以上3年未満	17	286	656	959	1.0	1.2	1.4	1.3	0.9	0.6	0.6	0.7
		受検後3年間	75	1,053	2,307	3,435	0.9	1.2	1.5	1.4	0.8	0.6	0.6	0.6

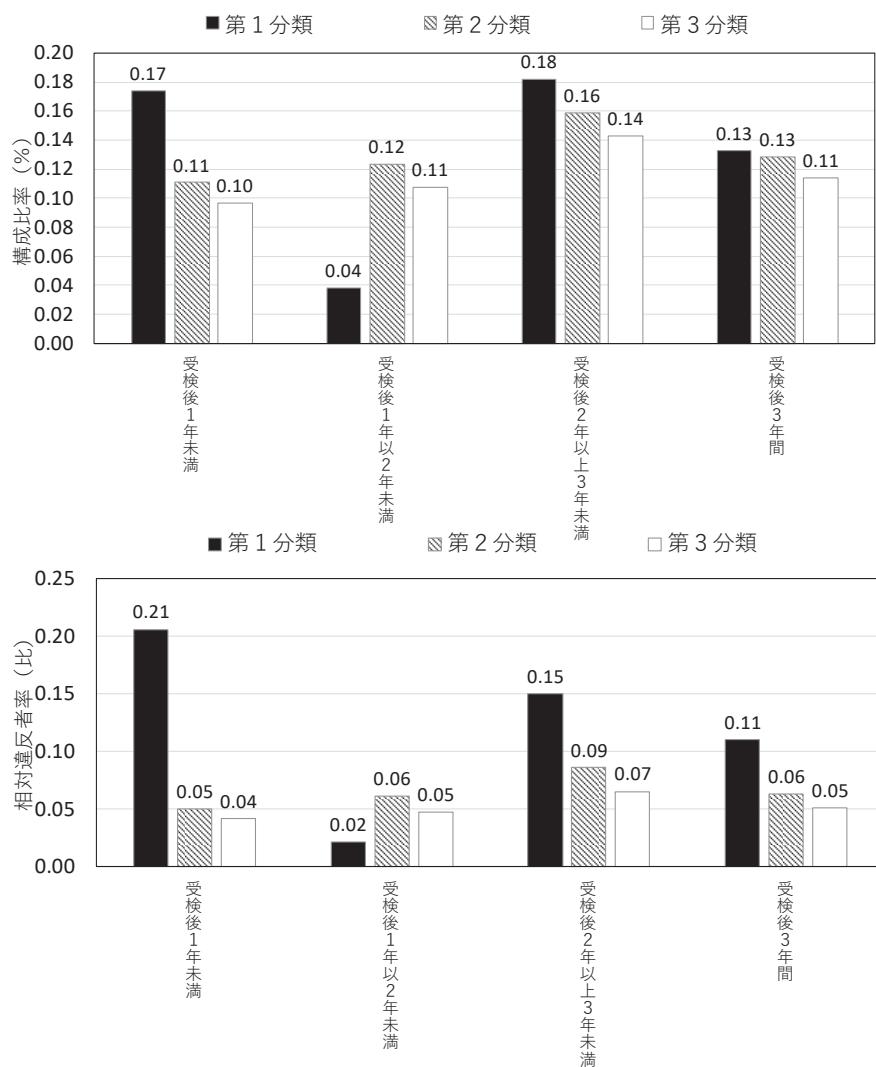
<付録図 17 指定通行区分違反>

ケ 環状交差点左折等方法違反

認知機能検査受検後3年間の内に当該違反で検挙された者はいなかった。

コ 優先道路通行車妨害等

- いずれの分類、いずれの期間においても構成比率が0.2%未満と、当該違反で検挙された者は非常に少なかった。
- 構成比率は、第1分類は1年以上2年未満で一旦減少するが、2年以上3年未満で増加に転じた。第2分類、第3分類は経年で増加傾向にあった。受検後3年間では、分類間に大きな差はなかった。
- 相対違反者率は、第1分類は受検後1年未満が最も高く、1年以上2年未満で一旦減少するが、2年以上3年未満で増加に転じた。第2分類、第3分類は経年で増加傾向にあった。受検後3年間では、第1分類が最も高かった。

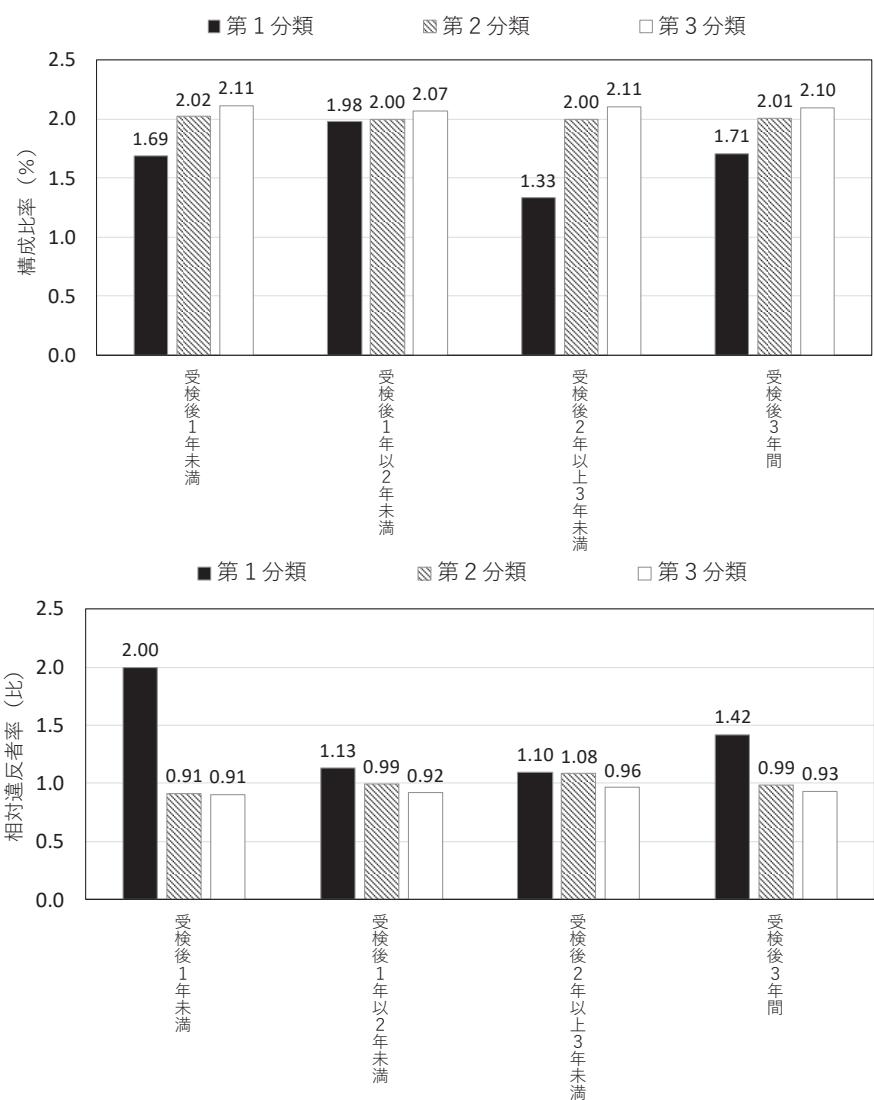


コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V10	優先道路通行車 妨害等	受検後1年未満	7	37	57	101	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0
		受検後1年以2年未満	1	36	58	95	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
		受検後2年以上3年未満	3	38	66	107	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1
		受検後3年間	11	111	181	303	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

<付録図 18 優先道路通行車妨害等>

サ 交差点優先車妨害

- 構成比率は、第1分類は1年以上2年未満で一旦増加するが、2年以上3年未満で減少に転じた。第2分類、第3分類は経年で大きな増減はなかった。受検後3年間では、3分類が最も高かった。
- 相対違反者率は、第1分類は経年により減少傾向にあった。第2分類、第3分類は経年で大きな増減はなかった。全ての分類が同程度となった。受検後3年間では、第1分類が最も高かった。



コ イ ド	違反	集計期間	違反検挙人数				構成比(%)				相対違反者率			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V11	交差点優先車妨害	受検後1年未満	68	675	1,244	1,987	1.7	2.0	2.1	2.1	2.0	0.9	0.9	0.9
		受検後1年以上2年未満	52	584	1,119	1,755	2.0	2.0	2.1	2.0	1.1	1.0	0.9	0.9
		受検後2年以上3年未満	22	479	973	1,474	1.3	2.0	2.1	2.1	1.1	1.1	1.0	1.0
		受検後3年間	142	1,738	3,336	5,216	1.7	2.0	2.1	2.1	1.4	1.0	0.9	1.0

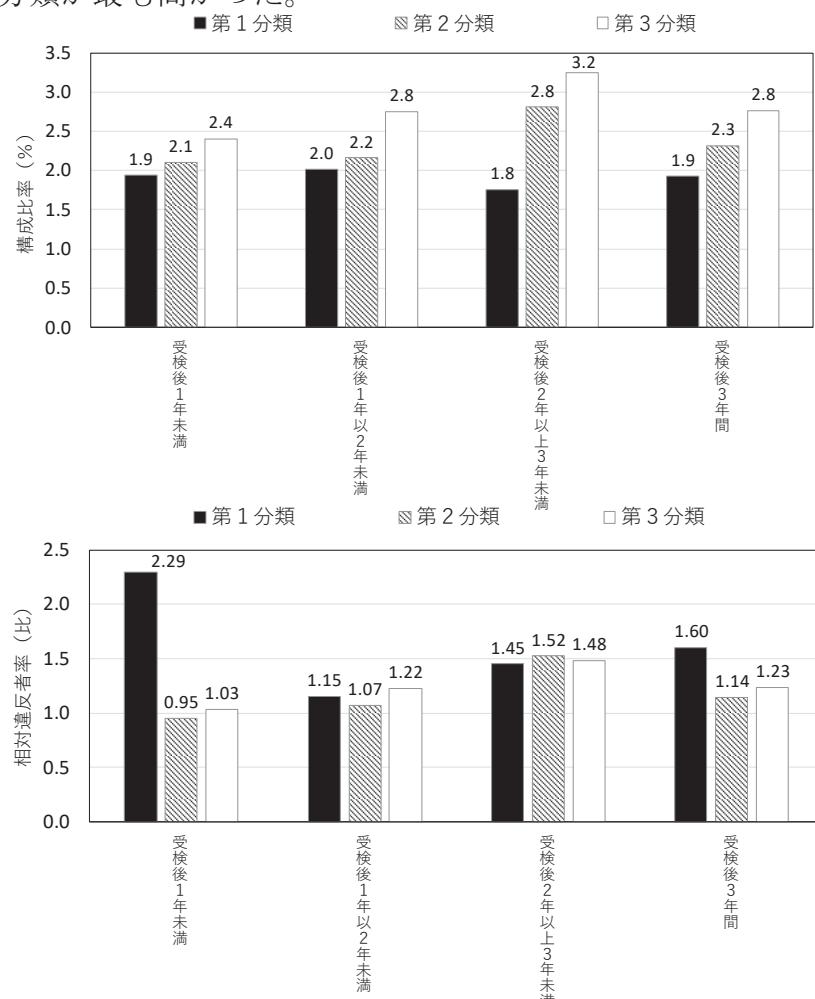
<付録図19 交差点優先車妨害>

シ 環状交差点通告者妨害等

認知機能検査受検後3年間の内に当該違反で検挙された者はいなかつた。

ス 横断歩行者等妨害

- 構成比率は、第2分類、第3分類は経年で増加する傾向にあった。第1分類は、経年による大きな増減はなかった。また、受検後3年間では、第3分類が最も高かった。
- 相対違反者率は、第1分類は受検後1年未満が最も高く、1年以上2年未満で一旦減少するが、2年以上3年未満で増加に転じた。第2分類、第3分類は経年で増加傾向にあった。受検後3年間では、第1分類が最も高かった。

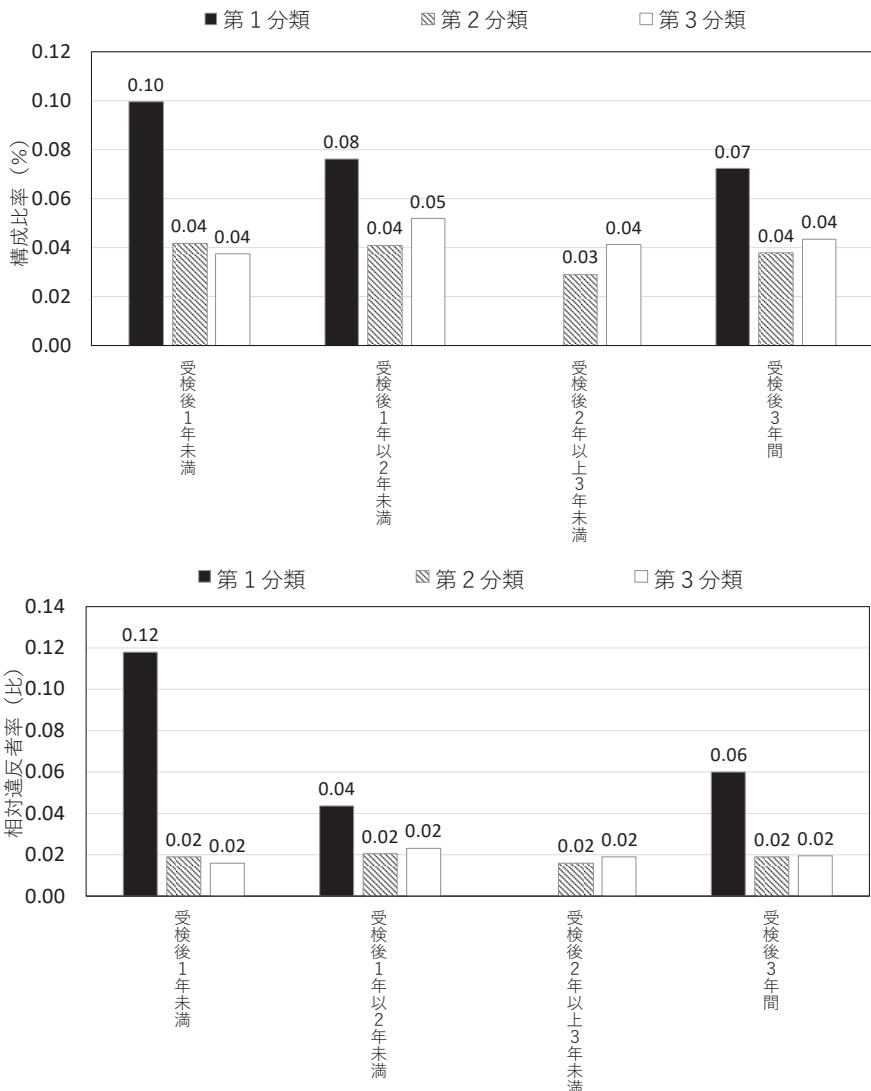


コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V13	横断歩行者等妨害	受検後1年未満	78	704	1,414	2,196	1.9	2.1	2.4	2.3	2.3	1.0	1.0	1.0
		受検後1年以2年未満	53	631	1,488	2,172	2.0	2.2	2.8	2.5	1.2	1.1	1.2	1.2
		受検後2年以上3年未満	29	674	1,498	2,201	1.8	2.8	3.2	3.1	1.5	1.5	1.5	1.5
		受検後3年間	160	2,009	4,400	6,569	1.9	2.3	2.8	2.6	1.6	1.1	1.2	1.2

<付録図 20 横断歩行者等妨害>

セ 徐行場所違反

- いずれの分類、いずれの期間においても構成比率が0.1%未満と、当該違反で検挙された者は非常に少なかった。

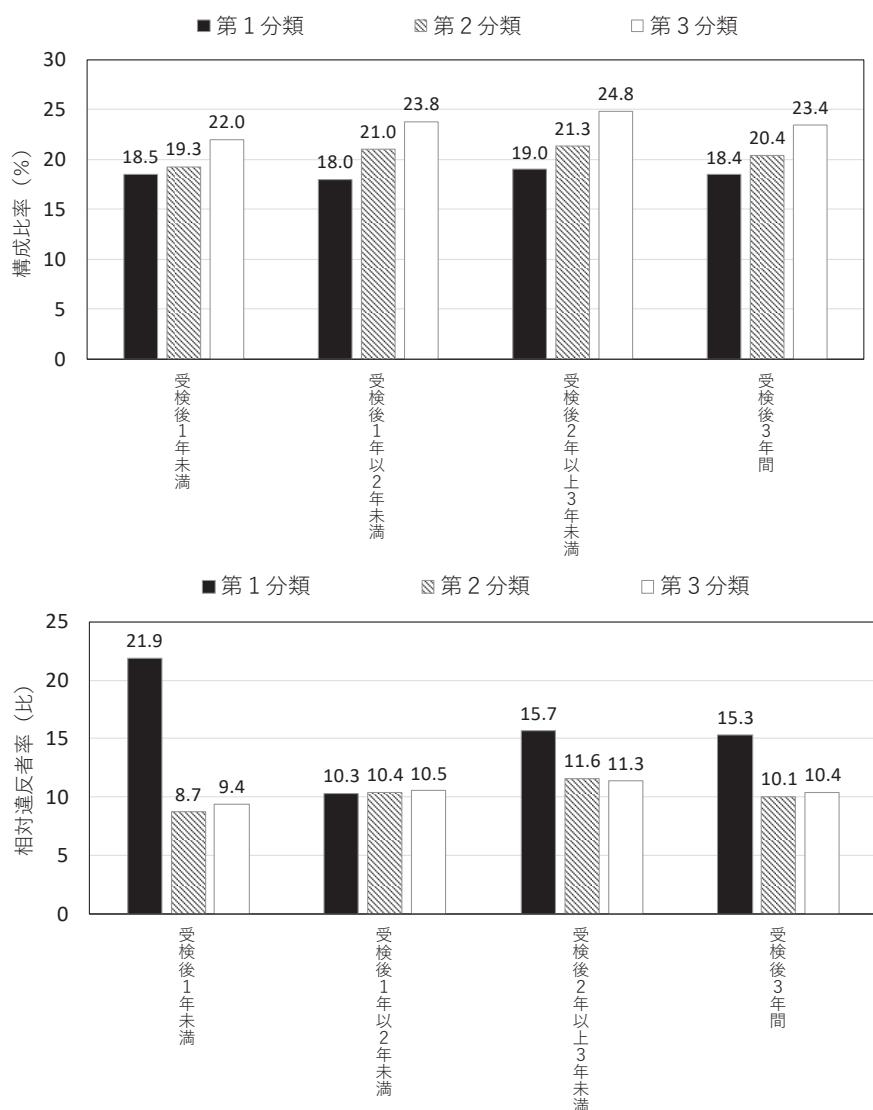


コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V15	徐行場所違反	受検後1年未満	4	14	22	40	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
		受検後1年以2年未満	2	12	28	42	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		受検後2年以上3年未満	0	7	19	26	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
		受検後3年間	6	33	69	108	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0

<付録図21 徐行場所違反>

ソ 指定場所一時不停止等

- 構成比率は、いずれの分類も経年で概ね増加する傾向にあった。受検後3年間では、第3分類が最も高かった。
- 相対違反者率はいずれの期間においても概ね第1分類が高かった。ただし、1年以上2年未満では、第2分類、第3分類と同程度であった。また、第2分類及び第3分類に大きな差はなかった。

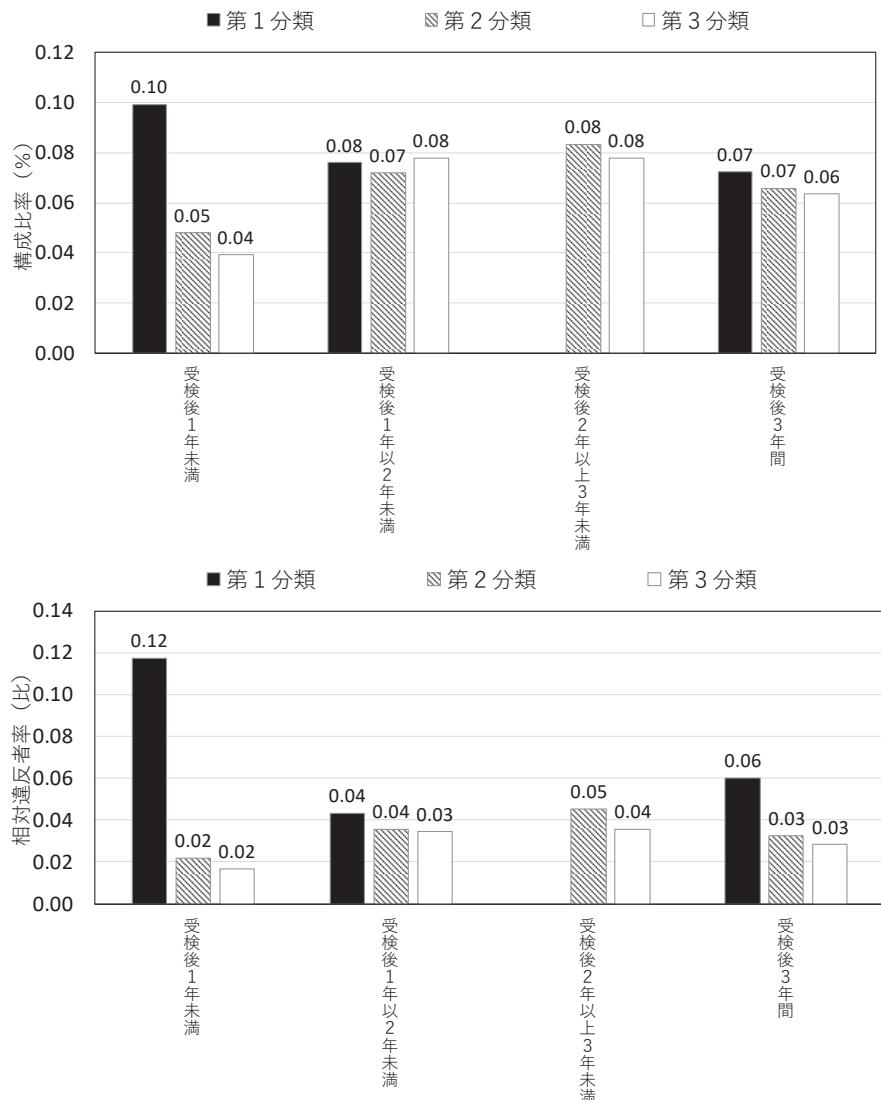


コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)			相対違反者率(比)				
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	
V16	指定場所一時不停止等	受検後1年未満	745	6,440	12,922	20,107	18.5	19.3	22.0	20.9	21.9	8.7	9.4	9.4
		受検後1年以2年未満	474	6,137	12,838	19,449	18.0	21.0	23.8	22.7	10.3	10.4	10.5	10.5
		受検後2年以上3年未満	313	5,117	11,460	16,890	19.0	21.3	24.8	23.5	15.7	11.6	11.3	11.5
		受検後3年間	1,532	17,694	37,220	56,446	18.4	20.4	23.4	22.2	15.3	10.1	10.4	10.4

＜付録図 22 指定場所一時不停止等＞

タ 合図不履行

- いずれの分類、いずれの期間においても構成比率が0.1%未満と、当該違反で検挙された者は非常に少なかった。

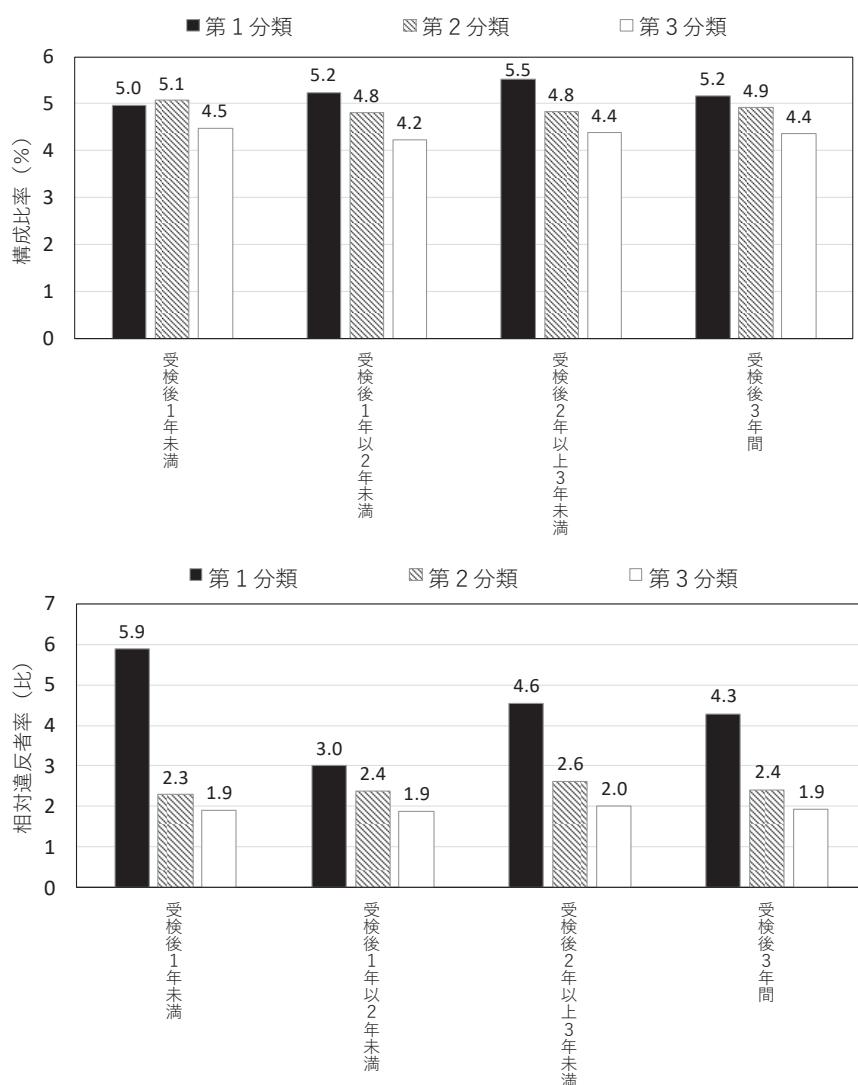


コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V17	合図不履行	受検後1年未満	4	16	23	43	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
		受検後1年以2年未満	2	21	42	65	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
		受検後2年以上3年未満	0	20	36	56	0	0.1	0.1	0.1	0	0.0	0.0	0.0
		受検後3年間	6	57	101	164	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0

<付録図23 合図不履行>

チ 安全運転義務違反

- 構成比率は、第1分類は経年で増加する傾向にあった。第2分類は経年で減少する傾向にあった。第3分類は経年による大きな増減はなかった。受検後3年間では、第1分類が最も高かった。
- 相対違反者率は、全ての期間で第1分類が最も高かった。第1分類は受検後1年未満が最も高く、1年以上2年未満で一旦減少するが、2年以上3年未満で増加に転じた。第2分類、第3分類は経年による大きな増減は無かった。受検後3年間では、第1分類が最も高かった。

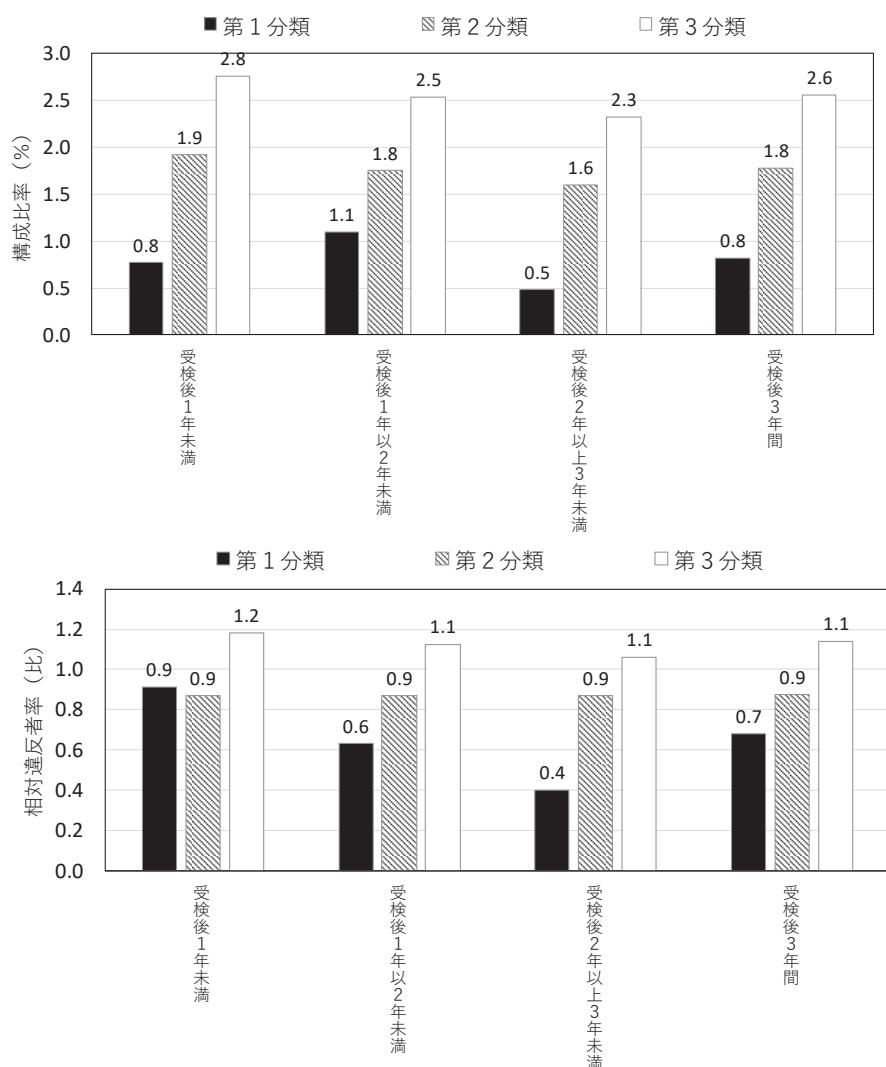


コ ー ド	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V18	安全運転 義務違反	受検後1年未満	200	1,693	2,630	4,523	5.0	5.1	4.5	4.7	5.9	2.3	1.9	2.1
		受検後1年以2年未満	138	1,403	2,285	3,826	5.2	4.8	4.2	4.5	3.0	2.4	1.9	2.1
		受検後2年以上3年未満	91	1,158	2,023	3,272	5.5	4.8	4.4	4.6	4.6	2.6	2.0	2.2
		受検後3年間	429	4,254	6,938	11,621	5.2	4.9	4.4	4.6	4.3	2.4	1.9	2.1

＜付録図 24 安全運転義務違反＞

ツ 携帯電話保持等

- 構成比率は、いずれの期間でも第3分類が最も高かった。いずれの分類も経年で減少する傾向にあった。受検後3年間では、第3分類が最も高かった。
- 相対違反者率は、第1分類、第3分類は経年により減少する傾向にあった。第2分類は経年による大きな増減はなかった。受検後3年間では、第3分類が最も高かった。

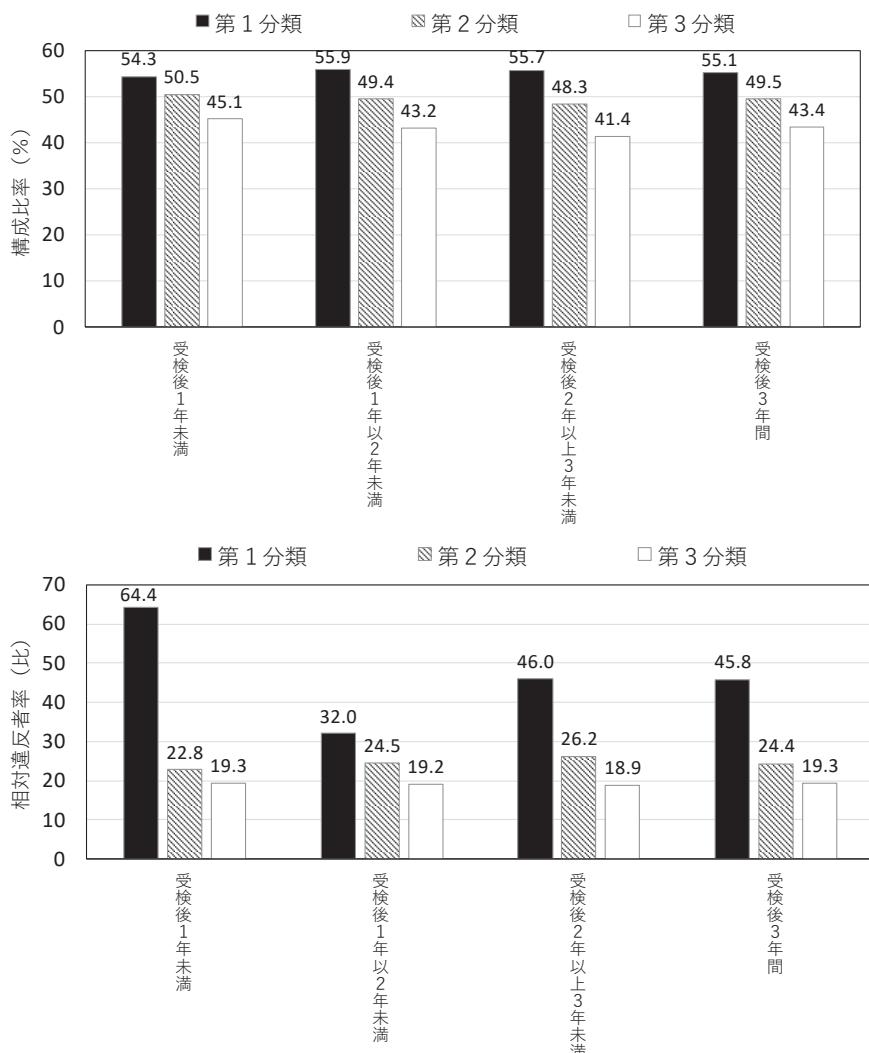


コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V19	携帯電話保持等	受検後1年未満	31	642	1,623	2,296	0.8	1.9	2.8	2.4	0.9	0.9	1.2	1.1
		受検後1年以2年未満	29	512	1,368	1,909	1.1	1.8	2.5	2.2	0.6	0.9	1.1	1.0
		受検後2年以上3年未満	8	384	1,072	1,464	0.5	1.6	2.3	2.0	0.4	0.9	1.1	1.0
		受検後3年間	68	1,538	4,063	5,669	0.8	1.8	2.6	2.2	0.7	0.9	1.1	1.0

＜付録図 25 携帯電話保持等＞

テ その他

- 構成比率は、いずれの分類も経年によりやや減少する傾向にあった。また、受検後3年間では、第1分類が最も高かった。
- 相対違反者率は、第1分類は受検後1年未満が最も高く、1年以上2年未満で一旦減少するが、2年以上3年未満で増加に転じた。第2分類、第3分類は経年による大きな増減はなかった。受検後3年間では、第1分類が最も高かった。

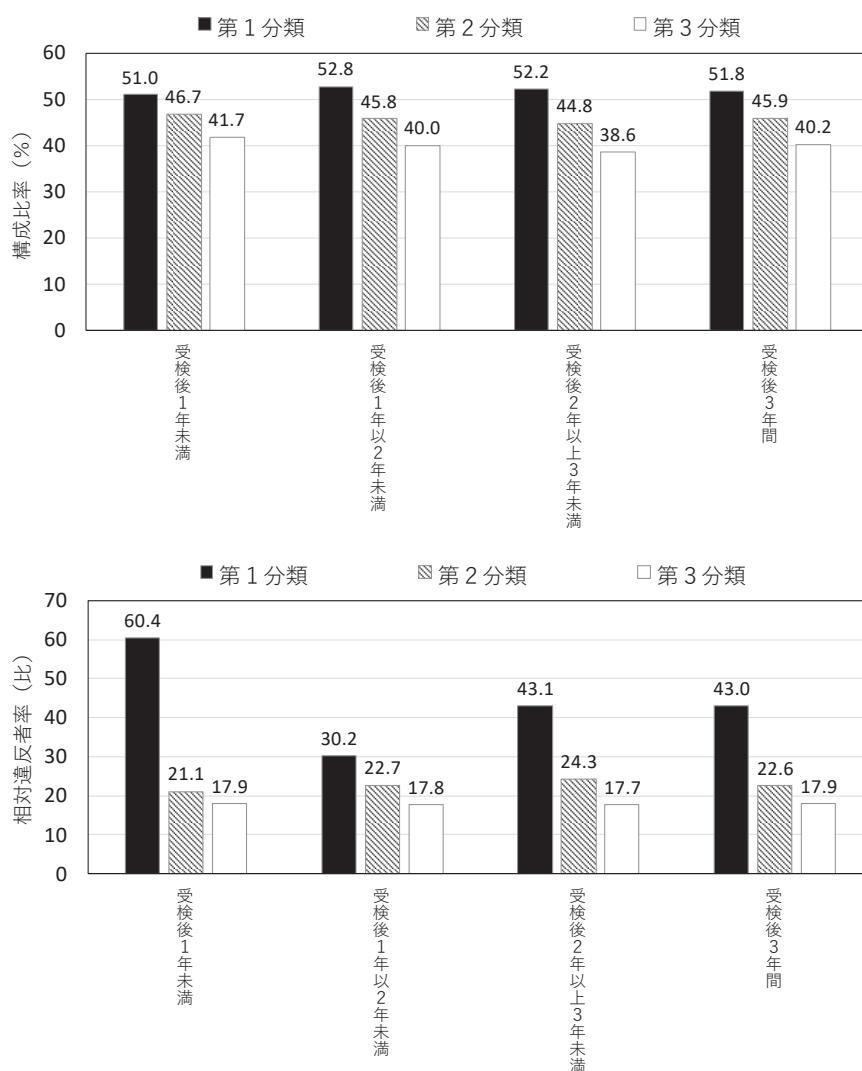


コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V20	その他	受検後1年未満	2,188	16,861	26,552	45,601	54.3	50.5	45.1	47.4	64.4	22.8	19.3	21.2
		受検後1年以2年未満	1,472	14,434	23,330	39,236	55.9	49.4	43.2	45.7	32.0	24.5	19.2	21.2
		受検後2年以上3年未満	919	11,597	19,132	31,648	55.7	48.3	41.4	44.1	46.0	26.2	18.9	21.5
		受検後3年間	4,579	42,892	69,014	116,485	55.1	49.5	43.4	45.9	45.8	24.4	19.3	21.5

＜付録図 26 携帯電話保持等＞

ト その他 (V01 から V19 のない者)

- 構成比率は、いずれの分類も経年による大きな増減はなかった。受検後 3 年間では、第 1 分類が最も高かった。
- 相対違反者率は、第 1 分類は受検後 1 年未満が最も高く、1 年以上 2 年未満で一旦減少するが、2 年以上 3 年未満で増加に転じた。第 2 分類、第 3 分類は経年による大きな増減はなかった。受検後 3 年間では、第 1 分類が最も高かった。



コード	違反	集計期間	違反検挙人数(人)				構成比率(%)				相対違反者率(比)			
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
V20*	その他 (V01からV19の ない者)	受検後1年未満	2,054	15,612	24,549	42,215	51.0	46.7	41.7	43.9	60.4	21.1	17.9	19.7
		受検後1年以上2年未満	1,389	13,367	21,609	36,365	52.8	45.8	40.0	42.4	30.2	22.7	17.8	19.6
		受検後2年以上3年未満	861	10,740	17,848	29,449	52.2	44.8	38.6	41.0	43.1	24.3	17.7	20.0
		受検後3年間	4,304	39,719	64,006	108,029	51.8	45.9	40.2	42.5	43.0	22.6	17.9	19.9

<付録図 27 携帯電話保持等>

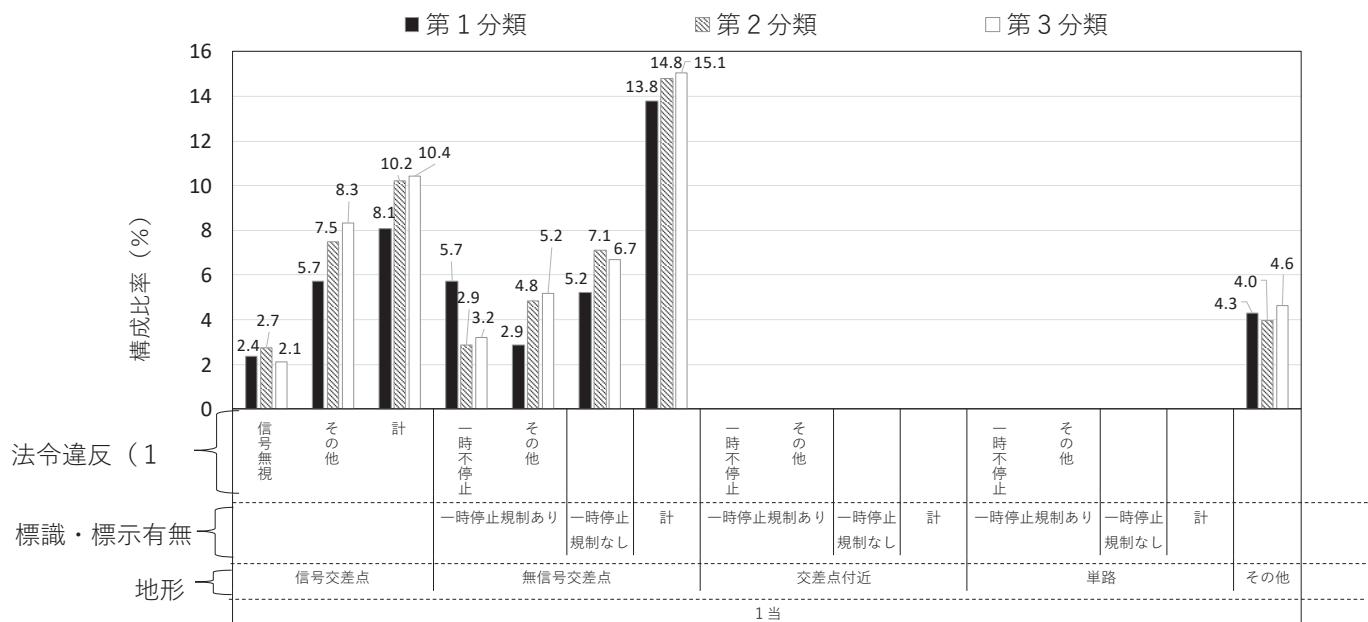
3 事故の詳細集計

(1) 道路形状別・一時停止規制有無別法令違反有無別交通事故当事者数（平成 29 年分のみ）

○ 第 1 当事者（1 当）

信号無視や一時不停止に着目すると、

- ・ 第 1 分類は、他の分類と比較して「無信号交差点における一時停止規制ありでの一時不停止」の構成比率が高かった。
- ・ 第 2 分類は、他の分類と比較して「信号交差点における信号無視」、「無信号交差点における一時停止規制なしでの一時不停止」の構成比率が高かった。
- ・ 第 3 分類は、信号無視や一時不停止が他の分類と比較して構成比率が高い条件（道路形状、標識・標示有無）はなかった。ただし、「無信号交差点における一時停止規制なしでの一時不停止」の構成比率は第 2 分類と比較して若干低い程度であった。

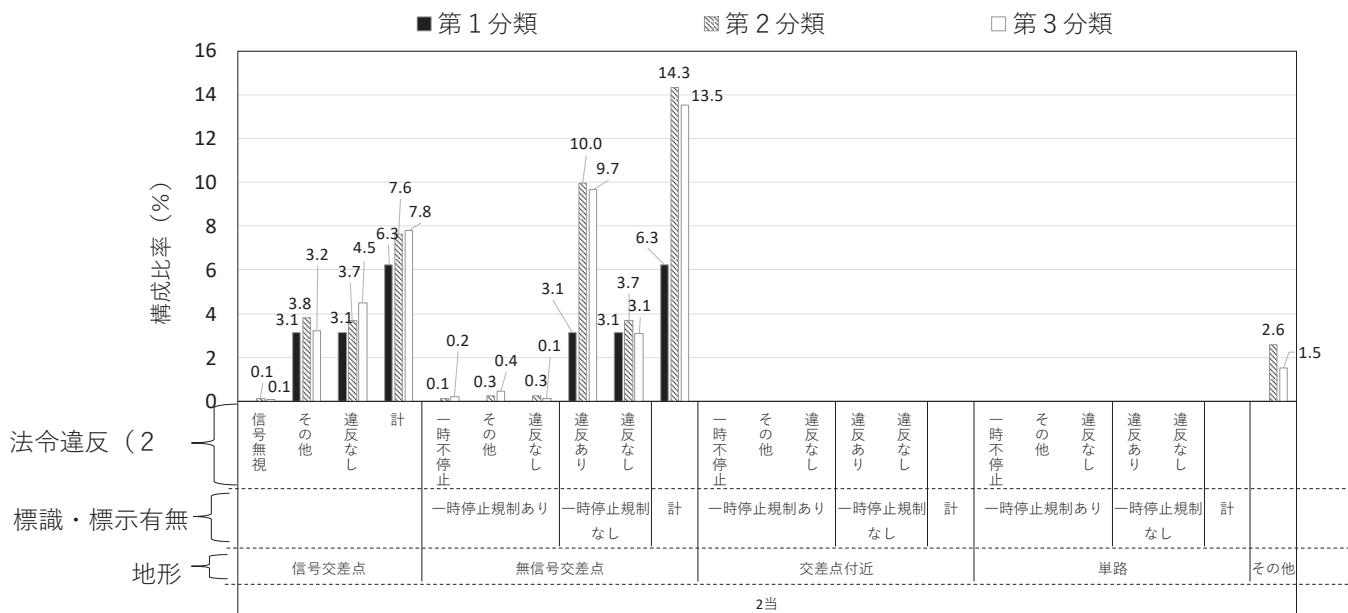


＜付録図 28 「道路形状別・一時停止規制有無別法令違反有無別交通事故当事者数（平成 29 年分のみ）」（1 当・構成比率）＞

○ 第2当事者（2当）

信号無視や一時不停止に着目すると、

- ・ 第1分類は、他の分類と比較して構成比率が高い項目はなかった。
- ・ 第2分類は、他の分類と比較して「信号交差点の信号無視」、「無信号交差点の一時停止規制なしでの違反あり」の構成比率が高かった。
- ・ 第3分類は、信号無視や一時不停止が他の分類と比較して構成比率が高い条件（道路形状、標識・標示有無）はなかった。ただし、「無信号交差点の一時停止規制なしでの違反あり」の構成比率は第2分類と比較して若干低い程度であった。



＜付録図 29 「道路形状別・一時停止規制有無別法令違反有無別交通事故当事者数
(平成 29 年分のみ)」(2 当・構成比率)＞

<付録表2 道路形状別・一時停止規制有無別法令違反有無別交通事故当事者数（平成29年分のみ）>

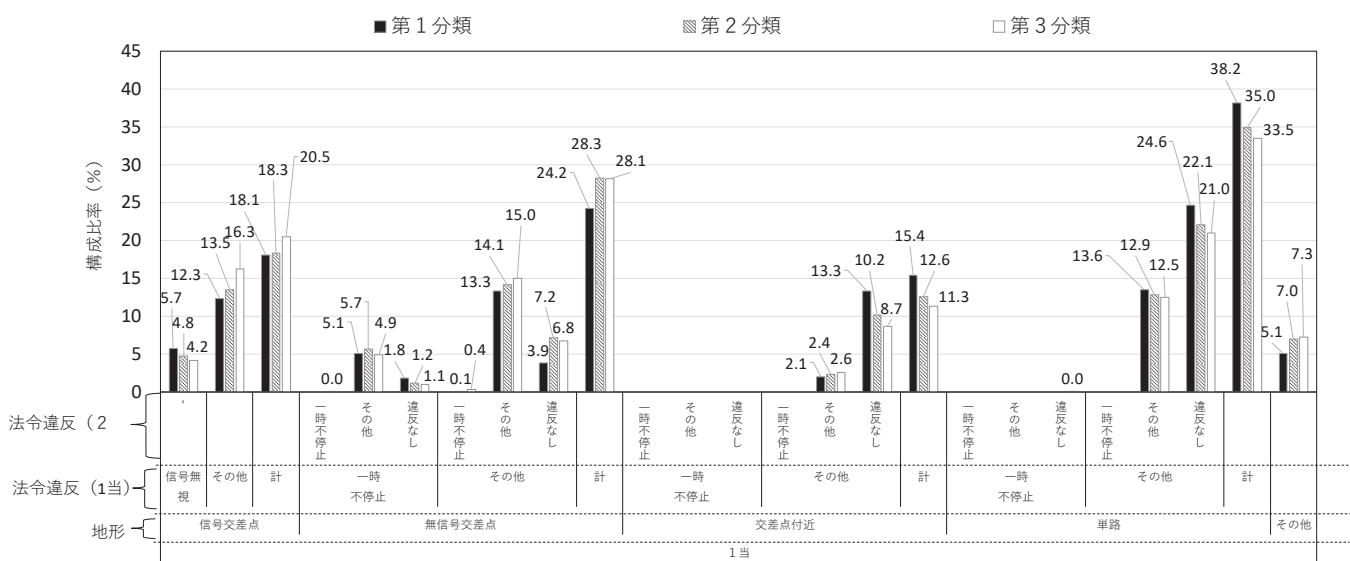
	地形	法令違反	違反検査人数(人)			構成比率(%)	相対事故率(比)			合計
			第1分類		第2分類		第1分類	第2分類	第3分類	
			信号無規	その他	5	77	109	191	2.4	
1 当 交差点付近	信号交差点	その他	12	212	431	655	5.7	7.5	8.3	0.11
		計	17	289	540	846	8.1	10.2	10.4	0.13
		一時停止規制あり	12	81	166	259	5.7	2.9	3.2	0.44
	無信号交差点	その他	6	137	268	411	2.9	4.8	5.2	0.57
		一時停止規制なし	11	201	346	558	5.2	7.1	6.7	0.18
		計	29	419	780	1,228	13.8	14.8	15.1	0.27
	単路	一時停止規制あり	0	0	0	0	0	0	0	0.28
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0.38
		一時停止規制なし	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	計	0	0	0	0	0	0	0	0
2 当 交差点付近	信号交差点	一時不停止	0	0	0	0	0	0	0	0
		違反なし	1	27	71	99	3.13	3.13	3.24	0.05
		計	2	56	123	181	6.25	7.64	7.81	0.07
	無信号交差点	一時不停止	0	1	3	4	0	0.14	0.19	0.12
		一時停止規制あり	0	2	7	9	0	0.27	0.38	0.15
		違反なし	0	2	2	4	0	0.27	0.13	0.05
	単路	違反あり	1	73	152	226	3.13	9.96	9.66	0.01
		一時停止規制なし	1	27	49	77	3.13	3.68	3.11	0.01
		計	2	105	213	320	6.25	14.32	13.52	0.01
	その他	一時不停止	0	0	0	0	0	0	0	0.05
		違反なし	0	0	0	0	0	0	0	0.05
		計	0	19	24	43	0	2.59	1.52	0.05
	計	その他	0	32	733	1,575	2,340	-	-	-
		計	0	32	733	1,575	2,340	-	-	1.59

(2) 道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数

ア 高齢者講習受検後1年未満

信号無視や一時不停止に着目すると、

- 第1分類は他の分類と比較して、「信号交差点における信号無視」の構成比率が高かった。
- 第2分類は他の分類と比較して、「無信号交差点における一時不停止（2当側法令違はその他（一時不停止以外））」の構成比率が高かった。
- 第3分類は他の分類と比較して、信号無視や一時不停止構成比率が高い条件（道路形状）はなかった。ただし、「信号交差点における信号無視」、「無信号交差点における一時不停止（2当側法令違はその他（一時不停止以外））」は、その他分類と比較して若干低い程度であった。



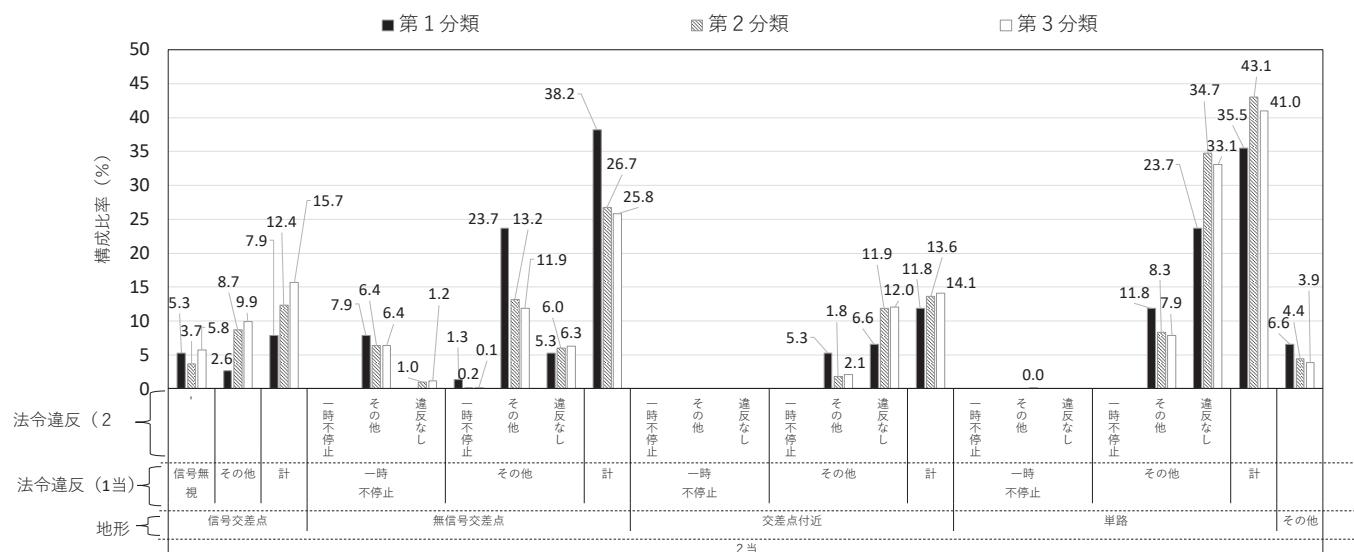
＜付録図30 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」

(認知機能検査受検後1年未満・1当・構成比率) >

○ 第2当事者（2当）

信号無視や一時不停止に着目すると、

- ・ 第1分類は他の分類と比較して、「無信号交差点におけるその他（一時不停止以外）（1当側法令違反は一時不停止）」、「無信号交差点における一時不停止（1当側法令違反はその他（一時不停止以外））」の構成比率が高かった。
- ・ 第2分類は他の分類と比較して、信号無視や一時不停止構成比率が高い条件（道路形状）はなかった。ただし、「信号交差点における信号無視」は、3分類と比較して若干低い程度であった。
- ・ 第3分類は他の分類と比較して、「信号交差点における信号無視」の構成比率が高かった。



＜付録図 31 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」

(認知機能検査受検後1年未満・2当・構成比率) >

＜付録表3 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」
 (認知機能検査受検後1年未満・2当・構成比率)＞

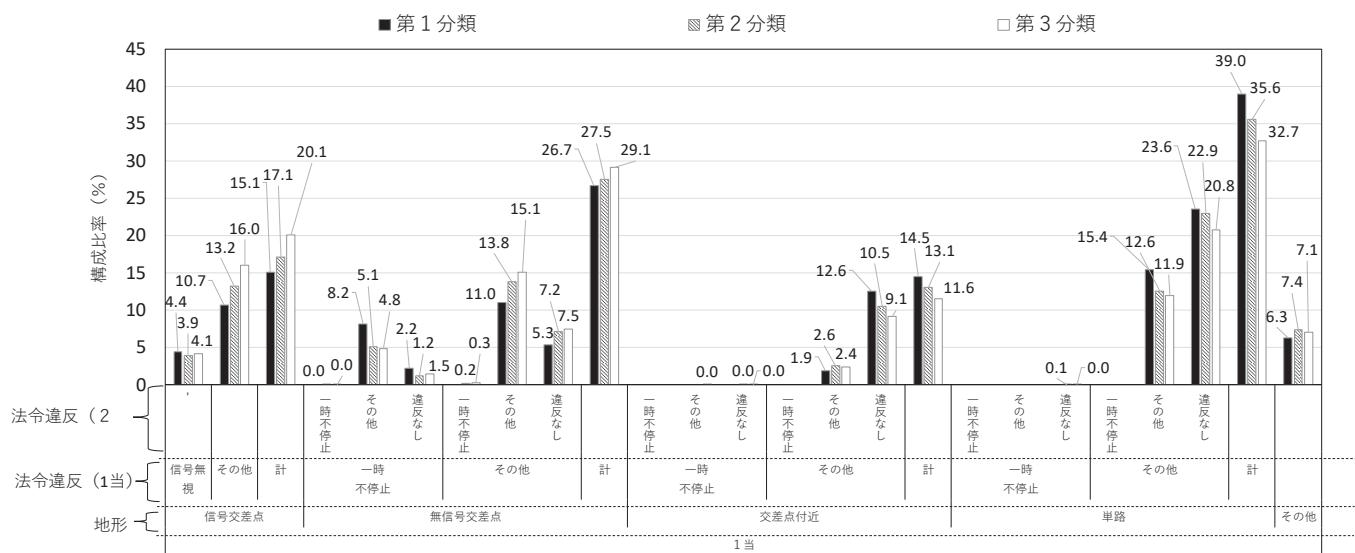
	地形	法令違反		違反検挙人数(人)				構成比率(%)			
		1当	2当	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
1 当	信号交差点	信号無視	-	28	194	276	498	5.7	4.8	4.2	4.5
		その他		60	548	1,062	1,670	12.3	13.5	16.3	15.1
		計		88	742	1,338	2,168	18.1	18.3	20.5	19.6
	無信号交差点	一時 不停止		0	0	1	1	0	0	0.0	0.0
		その他		25	231	321	577	5.1	5.7	4.9	5.2
		違反なし		9	49	69	127	1.8	1.2	1.1	1.1
		一時 不停止		0	3	24	27	0	0.1	0.4	0.2
		その他		65	573	980	1,618	13.3	14.1	15.0	14.6
		違反なし		19	290	442	751	3.9	7.2	6.8	6.8
		計		118	1,146	1,837	3,101	24.2	28.3	28.1	28.0
	交差点付近	一時 不停止		0	0	0	0	0	0	0	0
		その他		0	0	0	0	0	0	0	0
		違反なし		0	0	0	0	0	0	0	0
		一時 不停止		0	0	0	0	0	0	0	0
		その他		10	97	169	276	2.1	2.4	2.6	2.5
		違反なし		65	413	570	1,048	13.3	10.2	8.7	9.5
		計		75	510	739	1,324	15.4	12.6	11.3	12.0
	単路	一時 不停止		0	0	0	0	0	0	0	0
		その他		0	0	0	0	0	0	0	0
		違反なし		0	0	1	1	0	0	0.0	0.0
		一時 不停止		0	0	0	0	0	0	0	0
		その他		66	522	818	1,406	13.6	12.9	12.5	12.7
		違反なし		120	894	1,370	2,384	24.6	22.1	21.0	21.5
		計		186	1,416	2,189	3,791	38.2	35.0	33.5	34.3
	その他			25	283	476	784	5.1	7.0	7.3	7.1
	計			487	4,050	6,528	11,065	-	-	-	-
2 当	信号交差点	信号無視	-	4	44	126	174	5.3	3.7	5.8	5.0
		その他		2	103	217	322	2.6	8.7	9.9	9.3
		計		6	147	343	496	7.9	12.4	15.7	14.4
	無信号交差点	一時 不停止		0	0	0	0	0	0	0	0
		その他		6	76	140	222	7.9	6.4	6.4	6.4
		違反なし		0	12	26	38	0	1.0	1.2	1.1
		一時 不停止		1	2	2	5	1.3	0.2	0.1	0.1
		その他		18	157	260	435	23.7	13.2	11.9	12.6
		違反なし		4	71	137	212	5.3	6.0	6.3	6.1
		計		29	318	565	912	38.2	26.7	25.8	26.4
	交差点付近	一時 不停止		0	0	0	0	0	0	0	0
		その他		0	0	0	0	0	0	0	0
		違反なし		0	0	0	0	0	0	0	0
		一時 不停止		0	0	0	0	0	0	0	0
		その他		4	21	46	71	5.3	1.8	2.1	2.1
		違反なし		5	141	263	409	6.6	11.9	12.0	11.8
		計		9	162	309	480	11.8	13.6	14.1	13.9
	単路	一時 不停止		0	0	0	0	0	0	0	0
		その他		0	0	1	1	0	0	0.0	0.0
		違反なし		0	0	0	0	0	0	0	0
		一時 不停止		0	0	0	0	0	0	0	0
		その他		9	99	172	280	11.8	8.3	7.9	8.1
		違反なし		18	413	725	1,156	23.7	34.7	33.1	33.4
		計		27	512	898	1,437	35.5	43.1	41.0	41.6
	その他			5	52	85	142	6.6	4.4	3.9	4.1
	計			76	1,189	2,191	3,456	-	-	-	-

イ 高齢者講習受検後1年以上2年未満

○ 第1当事者(1当)

信号無視や一時不停止に着目すると、

- ・ 第1分類は他の分類と比較して、「信号交差点における信号無視」、「無信号交差点における一時不停止(2当側法令違はその他(一時不停止以外))」、「無信号交差点における一時不停止(2当側法令違反なし)」の構成比率が高かった。
- ・ 第2分類は他の分類と比較して信号無視や一時不停止の構成比率が高い条件(道路形状)はなかった。ただし、「信号交差点における信号無視」は、第1分類と比較して若干低い程度であった。
- ・ 第3分類は他の分類と比較して信号無視や一時不停止構成比率が高い条件(道路形状)はなかった。ただし、「信号交差点における信号無視」は、第1分類と比較して若干低い程度であった。



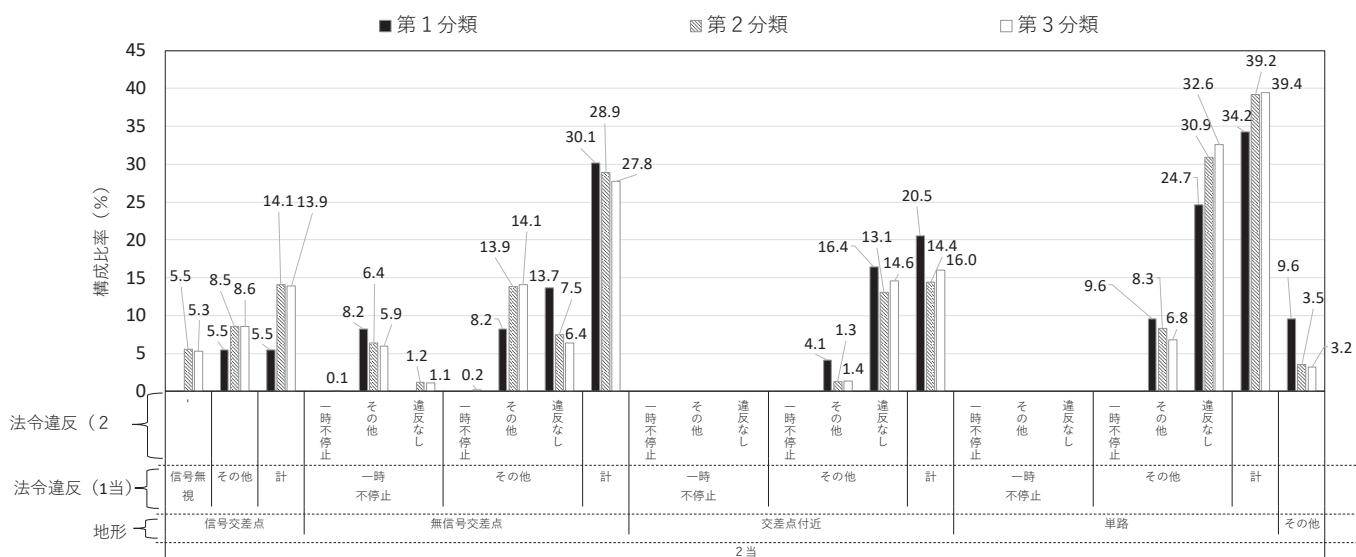
＜付録図32 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」

(認知機能検査受検後1年以上2年未満・1当・構成比率) >

○ 第2当事者（2当）

信号無視や一時不停止に着目すると、

- ・ 第1分類は他の分類と比較して、「無信号交差点におけるその他（一時不停止以外）（1当側法令違反は一時不停止）」の構成比率が高かった。
- ・ 第2分類は他の分類と比較して、「信号交差点における法令違反なし（1当側法令違反は信号無視）」の構成比率が高かった。
- ・ 第3分類は他の分類と比較して信号無視や一時不停止構成比率が高い条件（道路形状）はなかった。ただし、「無信号交差点におけるその他（一時不停止以外）（1当側法令違反は一時不停止）」は、第2分類と比較して若干低い程度であった。



<付録図33 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」

(認知機能検査受検後1年以上2年未満・2当・構成比率) >

＜付録表4 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」
 (認知機能検査受検後受検後1年以上2年未満) ＞

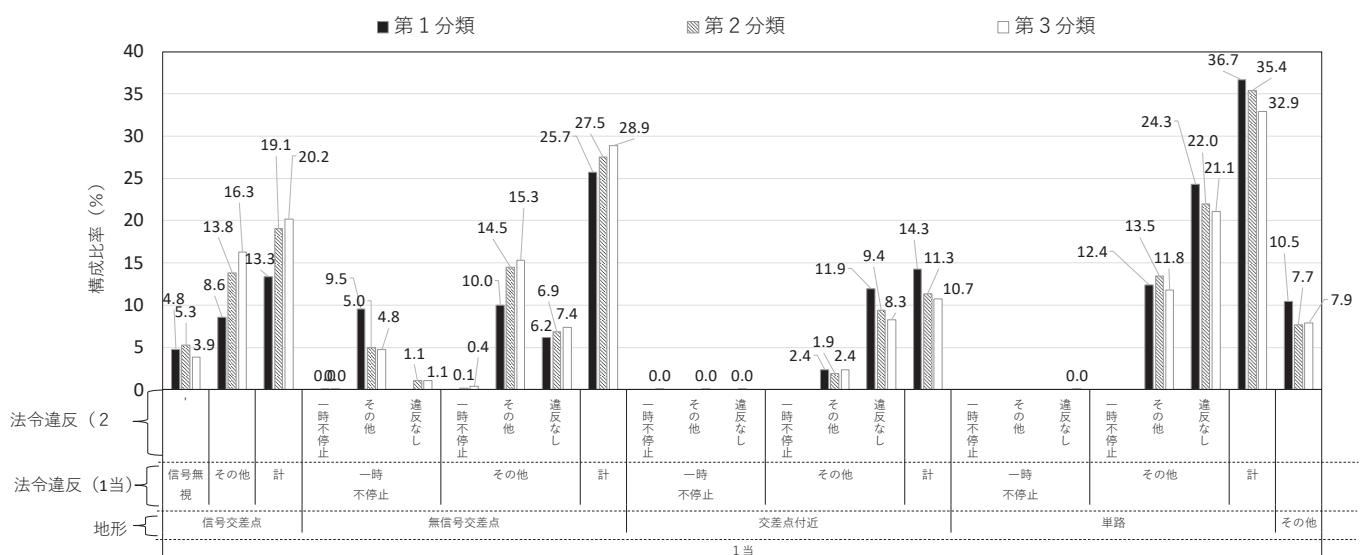
	地形	法令違反		違反検挙人数(人)				構成比率(%)			
		1当	2当	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
1 当	信号交差点	信号無視	-	14	132	237	383	4.4	3.9	4.1	4.1
				34	447	914	1,395	10.7	13.2	16.0	14.8
		計		48	579	1,151	1,778	15.1	17.1	20.1	18.9
	無信号交差点	一時 不停止	一時 不停止	0	1	1	2	0	0.0	0.0	0.0
			その他	26	173	275	474	8.2	5.1	4.8	5.0
			違反なし	7	42	84	133	2.2	1.2	1.5	1.4
		その他	一時 不停止	0	6	18	24	0	0.2	0.3	0.3
			その他	35	467	862	1,364	11.0	13.8	15.1	14.5
			違反なし	17	243	426	686	5.3	7.2	7.5	7.3
		計		85	932	1,666	2,683	26.7	27.5	29.1	28.5
	交差点付近	一時 不停止	一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0
			その他	0	0	1	1	0	0	0.0	0.0
			違反なし	0	1	2	3	0	0.0	0.0	0.0
		その他	一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0
			その他	6	87	136	229	1.9	2.6	2.4	2.4
			違反なし	40	355	523	918	12.6	10.5	9.1	9.7
		計		46	443	662	1,151	14.5	13.1	11.6	12.2
	単路	一時 不停止	一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0
			その他	0	0	0	0	0	0	0	0
			違反なし	0	2	1	3	0	0.1	0.0	0.0
		その他	一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0
			その他	49	425	682	1,156	15.4	12.6	11.9	12.3
			違反なし	75	777	1,187	2,039	23.6	22.9	20.8	21.6
		計		124	1,204	1,870	3,198	39.0	35.6	32.7	33.9
		その他		20	249	404	673	6.3	7.4	7.1	7.1
		計		318	3,386	5,716	9,420	-	-	-	-
2 当	信号交差点	信号無視	-	0	52	100	152	0	5.5	5.3	5.2
			その他	4	80	162	246	5.5	8.5	8.6	8.5
		計		4	132	262	398	5.5	14.1	13.9	13.7
	無信号交差点	一時 不停止	一時 不停止	0	0	1	1	0	0	0.1	0.0
			その他	6	60	112	178	8.2	6.4	5.9	6.1
			違反なし	0	11	21	32	0	1.2	1.1	1.1
		その他	一時 不停止	0	0	3	3	0	0	0.2	0.1
			その他	6	130	266	402	8.2	13.9	14.1	13.9
			違反なし	10	70	121	201	13.7	7.5	6.4	6.9
		計		22	271	524	817	30.1	28.9	27.8	28.2
	交差点付近	一時 不停止	一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0
			その他	0	0	0	0	0	0	0	0
			違反なし	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0
			その他	3	12	26	41	4.1	1.3	1.4	1.4
			違反なし	12	123	276	411	16.4	13.1	14.6	14.2
		計		15	135	302	452	20.5	14.4	16.0	15.6
	単路	一時 不停止	一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0
			その他	0	0	0	0	0	0	0	0
			違反なし	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0
			その他	7	78	129	214	9.6	8.3	6.8	7.4
			違反なし	18	290	615	923	24.7	30.9	32.6	31.8
		計		25	368	744	1,137	34.2	39.2	39.4	39.2
	その他			7	33	61	101	9.6	3.5	3.2	3.5
	計			73	938	1,887	2,898	-	-	-	-

ウ 高齢者講習受検後2年以上3年未満

○ 第1当事者（1当）

信号無視や一時不停止に着目すると、

- ・ 第1分類は他の分類と比較して、「無信号交差点における一時不停止（2当側法令違はその他（一時不停止以外））」の構成比率が高かった。
- ・ 第2分類は他の分類と比較して「信号交差点における信号無視」の構成比率が高かった。
- ・ 第3分類は他の分類と比較して信号無視や一時不停止構成比率が高い条件（道路形状）はなかった。ただし、「信号交差点における信号無視」は、第1分類と比較して若干低い程度であった。

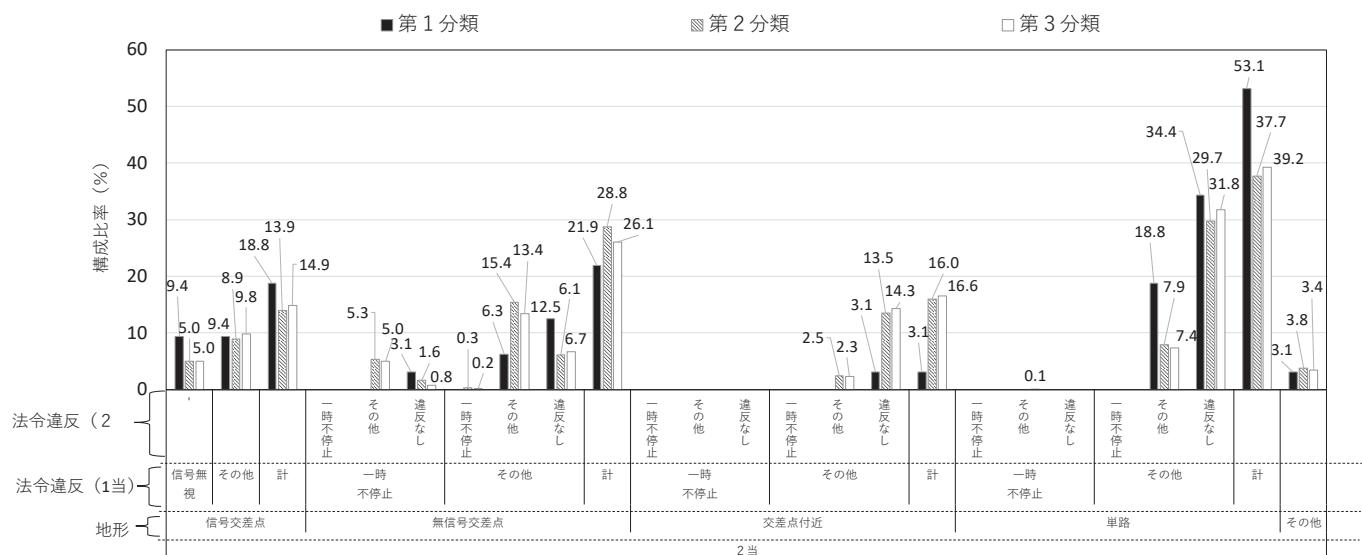


＜付録図34 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」
(認知機能検査受検後2年以上3年未満・1当・構成比率)＞

○ 第2当事者（2当）

信号無視や一時不停止に着目すると、

- ・ 第1分類は他の分類と比較して、「無信号交差点における法令違反なし（1当側法令違反は一時不停止）」の構成比率が高かった。
- ・ 第2分類は他の分類と比較して、「無信号交差点におけるその他（1当側法令違反は一時不停止）」の構成比率が高かった。
- ・ 第3分類は他の分類と比較して信号無視や一時不停止構成比率が高い条件（道路形状）はなかった。ただし、「無信号交差点におけるその他（1当側法令違反は一時不停止）」は、第2分類と比較して若干低い程度であった。



<付録図 35 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」

(認知機能検査受検後2年以上3年未満・2当・構成比率) >

＜付録表5 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」
(認知機能検査受検後2年以上3年未満)＞

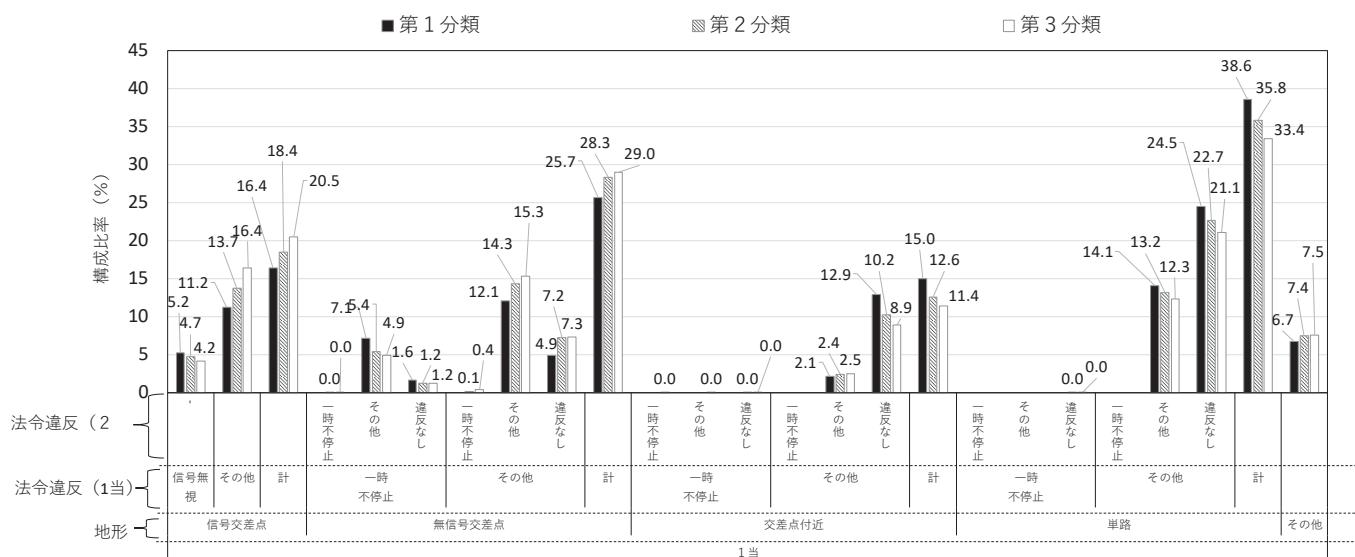
	地形	法令違反		違反検挙人数(人)				構成比率(%)			
		1当	2当	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
1 当	信号交差点	信号無視	-	10	149	201	360	4.8	5.3	3.9	4.4
		その他		18	391	844	1,253	8.6	13.8	16.3	15.2
		計		28	540	1,045	1,613	13.3	19.1	20.2	19.6
	無信号交差点	一時 不停止	一時 不停止	0	1	1	2	0	0.0	0.0	0.0
			その他	20	141	246	407	9.5	5.0	4.8	5.0
			違反なし	0	30	55	85	0	1.1	1.1	1.0
		その他	一時 不停止	0	4	21	25	0	0.1	0.4	0.3
			その他	21	409	792	1,222	10.0	14.5	15.3	14.9
			違反なし	13	194	381	588	6.2	6.9	7.4	7.2
		計		54	779	1,496	2,329	25.7	27.5	28.9	28.3
	交差点付近	一時 不停止	一時 不停止	0	0	1	1	0	0.0	0.0	0.0
			その他	0	0	2	2	0	0.0	0.0	0.0
			違反なし	0	1	0	1	0	0.0	0	0.0
		その他	一時 不停止	0	0	0	0	0	0.0	0	0
			その他	5	54	123	182	2.4	1.9	2.4	2.2
			違反なし	25	265	430	720	11.9	9.4	8.3	8.8
		計		30	320	556	906	14.3	11.3	10.7	11.0
	単路	一時 不停止	一時 不停止	0	0	0	0	0	0.0	0	0
			その他	0	0	0	0	0	0.0	0	0
			違反なし	0	0	1	1	0	0.0	0.0	0.0
		その他	一時 不停止	0	0	0	0	0	0.0	0	0
			その他	26	381	612	1,019	12.4	13.5	11.8	12.4
			違反なし	51	621	1,090	1,762	24.3	22.0	21.1	21.4
		計		77	1,002	1,703	2,782	36.7	35.4	32.9	33.9
	その他			22	217	410	649	10.5	7.7	7.9	7.9
	計			210	2,829	5,178	8,217	-	-	-	-
2 当	信号交差点	信号無視	-	3	37	79	119	9.4	5.0	5.0	5.1
		その他		3	65	155	223	9.4	8.9	9.8	9.5
		計		6	102	234	342	18.8	13.9	14.9	14.6
	無信号交差点	一時 不停止	一時 不停止	0	0	0	0	0	0.0	0	0
			その他	0	39	79	118	0	5.3	5.0	5.0
			違反なし	1	12	12	25	3.1	1.6	0.8	1.1
		その他	一時 不停止	0	2	3	5	0	0.3	0.2	0.2
			その他	2	113	211	326	6.3	15.4	13.4	13.9
			違反なし	4	45	106	155	12.5	6.1	6.7	6.6
		計		7	211	411	629	21.9	28.8	26.1	26.9
	交差点付近	一時 不停止	一時 不停止	0	0	0	0	0	0.0	0	0
			その他	0	0	0	0	0	0.0	0	0
			違反なし	0	0	0	0	0	0.0	0	0
		その他	一時 不停止	0	0	0	0	0	0.0	0	0
			その他	0	18	36	54	0	2.5	2.3	2.3
			違反なし	1	99	225	325	3.1	13.5	14.3	13.9
		計		1	117	261	379	3.1	16.0	16.6	16.2
	単路	一時 不停止	一時 不停止	0	0	0	0	0	0.0	0	0
			その他	0	0	1	1	0	0.1	0.0	0.0
			違反なし	0	0	0	0	0	0.0	0	0
		その他	一時 不停止	0	0	0	0	0	0.0	0	0
			その他	6	58	116	180	18.8	7.9	7.4	7.7
			違反なし	11	218	501	730	34.4	29.7	31.8	31.2
		計		17	276	618	911	53.1	37.7	39.2	38.9
	その他			1	28	54	83	3.1	3.8	3.4	3.5
	計			32	733	1,575	2,340	-	-	-	-

工 高齢者講習受検後3年間

○ 第1当事者（1当）

信号無視や一時不停止に着目すると、

- ・ 第1分類は他の分類と比較して、「信号交差点における信号無視」、無信号交差点における一時不停止（2当側法令違はその他（一時不停止以外））、「無信号交差点における一時不停止（2当側法令違は違反なし）」の構成比率が高かった。
- ・ 第2分類は他の分類と比較して信号無視や一時不停止の構成比率が高い条件（道路形状）はなかった。ただし、「信号交差点における信号無視」、「無信号交差点における一時不停止（2当側法令違は違反なし）」は、第1分類と比較して若干低い程度であった。
- ・ 第3分類は他の分類と比較して信号無視や一時不停止構成比率が高い条件（道路形状）はなかった。ただし、「無信号交差点における一時不停止（2当側法令違は違反なし）」は、第1分類と比較して若干低い程度であった。



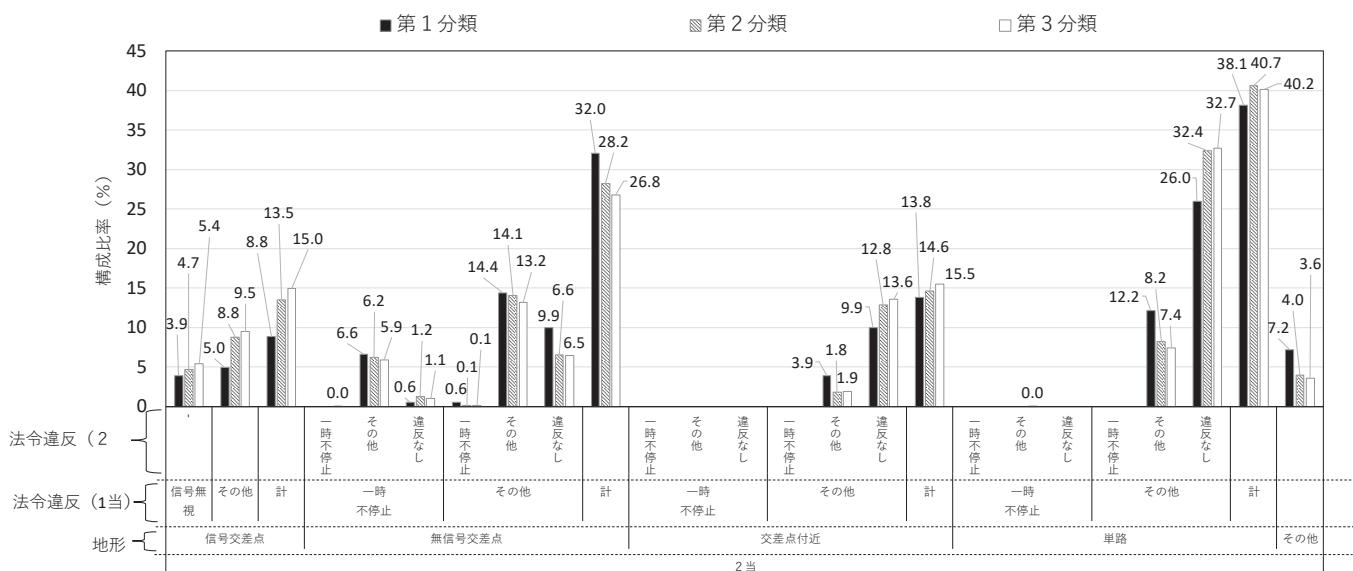
＜付録図 36 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」

(認知機能検査受検後3年間・1当・構成比率) >

○ 第2当事者（2当）

信号無視や一時不停止に着目すると、

- ・ 第1分類は他の分類と比較して、「無信号交差点におけるその他（一時不停止以外）（1当側法令違反は一時不停止）」の構成比率が高かつた。
- ・ 第2分類は他の分類と比較して信号無視や一時不停止の構成比率が高い条件（道路形状）はなかった。ただし、「信号交差点における法令違反なし（1当側法令違反は信号無視）」、「無信号交差点におけるその他（一時不停止以外）（1当側法令違は一時不停止）」は、他の分類と比較して若干低い程度であった。
- ・ 第3分類は他の分類と比較して、「信号交差点における法令違反なし（1当側法令違反は信号無視）」の構成比率が高かつた。



＜付録図 37 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」

(認知機能検査受検後3年間・2当・構成比率) >

＜付録表6 「道路形状別・法令違反有無別交通事故当事者数」
(認知機能検査受検後3年間)＞

地形	法令違反	違反検挙人数(人)				構成比率(%)					
		1当	2当	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
1 当	信号交差点	信号無視	-	52	474	713	1,239	5.2	4.7	4.2	4.4
		その他		112	1,381	2,807	4,300	11.2	13.7	16.4	15.2
		計		164	1,855	3,520	5,539	16.4	18.4	20.5	19.6
	無信号交差点	一時 不停止	0	2	3	5	0	0.0	0.0	0.0	0.0
		その他	71	545	840	1,456	7.1	5.4	4.9	5.2	
		違反なし	16	121	207	344	1.6	1.2	1.2	1.2	1.2
		一時 不停止	0	13	63	76	0	0.1	0.4	0.3	
		その他	121	1,441	2,622	4,184	12.1	14.3	15.3	14.8	
		違反なし	49	726	1,246	2,021	4.9	7.2	7.3	7.2	
		計		257	2,848	4,981	8,086	25.7	28.3	29.0	28.6
	交差点付近	一時 不停止	0	0	1	1	0	0.0	0.0	0.0	0.0
		その他	0	0	3	3	0	0.0	0.0	0.0	0.0
		違反なし	0	2	1	3	0	0.0	0.0	0.0	0.0
		一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	21	238	428	687	2.1	2.4	2.5	2.4	
		違反なし	129	1,027	1,523	2,679	12.9	10.2	8.9	9.5	
		計		150	1,267	1,956	3,373	15.0	12.6	11.4	11.9
	単路	一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		違反なし	0	2	3	5	0	0.0	0.0	0.0	0.0
		一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	141	1,326	2,106	3,573	14.1	13.2	12.3	12.7	
		違反なし	245	2,280	3,620	6,145	24.5	22.7	21.1	21.8	
		計		386	3,608	5,729	9,723	38.6	35.8	33.4	34.4
	その他			67	748	1,289	2,104	6.7	7.4	7.5	7.5
	計			1,001	10,065	17,168	28,234	-	-	-	-
2 当	信号交差点	信号無視	-	7	133	305	445	3.9	4.7	5.4	5.2
		その他		9	248	534	791	5.0	8.8	9.5	9.2
		計		16	381	839	1,236	8.8	13.5	15.0	14.4
	無信号交差点	一時 不停止	0	0	1	1	0	0	0.0	0.0	0.0
		その他	12	175	331	518	6.6	6.2	5.9	6.0	
		違反なし	1	35	59	95	0.6	1.2	1.1	1.1	
		一時 不停止	1	4	8	13	0.6	0.1	0.1	0.2	
		その他	26	398	737	1,161	14.4	14.1	13.2	13.5	
		違反なし	18	186	363	567	9.9	6.6	6.5	6.6	
		計		58	798	1,499	2,355	32.0	28.2	26.8	27.3
	交差点付近	一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		違反なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	7	51	108	166	3.9	1.8	1.9	1.9	
		違反なし	18	363	760	1,141	9.9	12.8	13.6	13.2	
		計		25	414	868	1,307	13.8	14.6	15.5	15.2
	単路	一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	2	2	0	0	0.0	0.0	0.0
		違反なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一時 不停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	22	233	415	670	12.2	8.2	7.4	7.8	
		違反なし	47	917	1,834	2,798	26.0	32.4	32.7	32.5	
		計		69	1,150	2,251	3,470	38.1	40.7	40.2	40.3
	その他			13	113	200	326	7.2	4.0	3.6	3.8
	計			181	2,829	5,602	8,612	-	-	-	-

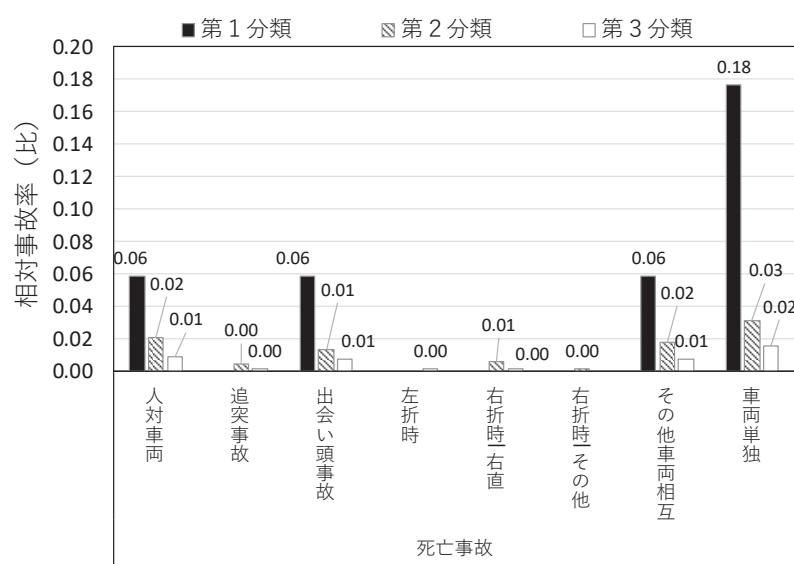
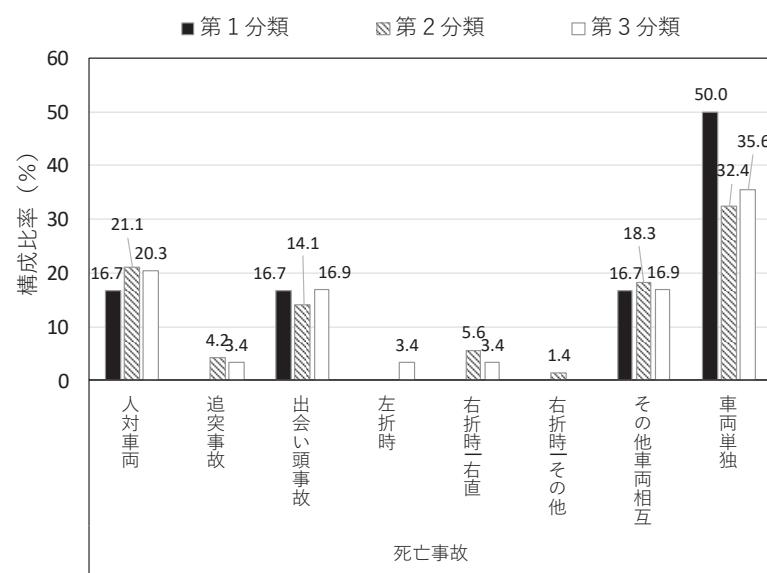
(3) 事故類型別交通事故当事者数

ア 構成比率及び相対事故率

a 高齢者講習後1年未満

○死亡事故(1当)

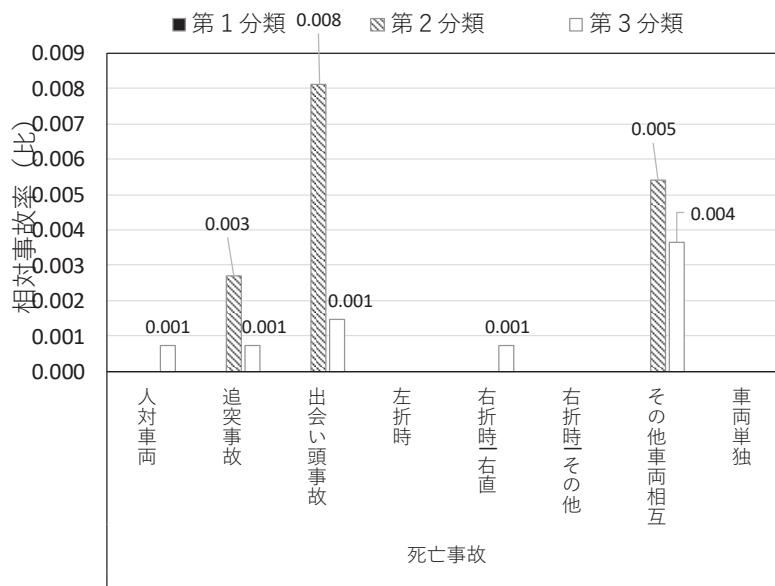
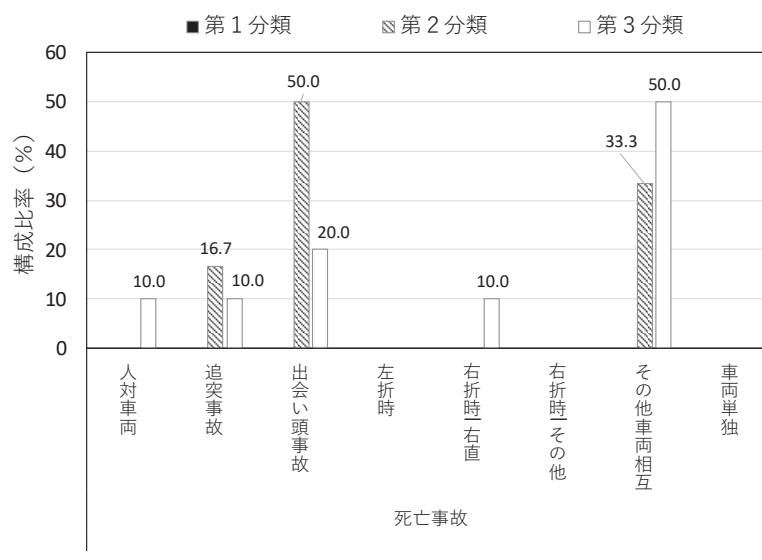
- 構成比率は、いずれの分類も車両単独が最も高かった。特に、第1分類の車両単独は他の分類と比較して高かった。
- 相対事故率は、第1分類の人対車両、出会い頭、その他車両相互、車両単独が他の分類と比較して高かった。



＜付録図38 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後1年未満・死亡事故・1当)＞

○死亡事故（2当）

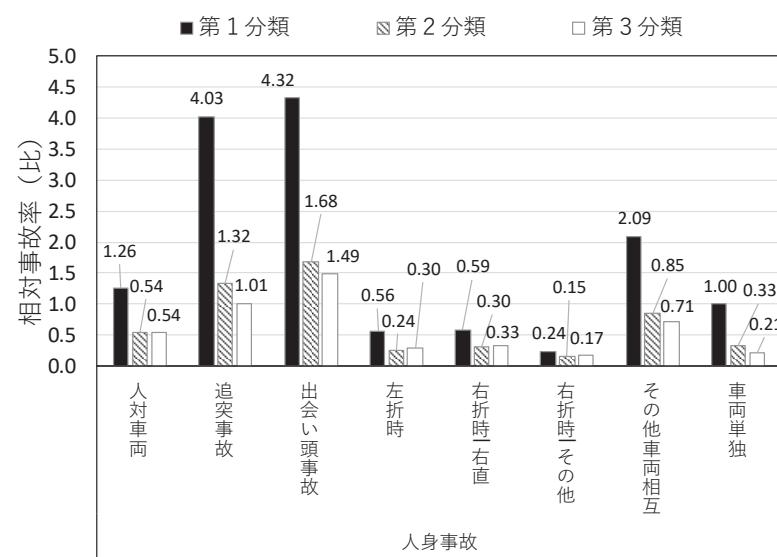
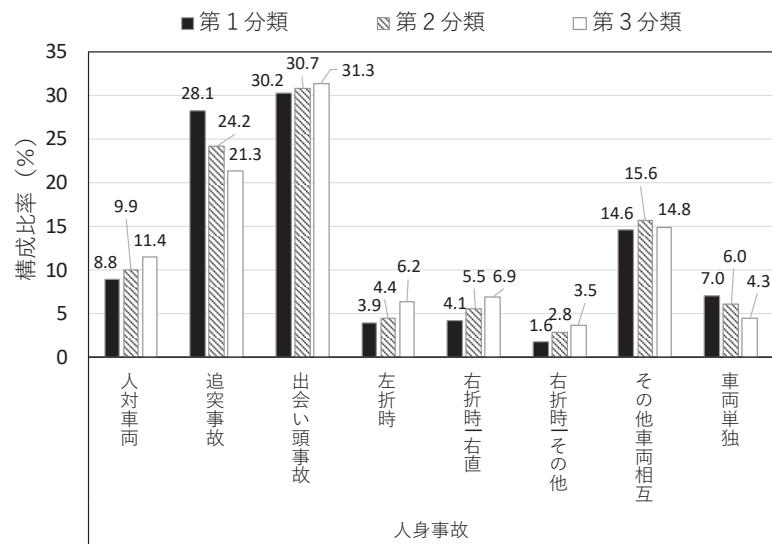
- 構成比率は、第2分類では出会い頭事故、その他車両相互が高く、第3分類ではその他車両相互が高かった。
- 相対事故率は、第2分類の出会い頭事故、その他車両相互が高かった。



<付録図 39 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後1年未満・死亡事故・2当)>

○人身事故（1当）

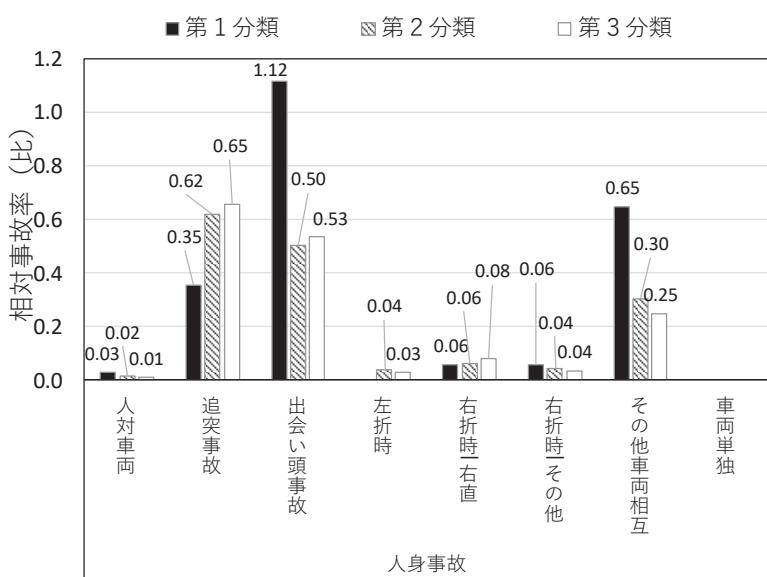
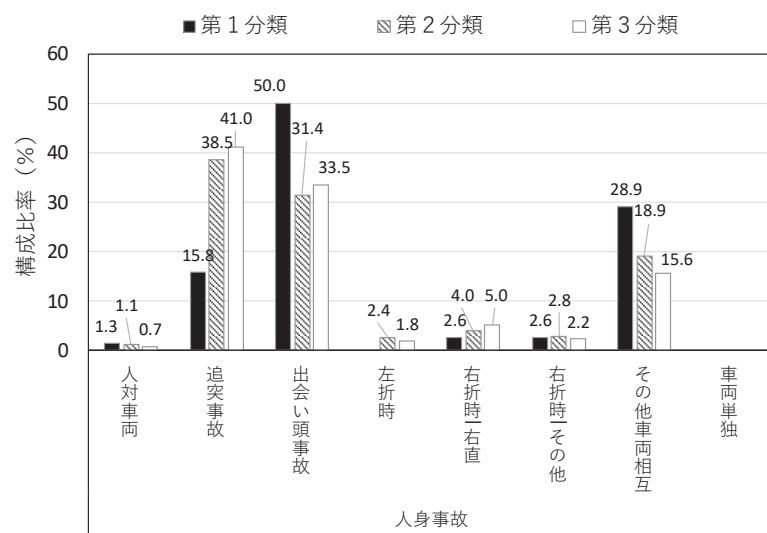
- 構成比率は、いずれの分類も出会い頭事故が最も高かった。
- 相対事故率は、全ての事故類型で第1分類が他の分類と比較して高く、追突事故、出会い頭事故は特に高かった。



<付録図 40 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後1年未満・人身事故・1当) >

○人身事故（2当）

- 構成比率は、第1分類では出会い頭事故、第2分類、第3分類では追突事故が最も高かった。
- 相対事故率は、第1分類では出会い頭事故、その他車両相互が他の分類と比較して高く、第2分類、第3分類では追突事故が第1分類よりも高かった。



<付録図 41 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後1年未満・人身事故・2当) >

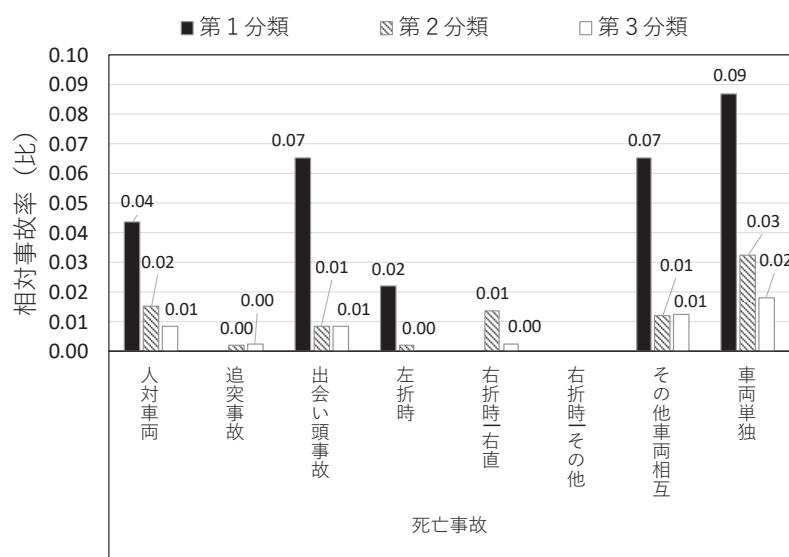
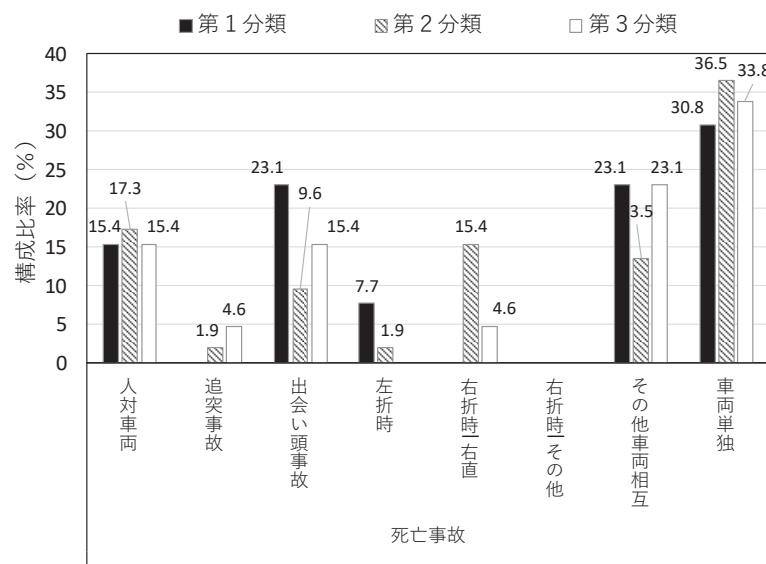
<付録7 事故類型別交通事故当事者数（高齢者講習後1年未満）>

		事故者数(人)			構成比率(%)			相対事故率(比)					
		第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
死亡事故	人対車両	2	15	12	29	16.7	21.1	20.3	20.4	0.06	0.02	0.01	0.01
	追突事故	0	3	2	5	0	4.2	3.4	3.5	0	0.00	0.00	0.00
	出会い頭事故	2	10	10	22	16.7	14.1	16.9	15.5	0.06	0.01	0.01	0.01
	左折時	0	0	2	2	0	0	3.4	1.4	0	0	0.00	0.00
	右折時 右直	0	4	2	6	0	5.6	3.4	4.2	0	0.01	0.00	0.00
	右折時 その他	0	1	0	1	0	1.4	0	0.7	0	0.00	0	0.00
1当	その他車両相互	2	13	10	25	16.7	18.3	16.9	17.6	0.06	0.02	0.01	0.01
	車両単独	6	23	21	50	50.0	32.4	35.6	35.2	0.18	0.03	0.02	0.02
	計	12	71	59	142	-	-	-	-	0.35	0.10	0.04	0.07
	人対車両	43	402	742	1187	8.8	9.9	11.4	10.7	1.26	0.54	0.54	0.55
	追突事故	137	979	1392	2508	28.1	24.2	21.3	22.7	4.03	1.32	1.01	1.17
	出会い頭事故	147	1245	2045	3437	30.2	30.7	31.3	31.1	4.32	1.68	1.49	1.60
人身事故	左折時	19	179	407	605	3.9	4.4	6.2	5.5	0.56	0.24	0.30	0.28
	右折時 右直	20	222	450	692	4.1	5.5	6.9	6.3	0.59	0.30	0.33	0.32
	右折時 その他	8	114	230	352	1.6	2.8	3.5	3.2	0.24	0.15	0.17	0.16
	その他車両相互	71	630	969	1670	14.6	15.6	14.8	15.1	2.09	0.85	0.71	0.78
	車両単独	34	243	283	560	7.0	6.0	4.3	5.1	1.00	0.33	0.21	0.26
	計	487	4050	6528	11065	-	-	-	-	14.32	5.48	4.75	5.16
死亡事故	人対車両	0	0	1	1	-	0	10.0	4.5	0	0	0.00	0.00
	追突事故	0	2	1	3	-	16.7	10.0	13.6	0	0.00	0.00	0.00
	出会い頭事故	0	6	2	8	-	50.0	20.0	36.4	0	0.01	0.00	0.00
	左折時	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0
	右折時 右直	0	0	1	1	-	0	10.0	4.5	0	0	0.00	0.00
	右折時 その他	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0
2当	その他車両相互	0	4	5	9	-	33.3	50.0	40.9	0	0.01	0.00	0.00
	車両単独	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	追突事故	12	458	899	1369	15.8	38.5	41.0	39.6	0.35	0.62	0.65	0.64
	出会い頭事故	38	373	733	1144	50.0	31.4	33.5	33.1	1.12	0.50	0.53	0.53
	左折時	0	29	40	69	0	2.4	2.0	2.0	0	0.04	0.03	0.03
	右折時 右直	2	47	110	159	2.6	4.0	5.0	4.6	0.06	0.06	0.08	0.07
人身事故	右折時 その他	2	33	49	84	2.6	2.8	2.2	2.4	0.06	0.04	0.04	0.04
	その他車両相互	22	225	341	588	28.9	18.9	15.6	17.0	0.65	0.30	0.25	0.27
	車両単独	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計		76	1189	2191	3456	-	-	-	-	2.24	1.61	1.60	1.61

b 高齢者講習後 1 年以上 2 年未満

○死亡事故（1 当）

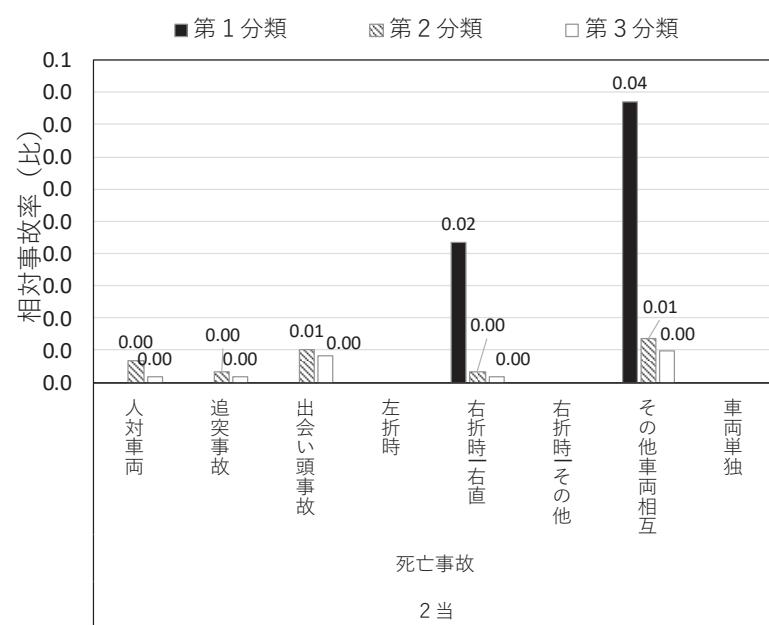
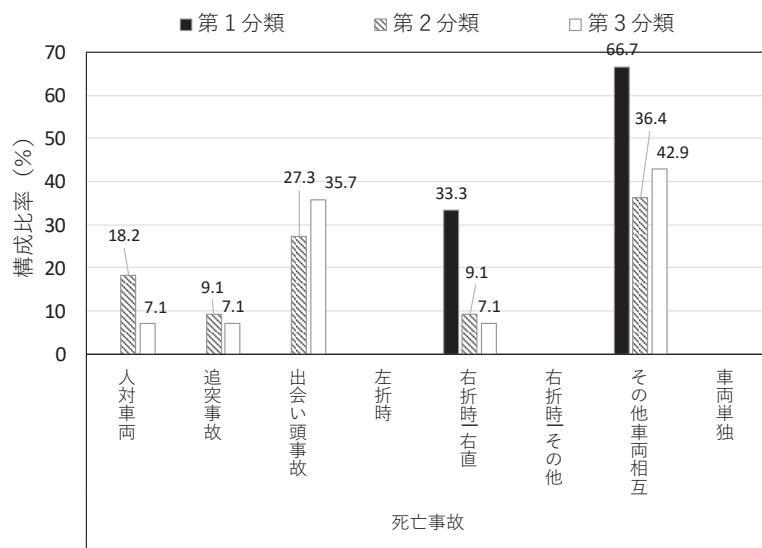
- 構成比率は、いずれの分類も車両単独が最も高かった。
- 相対事故率は、第 1 分類の人対車両、出会い頭、左折時、その他車両相互、車両単独が他の分類と比較して高かった。



<付録図 42 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後 1 年以上 2 年未満・死亡事故・1 当) >

○死亡事故（2当）

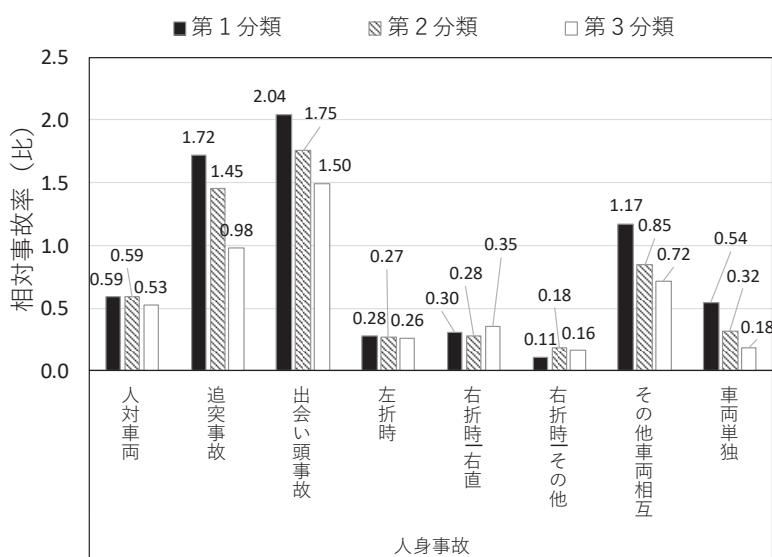
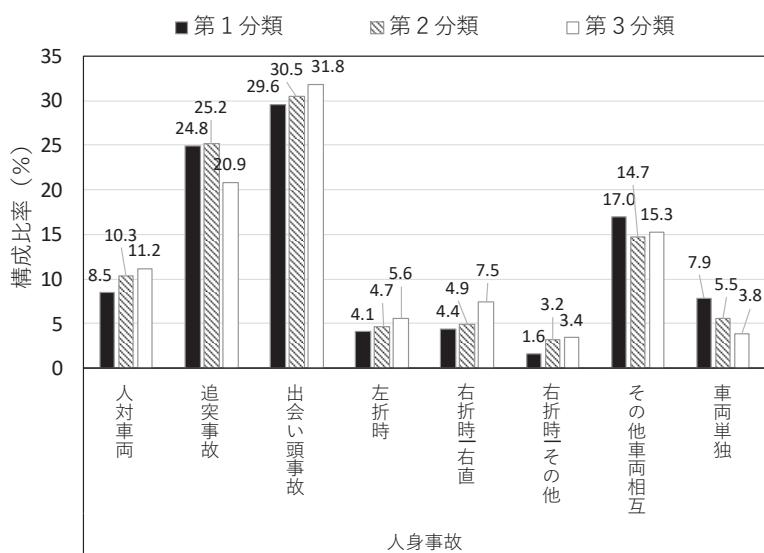
- 構成比率は、いずれの分類もその他車両相互が最も高かった。
- 相対事故率は、第3分類の追突事故、第2分類の出会い頭事故、第1分類のその他車両相互がその他分類と比較して高かった。



<付録図 43 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後1年以上2年未満・死亡事故・2当) >

○人身事故（1当）

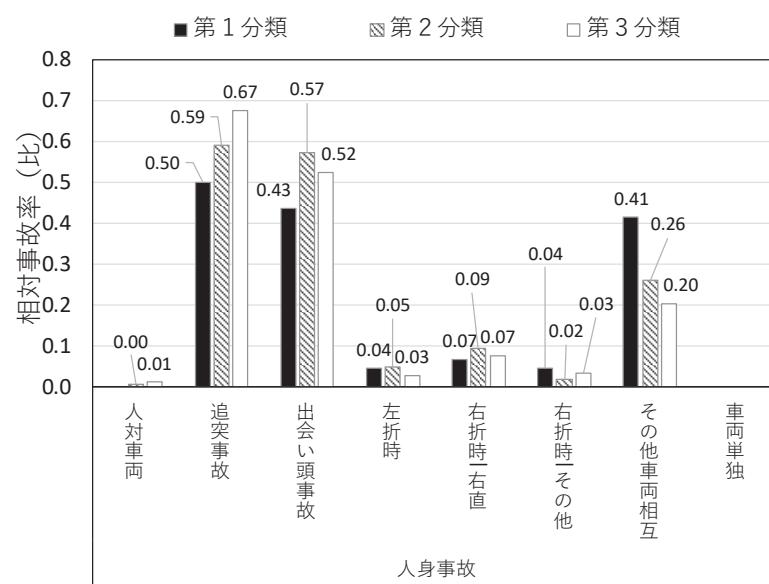
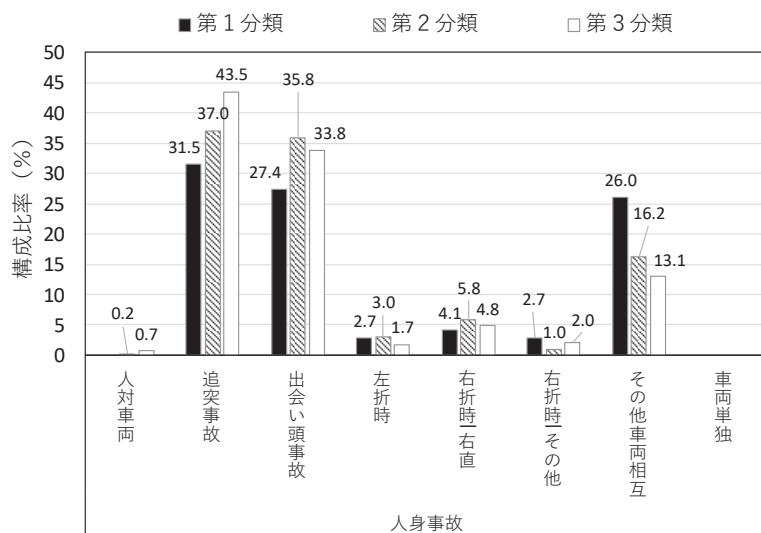
- 構成比率は、いずれの分類も出会い頭事故が最も高かった。
- 相対事故率は、第1分類では追突事故、出会い頭事故、その他車両相互が他の分類と比較して高かった。



<付録図 44 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後 1年以上 2年未満・人身事故・1当)>

○人身事故（2当）

- 構成比率は、いずれの分類も追突事故が最も高かった。
- 相対事故率は、第3分類の追突事故、第2分類の出会い頭事故、第3分類のその他車両相互が他の分類と比較して高かった。



<付録図 45 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後 1年以上 2年未満・人身事故・2当) >

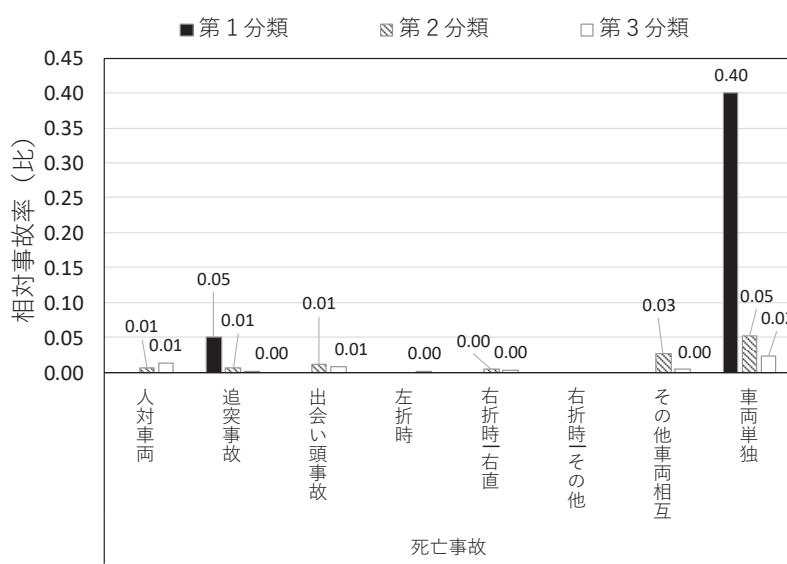
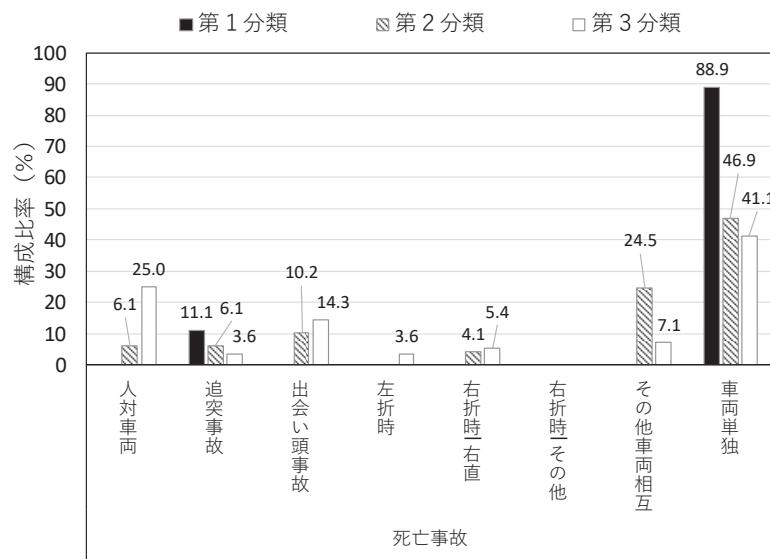
<付録表8 事故類型別交通事故当事者数（高齢者講習後1年以上2年未満）>

	事故者数(人)	構成比率(%)			相対事故率(比)			
		第1分類		合計	第1分類		第2分類	
		第2分類	第3分類		第2分類	第3分類	合計	
死亡事故	人対車両	2	9	10	21	15.4	17.3	15.4
	追突事故	0	1	3	4	0	1.9	4.6
	出会い頭事故	3	5	10	18	23.1	9.6	15.4
	左折時	1	1	0	2	7.7	1.9	0
	右折時 右直	0	8	3	11	0	15.4	4.6
	右折時 その他	0	0	0	0	0	0	0
	その他車両相互	3	7	15	25	23.1	13.5	23.1
	車両単独	4	19	22	45	30.8	36.5	33.8
	左折時	13	52	65	130	-	-	-
	人対車両	27	348	639	1014	8.5	10.3	11.2
人身事故	追突事故	79	854	1192	2125	24.8	25.2	20.9
	出会い頭事故	94	1033	1820	2947	29.6	30.5	31.8
	左折時	13	158	319	490	4.1	4.7	5.6
	右折時 右直	14	167	427	608	4.4	4.9	7.5
	右折時 その他	5	107	196	308	1.6	3.2	3.4
	その他車両相互	54	499	872	1425	17.0	14.7	15.3
	車両単独	25	187	220	432	7.9	5.5	3.8
	計	318	3386	5716	9420	-	-	-
	人対車両	0	2	1	3	0	18.2	7.1
	追突事故	0	1	1	2	0	9.1	7.1
死亡事故	出会い頭事故	0	3	5	8	0	27.3	35.7
	左折時	0	0	0	0	0	0	0
	右折時 右直	1	1	1	3	33.3	9.1	7.1
	右折時 その他	0	0	0	0	0	0	0
	その他車両相互	2	4	6	12	66.7	36.4	42.9
	車両単独	-	-	-	-	-	-	-
	計	3	11	14	28	-	-	-
	人対車両	0	2	13	15	0	0.2	0.7
	追突事故	23	347	821	1191	31.5	43.5	41.1
	出会い頭事故	20	336	637	993	27.4	35.8	33.8
人身事故	左折時	2	28	32	62	2.7	3.0	1.7
	右折時 右直	3	54	91	148	4.1	5.8	4.8
	右折時 その他	2	9	38	49	2.7	1.0	2.0
	その他車両相互	19	152	247	418	26.0	16.2	13.1
	車両単独	-	-	-	-	-	-	-
	計	73	938	1887	2898	-	-	-
	人対車両	0	2	13	15	0	0.2	0.7
	追突事故	23	347	821	1191	31.5	43.5	41.1
	出会い頭事故	20	336	637	993	27.4	35.8	33.8
	左折時	2	28	32	62	2.7	3.0	1.7
人身事故	右折時 右直	3	54	91	148	4.1	5.8	4.8
	右折時 その他	2	9	38	49	2.7	1.0	2.0
	その他車両相互	19	152	247	418	26.0	16.2	13.1
	車両単独	-	-	-	-	-	-	-
	計	73	938	1887	2898	-	-	-
	人対車両	0	2	13	15	0	0.2	0.7
	追突事故	23	347	821	1191	31.5	43.5	41.1
	出会い頭事故	20	336	637	993	27.4	35.8	33.8
	左折時	2	28	32	62	2.7	3.0	1.7
	右折時 右直	3	54	91	148	4.1	5.8	4.8
人身事故	右折時 その他	2	9	38	49	2.7	1.0	2.0
	その他車両相互	19	152	247	418	26.0	16.2	13.1
	車両単独	-	-	-	-	-	-	-
	計	73	938	1887	2898	-	-	-
	人対車両	0	2	13	15	0	0.2	0.7
	追突事故	23	347	821	1191	31.5	43.5	41.1
	出会い頭事故	20	336	637	993	27.4	35.8	33.8
	左折時	2	28	32	62	2.7	3.0	1.7
	右折時 右直	3	54	91	148	4.1	5.8	4.8
	右折時 その他	2	9	38	49	2.7	1.0	2.0
人身事故	その他車両相互	19	152	247	418	26.0	16.2	13.1
	車両単独	-	-	-	-	-	-	-
	計	73	938	1887	2898	-	-	-
	人対車両	0	2	13	15	0	0.2	0.7
	追突事故	23	347	821	1191	31.5	43.5	41.1
	出会い頭事故	20	336	637	993	27.4	35.8	33.8
	左折時	2	28	32	62	2.7	3.0	1.7
	右折時 右直	3	54	91	148	4.1	5.8	4.8
	右折時 その他	2	9	38	49	2.7	1.0	2.0
	その他車両相互	19	152	247	418	26.0	16.2	13.1
人身事故	車両単独	-	-	-	-	-	-	-
	計	73	938	1887	2898	-	-	-
	人対車両	0	2	13	15	0	0.2	0.7
	追突事故	23	347	821	1191	31.5	43.5	41.1
	出会い頭事故	20	336	637	993	27.4	35.8	33.8
	左折時	2	28	32	62	2.7	3.0	1.7
	右折時 右直	3	54	91	148	4.1	5.8	4.8
	右折時 その他	2	9	38	49	2.7	1.0	2.0
	その他車両相互	19	152	247	418	26.0	16.2	13.1
	車両単独	-	-	-	-	-	-	-
人身事故	計	73	938	1887	2898	-	-	-
	人対車両	0	2	13	15	0	0.2	0.7
	追突事故	23	347	821	1191	31.5	43.5	41.1
	出会い頭事故	20	336	637	993	27.4	35.8	33.8
	左折時	2	28	32	62	2.7	3.0	1.7
	右折時 右直	3	54	91	148	4.1	5.8	4.8
	右折時 その他	2	9	38	49	2.7	1.0	2.0
	その他車両相互	19	152	247	418	26.0	16.2	13.1
	車両単独	-	-	-	-	-	-	-
	計	73	938	1887	2898	-	-	-

c 高齢者講習後2年以上3年未満

○死亡事故（1当）

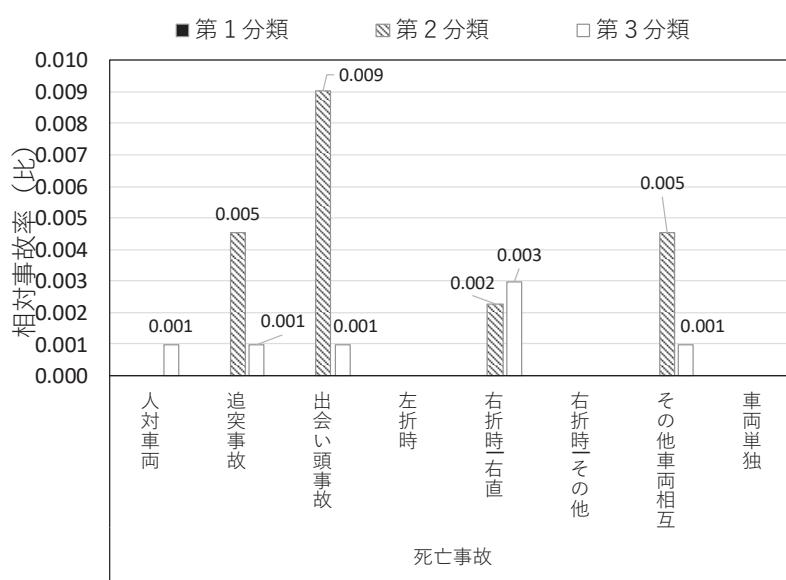
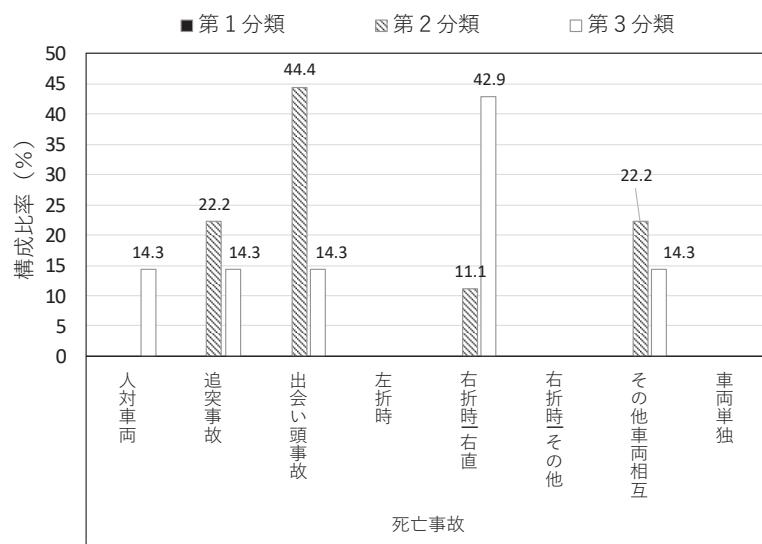
- 構成比率は、いずれの分類も車両単独が最も高かった。特に、第1分類の車両単独は他の分類と比較して高かった。
- 相対事故率は、第1分類の、車両単独が他の分類と比較して高かった。



<付録図 46 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後2年以上3年未満・死亡事故・1当)>

○死亡事故（2当）

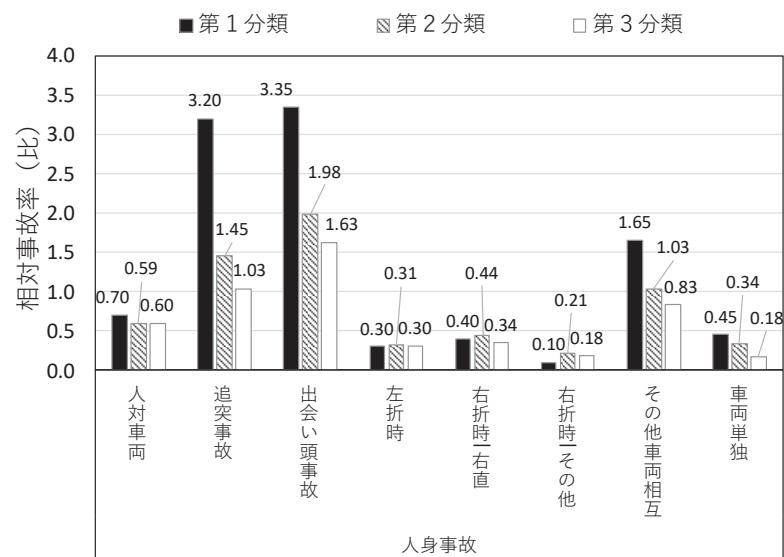
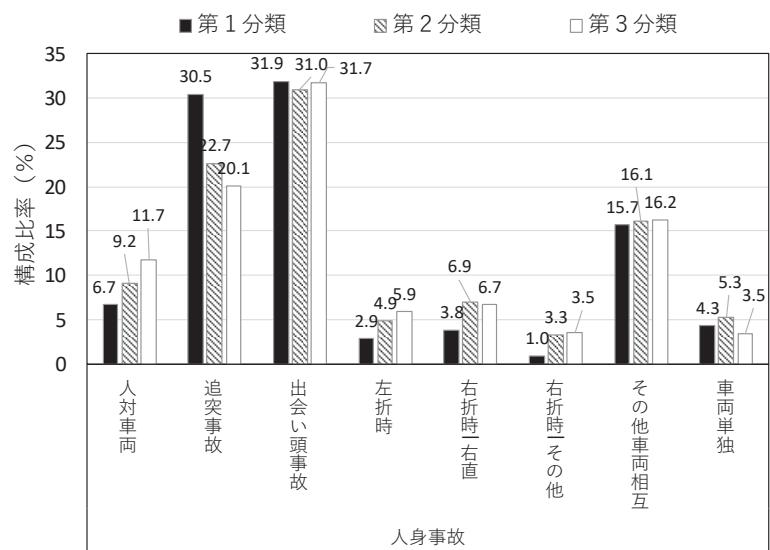
- 構成比率は、第2分類では出会い頭事故、第3分類では右左折時（右直）が最も高かった。
- 相対事故率は、第2分類では追突事故、出会い頭事故、その他車両相互、第3分類の右折時（右直）が他の分類と比較して高かった。



<付録図 47 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後2年以上3年未満・死亡事故・2当) >

○人身事故（1当）

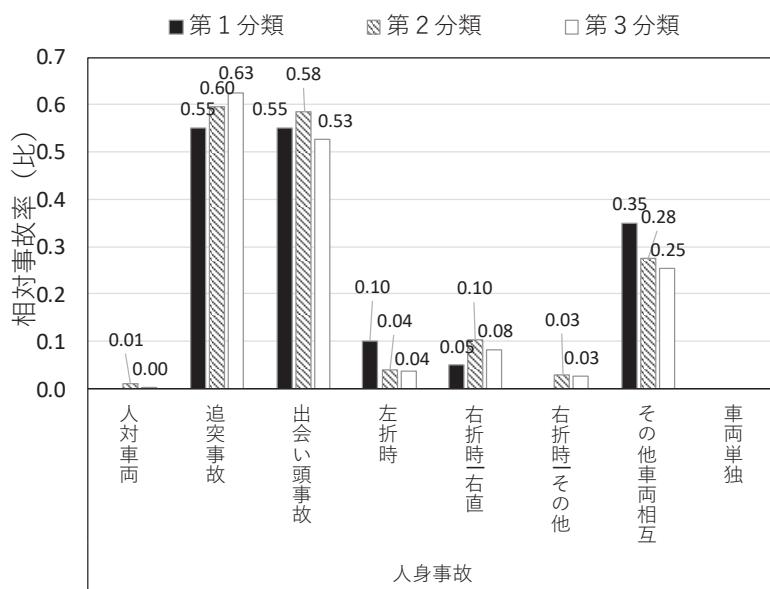
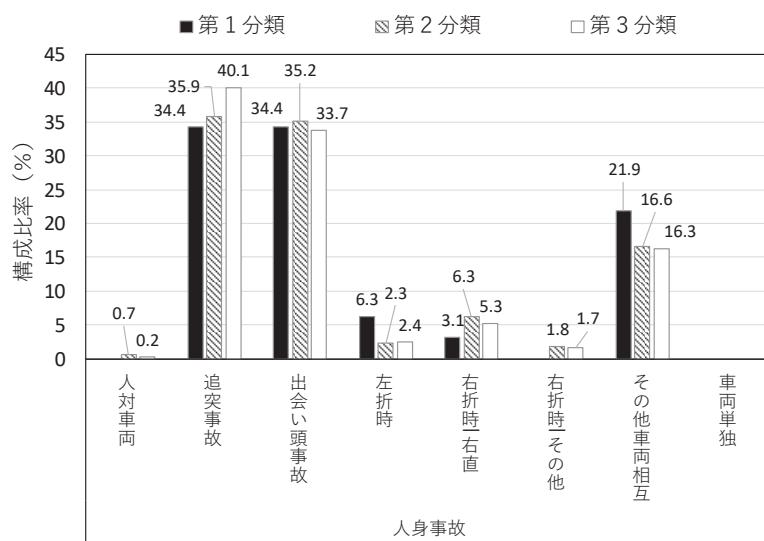
- 構成比率は、いずれの分類も出会い頭事故が最も高かった。
- 相対事故率は、第1分類の追突事故、出会い頭事故が特に高かった。



<付録図 48 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後 2 年以上 3 年未満・人身事故・1 当) >

○人身事故（2当）

- 構成比率は、いずれの分類も追突事故、出会い頭事故が高かった。
- 相対事故率は、第3分類の追突事故、第2分類の出会い頭事故、第3分類のその他車両相互が他の分類と比較して高かった。



<付録図 49 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後2年以上3年未満・人身事故・2当)>

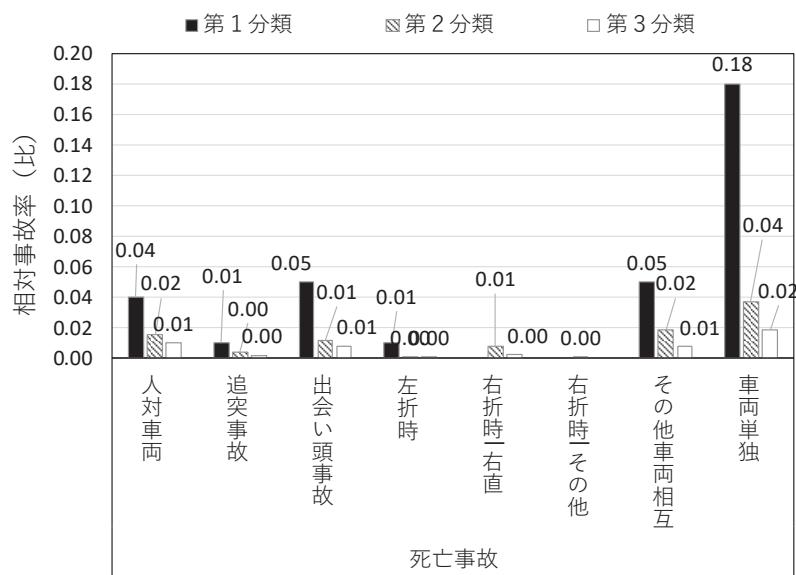
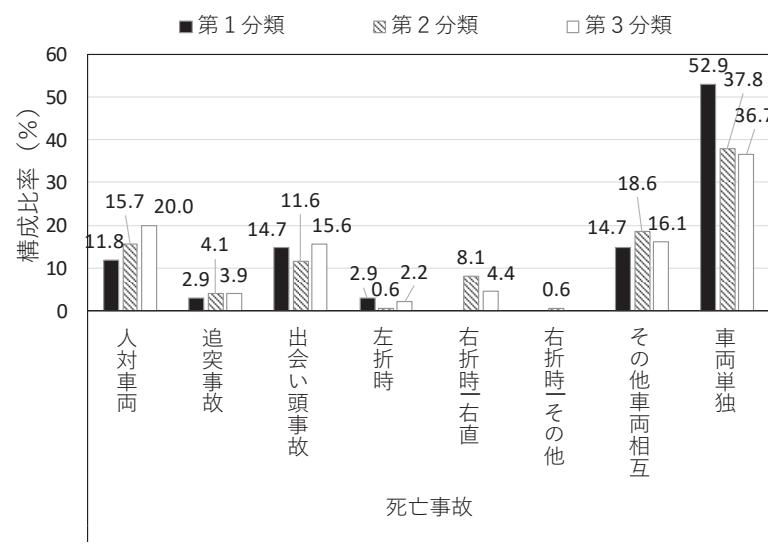
<付録表9 事故類型別交通事故当事者数（高齢者講習後2年以上3年未満）>

		事故者数(人)			構成比率(%)			相対事故率(比)			
		第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	合計	第1分類	第2分類	合計
1 当	人対車両	0	3	14	17	0	6.1	25.0	14.9	0	0.01
	追突事故	1	3	2	6	11.1	6.1	3.6	5.3	0.05	0.01
	出会い頭事故	0	5	8	13	0	10.2	14.3	11.4	0	0.01
	左折時死	0	0	2	2	0	0	3.6	1.8	0	0.00
	右折時[右直]死	0	2	3	5	0	4.1	5.4	4.4	0	0.00
	右折時[その他死]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	その他車両相互死	0	12	4	16	0	24.5	7.1	14.0	0	0
	車両単独死	8	23	23	54	88.9	46.9	41.1	47.4	0.40	0.02
	計	9	49	56	114	-	-	-	0.45	0.11	0.06
	人対車両	14	259	606	879	6.7	9.2	11.7	10.7	0.70	0.59
2 当	追突事故	64	641	1040	1745	30.5	22.7	20.1	21.2	3.20	1.45
	出会い頭事故	67	876	1644	2587	31.9	31.0	31.7	31.5	3.35	1.98
	左折時死	6	139	308	453	2.9	4.9	5.9	5.5	0.30	0.31
	右折時[右直]死	8	196	348	552	3.8	6.9	6.7	6.7	0.40	0.44
	右折時[その他死]	2	93	182	277	1.0	3.3	3.5	3.4	0.10	0.21
	その他車両相互死	33	455	841	1329	15.7	16.1	16.2	16.2	1.65	1.03
	車両単独死	9	149	179	337	4.3	5.3	3.5	4.1	0.45	0.34
	計	210	2829	5178	8217	-	-	-	10.50	6.40	5.13
	人対車両	0	0	1	1	-	0	14.3	6.3	0	0.00
	追突事故	0	2	1	3	-	22.2	14.3	18.8	0	0.00
人 身 事 故	出会い頭事故	0	4	1	5	-	44.4	14.3	31.3	0	0.01
	左折時死	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0
	右折時[右直]死	0	1	3	4	-	11.1	42.9	25.0	0	0.00
	右折時[その他死]	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0.00
	その他車両相互死	0	2	1	3	-	22.2	14.3	18.8	0	0.00
	車両単独死	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	計	0	9	7	16	-	-	-	0	0.02	0.01
	人対車両	0	5	3	8	0	0.7	0.2	0.3	0	0.01
	追突事故	11	263	632	906	34.4	35.9	40.1	38.7	0.55	0.60
	出会い頭事故	11	258	531	800	34.4	35.2	33.7	34.2	0.55	0.58
車 両 事 故	左折時死	2	17	38	57	6.3	2.3	2.4	0.10	0.04	0.04
	右折時[右直]死	1	46	83	130	3.1	6.3	5.3	5.6	0.05	0.10
	右折時[その他死]	0	13	26	39	0	1.8	1.7	0	0.03	0.03
	その他車両相互死	7	122	257	386	21.9	16.6	16.3	16.5	0.35	0.28
	車両単独死	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	32	733	1575	2340	-	-	-	-	1.60	1.56	1.59

d 高齢者講習後3年間

○死亡事故（1当）

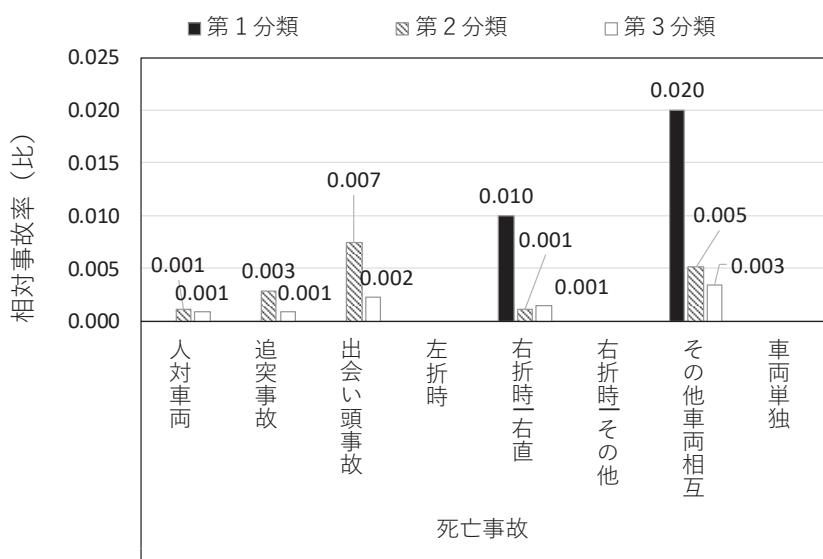
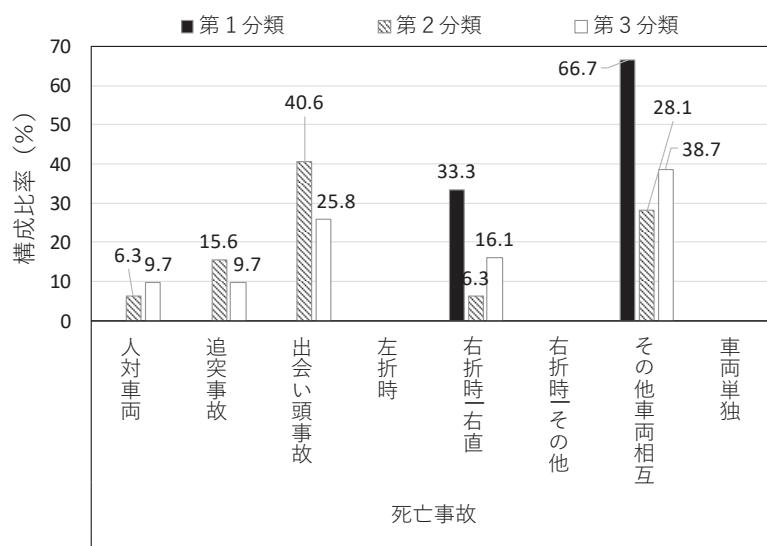
- 構成比率は、いずれの分類も車両単独が最も高かった。特に、第1分類の車両単独は他の分類と比較して高かった。
- 相対事故率は、第1分類の車両単独が他の分類と比較して特に高かった。



<付録図 50 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後3年間・死亡事故・1当)>

○死亡事故（2当）

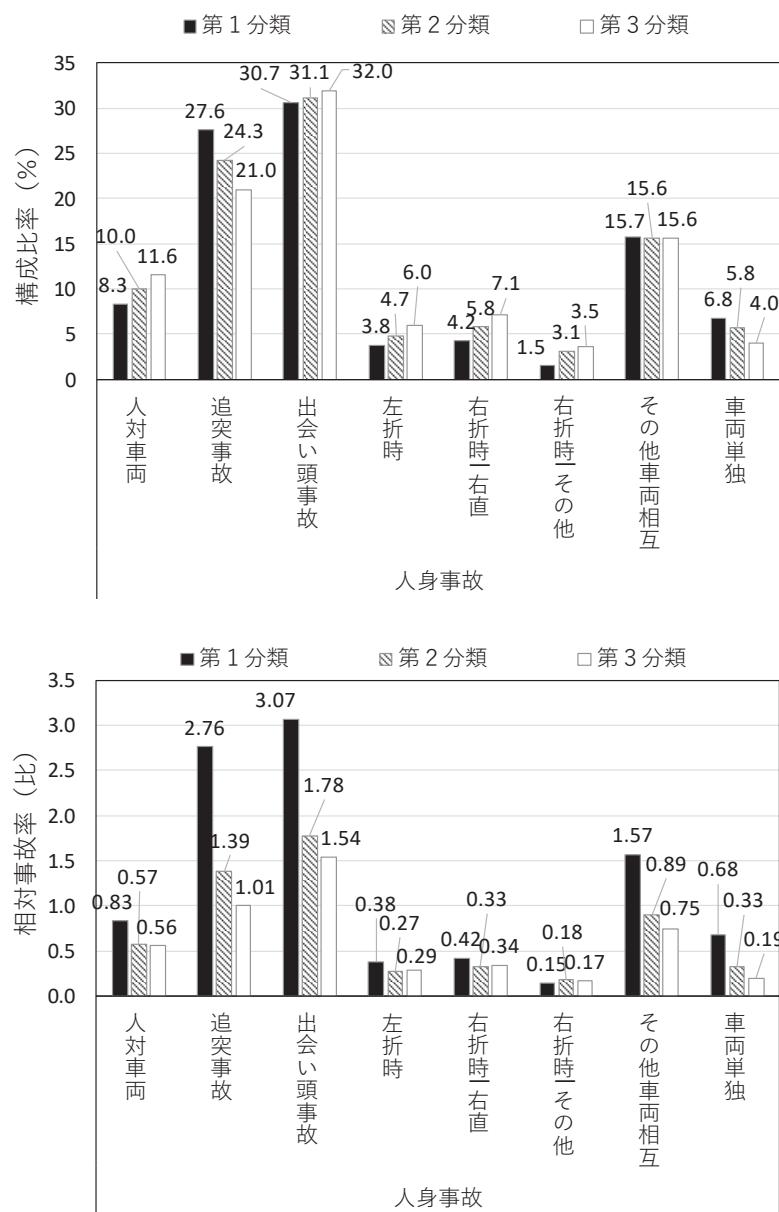
- 構成比率は、第1分類ではその他車両相互、右折時（右直）、第2分類では出会い頭事故、追突事故、第3分類では人対車両がその他分類より高かった。
- 相対事故率は、第1分類ではその他車両相互、右折時（右直）、第2分類の出会い頭事故、追突事故が他の分類と比較して高かった。



＜付録図 51 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後3年間・死亡事故・2当)＞

○人身事故（1当）

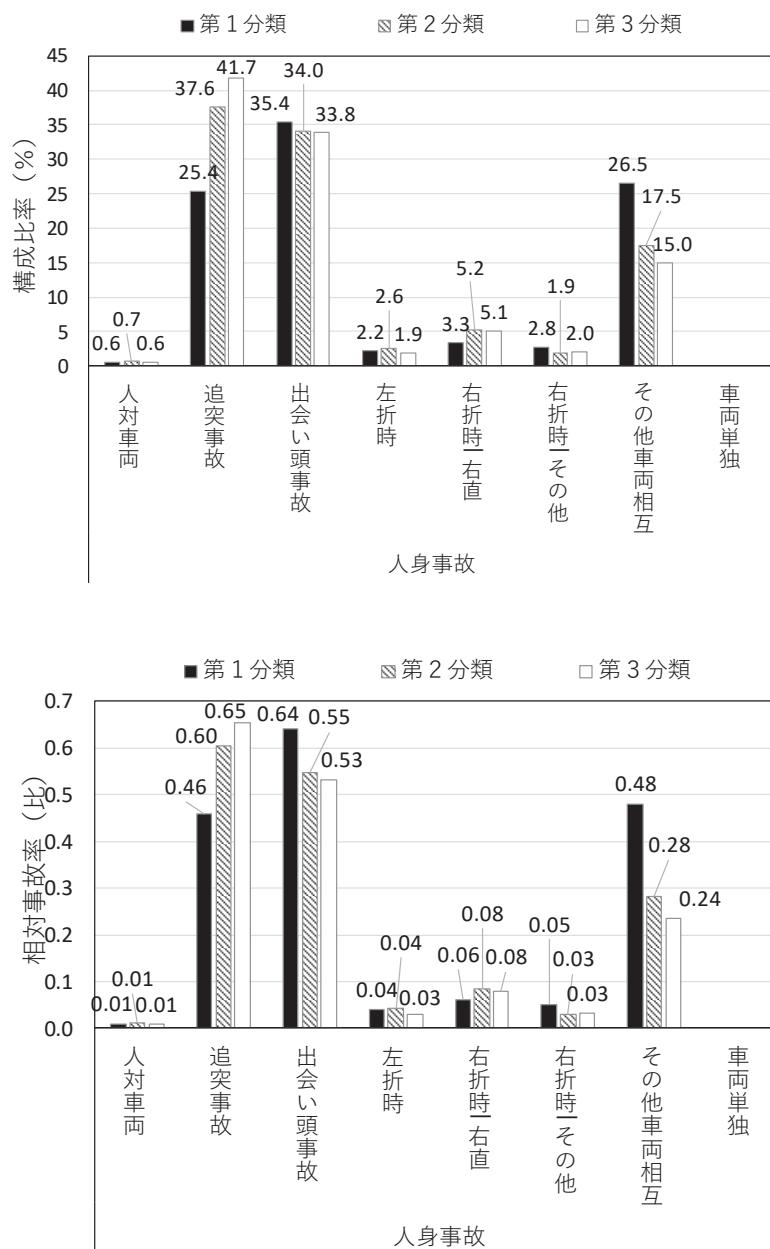
- 構成比率は、いずれの分類も出会い頭事故が最も高かった。
- 相対事故率は、第1分類の追突事故、出会い頭事故が特に高かった。



<付録図 52 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後3年間・人身事故・1当)>

○人身事故（2当）

- 構成比率は、第1分類では出会い頭事故、第2分類、第3分類では追突事故が最も高かった。
- 相対事故率は、第1分類の出会い頭事故、その他車両相互、第3分類の追突事故が他の分類と比較して高かった。



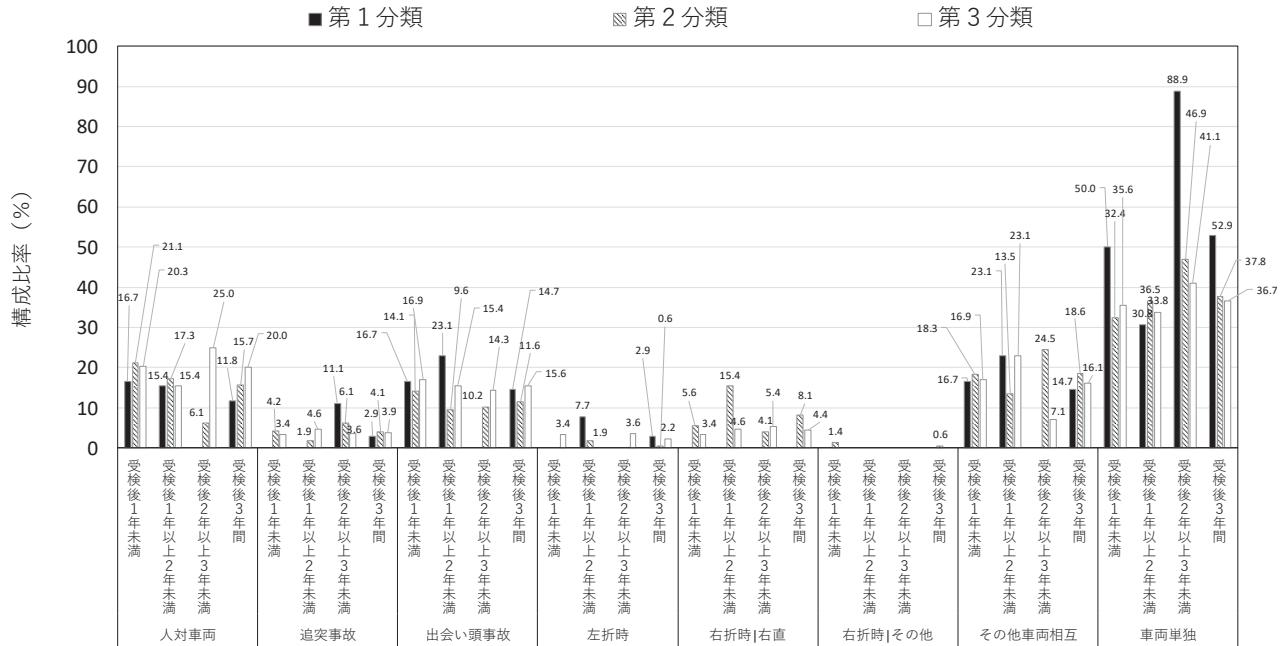
<付録図 53 事故類型別交通事故当事者数
(高齢者講習後3年間・人身事故・2当) >

<付録表 10 事故類型別交通事故当事者数（高齢者講習後3年間）>

		事故当事者数(人)			構成比率(%)			相対事故率(比)					
		第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
死 亡 事 故	人対車両	4	27	36	67	11.8	15.7	20.0	17.4	0.04	0.02	0.01	0.01
	追突事故	1	7	7	15	2.9	4.1	3.9	3.9	0.01	0.00	0.00	0.00
	出会い頭事故	5	20	28	53	14.7	11.6	15.6	13.7	0.05	0.01	0.01	0.01
	左折時	1	1	4	6	2.9	0.6	2.2	1.6	0.01	0.00	0.00	0.00
	右折時 右直	0	14	8	22	0	8.1	4.4	5.7	0	0.01	0.00	0.00
	右折時 その他	0	1	0	1	0	0.6	0	0.3	0	0.00	0	0.00
	その他車両相互	5	32	29	66	14.7	18.6	16.1	17.1	0.05	0.02	0.01	0.01
	車両単独	18	65	66	149	52.9	37.8	36.7	38.6	0.18	0.04	0.02	0.03
	計	34	172	180	386	-	-	-	-	0.34	0.10	0.05	0.07
	人対車両	83	1006	1983	3072	8.3	10.0	11.6	10.9	0.83	0.57	0.56	0.57
人身 事 故	追突事故	276	2442	3601	6319	27.6	24.3	21.0	22.4	2.76	1.39	1.01	1.16
	出会い頭事故	307	3130	5488	8925	30.7	31.1	32.0	31.6	3.07	1.78	1.54	1.64
	左折時	38	475	1032	1545	3.8	4.7	6.0	5.5	0.38	0.27	0.29	0.28
	右折時 右直	42	584	1223	1849	4.2	5.8	7.1	6.5	0.42	0.33	0.34	0.34
	右折時 その他	15	313	608	936	1.5	3.1	3.5	3.3	0.15	0.18	0.17	0.17
	その他車両相互	157	1574	2676	4407	15.7	15.6	15.6	15.6	1.57	0.89	0.75	0.81
	車両単独	68	579	681	1328	6.8	5.8	4.0	4.7	0.68	0.33	0.19	0.24
	計	1,001	10,065	17,168	28,234	-	-	-	-	10.01	5.72	4.81	5.20
	人対車両	0	2	3	5	0	6.3	9.7	7.6	0	0.00	0.00	0.00
	追突事故	0	5	3	8	0	15.6	9.7	12.1	0	0.00	0.00	0.00
死亡 事故	出会い頭事故	0	13	8	21	0	40.6	25.8	31.8	0	0.01	0.00	0.00
	左折時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折時 右直	1	2	5	8	33.3	6.3	16.1	12.1	0.01	0.00	0.00	0.00
	右折時 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他車両相互	2	9	12	23	66.7	28.1	38.7	34.8	0.02	0.01	0.00	0.00
	車両単独	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	3	32	31	66	-	-	-	-	0.03	0.02	0.01	0.01
	人対車両	1	20	31	52	0.6	0.7	0.6	0.6	0.01	0.01	0.01	0.01
	追突事故	46	10,64	23,37	34,47	25.4	37.6	41.7	40.0	0.46	0.60	0.65	0.63
	出会い頭事故	64	963	18,96	29,23	35.4	34.0	33.8	33.9	0.64	0.55	0.53	0.54
人身 事 故	左折時	4	73	109	186	2.2	2.6	1.9	2.2	0.04	0.04	0.03	0.03
	右折時 右直	6	147	284	437	3.3	5.2	5.1	5.1	0.06	0.08	0.08	0.08
	右折時 その他	5	54	113	172	2.8	1.9	2.0	2.0	0.05	0.03	0.03	0.03
	その他車両相互	48	496	841	13,85	26.5	17.5	15.0	16.1	0.48	0.28	0.24	0.26
車両単独	車両単独	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	181	2,829	5,602	8,612	-	-	-	-	1.81	1.61	1.57	1.59

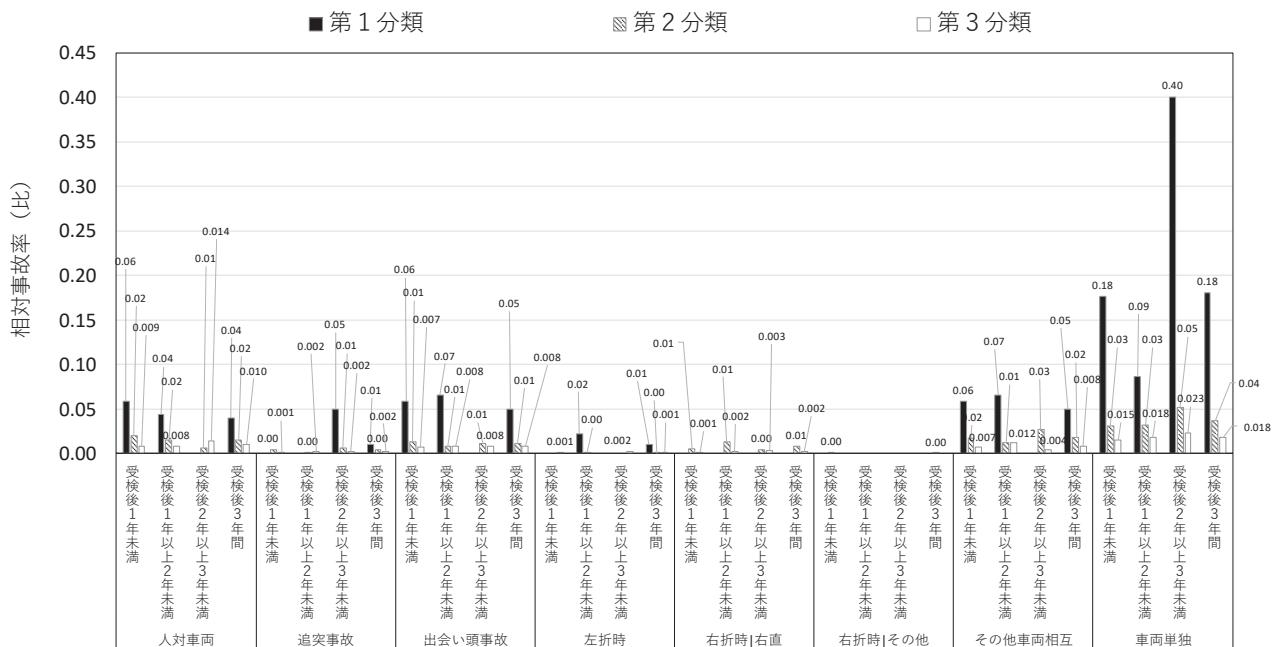
イ 経年変化

○ 死亡事故（1当・構成比率）



<付録図 54 死亡事故（1当・構成比率）の経年変化>

○ 死亡事故（1当・相対事故率）

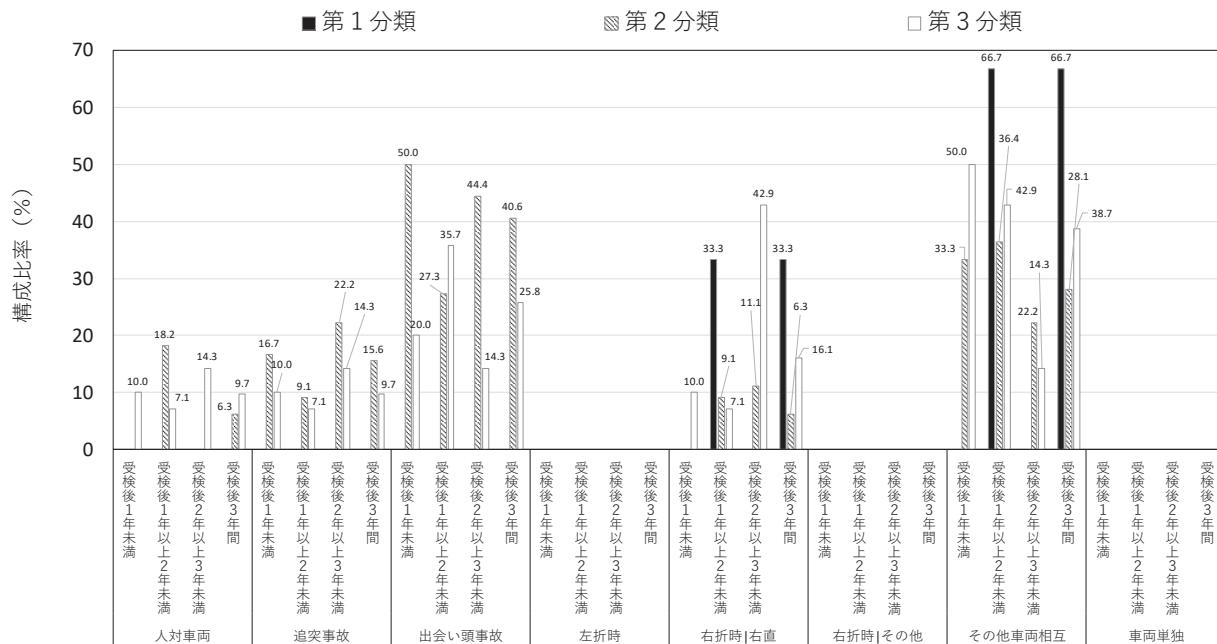


<付録図 55 死亡事故（1当・相対事故率）の経年変化>

<付録表 11 事故類型別交通事故当事者数（死亡事故（1当））>

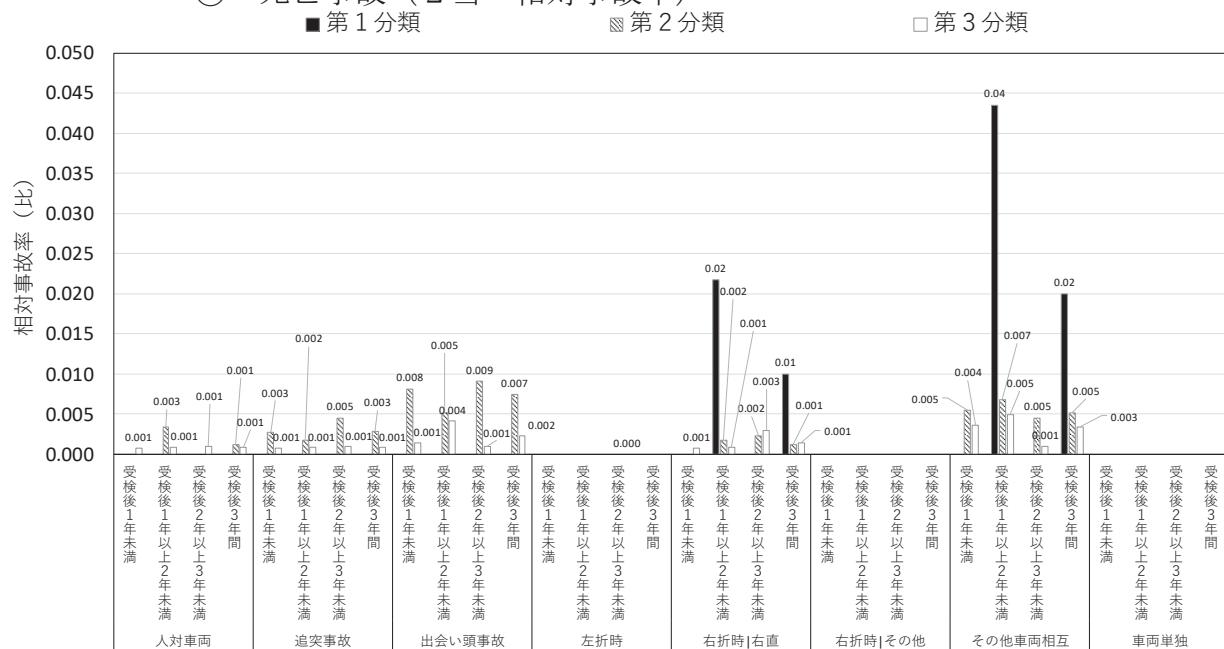
事故類型	集計期間	事故者数(人)			構成比率(%)			相対事故率(比)			合計	
		第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	
人対車両	受検後1年未満	2	15	12	29	16.7	21.1	20.3	20.4	0.06	0.02	0.01
	受検後1年以上2年未満	2	9	10	21	15.4	17.3	15.4	16.2	0.04	0.02	0.01
	受検後2年以上3年未満	0	3	14	17	0	6.1	25.0	14.9	0	0.01	0.01
	受検後3年間	4	27	36	67	11.8	15.7	20.0	17.4	0.04	0.02	0.01
	受検後1年未満	0	3	2	5	0	4.2	3.4	3.5	0	0.00	0.00
	受検後1年以上2年未満	0	1	3	4	0	1.9	4.6	3.1	0	0.00	0.00
追突事故	受検後2年以上3年未満	1	3	2	6	11.1	6.1	3.6	5.3	0.05	0.01	0.00
	受検後3年間	1	7	7	15	2.9	4.1	3.9	3.9	0.01	0.00	0.00
	受検後1年未満	2	10	10	22	16.7	14.1	16.9	15.5	0.06	0.01	0.01
	受検後1年以上2年未満	3	5	10	18	23.1	9.6	15.4	13.8	0.07	0.01	0.01
	受検後2年以上3年未満	0	5	8	13	0	10.2	14.3	11.4	0	0.01	0.01
	受検後3年間	5	20	28	53	14.7	11.6	15.6	13.7	0.05	0.01	0.01
出会い頭事故	受検後1年未満	0	0	2	2	0	0	3.4	1.4	0	0	0.00
	受検後1年以上2年未満	1	1	0	2	7.7	1.9	0	1.5	0.02	0.00	0
	受検後2年以上3年未満	0	0	2	2	0	0	3.6	1.8	0	0	0.00
	受検後3年間	1	1	4	6	2.9	0.6	2.2	1.6	0.01	0.00	0.00
	受検後1年未満	0	4	2	6	0	5.6	3.4	4.2	0	0.01	0.00
	受検後1年以上2年未満	0	8	3	11	0	15.4	4.6	8.5	0	0.01	0.01
左折時	受検後2年以上3年未満	0	2	3	5	0	4.1	5.4	4.4	0	0.00	0.00
	受検後3年間	1	1	4	6	2.9	0.6	2.2	1.6	0.01	0.00	0.00
	受検後1年未満	0	4	2	6	0	5.6	3.4	4.2	0	0.01	0.00
	受検後1年以上2年未満	0	8	3	11	0	15.4	4.6	8.5	0	0.01	0.01
	受検後2年以上3年未満	0	2	3	5	0	4.1	5.4	4.4	0	0.00	0.00
	受検後3年間	0	14	8	22	0	8.1	4.4	5.7	0	0.01	0.00
右折時 直	受検後1年未満	0	1	0	1	0	1.4	0	0.7	0	0.00	0.00
	受検後1年以上2年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	受検後2年以上3年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	受検後3年間	0	1	0	1	0	0.6	0	0.3	0	0.00	0.00
	受検後1年未満	2	13	10	25	16.7	18.3	16.9	17.6	0.06	0.02	0.01
	受検後1年以上2年未満	3	7	15	25	23.1	13.5	23.1	19.2	0.07	0.01	0.01
その他車両相互	受検後2年以上3年未満	0	12	4	16	0	24.5	7.1	14.0	0	0.03	0.01
	受検後3年間	5	32	29	66	14.7	18.6	16.1	17.1	0.05	0.02	0.01
	受検後1年未満	6	23	21	50	50.0	32.4	35.6	35.2	0.18	0.03	0.02
	受検後2年以上3年未満	4	19	22	45	30.8	36.5	33.8	34.6	0.09	0.03	0.02
	受検後1年未満	8	23	23	54	88.9	46.9	41.1	47.4	0.40	0.05	0.04
	受検後3年間	18	65	66	149	52.9	37.8	36.7	38.6	0.18	0.04	0.03
車両単独	受検後1年未満	12	71	59	142	-	-	-	-	0.35	0.10	0.04
	受検後2年以上3年未満	13	52	65	130	-	-	-	-	0.28	0.09	0.05
	受検後3年間	9	49	56	114	-	-	-	-	0.45	0.11	0.06
計	受検後1年未満	34	172	180	386	-	-	-	-	0.34	0.10	0.05
	受検後3年間											0.07

○ 死亡事故（2当・構成比率）



<付録図 56 死亡事故（2当・構成比率）の経年変化>

○ 死亡事故（2当・相対事故率）

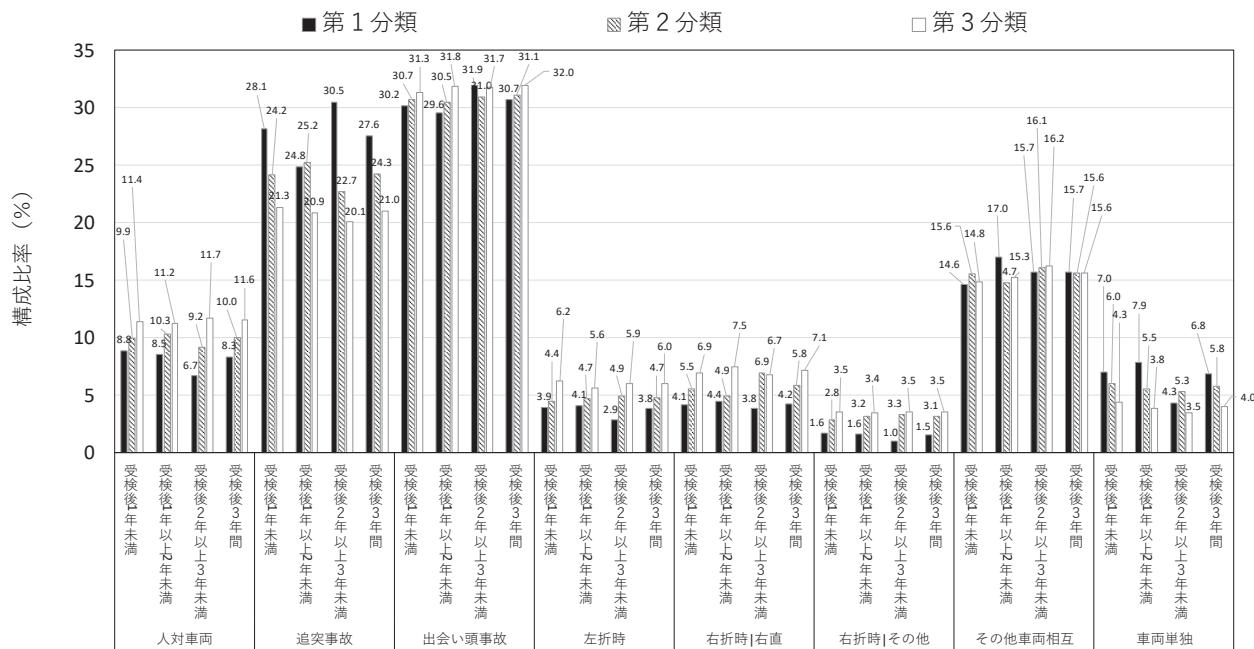


<付録図 57 死亡事故（2当・相対事故率）の経年変化>

<付録表12 事故類型別交通事故当事者数（死亡事故（2当））>

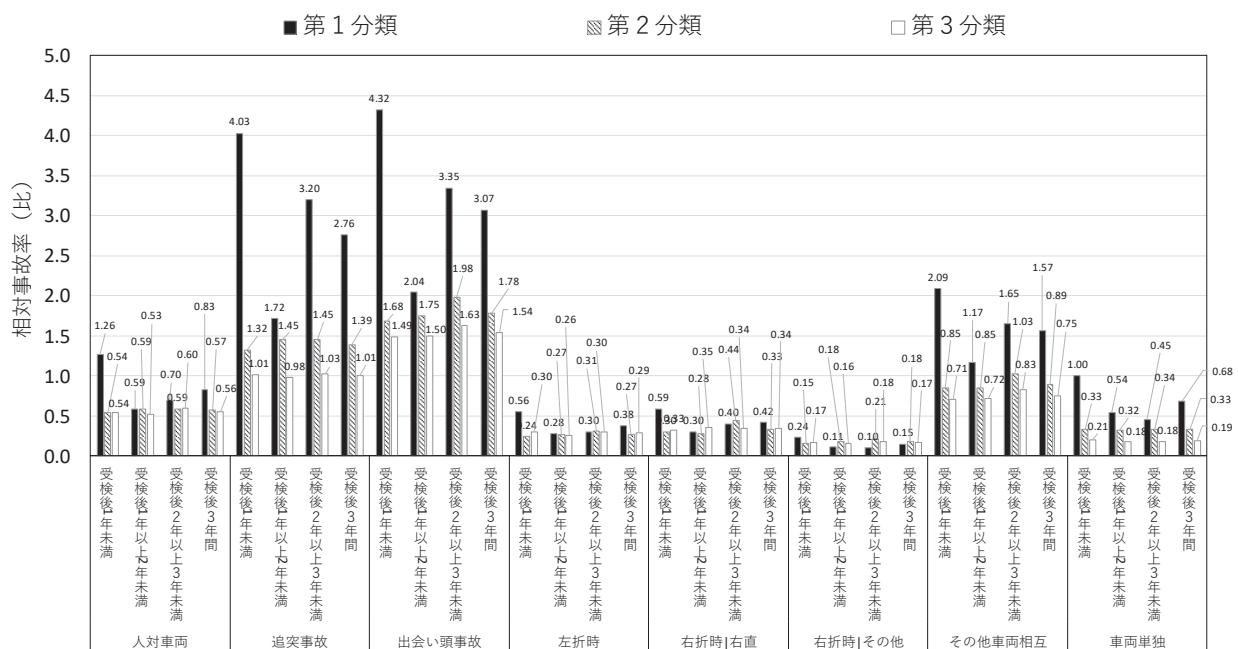
事故類型	集計期間	事故者数(人)			構成比率(%)			相対事故率(比)					
		第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計
人対車両	受検後1年未満	0	0	1	1	-	0	10.0	4.5	0	0	0.00	0.00
	受検後1年以上2年未満	0	2	1	3	0	18.2	7.1	10.7	0	0.00	0.00	0.00
	受検後2年以上3年未満	0	0	1	1	-	0	14.3	6.3	0	0.00	0.00	0.00
	受検後3年間	0	2	3	5	0	6.3	9.7	7.6	0	0.00	0.00	0.00
追突事故	受検後1年未満	0	2	1	3	-	16.7	10.0	13.6	0	0.00	0.00	0.00
	受検後1年以上2年未満	0	1	1	2	0	9.1	7.1	7.1	0	0.00	0.00	0.00
	受検後2年以上3年未満	0	2	1	3	-	22.2	14.3	18.8	0	0.00	0.00	0.00
	受検後3年間	0	5	3	8	0	15.6	9.7	12.1	0	0.00	0.00	0.00
出会い頭事故	受検後1年未満	0	6	2	8	-	50.0	20.0	36.4	0	0.01	0.00	0.00
	受検後1年以上2年未満	0	3	5	8	0	27.3	35.7	28.6	0	0.01	0.00	0.00
	受検後2年以上3年未満	0	4	1	5	-	44.4	14.3	31.3	0	0.01	0.00	0.00
	受検後3年間	0	13	8	21	0	40.6	25.8	31.8	0	0.01	0.00	0.00
左折時	受検後1年未満	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0.00	0.00
	受検後1年以上2年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00
	受検後2年以上3年未満	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0.00	0.00
	受検後3年間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00
右折時 直	受検後1年未満	0	0	1	1	-	0	10.0	4.5	0	0	0.00	0.00
	受検後1年以上2年未満	1	1	1	3	33.3	9.1	7.1	10.7	0.02	0.00	0.00	0.00
	受検後2年以上3年未満	0	1	3	4	-	11.1	42.9	25.0	0	0.00	0.00	0.00
	受検後3年間	1	2	5	8	33.3	6.3	16.1	12.1	0.01	0.00	0.00	0.00
その他	受検後1年未満	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0.00	0.00
	受検後1年以上2年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00
	受検後2年以上3年未満	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0.00	0.00
	受検後3年間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00
その他車両相互	受検後1年未満	0	4	6	12	66.7	36.4	42.9	0.04	0.01	0.00	0.01	0.01
	受検後1年以上2年未満	0	2	1	3	-	22.2	14.3	18.8	0	0.00	0.00	0.00
	受検後2年以上3年未満	2	9	12	23	66.7	28.1	38.7	34.8	0.02	0.01	0.00	0.00
	受検後3年間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
車両単独	受検後1年未満	0	12	10	22	-	-	-	-	-	-	-	-
	受検後1年以上2年未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	受検後2年以上3年未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	受検後3年間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	受検後1年未満	3	11	14	28	-	-	-	-	0.07	0.02	0.01	0.02
	受検後2年以上3年未満	0	9	7	16	-	-	-	-	0	0.02	0.01	0.01
	受検後3年間	3	32	31	66	-	-	-	-	0.03	0.02	0.01	0.01

○ 人身事故（1当・構成比率）



<付録図 58 人身事故（1当・構成比率）の経年変化>

○ 人身事故（1当・相対事故率）

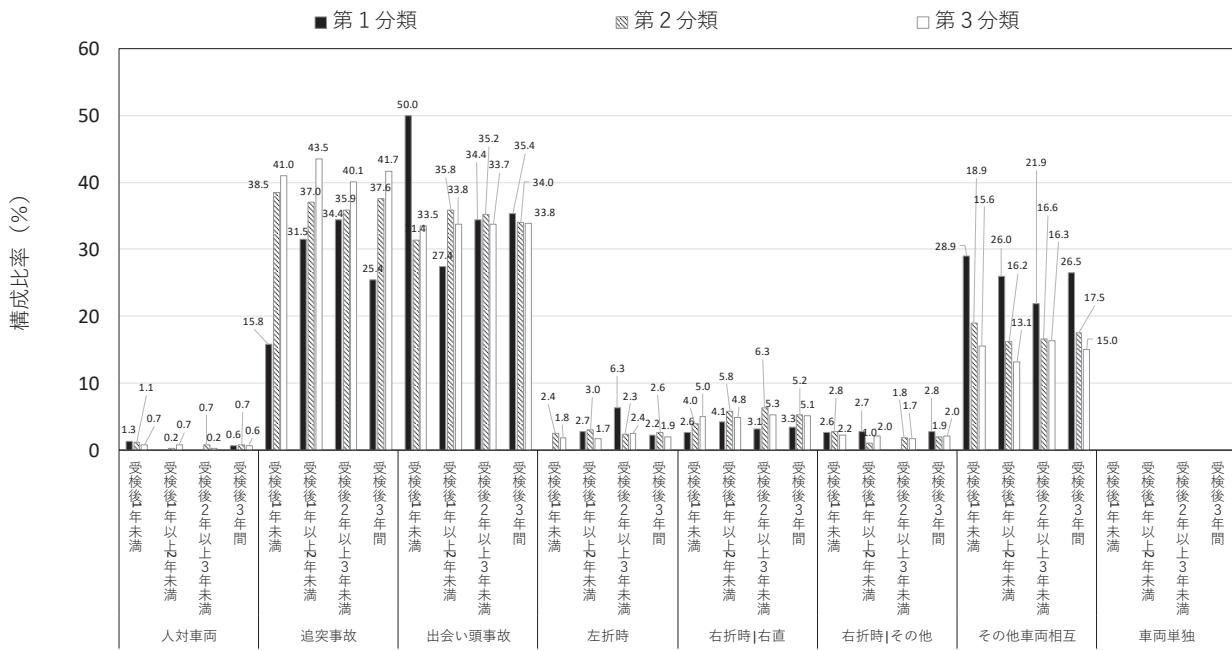


<付録図 59 人身事故（1当・相対事故率）の経年変化>

<付録表 13 事故類型別交通事故当事者数（人身事故（1当））>

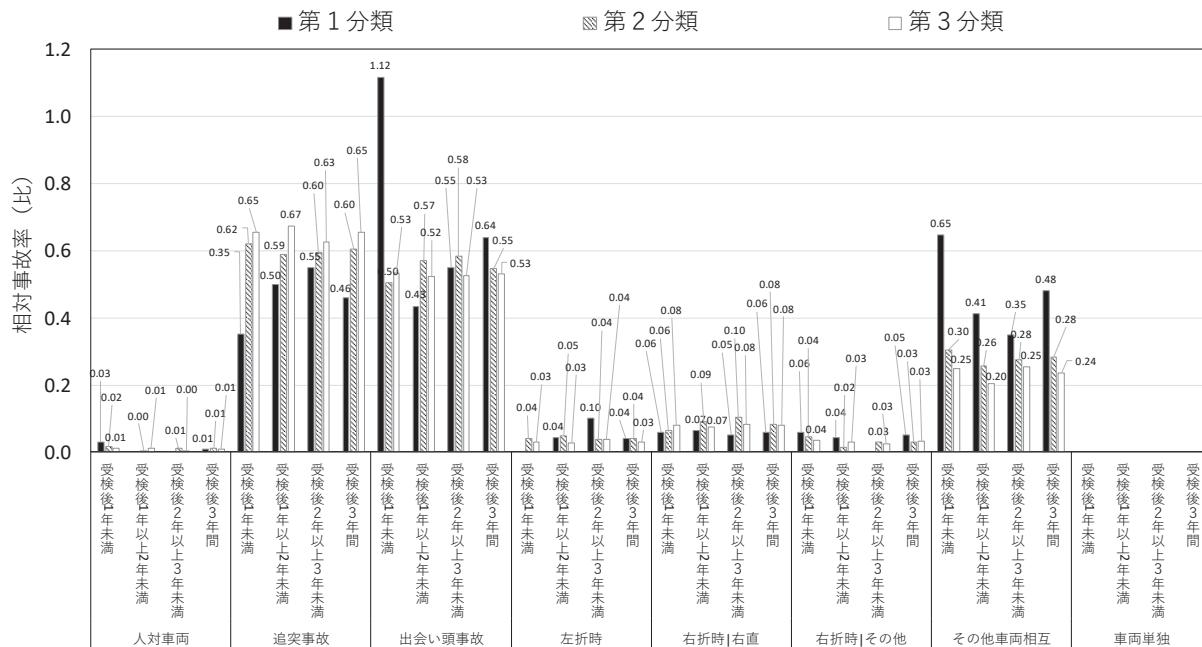
事故類型	集計期間	事故者数(人)			構成比率(%)			相対事故率(比)		
		第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類
人対車両	受検後1年未満	43	402	742	1187	8.8	9.9	11.4	10.7	1.26
	受検後1年以上2年未満	27	348	639	1014	8.5	10.3	11.2	10.8	0.59
	受検後2年以上3年未満	14	259	606	879	6.7	9.2	11.7	10.7	0.70
	受検後3年間	83	1006	1983	3072	8.3	10.0	11.6	10.9	0.83
	受検後1年未満	137	979	1392	2508	28.1	24.2	21.3	22.7	4.03
	受検後1年以上2年未満	79	854	1192	2125	24.8	25.2	20.9	22.6	1.72
追突事故	受検後2年以上3年未満	64	641	1040	1745	30.5	22.7	20.1	21.2	3.20
	受検後3年間	276	2442	3601	6319	27.6	24.3	21.0	22.4	2.76
	受検後1年未満	147	1245	2045	3437	30.2	30.7	31.3	31.1	4.32
	受検後1年以上2年未満	94	1033	1820	2947	29.6	30.5	31.8	31.3	2.04
	受検後2年以上3年未満	67	876	1644	2587	31.9	31.0	31.7	31.5	3.35
	受検後3年間	307	3130	5488	8925	30.7	31.1	32.0	31.6	3.07
出会い頭事故	受検後1年未満	19	179	407	605	3.9	4.4	6.4	6.2	5.5
	受検後1年以上2年未満	13	158	319	490	4.1	4.7	5.6	5.2	5.2
	受検後2年以上3年未満	6	139	308	453	2.9	4.9	5.9	5.5	5.30
	受検後3年間	38	475	1032	1545	3.8	4.7	6.0	5.5	5.38
	受検後1年未満	20	222	450	692	4.1	5.5	6.9	6.3	5.59
	受検後1年以上2年未満	14	167	427	608	4.4	4.9	7.5	6.5	5.30
左折時	受検後2年以上3年未満	8	196	348	552	3.8	6.9	6.7	6.7	5.40
	受検後3年間	42	584	1223	1849	4.2	5.8	7.1	6.5	5.42
	受検後1年未満	8	114	230	352	1.6	2.8	3.5	3.2	0.24
	受検後1年以上2年未満	5	107	196	308	1.6	3.2	3.4	3.3	0.11
	受検後2年以上3年未満	2	93	182	277	1.0	3.3	3.5	3.4	0.10
	受検後3年間	15	313	608	936	1.5	3.1	3.5	3.3	0.15
右折時 その他	受検後1年未満	71	630	969	1670	14.6	15.6	14.8	15.1	2.09
	受検後1年以上2年未満	54	499	872	1425	17.0	14.7	15.3	15.1	1.17
	受検後3年間	33	455	841	1329	15.7	16.1	16.2	16.2	1.65
	受検後1年未満	157	1574	2676	4407	15.7	15.6	15.6	15.6	1.57
	受検後1年以上2年未満	34	243	283	560	7.0	6.0	4.3	5.1	1.00
	受検後3年間	25	187	220	432	7.9	5.5	3.8	4.6	0.54
その他の車両相互	受検後2年以上3年未満	9	149	179	337	4.3	5.3	4.1	4.1	0.45
	受検後1年未満	68	579	681	1328	6.8	5.8	4.0	4.7	0.68
	受検後1年以上2年未満	487	4050	6528	11065	-	-	-	-	14.32
	受検後3年間	318	3386	5716	9420	-	-	-	-	6.91
	受検後1年未満	210	2829	5178	8217	-	-	-	-	10.50
	受検後3年間	1001	10065	17168	28234	-	-	-	-	10.01
計										5.72
										4.81
										5.20

○ 人身事故（2当・構成比率）



<付録図 60 人身事故（2当・構成比率）の経年変化>

○ 人身事故（2当・相対事故率）



<付録図 61 人身事故（2当・相対事故率）の経年変化>

<付録表 14 事故類型別交通事故当事者数（人身事故（2当））>

事故類型	集計期間	事故者数(人)	構成比率(%)						相対事故率(比)		
			第1分類		第2分類		第3分類		合計	第1分類	第2分類
			第1分類	第2分類	第3分類	合計	第1分類	第2分類		第1分類	第2分類
人対車両	受検後1年未満	1	13	15	29	1.3	1.1	0.7	0.8	0.03	0.02
	受検後1年以上2年未満	0	2	13	15	0	0.2	0.7	0.5	0	0.00
	受検後2年以上3年未満	0	5	3	8	0	0.7	0.2	0.3	0	0.01
	受検後3年間	1	20	31	52	0.6	0.7	0.6	0.6	0.01	0.01
追突事故	受検後1年未満	12	458	899	1369	15.8	38.5	41.0	39.6	0.35	0.62
	受検後1年以上2年未満	23	347	821	1191	31.5	37.0	43.5	41.1	0.50	0.59
	受検後2年以上3年未満	11	263	632	906	34.4	35.9	40.1	38.7	0.55	0.60
	受検後3年間	46	1064	2337	3447	25.4	37.6	41.7	40.0	0.46	0.60
出会い頭事故	受検後1年未満	38	373	733	1144	50.0	31.4	33.5	33.1	1.12	0.50
	受検後1年以上2年未満	20	336	637	993	27.4	35.8	33.8	34.3	0.43	0.57
	受検後2年以上3年未満	11	258	531	800	34.4	35.2	33.7	34.2	0.55	0.58
	受検後3年間	64	963	1896	2923	35.4	34.0	33.8	33.9	0.64	0.55
左折時	受検後1年未満	0	29	40	69	0	2.4	1.8	2.0	0	0.04
	受検後1年以上2年未満	2	28	32	62	2.7	3.0	1.7	2.1	0.04	0.05
	受検後2年以上3年未満	2	17	38	57	6.3	2.3	2.4	2.4	0.10	0.04
	受検後3年間	4	73	109	186	2.2	2.6	1.9	2.2	0.04	0.03
右折時 右直	受検後1年未満	2	47	110	159	2.6	4.0	5.0	4.6	0.06	0.08
	受検後1年以上2年未満	3	54	91	148	4.1	5.8	4.8	5.1	0.07	0.09
	受検後2年以上3年未満	1	46	83	130	3.1	6.3	5.3	5.6	0.05	0.10
	受検後3年間	6	147	284	437	3.3	5.2	5.1	5.1	0.06	0.08
右折時 その他	受検後1年未満	2	33	49	84	2.6	2.8	2.2	2.4	0.06	0.04
	受検後1年以上2年未満	2	9	38	49	2.7	1.0	2.0	1.7	0.04	0.02
	受検後2年以上3年未満	0	13	26	39	0	1.8	1.7	1.7	0	0.03
	受検後3年間	5	54	113	172	2.8	1.9	2.0	2.0	0.05	0.03
その他車両相互	受検後1年未満	22	225	341	588	28.9	18.9	15.6	17.0	0.65	0.30
	受検後1年以上2年未満	19	152	247	418	26.0	16.2	13.1	14.4	0.41	0.26
	受検後2年以上3年未満	7	122	257	386	21.9	16.6	16.3	16.5	0.35	0.28
	受検後3年間	48	496	841	1385	26.5	17.5	15.0	16.1	0.48	0.28
車両単独	受検後1年未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	受検後1年以上2年未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	受検後2年以上3年未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	受検後3年間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	受検後1年未満	76	1189	2191	3456	-	-	-	-	2.24	1.61
	受検後1年以上2年未満	73	938	1887	2898	-	-	-	-	1.59	1.55
	受検後2年以上3年未満	32	733	1575	2340	-	-	-	-	1.60	1.66
	受検後3年間	181	2829	5602	8612	-	-	-	-	1.81	1.61

映像加工方法

ドラレコには専用ソフトを使用することにより映像と同期して走行速度、3軸加速度、走行位置等を表示することが可能な製品があるが、これらの情報が映像ファイルに埋め込まれている場合、モザイク処理等を行う際の映像のエンコード（圧縮処理、変換処理等）を行う過程で情報が失われてしまう可能性がある。走行速度等を表示しつつモザイク処理も行いたい場合は以下①から③の手順に従う。※専用ソフトを使わない場合、以下「a キャプチャ」の処理は不要となる。

- ① パソコンでドラレコ映像を再生する専用ソフトを起動し、記録したい状態（走行速度を表示等）で映像を再生する。
- ② ①を動画として記録する。以下、「キャプチャ」という。)。
- ③ ②で保存した動画にモザイク処理をかける。

キャプチャ及びモザイク処理方法の詳細を以下に示す。

(1) キャプチャ

以下に、今回使用したWindow 10(Microsoft)のOS標準ソフトによるキャプチャ方法を示す。

- ① パソコンで専用ソフトを起動し、記録したい状態（走行速度を表示等）で映像を再生する。



＜付録図 62 ドラレコ専用ビューワーの起動 (PIXPRO SP360) ＞

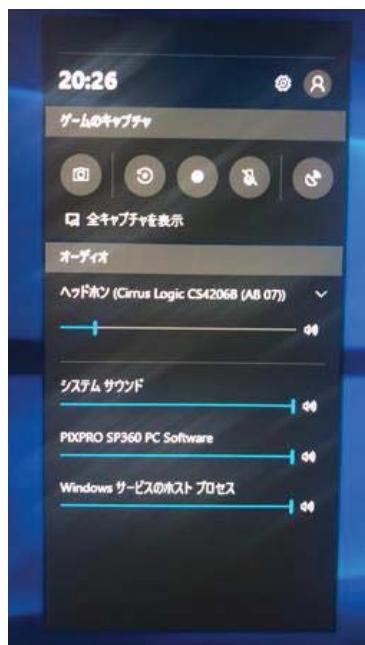
- ② 「Windowsキー + Gボタン」でゲームバーを表示する。なお、キャプチャは現在選択されているアプリケーションに対して行われるため、「Windowsキー + Gボタン」を押すまではその他のアプリケーションの操作

は行わない。

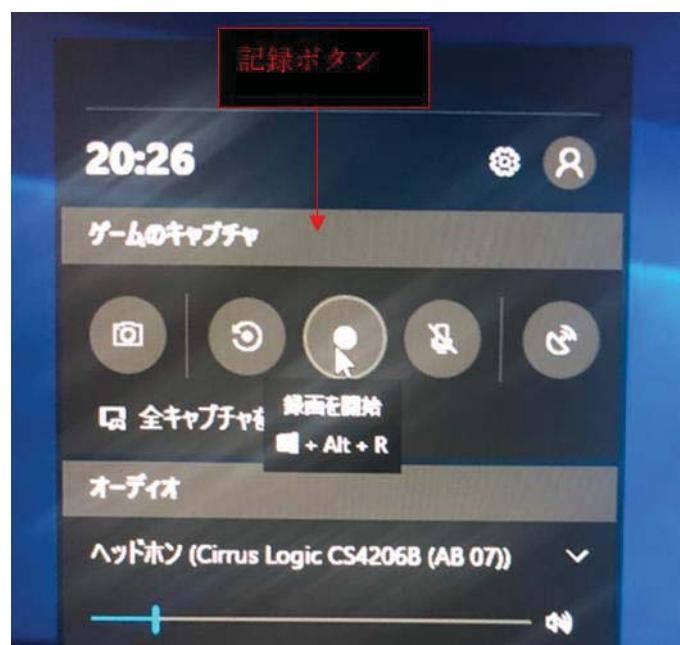
③ 「記録を開始」ボタンを押し、①を動画とし記録する

④ 動画の再生が終わったら「記録を停止」ボタンで記録を停止する。

⑤ キャプチャされたファイルは、デフォルトで「C:\Users\ユーザー名\Videos\Captures」に mp4 形式で保存される。(ユーザー名の部分は使用環境に合わせて変換。)



＜付録図 63 ゲームバーの起動＞



＜図 64 記録を開始ボタン＞



＜付録図 65 録画を停止ボタン＞

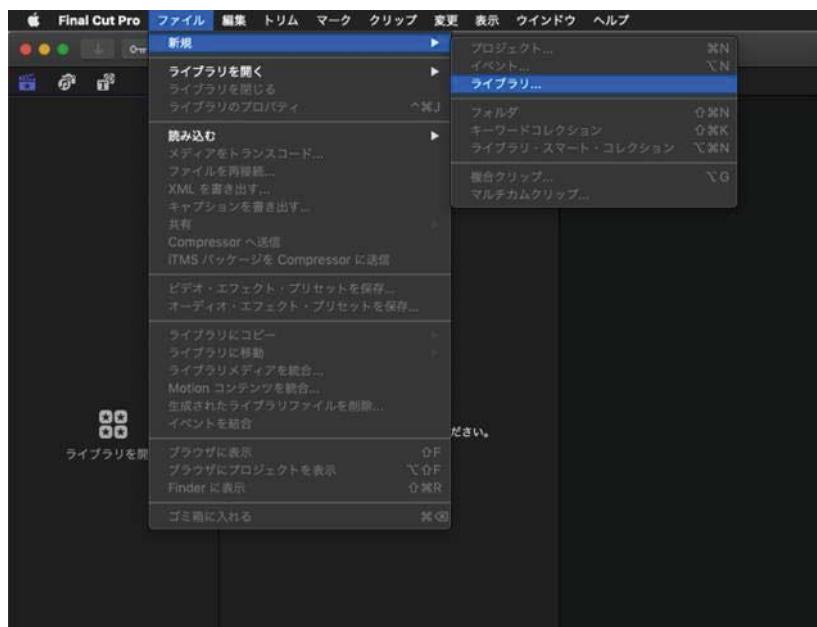
なお、キャプチャには最低でも動画の記録時間と同じ時間を必要とする。走行速度等の表示を必要としない場合は、キャプチャを行わずモザイク処理のみを実施する。

(2) モザイク処理

モザイク処理方法を以下に示す。

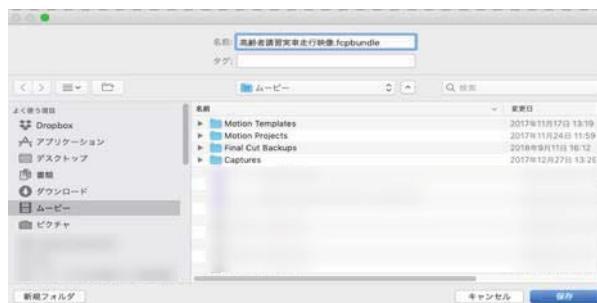
① ライブラリの作成。

実車走行データ編集用の環境を作成する。この操作は全ての作業をとおして1度だけ実施する。メニューから、「新規」→「ライブラリ...」の順で選択する。



<付録図 66 ライブラリの作成>

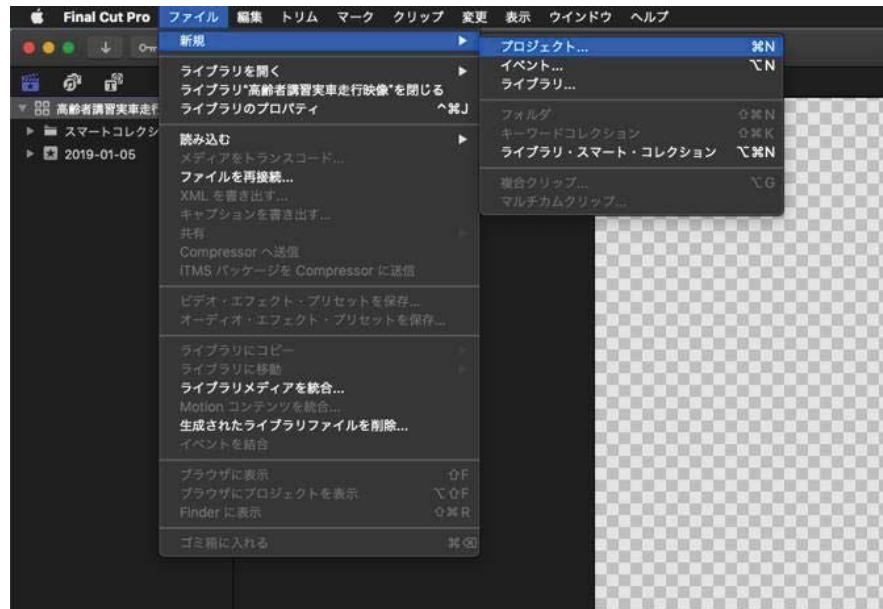
ダイアログが出現するので、ライブラリ名を付けて保存する。本調査では、「高齢者講習実車走行映像.fcpbundle」と命名した。



<付録図 67 ライブラリの命名と保存>

② プロジェクトの作成。

受講者別の作業環境を作成する。この操作は受講者毎に実施する。メニュー一から、「新規」→「プロジェクト...」の順で選択する。



<付録図 68 プロジェクトの作成>

設定ダイアログが出現するので、作成する映像データのパラメータを設定する。設定項目が多いが、1度設定することで次回ダイアログ出現時には前回の設定が入力された状態となっている。

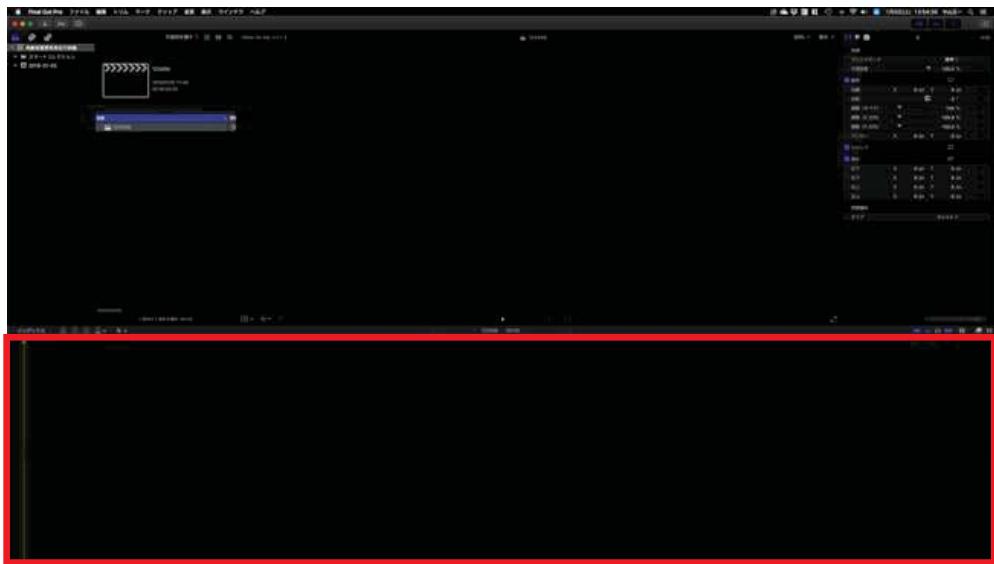


<付録図 69 プロジェクトの命名と保存>

設定が必要となる項目は、以下のとおりである。

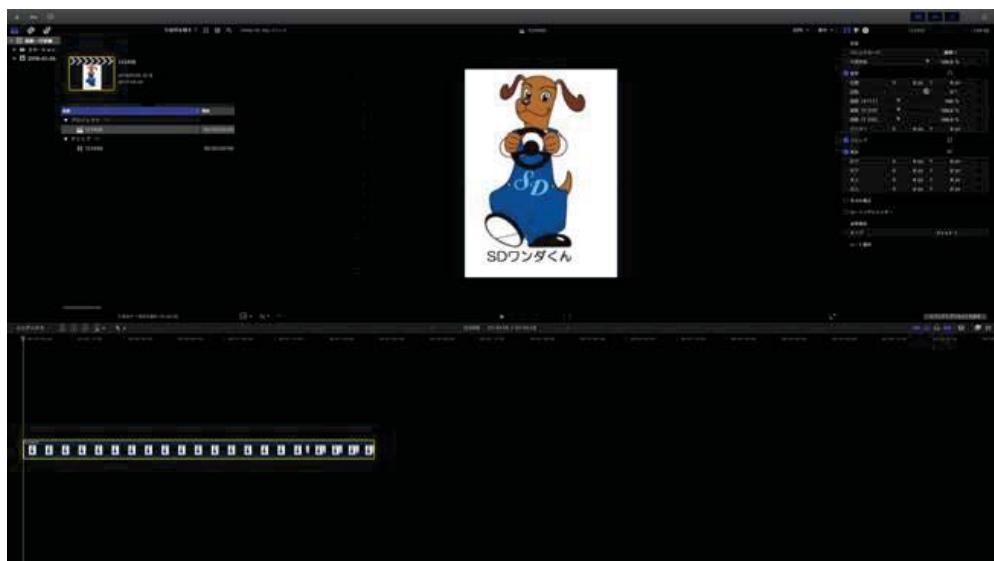
プロジェクト名	任意で命名。本調査では受講者を識別する番号とした。
ビデオ (フォーマット)	この設定をすることで解像度、ビデオレートが自動でデフォルトの値に設定される。本調査では「1080p HD」を選択したが、この場合、解像度は「1920 x 1080」、レートは「30p」が自動選択された。
ビデオ (解像度)	映像の解像度を指定する。数字が大きくなるほど映像が高精細になるが出力されるファイルサイズが大きくなる。本調査では「1920 x 1080」を選択。
ビデオ (レート)	1秒間に描画する映像の数。数字が大きくなるほど映像がなめらかになるが出力されるファイルサイズは大きくなる。本調査では「30p」を選択。
レンダリング	映像をエンコードする際の手法を選択。映像のファイルサイズに影響。本調査では「Apple ProRes 422」を選択。
オーディオ (チャンネル)	ステレオ、サラウンドの選択。本調査では「ステレオ」を選択。
オーディオ (サンプルレート)	音のサンプルレートを指定。数字が大きくなるほど音の再現性が高まるが出力されるファイルサイズは大きくなる。本調査では「48kHz」を選択。

③ 映像ファイルをタイムラインにドラッグ&ドロップして読み込む。



タイムライン

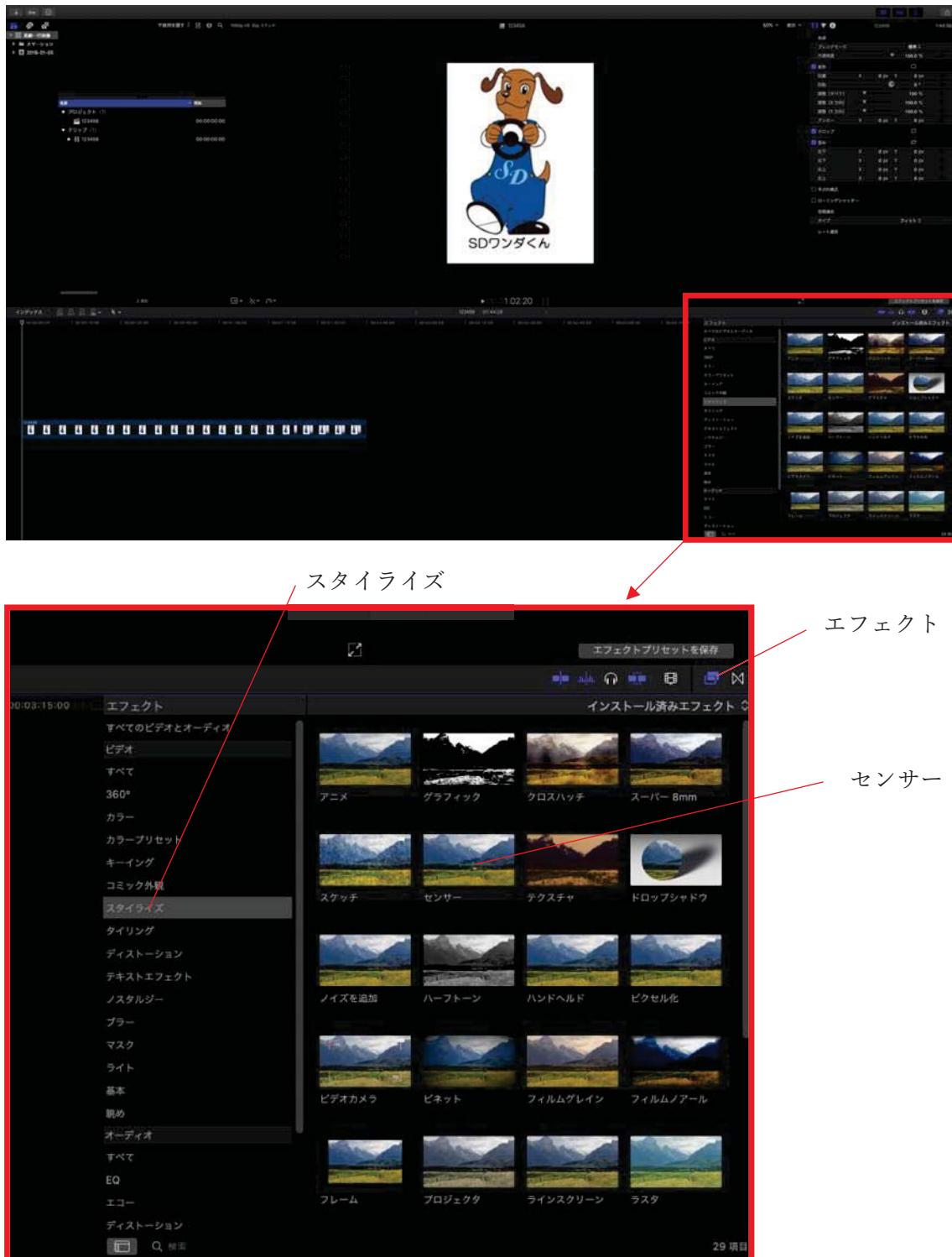
(タイムラインに映像ファイルをドラッグ&ドロップする前の状況)



(タイムラインに映像ファイルをドラッグ&ドロップした後の状況)

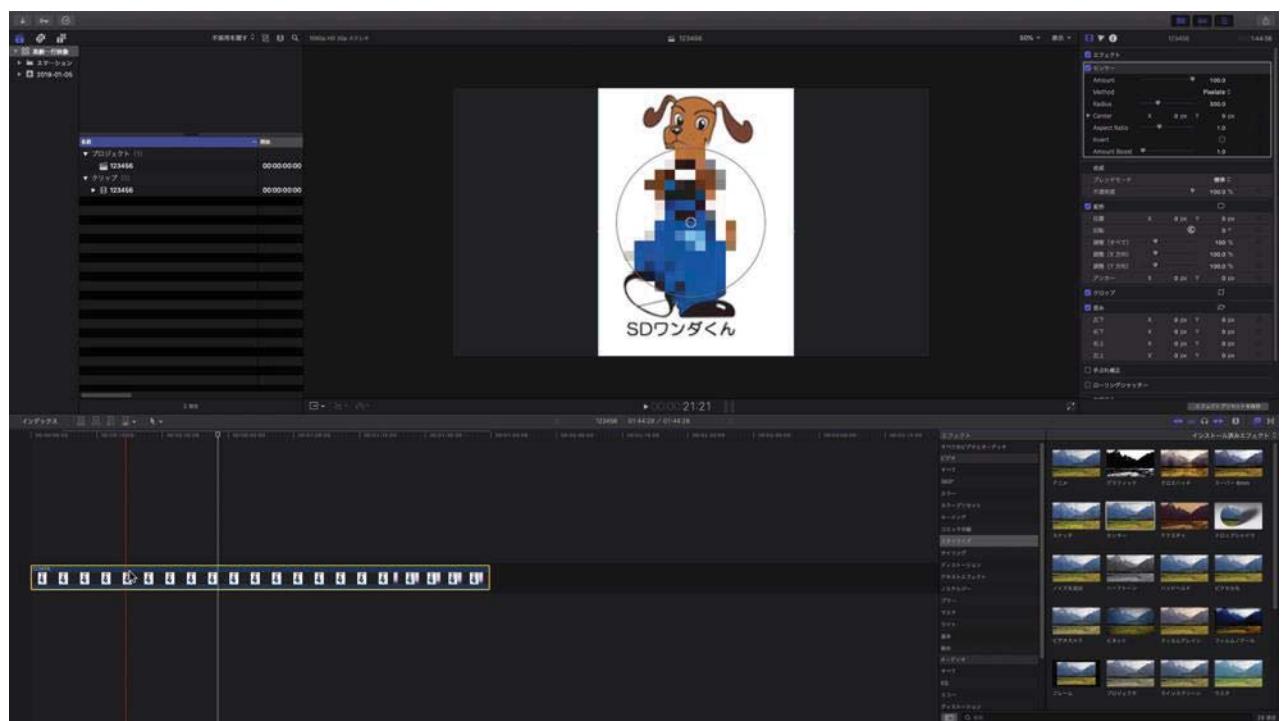
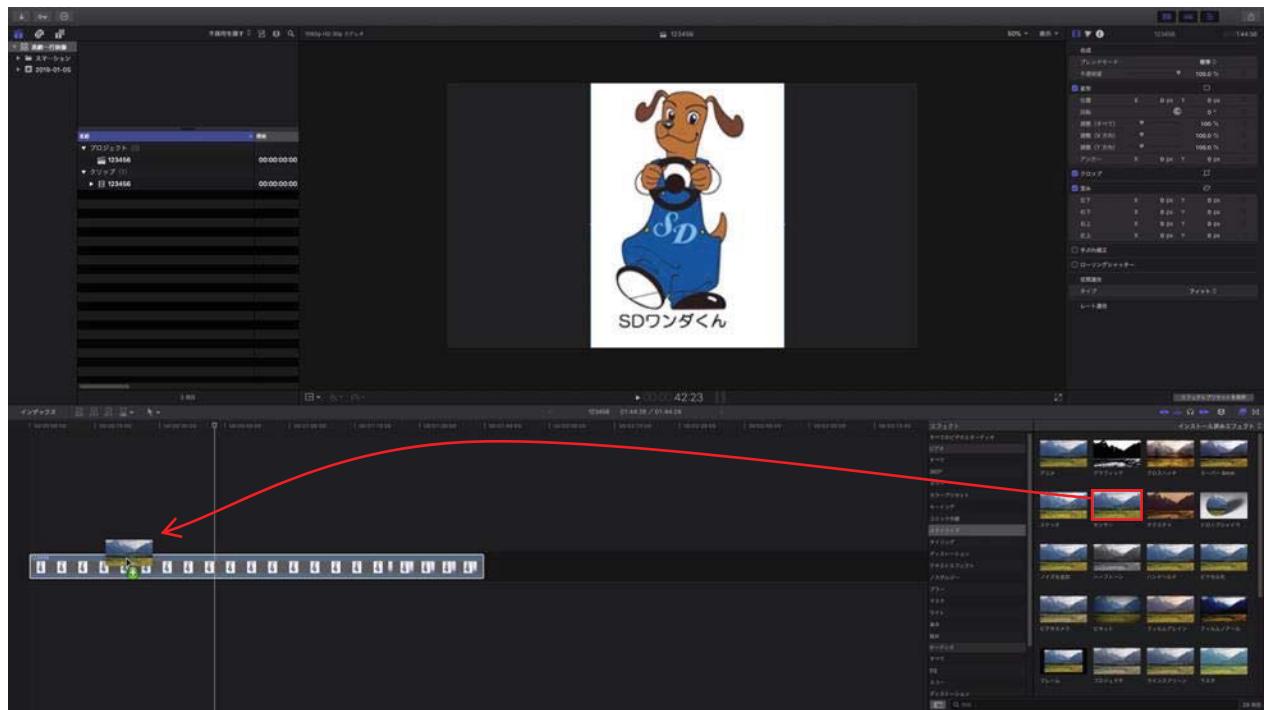
＜付録図 70 映像ファイルの読み込み＞

④ 「エフェクト」→「スタイライズ」→「センサー」の順で選択する。



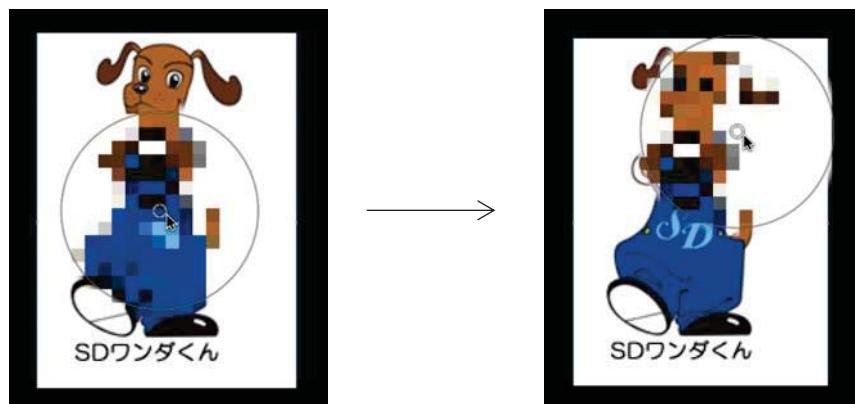
<付録図 71 エフェクト（モザイク）の選択>

⑤ 「センサー」をタイムラインにドラッグ&ドロップする。

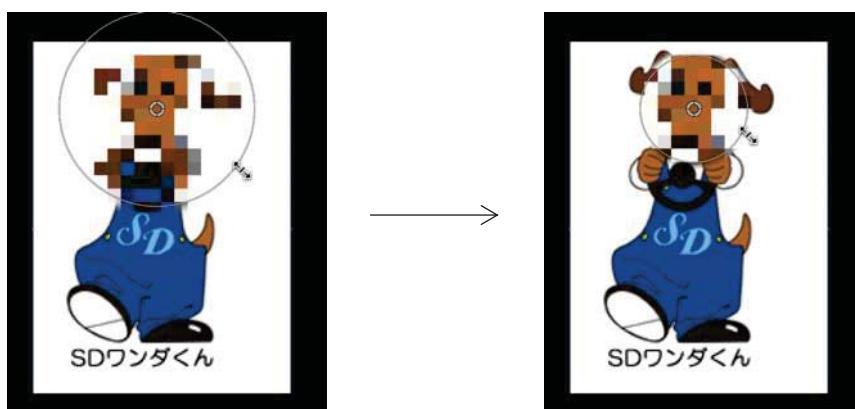


<付録図 72 エフェクト（モザイク）の適用>

⑥ モザイクの画面上の中心位置(Center X, Y)、半径 (Radius)、強度(Amount)を、画面右上にあるビデオインスペクタ中のセンサーの欄の値で調整する。モザイクの画面上の中心位置や半径は直接モザイクをドラッグし移動することもできる。



(ドラッグによるモザイク中心位置の移動)

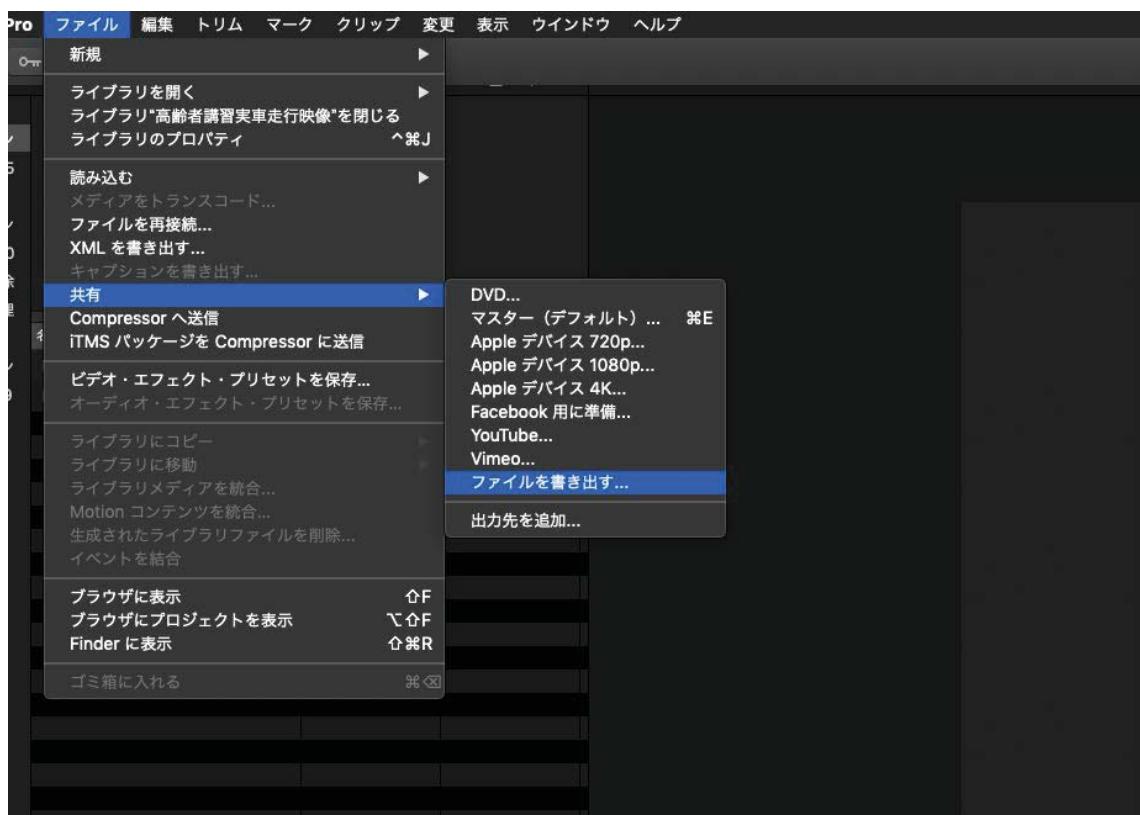


(ドラッグによるモザイク半径の変更)

<付録図 73 エフェクト（モザイク）の調整>

- ⑦ 「ファイル」→「共有」→「ファイルを書き出す…」の順で選択し、

モザイク処理を行った動画ファイルを任意の場所に出力する。



<付録図 74 ファイルの出力>

安全確認行動の分析

整理番号	認知機能検査結果の分類	第3分類
001	年齢 80歳以上 性別 女性	○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名
	重点指導項目チェック表 3	○△：受講者本人の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。

は、受講者の安全確認行動。

一時停止1 (停止線通過時間 8:19, チェック開始時間 8:15)			
安全確認行動			
	動画時間	位置	首振り方向
一時停止上目	分 秒		
タイミング	8 17	左	-時停止線で止まつたが、停止時間はほゞない。
	8 19	右	
	8 22	右	
位置	右 左 計		
回数	0 1 1	0 2	
合計	2 1 3		

一時停止2 (停止線通過時間 10:13, チェック開始時間 10:09)			
安全確認行動			
	動画時間	位置	首振り方向
一時停止上目	分 秒		
タイミング	10 14	左	-時停止線で停止し、停止線オーバーで停止(10:16頃)。
	10 14	-	(※2)
	10 29	右	
位置	右 左 計		
回数	0 0 0	1 2	
合計	1 1 2		

2 指導のタイミング、一時停止線を越えて停止した直後、その場で実施。

回数	発話番号	動画時間	発話者	発話内容
136	10	14	指導員	○○さん、たんと前出ちやつたな。
137	10	19	受講者	ああ、躊躇?
138	10	20	指導員	これこれ、止まわって禮儀
139	10	22	受講者	ああ。
140	10	22	指導員	これの裏で止まなきゃ。(際識の裏が見えている状態なので、表が見えている位
141	10	23	受講者	置で止まれと言う意味) ああ、それな。うん。

不成功 (理由チェックなし)

整理番号	認知機能検査結果の分類	第3分類
002	年齢 75歳以上 性別 女性	○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名
	重点指導項目チェック表 1	△△：受講者本人の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。

は、受講者の安全確認行動。

一時停止 1 (停止線通過時間 10:14 (チェック開始時間 10:14)			
安全確認行動			
	動画時間	位置	首振り方向
一時停止上目	分 秒		
タイミング	10 18	右	-時停止線で止まつたが、停止時間はほゞない。
	10 27	右	
	10 30	右	
位置	右 左 計		
回数	10 32	右	
合計	0 0 0	4 0 4	
計	4	0	4

一時停止 2 (停止線通過時間 12:25, チェック開始時間 12:21)			
安全確認行動			
	動画時間	位置	首振り方向
一時停止上目	分 秒		
タイミング	12 23	右	-時停止線で止まつたが、停止時間はほゞない。
	12 28	右	
	12 29	左	
位置	右 左 計		
回数	12 30	右	
合計	1 0 1	2 1 3	
計	2	1	4

成功			

整理番号	認知機能検査結果の分類	第2分類			○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 △△△：その他の指導項目チェック数 0	備考
		年齢	性別	男性		
008	年齢 75歳以上30歳未満	性別	男性			
	要点指導項目チェック数 3					
	は、受講者の安全確認行動。					
	一時停止 1 (停止線通過時間 6:21, チェック開始時間 6:17)	安全確認行動 (回)			○ 一時不停止。停止線をオーバーして停止(6:23頃)。	備考
一時停止上目	一時停止時間	位置	首振り方向			
1 回数	分	秒				
	6	21	右			
	6	24	右			
	6	26	右			
	6	29	右			
	位置	左	計			
	1 回数	一秒停止通過用	0	1		
		一秒停止通過後	3	0	3	
		計	4	0	4	
	指導のタイミング：一時停止線を越えて停止した直後、その後で実施。					
	発話番号	動画時間制則		発話者	発話内容	
	052	06	秒	24	指導員 線・出ちゃつてますよ。	
	一時停止 2 (停止線通過時間 10:15, チェック開始時間 10:11)	安全確認行動 (回)			○ 一時不停止。	備考
一時停止上目	一時停止時間	位置	首振り方向			
1 回数	分	秒				
	10	12	右			
	10	14	右			
	10	15	右			
	10	28	右			
	位置	左	計			
	1 回数	一秒停止通過用	2	0	2	
		一秒停止通過後	2	0	2	
		計	4	0	4	
	指導のタイミング：一時停止線を越えて停止した直後、その後で実施。					
	発話番号	動画時間制則		発話者	発話内容	
	072	10	秒	15	指導員 停止線、どちらもやつたよーね	
	073	10		17	指導員 線をどちらもやつたんですね。。	
	074	10		19	指導員 線をどちらもやダメ・・線があるんだあるそこ・・後ろに線がある。	
	075	10		22	受講者 今止まつたよ。	
	076	10		23	指導員 出まつてないがそれわれわれね。。	
	077	10		25	受講者 しっかり止まつただもん	
	078	10		26	指導員 出まつてないですね・・だめだよ。。	
	079	10		31	指導員 もう一回やり直します。	

一時停止上目	一時停止 (回)			安全確認行動 (回)			備考
	タイム	位置	首振り方向	動画時間	位置	首振り方向	
1 回	タイミング	右	計	11	18	-00%止める直後	右
	回数	一秒停止通過前		一秒停止通過後	0	0	
		一秒停止通過後	2	0	2		
		計	2	0	2		
	指導のタイミング：一時停止線を越えた直後、その後で実施。						
	発話番号	動画時間制則		発話者	発話内容		
	089	11	秒	18	指導員 あー、また線出ちやいましましたね・・もう一回やり直してください。 はい。 もう一回やり直してください。		
	090	11		22	指導員 あつダメでもう。 ややかなさきやいがんからね。はい。 もう一回やり直してください。		

一時停止上目	一時停止 (回)			安全確認行動 (回)			備考
	タイム	位置	首振り方向	動画時間	位置	首振り方向	
4 回	タイミング	右	計	12	5	-00%止める直後	右
	回数	一秒停止通過前		一秒停止通過後	6	静か止める直後	
		一秒停止通過後	12	8	-00%止める直後	左	
		計	12	8	-00%止める直後	右	
	指導のタイミング：一時停止線を越えて停止した直後、その後で実施。						
	発話番号	動画時間制則		発話者	発話内容		
	097	12	秒	03	指導員 はい、今度は止まりましたねえ。		

一時停止上目	一時停止 (回)			安全確認行動 (回)			備考
	タイム	位置	首振り方向	動画時間	位置	首振り方向	
4 回	タイミング	右	計	12	8	-00%止める直後	右
	回数	一秒停止通過前		一秒停止通過後	0	0	
		一秒停止通過後	3	1	4		
		計	12	8	-00%止める直後	右	
	指導のタイミング：一時停止線を越えて停止した直後、その後で実施。						
	発話番号	動画時間制則		発話者	発話内容		
	108	10	秒	15	指導員 成功		

整理番号	認知機能検査結果の分類	第3分類			備考
		年齢	性別	点数	
030	75歳以上80歳未満 女性	△○	受講者の名前 △△：受講者以外の人名	○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名	
	重点指導項目チェック数 8	その他指導項目チェック数 0	???: 別別不能な音声。	???: 別別不能な音声。	

は、受講者の安全確認行動。

回目	一時停止 1 (停止線通過時間 4:54, チェック開始時間 4:50) 安全確認行動			備考
	動画時間	位置	首振り方向	
1	タイミング 分 秒	右	右	○ 一時不停止 ○ 2段階停止し ○ 一時停止線で減速したが、完全に停止しなかった。合流時に後方の確認はしつかり行った。
回数	44	54	右	
位置	右	左	左	計
回数	0	0	0	
重点指導項目	一時停止通過前	2	2	
重点指導項目	一時停止通過後	2	2	
計	0	2	2	

回目	一時停止 2 (停止線通過時間 7:44, チェック開始時間 7:40) 安全確認行動			備考
	動画時間	位置	首振り方向	
2	タイミング 分 秒	右	右	○ 一時不停止 ○ 2段階停止し
回数	7	45	左	
位置	右	0	0	計
回数	1	0	1	
重点指導項目	一時停止通過前	1	0	
重点指導項目	一時停止通過後	1	1	
計	1	0	1	

指導のタイミング: 一時停止せざ左折した後、走行中の車内で実施。

運転行動診断票の成否にチェックなし

整理番号	認知機能検査結果の分類	第3分類			備考
		年齢	性別	点数	
034	75歳以上80歳未満 女性	△○	受講者の名前 △△：受講者以外の人名	○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名	
	重点指導項目チェック数 3	3	その他指導項目チェック数 3	3	???: 判別不能な音声。

回目	一時停止 1 (停止線通過時間 7:41, チェック開始時間 7:37) 安全確認行動			備考
	動画時間	位置	首振り方向	
1	タイミング 分 秒	右	右	○ 一時不停止 ○ 2段階停止し ○ 一時停止線で減速したが、完全に停止しなかった。合流時に後方の確認はしつかり行った。
回数	7	41	右	
位置	右	0	0	計
回数	1	0	0	
重点指導項目	一時停止通過前	0	0	
重点指導項目	一時停止通過後	2	2	
計	3	0	3	

回目	一時停止 2 (停止線通過時間 10:26, チェック開始時間 10:22) 安全確認行動			備考
	動画時間	位置	首振り方向	
1	タイミング 分 秒	右	右	○ 一時不停止 ○ 2段階停止し
回数	7	26	右	
位置	右	0	0	計
回数	1	27	左	
重点指導項目	一時停止通過前	1	0	
重点指導項目	一時停止通過後	2	2	
計	1	0	3	

回目	指導のタイミング: 一時停止せざ左折した後、走行中の車内で実施。			発話内容
	発話番号	動画時間	発話者	
2	094	32	指導員	○○さん、今一時停止の確認あつたのは分かりました?
	095	36	受講者	分かりましたよ。
	096	37	指導員	うん、止まらなきや駄目じやないですか。
	097	40	受講者	ごめんなさい。
	098	41	指導員	ね。

不成功(理由チェックなし)

整理番号	認知機能検査結果の分類	第3分類	○○：受講者の名前 年齢 80歳以上																											
036	性別 男性	△△：受講者以外の人名 重複指導項目チェック数 5	△△：受講者以外の人名 △△：受講者本人の名前 ???: 単回不能な音声。																											
は、受講者の安全確認行動。																														
<p>一時停止 1 (停止線通過時間 6:40, チェック開始時間 6:36)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">安全確認行動 (回)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>動画時間</th> <th>位置 首振り方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タイム</td> <td>分 秒</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>上</td> <td>6 41</td> <td>一時停止確認後</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>6 44</td> <td>一時停止確認後</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>位置</td> <td>左 計</td> </tr> <tr> <td>目</td> <td>一時停止確認後</td> <td>0 0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一時停止確認後</td> <td>2 2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>0 3</td> </tr> </tbody> </table>				安全確認行動 (回)				動画時間	位置 首振り方向	タイム	分 秒	右	上	6 41	一時停止確認後	1	6 44	一時停止確認後	回数	位置	左 計	目	一時停止確認後	0 0		一時停止確認後	2 2		計	0 3
安全確認行動 (回)																														
	動画時間	位置 首振り方向																												
タイム	分 秒	右																												
上	6 41	一時停止確認後																												
1	6 44	一時停止確認後																												
回数	位置	左 計																												
目	一時停止確認後	0 0																												
	一時停止確認後	2 2																												
	計	0 3																												

備考																														
<p>一時停止 2 (停止線通過時間 9:36, チェック開始時間 9:32)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">安全確認行動 (回)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>動画時間</th> <th>位置 首振り方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タイム</td> <td>分 秒</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>上</td> <td>9 37</td> <td>一時停止確認後</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9 39</td> <td>一時停止確認後</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>位置</td> <td>左 計</td> </tr> <tr> <td>目</td> <td>一時停止確認後</td> <td>0 0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一時停止確認後</td> <td>2 1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>1 3</td> </tr> </tbody> </table>				安全確認行動 (回)				動画時間	位置 首振り方向	タイム	分 秒	右	上	9 37	一時停止確認後	2	9 39	一時停止確認後	回数	位置	左 計	目	一時停止確認後	0 0		一時停止確認後	2 1		計	1 3
安全確認行動 (回)																														
	動画時間	位置 首振り方向																												
タイム	分 秒	右																												
上	9 37	一時停止確認後																												
2	9 39	一時停止確認後																												
回数	位置	左 計																												
目	一時停止確認後	0 0																												
	一時停止確認後	2 1																												
	計	1 3																												

不成功 (理由チェックなし)

整理番号	認知機能検査結果の分類	第3分類	○○：受講者の名前 年齢 80歳以上																											
042	性別 男性	△△：受講者以外の人名 重複指導項目チェック数 2	△△：受講者本人の名前 △△：その他指導項目チェック数 3 ???: 単回不能な音声。																											
は、受講者の安全確認行動。																														
<p>一時停止 1 (停止線通過時間 5:30, チェック開始時間 5:46)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">安全確認行動 (回)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>動画時間</th> <th>位置 首振り方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タイム</td> <td>分 秒</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>停止</td> <td>5 50</td> <td>-0.9%止線通過後</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>5 52</td> <td>-0.9%止線通過後</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>位置</td> <td>左 計</td> </tr> <tr> <td>目</td> <td>時停・確認後</td> <td>0 0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-0.9%止線通過後</td> <td>3 0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>3 3</td> </tr> </tbody> </table>				安全確認行動 (回)				動画時間	位置 首振り方向	タイム	分 秒	右	停止	5 50	-0.9%止線通過後	1	5 52	-0.9%止線通過後	回数	位置	左 計	目	時停・確認後	0 0		-0.9%止線通過後	3 0		計	3 3
安全確認行動 (回)																														
	動画時間	位置 首振り方向																												
タイム	分 秒	右																												
停止	5 50	-0.9%止線通過後																												
1	5 52	-0.9%止線通過後																												
回数	位置	左 計																												
目	時停・確認後	0 0																												
	-0.9%止線通過後	3 0																												
	計	3 3																												

備考																														
<p>一時停止 2 (停止線通過時間 8:49, チェック開始時間 8:45)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">安全確認行動 (回)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>動画時間</th> <th>位置 首振り方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タイム</td> <td>分 秒</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>停止</td> <td>8 50</td> <td>-0.9%止線通過後</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>8 52</td> <td>-0.9%止線通過後</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>位置</td> <td>左 計</td> </tr> <tr> <td>目</td> <td>時停・確認後</td> <td>0 0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-0.9%止線通過後</td> <td>3 0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>3 3</td> </tr> </tbody> </table>				安全確認行動 (回)				動画時間	位置 首振り方向	タイム	分 秒	右	停止	8 50	-0.9%止線通過後	2	8 52	-0.9%止線通過後	回数	位置	左 計	目	時停・確認後	0 0		-0.9%止線通過後	3 0		計	3 3
安全確認行動 (回)																														
	動画時間	位置 首振り方向																												
タイム	分 秒	右																												
停止	8 50	-0.9%止線通過後																												
2	8 52	-0.9%止線通過後																												
回数	位置	左 計																												
目	時停・確認後	0 0																												
	-0.9%止線通過後	3 0																												
	計	3 3																												

備考															
<p>指揮のタイミング： 一時停止せずに交差点を左折している車中に実施。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>発話番号</th> <th>動画時間</th> <th>発話者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86</td> <td>8 55</td> <td>指導員 ○○さん、今、一時停止しなきやいけない標識があつたのには・覚えてます・・</td> </tr> <tr> <td>87</td> <td>9 00</td> <td>受講者 えつ？</td> </tr> <tr> <td>88</td> <td>9 01</td> <td>指導員 まづ行って下さい。一時停止があつたんで下さいけどう見てました？・・一時停止してく</td> </tr> </tbody> </table>				発話番号	動画時間	発話者	86	8 55	指導員 ○○さん、今、一時停止しなきやいけない標識があつたのには・覚えてます・・	87	9 00	受講者 えつ？	88	9 01	指導員 まづ行って下さい。一時停止があつたんで下さいけどう見てました？・・一時停止してく
発話番号	動画時間	発話者													
86	8 55	指導員 ○○さん、今、一時停止しなきやいけない標識があつたのには・覚えてます・・													
87	9 00	受講者 えつ？													
88	9 01	指導員 まづ行って下さい。一時停止があつたんで下さいけどう見てました？・・一時停止してく													

不成功 (理由チェックなし)

整理番号	認知機能検査結果の分類	第2分類	○○：受講者の名前 年齢 75歳以上30歳未満	△△：受講者以外の人名 その他の指導項目チェック数 1	指導員 A																														
は、受講者の安全確認行動。																																			
一時停止 1 (停止線通過時間 4:39, チェック開始時間 4:35) 備考																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">安全確認行動 (回)</th> </tr> <tr> <th>一時停止</th> <th>動画時間</th> <th>位置 首振り方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>分 秒</td> <td></td> </tr> <tr> <td>タイミング</td> <td>4 39</td> <td>左</td> </tr> <tr> <td></td> <td>40</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td></td> <td>45</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>1 回</td> <td>49</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>0</td> <td>左</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>						安全確認行動 (回)			一時停止	動画時間	位置 首振り方向		分 秒		タイミング	4 39	左		40	右		45	右	1 回	49	右	位置	0	左	回数	3	1	計	3	4
安全確認行動 (回)																																			
一時停止	動画時間	位置 首振り方向																																	
	分 秒																																		
タイミング	4 39	左																																	
	40	右																																	
	45	右																																	
1 回	49	右																																	
位置	0	左																																	
回数	3	1																																	
計	3	4																																	
一時停止 2 (停止線通過時間 5:52 チェック開始時間 5:48) 備考																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">安全確認行動 (回)</th> </tr> <tr> <th>一時停止</th> <th>動画時間</th> <th>位置 首振り方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タイミング</td> <td>分 秒</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>55</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>左</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>右</td> <td>左</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2 回</td> <td>計</td> <td>1 2</td> </tr> </tbody> </table>						安全確認行動 (回)			一時停止	動画時間	位置 首振り方向	タイミング	分 秒			55	右		2	左	位置	右	左	回数	0	0	計	1	2	2 回	計	1 2			
安全確認行動 (回)																																			
一時停止	動画時間	位置 首振り方向																																	
タイミング	分 秒																																		
	55	右																																	
	2	左																																	
位置	右	左																																	
回数	0	0																																	
計	1	2																																	
2 回	計	1 2																																	

整理番号	認知機能検査結果の分類	第3分類	○○：受講者の名前 年齢 75歳以上30歳未満	性別 男性	△△：受講者以外の人名 その他指導項目チェック数 3	指導員 D																										
は、受講者の安全確認行動。																																
一時停止 1 (停止線通過時間 4:35, チェック開始時間 4:31) 備考																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">安全確認行動 (回)</th> </tr> <tr> <th>一時停止</th> <th>動画時間</th> <th>位置 首振り方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タイミング</td> <td>分 秒</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>4</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>1 回</td> <td>4</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>0</td> <td>左</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>						安全確認行動 (回)			一時停止	動画時間	位置 首振り方向	タイミング	分 秒			4	右		4	右	1 回	4	右	位置	0	左	回数	3	0	計	3	3
安全確認行動 (回)																																
一時停止	動画時間	位置 首振り方向																														
タイミング	分 秒																															
	4	右																														
	4	右																														
1 回	4	右																														
位置	0	左																														
回数	3	0																														
計	3	3																														
一時停止 2 (停止線通過時間 6:54, チェック開始時間 6:50) 備考																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">安全確認行動 (回)</th> </tr> <tr> <th>一時停止</th> <th>動画時間</th> <th>位置 首振り方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タイミング</td> <td>分 秒</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>6</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>右</td> <td>左</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2 回</td> <td>計</td> <td>1 1</td> </tr> </tbody> </table>						安全確認行動 (回)			一時停止	動画時間	位置 首振り方向	タイミング	分 秒			6	右		6	右	位置	右	左	回数	0	0	計	1	1	2 回	計	1 1
安全確認行動 (回)																																
一時停止	動画時間	位置 首振り方向																														
タイミング	分 秒																															
	6	右																														
	6	右																														
位置	右	左																														
回数	0	0																														
計	1	1																														
2 回	計	1 1																														
指導のタイミング： 2段階停止直後実施																																
日	発話番号	動画時間	発話者	発話内容																												
	55	分 秒	指導員	いい、じゃ○さん、運転お疲れ様でした。まあちょっと待つてくださいね。いま運転の中ではねえ、普段乗る状況ではあつたんですけどね、あの際はすとか一時停止止めますとか、しっかりとか、しっかりとか、その一止まるところは止まっていたんだなきいやいません。	発話者																											
	056	06 04	受講者																													

成功

不成功 (理由チェックなし)

整理番号	認知機能検査結果の分類	第2分類	指導員
088	年齢 75歳以上	性別 男性	○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名
	重点指導項目チェック数 5		○△：受講者本人の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。

は、受講者の安全確認行動。

一時停止1 (停止線通過時間 5:18, チェック開始時間 8:14)			
安全確認行動			
一時停止回数	位置	首振り方向	動画時間
			分 秒
1	右	右	5 20
	左	左	8 23
	右	右	8 24
	左	左	計
回数	0	0	0
	3	0	3
	計	3	3

一時停止2 (停止線通過時間 8:12, チェック開始時間 8:38)			
安全確認行動			
一時停止回数	位置	首振り方向	動画時間
			分 秒
1	左	左	8 13
	右	右	8 14
	左	左	8 15
	右	右	8 16
	左	左	8 17
	右	右	8 18
回数	0	0	0
	3	3	6
	計	3	6

一時停止1 (停止線通過時間 6:52, チェック開始時間 6:48)			
安全確認行動			
一時停止回数	位置	首振り方向	動画時間
			分 秒
1	右	右	6 54
	左	左	6 55
	右	右	6 58
2	左	左	7 0
回数	0	0	0
	計	0	0

成功			
----	--	--	--

整理番号	認知機能検査結果の分類	第2分類	指導員
102	年齢 80歳以上	性別 男性	○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。
	重点指導項目チェック数 5	その他指導項目チェック数 0	

認知機能検査結果の分類 第2分類			
○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。	年齢 80歳以上	性別 男性	○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。
重点指導項目チェック数 5	その他指導項目チェック数 0		

は、受講者の安全確認行動。

1 指導のタイミング : 一時不定停止で安全確認を行うに発展した直後、走行中に実施。

第2分類			
○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。	年齢 80歳以上	性別 男性	○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。
重点指導項目チェック数 5	その他指導項目チェック数 0		

は、受講者の安全確認行動。

1 指導のタイミング : 一時不定停止で安全確認を行うに発展した直後、走行中に実施。

第2分類			
○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。	年齢 80歳以上	性別 男性	○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。
重点指導項目チェック数 5	その他指導項目チェック数 0		

寸録-92

一時停止 2 (停止線通過時間 8:12, チェック開始時間 8:08)						
安全確認行動				備考		
<input type="checkbox"/> 一時不停止。						
<input type="checkbox"/> 2段階停止なし。						
(※1) 教官から指導						
一時停止上目	停止時間	位置	首振り方向	発話番号	発話時間	発話内容
タイミング	分 秒					
8	13	右				
8	15	右				
		左				
		-				
(※1)						
回数						
1						
3						
回数のタイミング : 一時停止確認を少し越えた位置で停止し指導。						
一時停止 1 (停止線通過時間 9:32, チェック開始時間 9:28)	備考					
<input type="checkbox"/> 2段階停止なし。						
一時停止上目	停止時間	位置	首振り方向	発話番号	発話時間	発話内容
タイミング	分 秒					
9	34	右				
9	37	右				
		左				
		-				
(※1)						
回数						
4						
回数のタイミング : 一時停止中に実施。						

整理番号 109 認知機能検査結果の分類 第2分類									
年齢 80歳以上			性別 女性						
重点指導項目チェック数 5			その他指導項目チェック数 0						
<input type="checkbox"/> 受講者の名前									
<input type="checkbox"/> 指導員 E									
△△ : 受講者以外の人物名 ??? : 判別不能な音声。									
は、受講者の安全確認行動。									
一時停止 1 (停止線通過時間 5:48 チェック開始時間 5:44)									
安全確認行動									
一時停止上目	停止時間	位置	首振り方向	発話番号	発話時間	音振り方向			
タイミング	分 秒								
8	13	右							
8	15	右							
		左							
		-							
(※1)									
回数									
1									
3									
回数のタイミング : 一時停止確認を少し越えた位置で停止し指導。									
一時停止 2 (停止線通過時間 10:09 チェック開始時間 10:05)	備考								
<input type="checkbox"/> 一時停止上。停止線オーバーで停止 (10:11)。									
<input type="checkbox"/> 2段階停止なし。									
(※1) 教官の指導。									
安全確認行動									
一時停止上目	停止時間	位置	首振り方向	発話番号	発話時間	音振り方向			
タイミング	分 秒								
8	13	右							
8	15	右							
		左							
		-							
(※1)									
回数									
2									
回数のタイミング : 一時停止中に実施。									

一時停止 2 (停止線通過時間 11:10 チェック開始時間 11:06)			
安全確認行動			
○ 2段階停止あり ○ 11:04に受講者が指導員に対し停止位置の確認をした。 停止も指導員の指示に従つて行った。			
タイミング	動画時間 分	位置 秒	音振り方向
11	18	右	左
回数	1	0	0
	計	0	1

指揮のタイミング： 一時停止中に実施。

3	番号	発話	動画時間 分	発話者	発話内容
276	11	受講者	04	指導員	はい。これでいいですか？
277	11	受講者	05	指導員	うん、もう丁度ね、
278	11	受講者	06	指導員	うん。
279	11	受講者	07	指導員	もう、あの辺まつて下さいよ。はい。
280	11	受講者	08	受講者	はい、
281	11	受講者	08	指導員	これ丁度いいですね。これぐらいいの感覺。
282	11	受講者	10	指導員	ああ、でも1回は、また前に出て、見える所で止まつてもらつといいでです。
283	11	指導員	11	受講者	で、もう1回は、また前に出て、見える所で止まつてもらつといいでです。

成功

整理番号 146	認知機能検査結果の分類			第2分類		
	年齢 80歳以上	性別 男性	△△： 受講者以外の人名	○○： 受講者の名前	△△：	△△： 受講者以外の人名
重点指導項目チェック数 2						○○： 単回不確な音声。
は、受講者の安全確認行動。						備考
一時停止 1 (停止線通過時間 11:40. チェック開始時間 4:36)						○ (※1) 一時不停止。教官の補助ブレーキで停止。合流時に後方からくる車両に避ける。
安全確認行動						○ (※2) 教官の補助ブレーキ後に状況確認のため直振りを行ったが、自転車の直振りはなかった。
一時停止	動画時間 分			位置	音振り方向	
	タイミング	4	41	-49%止線通過	-	(※1)
	回数	4	52	-49%止線通過	-	(※2)
	計	右	左		計	計
指揮のタイミング： ①補助ブレーキで停車中の車内で実施。②補助ブレーキで停車中の車内で実施。						発話内容
一時停止	発話番号	動画時間 分	秒	発話者	発話内容	発話者
	061	04	40	指導員	練習えちゃ駄目。練習えちゃ駄目。止まれだから。ねえ、思いつきり超えちゃんだよ。	発話番号
	062	04	49	指導員	はい。僕が止めとるぞ。	発話番号
	063	04	51	指導員	来どる。来どる。来どる。来どる。	発話番号
一時停止	064	04	59	受講生	ああ。すいません。	発話番号
一時停止 2 (停止線通過時間 7:45. チェック開始時間 7:41)						備考
安全確認行動			○ 一時不停止。停止線を越えて停止。(7:47)。 ○ 2段階停止なし。			
タイミング	7	45	-49%止線通過	右	(※3) 教官指導。	
一時停止	回数	7	58	-49%止線通過	右	(※3)
	計	右	左		計	
	065	04	59	指導員	練習えちゃ駄目。止まれ。	発話番号
	066	04	59	受講生	はい。	発話番号
指揮のタイミング： 停止線を越えて停車中に実施。						発話内容
一時停止	発話番号	動画時間 分	秒	発話者	発話内容	発話番号
	105	07	46	指導員	練習えて止まっちゃがんじやん。ここに練がある。ほら、ここに。(停止線を超える。教官側のドアを開けて停止線を見せる。)	発話番号
	106	07	51	受講生	(笑う)	発話番号
	107	07	52	指導員	ねえ。だからもう1m以上出るとれ。はい。ねえ。(笑)	発話番号

指揮のタイミング：一時停止標識の見える位置で走行中に実施。						
発話番号	動画時間	発話者	発話内容			
118	08	37	指導員	ね、止まれね。		
119	08	38	受講生	はい。		
120	08	38	指導員	練あるで、超えちゃあかんんだよ？		
121	08	40	受講生	分かりました。		

一時停止 2 (停止線通過時間 8:44)

安全確認行動						
3	動画時間	位置	首振り方向			
回	分	秒				
1	タイミング	8	49	-停止線通過後	右	
2	位置	8	51	-停止線通過後	左	
回数	位置	右	左	計		
1	-停止線通過前	0	0	0	1	
2	-停止線通過後	2	0	2	0	
合計	位置	2	0	2	1	

整理番号		認知機能検査結果の分類		第3分類		受講者の名前	
149		年齢 75歳以上	80歳未満	性別	女性	△△：	受講者以外の人名
		重点指導項目チェック数	5	その他指導項目チェック数	0	???	半回不覚な音声。
		は、受講者の安全確認行動。					
		一時停止 1 (停止線通過時間 6:50) チェック開始時間 6:46)		安全確認行動(回)		○	一時停止。
				動画時間	分	秒	首振り方向
一時停止	停止	タイム	ミング	6	47	-停止線通過	右
1	回数	位置	右	6	51	-停止線通過	右
	回数	計		6	54	-停止線通過	右
	回数	位置	左	1	0	左	計
	回数	計		2	0	0	2
	合計	位置	計	3	0	0	3

一時停止 2 (停止線通過時間 9:45) チェック開始時間 9:45)

安全確認行動(回)							
一時停止	停止	タイム	ミング	動画時間	分	秒	首振り方向
2	回数	位置	右	9	50	-停止線通過	左
	回数	計		9	52	-停止線通過	右
	回数	位置	左	1	0	左	計
	回数	計		0	0	0	0
	合計	位置	計	1	1	2	2
	合計	位置	計	1	1	2	2

整理番号	認知機能検査結果の分類	第2分類	
		性別 男性	性別 女性
155	年齢 80歳以上	△○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 別別不能な音声。	○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。
	重点指導項目チェック数 0	その他指導項目チェック数 0	その他指導項目チェック数 0

は、受講者の安全確認行動。

目 指揮のタイミング：	停止線を越えて停車中に実施。		
	発話番号	動画時間	発話内容
032	04	27	指導員 気をつけてね、行きましょう。（停止線を超えて停止）
033	04	29	受講者 はい。いいですか？

整理番号	認知機能検査結果の分類	第2分類	
		性別 男性	性別 女性
158	年齢 75歳以上	○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。	○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。
	重点指導項目チェック数 2	その他指導項目チェック数 0	その他指導項目チェック数 0

は、受講者の安全確認行動。

一時停止 1 （停止線通過時間 4:26, チェック開始時間 4:22 ）	備考		
	認知機能検査結果の分類		
○ 一時不停止。停止線を越えて停止(4:27)。	○ 2段階停止なし。		
○ (※1) 教官指揮。（停止線を超えて停止）	○ 2段階停止なし。		
（※1）			
一時停止 2 （停止線通過時間 7:56, チェック開始時間 7:52 ）	備考		
一時停止 2 （停止線通過時間 7:56, チェック開始時間 7:52 ）	備考		
○ 一時不停止。停止線を大きく超えて停止(8:00頃)。	○ 一時不停止。停止線を大きく超えて停止(8:00頃)。		
（※1）			

一時停止 1 （停止線通過時間 4:26, チェック開始時間 4:22 ）	備考		
	安全確認行動		
○ 一時停止。停止線を越えて停止(4:27)。			
○ 2段階停止なし。			
（※1）			
一時停止 2 （停止線通過時間 7:56, チェック開始時間 7:52 ）	備考		
一時停止 2 （停止線通過時間 7:56, チェック開始時間 7:52 ）	備考		
○ 一時不停止。停止線を大きく超えて停止(8:00頃)。	○ 一時不停止。停止線を大きく超えて停止(8:00頃)。		
（※1）			



成功



成功

整理番号	認知機能検査結果の分類		第1分類	
	年齢	性別	男性	○○：受講者の名前
167	75歳以上30歳未満	その他指導項目チェック数	4	△△：受講者以外の人名 △△：受講者本人の音声。 △△：特別不能な音声。

は、受講者の安全確認行動。

回	停止時間	安全確認行動		発話者	発話内容	
		番号	分	秒	位置	首振り方向
1	一時停止 1 (停止線通過時間 6:18, チェック開始時間 6:14)	○ 2段階停止なし				
		○ (※1) 教官の補助フレーキ。合流する道路の白い車の接近に気づいていないかかった。				
		○ 指導員	6	19	通過後	右
		○ 指導員	6	21	通過後	右
		○ 指導員	6	24	通過後	(※1)
		○ 指導員	6	26	通過後	右
		○ 指導員	6	29	通過後	右
		○ 指導員	右		左	計
		○ 指導員	0	0	0	0
		○ 指導員	4	0	4	
		○ 計	4	0	4	

目 指導のタイミング：一時不定停止で安全確認せずに発車した直後、補助フレーキで停止。

回	停止時間	安全確認行動		発話者	発話内容	
		番号	分	秒	位置	首振り方向
58	6	21	受講者	ああ、ひそくりしたり。(※1)		
59	6	23	指導員	しっかり、しっかりと確認して下さいよ。あ、良いですよ。		
60	6	24	受講者	はい、はい、はい、はい。		

目 指導のタイミング：一時停止中に実施。

回	停止時間	安全確認行動		発話者	発話内容	
		番号	分	秒	位置	首振り方向
118	8:22, チェック開始時間 8:18)	○ 2段階停止なし				
		○ 指導員	右			
		○ 指導員	右		左	計
		○ 指導員	0	0	0	0
		○ 指導員	1	0	1	1
		○ 計	1	0	1	3

目 指導のタイミング：一時停止後、走行中に実施。

回	停止時間	安全確認行動		発話者	発話内容	
		番号	分	秒	位置	首振り方向
119	9	44	指導員	○○さん、今一時停止の黒識があったので気づきました？		
		48	受講者	はい。		
120	9	49	指導員	止まれの標識があったの気づきました？		
		12	21	受講者	うん。	

目 指導のタイミング：発着所発車直後、走行中に実施。

回	停止時間	安全確認行動		発話者	発話内容	
		番号	分	秒	位置	首振り方向
157	12	9	指導員	先ほどの、一時停止の止まれの標識があたったじゃないですか、あれを見て見こなっ		
158	12	17	指導員	もう1回ちょっと止まつてもらった時に、確認してもらいますからね。		
159	12	21	受講者	うん。		

回	停止時間	安全確認行動		発話者	発話内容	
		番号	分	秒	位置	首振り方向
207	14	32	指導員	で、さつきの所、あそこに出まれの標識があつたんでけり。		
208	14	35	受講者	うん、うん。		
209	14	35	指導員	これって見てました？止まれの標識の所ってどうしたら良いんですか？		
210	14	39	受講者	ね。		
211	14	41	指導員	標識がある所はどうしたら良いですか。		
212	14	43	受講者	うん。左…		
213	14	45	指導員	左行くくんですか？○○さん、私の質問に答えて下さい。		
214	14	50	指導員	止まれの標識があつた所っていうのは、何をしたら良いですか？		
215	14	54	受講者	うん。あの…		
216	14	57	指導員	何をしたら良いか分からない？		
217	15	1	受講者	そうだね…		
218	15	2	指導員	進んだら良い？それとも止まつたら良い？どつちでですか？		
219	15	8	受講者	だから…		
220	15	9	指導員	その止まれの標識がある所っていうのは、止まらないで良い、それとも止まらなければ、		
221	15	16	受講者	の遮断器の所ですね。あそこの止まれの所の標識ついて、うのは、どういう事をしたら		
222	15	19	指導員	遮断器じゃなくて、あそこの止まれの所の標識ついて、うのは、どういう事をしたら		
223	15	29	受講者	あのね、うんうん。		
224	15	33	指導員	ね。じゃあ行きましょう。突き当たりを行きまわかられ。		

回	停止時間	安全確認行動		発話者	発話内容	
		番号	分	秒	位置	首振り方向
8:18	8:22, チェック開始時間 8:18)	○ 一時停止：なし				
		○ 2段階停止：なし				
		○ 指導員	右			
		○ 指導員	右		左	計
		○ 指導員	0	0	0	0
		○ 指導員	2	1	1	3
		○ 計	2	1	1	3

回	停止時間	安全確認行動		発話者	発話内容	
		番号	分	秒	位置	首振り方向
8:18	8:22, チェック開始時間 8:18)	○ 一時停止：なし				
		○ 2段階停止：なし				
		○ 指導員	右			
		○ 指導員	右		左	計
		○ 指導員	0	0	0	0
		○ 指導員	2	1	1	3
		○ 計	2	1	1	3

回	停止時間	安全確認行動		発話者	発話内容	
		番号	分	秒	位置	首振り方向
8:18	8:22, チェック開始時間 8:18)	○ 一時停止：なし				
		○ 2段階停止：なし				
		○ 指導員	右			
		○ 指導員	右		左	計
		○ 指導員	0	0	0	0
		○ 指導員	2	1	1	3
		○ 計	2	1	1	3

整理番号	認知機能検査結果の分類	第1分類	指導員
168	年齢 80歳以上	性別 男性	○○： 受講者の名前
	重点指導項目 チェック数 2	その他指導項目チェック数 3	△△： 受講者以外の人名 ???: 別別不能な声。

は、受講者の安全確認行動。

一時停止 1 (停止線通過時間 4:02)			
安全確認行動		備考	
○ 2段階停止なし			
タイミング	動画時間	位置	首振り方向
1 回数	位置	右	-
	一秒歩道直前	0	左
	一秒歩道直後	0	0
	計	0	0
	回数	0	0
	計	0	0

指導のタイミング： 呼叫停止し、安全確認せずに発車した後、走行中の車内で実施。

発話 内容			
番号	動画時間	発話者	
048	04 分 秒	16 指導員 ○○さん、今後ろの確認つちやんじょつってくわよしました?	
049	04 分 秒	19 受講者 ああ。	
050	04 分 秒	20 指導員 ウム。確認してくださいよ。	

一時停止 2 (停止線通過時間 8:22, チェック開始時間 8:18)			
安全確認行動		備考	
○ 2段階停止なし			
タイミング	動画時間	位置	首振り方向
2 回数	位置	右	-
	一秒歩道直前	21	一秒歩道直後
	一秒歩道直後	25	一秒歩道直後
	計	0	0
	回数	0	0
	計	0	0

指導のタイミング： 一時不停止後、走行中の車内で実施。

発話 内容			
番号	動画時間	発話者	
29	7 分 秒	19 指導員 あつあーあー・・・ストップ。ここに停止線ありますよ。はい、そのままですね。ちょっとコールを愛えます。左にいきますね。	

成功

一時停止 2 (停止線通過時間 8:23 チェック開始時間 8:19)			
安全確認行動 (回)		備考	
○ 2段階停止なし。			
タイミング	動画時間	位置	首振り方向
3 回数	位置	右	-
	一秒歩道直前	24	一秒歩道直後
	一秒歩道直後	25	一秒歩道直後
	計	0	0
	回数	0	0
	計	0	0

成功

整理番号	認知機能検査結果の分類	第2分類	指導員
184	年齢 75歳以上80歳未満	性別 男性	○○： 受講者の名前
	その他指導項目チェック数 2	その他指導項目チェック数 0	△△： 受講者以外の人名 ???: 単別不能な音声。

は、受講者の安全確認行動。

一時停止 1 (停止線通過時間 4:06, チェック開始時間 4:26)			
安全確認行動 (回)		備考	
○ 2段階停止なし。			
タイミング	動画時間	位置	首振り方向
1 回数	位置	右	-
	一秒歩道直前	0	左
	一秒歩道直後	0	0
	計	0	0
	回数	0	0
	計	0	0

一時停止 2 (停止線通過時間 7:18 チェック開始時間 7:14)

安全確認行動 (回)			
タイミング	動画時間	位置	首振り方向
○ 一時不停止。 ○ 助手席側のドアを開けて、停止線を越えていることを見せ る。			
タイミング	動画時間	位置	首振り方向
2 回数	位置	右	-
	一秒歩道直前	0	左
	一秒歩道直後	0	0
	計	0	0
	回数	0	0
	計	0	0

指導のタイミング： 一時不停止後、走行中の車内で実施。

発話 内容			
番号	動画時間	発話者	
29	7 分 秒	19 指導員 あつあーあー・・・ストップ。ここに停止線ありますよ。はい、そのままですね。ちょっとコールを愛えます。左にいきますね。	

整理番号	認知機能検査結果の分類	第2分類
212	年齢 75歳以上80歳未満 重点指導項目チェック表 1	性別 男性 受講者の名前 △△：受講者以外の人名 △△：受講者本人の名前 ○○：受講者の名前 ○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 △△：受講者本人の名前 ???: 単回不正確な音声。

は、受講者の安全確認行動。

回数	指導のタイミング：一時停止確認行動の実施位置			備考
	発話番号	動画時間	発話内容	
1	045	01 分 24 秒	指導員 あの標識見當たらないでよ。 受講者 はい。	
	046	01 分 25 秒	指導員 で確認オーバーにやつてね。 受講者 はい。	
一時停止	047	01 分 25 秒	指導員 目玉ん中キヨロキヨロかんないかわらね。 受講者 うん。	
	048	01 分 27 秒	指導員 よく確認してみて下さいい。私に分かるよ。	
	049	01 分 29 秒	受講者 はい。	
	050	01 分 31 秒	指導員 よく確認してみて下さいい。私に分かるよ。	
	051	01 分 33 秒	受講者 はい。	
一時停止 1 (停止線通過時間 1:49, チェック開始時間 1:45)				
			安全確認行動	
1	タイミング	分 秒	位置 首振り方向	
	1	1 分 46 秒	一時停止先頭直前 右	
	1	1 分 50 秒	一時停止先頭直前 左	
	1	1 分 51 秒	一時停止先頭直前 右	
	1	1 分 53 秒	一時停止先頭直後 左	
回数	位置	右 左 計		
	一時停止先頭直前	2 1 3		
	一時停止先頭直後	0 1 1		
	計	2 2 4		
一時停止 1 (停止線通過時間 5:34, チェック開始時間 5:30)				
			安全確認行動	
1	タイミング	分 秒	位置 首振り方向	
	5	5 分 31 秒	一時停止先頭直前 右	
	5	5 分 34 秒	一時停止先頭直後 右	
	5	5 分 37 秒	一時停止先頭直前 左	
2	位置	右 左 計		
	一時停止先頭直前	2 0 2		
	一時停止先頭直後	1 1 2		
回数	計	3 1 4		

整理番号	認知機能検査結果の分類	第2分類	第2分類	指導員
213	年齢 75歳以上80歳未満 重点指導項目チェック表 2	性別 男性 受講者の名前 △△：受講者以外の人名 △△：受講者本人の名前 ○○：受講者の名前 ○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 △△：受講者本人の名前 ???: 単回不確かな音声。	年齢 75歳以上80歳未満 性別 男性 受講者の名前 △△：受講者以外の人名 △△：受講者本人の名前 ○○：受講者の名前 ○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 △△：受講者本人の名前 ???: 単回不確かな音声。	K

回数	指導のタイミング：一時停止確認行動			備考
	発話番号	動画時間	安全確認行動	
1	045	01 分 24 秒	○ 2段階停止なし。	
	046	01 分 25 秒	○ 2段階停止なし。	
一時停止	047	01 分 25 秒	○ 2段階停止なし。	
	048	01 分 27 秒	○ 2段階停止なし。	
	049	01 分 29 秒	○ 2段階停止なし。	
	050	01 分 31 秒	○ 2段階停止なし。	
	051	01 分 33 秒	○ 2段階停止なし。	
一時停止 1 (停止線通過時間 1:49, チェック開始時間 1:45)				
			安全確認行動	
1	タイミング	分 秒	位置 首振り方向	
	1	1 分 46 秒	一時停止先頭直前 右	
	1	1 分 50 秒	一時停止先頭直前 左	
	1	1 分 51 秒	一時停止先頭直前 右	
	1	1 分 53 秒	一時停止先頭直後 左	
回数	位置	右 左 計		
	一時停止先頭直前	2 1 3		
	一時停止先頭直後	0 1 1		
	計	2 2 4		
一時停止 1 (停止線通過時間 5:34, チェック開始時間 5:30)				
			安全確認行動	
1	タイミング	分 秒	位置 首振り方向	
	5	5 分 31 秒	一時停止先頭直前 右	
	5	5 分 34 秒	一時停止先頭直後 右	
	5	5 分 37 秒	一時停止先頭直前 左	
2	位置	右 左 計		
	一時停止先頭直前	2 0 2		
	一時停止先頭直後	1 1 2		
回数	計	3 1 4		

回数	指導のタイミング：一時停止確認行動			備考
	発話番号	動画時間	安全確認行動	
1	076	02 分 23 秒	○ 2段階停止なし。	
	077	02 分 24 秒	○ 2段階停止なし。	
一時停止	078	02 分 24 秒	○ 2段階停止なし。	
	079	02 分 25 秒	○ 2段階停止なし。	
	080	02 分 27 秒	○ 2段階停止なし。	
	081	02 分 28 秒	○ 2段階停止なし。	
	082	02 分 35 秒	○ 2段階停止なし。	
	083	02 分 37 秒	○ 2段階停止なし。	
	084	02 分 38 秒	○ 2段階停止なし。	
一時停止 1 (停止線通過時間 5:34, チェック開始時間 5:30)				
			安全確認行動	
1	タイミング	分 秒	位置 首振り方向	
	5	5 分 31 秒	一時停止先頭直前 右	
	5	5 分 34 秒	一時停止先頭直後 右	
	5	5 分 37 秒	一時停止先頭直前 左	
2	位置	右 左 計		
	一時停止先頭直前	2 0 2		
	一時停止先頭直後	1 1 2		
回数	計	3 1 4		

成功

指揮のタイミング：右折待ちの時間に実施（※コースが混んでいたため、右折待ちの時間が3分程度あつた。）							
番号	動画時間		発話内容				
	分	秒	発話者				
176	05	37	指導員	○○さん、今度あの止まれの所、			
177	05	39	受講者	はい。			
178	05	40	指導員	しつかりね。			
179	05	40	受講者	あはい。			
180	05	41	指導員	止まれたのが、餘行なのか。。			
181	05	42	受講者	あはい。			
182	05	42	指導員	きちんとね、区別しないとね。			
183	05	43	受講者	はい。			
指揮のタイミング：右停止標識が見える位置で、走行中に実施。							
番号	動画時間		発話内容				
	分	秒	発話者				
223	07	56	指導員	△△さん、今度失敗しないでよ。			
224	07	57	受講者	あはい。			
一時停止2（停止線通過時間 8:05、チェック開始時間 8:31）							
番号	動画時間		発話内容				
	分	秒	発話者				
				○ 2段階停止なし。			
指揮のタイミング：右停止標識が見える位置で、走行中に実施。							
番号	動画時間		発話内容				
	分	秒	発話者				
1	8	3	指導員	-右側の先進車両	右		
2	8	8	受講者	-右側の先進車両	右		
3	8	9	指導員	-右側の先進車両	左:		
4	8	10	受講者	-右側の先進車両	右		
回数							
1	右		計	13	1		
2	左:		計	11	1		
3	右		計	0	2		
4	左:		計	1	12		
5	右		計	1	14		

安全確認行動					
	分	秒	位置	首振り方向	
1	9	20	-右側の先進車両	右	
2	9	21	-右側の先進車両	右	
3	9	26	-右側の先進車両	右	
4	9	32	-右側の先進車両	右	
5	9	35	-右側の先進車両	左:	
6	9	36	-右側の先進車両	右	
7	9	38	-右側の先進車両	右	
8	9	47	-右側の先進車両	右	
9	9	50	-右側の先進車両	右	
10	9	53	-右側の先進車両	右	
11	9	57	-右側の先進車両	右	
12	0	0	-右側の先進車両	右	
13	10	5	-右側の先進車両	右	
14	10	9	-右側の先進車両	右	
15	9	計			

安全確認行動					
	分	秒	位置	首振り方向	
1	9	20	-右側の先進車両	右	
2	9	21	-右側の先進車両	右	
3	9	26	-右側の先進車両	右	
4	9	32	-右側の先進車両	右	
5	9	35	-右側の先進車両	左:	
6	9	36	-右側の先進車両	右	
7	9	38	-右側の先進車両	右	
8	9	47	-右側の先進車両	右	
9	9	50	-右側の先進車両	右	
10	9	53	-右側の先進車両	右	
11	9	57	-右側の先進車両	右	
12	0	0	-右側の先進車両	右	
13	10	5	-右側の先進車両	右	
14	10	9	-右側の先進車両	右	
15	9	計			

整理番号	認知機能検査結果の分類	第3分類	○○：受講者の名前 年齢 75歳以上80歳未満 性別 男性	△△：受講者以外の人名 重点指導項目チェック数 0 その他指導項目チェック数 0	指揮員 K
------	-------------	------	----------------------------------	---	----------

は、受講者の安全確認行動。

一時停止 1	(一時停止確認時間 4:21, チェック開始時間 4:17)	備考																																					
安全確認行動																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">タイミング</th> <th colspan="2">動画時間</th> <th rowspan="2">位置</th> <th rowspan="2">首振り方向</th> </tr> <tr> <th>分</th> <th>秒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一時停止確認前</td> <td>4</td> <td>19</td> <td>右</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一時停止確認後</td> <td>4</td> <td>22</td> <td>左</td> <td></td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>位置</td> <td>左</td> <td>計</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>右</td> <td>0</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>左</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			タイミング	動画時間		位置	首振り方向	分	秒	一時停止確認前	4	19	右		一時停止確認後	4	22	左		回数	位置	左	計		1	右	0	1		1	左	1	1		計		1	2	
タイミング	動画時間			位置	首振り方向																																		
	分	秒																																					
一時停止確認前	4	19	右																																				
一時停止確認後	4	22	左																																				
回数	位置	左	計																																				
1	右	0	1																																				
1	左	1	1																																				
計		1	2																																				

➡ 成功

整理番号	認知機能検査結果の分類	第3分類	○○：受講者の名前 年齢 80歳以上 性別 男性	△△：受講者以外の人名 重点指導項目チェック数 6 その他指導項目チェック数 2	指揮員 K
------	-------------	------	-----------------------------	---	----------

は、受講者の安全確認行動。

指導のタイミング： 信号待ちの時、一時停止確認のりに入る位置で実施。	発話	動画時間	発話内容
	番号	分 秒	
	037	01 20	受講者 うんうんうん、また右に行くかけね。 指揮員 うん。
	038	01 21	受講者 その一時停止の 止まきのけ。 指揮員 そうそうそううんうん。
	039	01 22	受講者 それを見てわかるかね。 指揮員 そう見てわかるかね。
	040	01 23	受講者 どうゆう風に止まるかね。 指揮員 それを見てわかるかね。
	041	01 24	受講者 どうゆう風に止まるかね。 指揮員 それを見てわかるかね。

一時停止 1 (停止確認時間 1:46, チェック開始時間 1:42)

備考	○ 一時不停止。
----	----------

指導のタイミング： 一時不停止直後、右折車に実施。	発話	動画時間	発話内容
	番号	分 秒	
	049	01 48	受講者 完全にはまつてなかつたよ。 指揮員 動いてたらんね？
	050	01 51	受講者 (無言でうなづく)
	051	01 53	受講者 (無言でうなづく)

指導のタイミング： 走行中に実施。

発話	動画時間	発話内容
番号	分 秒	
054	01 55	指揮員 今動いてたんですよ。
055	01 57	受講者 うん。

指導のタイミング： 右折待ちで停車中に実施。

発話	動画時間	発話内容
番号	分 秒	
059	02 05	指揮員 プレー キはかけたんだけれど、タイミングが止まってないからね。
060	02 08	指揮員 あれ、試験場に醉はれちゃうからね。うん。

➡

指導のタイミング： 走行中に一時停止標識の見える位置で実施。									
発話番号				動作時間	発話内容				
	分	秒			発話者				
128	06	54			指導員	今度失敗しないでよ。あれ。 どれ？			
129	06	56			受講者	ああ、止まれね。			
130	06	58			受講者	ああ、止まれね。			
131	07	00			指導員	一回警報したんだからさ。			
132	07	01			受講者	ありがとうございます。(笑)			

一時停止中の実施。

指導のタイミング： 在折待ちで車中に実施。									
発話番号				動作時間	発話内容				
	分	秒			発話者				
140	08	06			受講者	ここで一旦止まるんだがな。			
141	08	07			指導員	えふ。			

2一時停止（停止線通過時間 8:09、チェック開始時間 8:05）

指導のタイミング： 安全確認行動									
発話番号				動作時間	発話内容				
	分	秒			位置	音振り方向			
タイミング	8	8			一時停止標識前	右			
	8	11			一時停止標識後	右			
	8	13			特別な標識後	右			
	8	16			一般的な標識後	右			
位置	右				左				
回数	1				計				
	3				1				
計	4				3				

2一時停止（停止線通過時間 8:09、チェック開始時間 8:05）

指導のタイミング： 駐車場ご停車中、講評中に実施。									
発話番号				動作時間	発話内容				
	分	秒			発話者				
249	12	54			指導員	一時停止は2回目はね・・・			
250	12	56			受講者	うん。			
251	12	56			指導員	上手くいった。1回目がけ。。			
252	12	57			受講者	うん。			
253	12	58			指導員	餘裕だよ。からなら。			
254	12	58			受講者	はい。			

駐車場での実施。

整理番号	250	認知機能検査結果の分類	第2分類
年齢	80歳以上	性別	男性
重点指導項目チエック数	0	その他指導項目チエック数	0
△△：	受講者以外の人名	△△：	半回不正確な音声。
OO： 受講者の名前			
K 指導員			

指導のタイミング： 一時停止標識の見える位置で実施。			
発話番号	番号	動作時間	発話内容
128	06	54	指導員 今度失敗しないでよ。あれ。 どれ？
129	06	56	受講者 ああ、止まれね。
130	06	58	受講者 ああ、止まれね。
131	07	00	指導員 一回警報したんだからさ。
132	07	01	受講者 ありがとうございます。(笑)

指導のタイミング： 在折待ちで車中に実施。

発話番号	番号	動作時間	発話内容
140	08	06	受講者 ここで一旦止まるんだがな。
141	08	07	指導員 えふ。

2一時停止（停止線通過時間 8:09、チェック開始時間 8:05）

一時停止（停止線通過時間 8:09、チェック開始時間 8:05）	備考
1	○ 2段階停止がな。
2	○ 2段階停止がな。

2一時停止（停止線通過時間 8:09、チェック開始時間 8:05）

一時停止（停止線通過時間 8:09、チェック開始時間 8:05）	備考
1	○ 2段階停止がな。
2	○ 2段階停止がな。

整理番号	認知機能検査結果の分類	第2分類	○○：受講者の名前 年齢 80歳以上																																																													
251	性別 男性	△△：受講者以外の人名 重点指導項目チェック数 3	△△：受講者以外の人名 222：特別不能な音声。																																																													
は、受講者の安全確認行動。																																																																
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">一時停止 1 (停止線通過時間 12:56、チェック開始時間 12:52)</td> <td colspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td colspan="2">安全確認行動</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">一時停止回数</td> <td colspan="3">動画時間</td> </tr> <tr> <th>分</th> <th>秒</th> <th>位置</th> <th>首振り方向</th> </tr> <tr> <td rowspan="10">タイミング</td> <td>12</td> <td>53</td> <td>左</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>54</td> <td>右</td> <td>-特例止線通過前</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>1</td> <td>右</td> <td>-特例止線通過後</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>4</td> <td>左</td> <td>-特例止線通過後</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>17</td> <td>左</td> <td>-特例止線通過後</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>18</td> <td>右</td> <td>-特例止線通過後</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>位置</td> <td>左</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>右</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td colspan="4">指揮のタイミング：一時停止後に右折待ちで停車している車内で実施</td> </tr> </table>				一時停止 1 (停止線通過時間 12:56、チェック開始時間 12:52)		備考		安全確認行動				一時停止回数	動画時間			分	秒	位置	首振り方向	タイミング	12	53	左		12	54	右	-特例止線通過前	13	1	右	-特例止線通過後	13	4	左	-特例止線通過後	13	17	左	-特例止線通過後	13	18	右	-特例止線通過後	回数	位置	左	計	1	右	2	3		計	2	1		1	1	2	指揮のタイミング：一時停止後に右折待ちで停車している車内で実施			
一時停止 1 (停止線通過時間 12:56、チェック開始時間 12:52)		備考																																																														
安全確認行動																																																																
一時停止回数	動画時間																																																															
	分	秒	位置	首振り方向																																																												
タイミング	12	53	左																																																													
	12	54	右	-特例止線通過前																																																												
	13	1	右	-特例止線通過後																																																												
	13	4	左	-特例止線通過後																																																												
	13	17	左	-特例止線通過後																																																												
	13	18	右	-特例止線通過後																																																												
	回数	位置	左	計																																																												
	1	右	2	3																																																												
		計	2	1																																																												
		1	1	2																																																												
指揮のタイミング：一時停止後に右折待ちで停車している車内で実施																																																																

成功

整理番号	認知機能検査結果の分類	第3分類	○○：受講者の名前 年齢 80歳以上																																																																																					
276	性別 男性	△△：受講者以外の人名 重点指導項目チェック数 5	△△：受講者以外の人名 222：特別不能な音声。 ???: 単回不能な音声。																																																																																					
は、受講者の安全確認行動。																																																																																								
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">一時停止 1 (停止線通過時間 2:20、チェック開始時間 2:16)</td> <td colspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td colspan="2">安全確認行動</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">一時停止回数</td> <td colspan="3">動画時間</td> </tr> <tr> <th>分</th> <th>秒</th> <th>位置</th> <th>首振り方向</th> </tr> <tr> <td rowspan="10">タイミング</td> <td>2</td> <td>16</td> <td>-特例止線通過前</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>18</td> <td>-特例止線通過前</td> <td>左:</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>19</td> <td>-特例止線通過前</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>右</td> <td>左</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td colspan="4">指揮のタイミング：一時停止後に右折待ちで停車している車内で実施</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">発話 番号</td> <td colspan="2">動画時間</td> </tr> <tr> <td colspan="2">番号</td> <td>分</td> <td>秒</td> </tr> <tr> <td colspan="2">056</td> <td>02</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td colspan="2">057</td> <td>02</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td colspan="2">058</td> <td>02</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td colspan="2">059</td> <td>02</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td colspan="4">発話者 指揮員 受講者 指揮員 受講者 ああそう。はい。</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>				一時停止 1 (停止線通過時間 2:20、チェック開始時間 2:16)		備考		安全確認行動				一時停止回数	動画時間			分	秒	位置	首振り方向	タイミング	2	16	-特例止線通過前	右	2	18	-特例止線通過前	左:	2	19	-特例止線通過前	右	位置	右	左	計	回数	0	1	3	1	0	0	0		計	2	1		1	1	3	指揮のタイミング：一時停止後に右折待ちで停車している車内で実施				<table border="1"> <tr> <td colspan="2">発話 番号</td> <td colspan="2">動画時間</td> </tr> <tr> <td colspan="2">番号</td> <td>分</td> <td>秒</td> </tr> <tr> <td colspan="2">056</td> <td>02</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td colspan="2">057</td> <td>02</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td colspan="2">058</td> <td>02</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td colspan="2">059</td> <td>02</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td colspan="4">発話者 指揮員 受講者 指揮員 受講者 ああそう。はい。</td> </tr> </table>				発話 番号		動画時間		番号		分	秒	056		02	28	057		02	28	058		02	30	059		02	31	発話者 指揮員 受講者 指揮員 受講者 ああそう。はい。			
一時停止 1 (停止線通過時間 2:20、チェック開始時間 2:16)		備考																																																																																						
安全確認行動																																																																																								
一時停止回数	動画時間																																																																																							
	分	秒	位置	首振り方向																																																																																				
タイミング	2	16	-特例止線通過前	右																																																																																				
	2	18	-特例止線通過前	左:																																																																																				
	2	19	-特例止線通過前	右																																																																																				
	位置	右	左	計																																																																																				
	回数	0	1	3																																																																																				
	1	0	0	0																																																																																				
		計	2	1																																																																																				
		1	1	3																																																																																				
	指揮のタイミング：一時停止後に右折待ちで停車している車内で実施																																																																																							
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">発話 番号</td> <td colspan="2">動画時間</td> </tr> <tr> <td colspan="2">番号</td> <td>分</td> <td>秒</td> </tr> <tr> <td colspan="2">056</td> <td>02</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td colspan="2">057</td> <td>02</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td colspan="2">058</td> <td>02</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td colspan="2">059</td> <td>02</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td colspan="4">発話者 指揮員 受講者 指揮員 受講者 ああそう。はい。</td> </tr> </table>				発話 番号		動画時間		番号		分	秒	056		02	28	057		02	28	058		02	30	059		02	31	発話者 指揮員 受講者 指揮員 受講者 ああそう。はい。																																																											
発話 番号		動画時間																																																																																						
番号		分	秒																																																																																					
056		02	28																																																																																					
057		02	28																																																																																					
058		02	30																																																																																					
059		02	31																																																																																					
発話者 指揮員 受講者 指揮員 受講者 ああそう。はい。																																																																																								
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">一時停止 2 (停止線通過時間 11:25、チェック開始時間 11:21)</td> <td colspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td colspan="2">安全確認行動</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">一時停止回数</td> <td colspan="3">動画時間</td> </tr> <tr> <th>分</th> <th>秒</th> <th>位置</th> <th>首振り方向</th> </tr> <tr> <td rowspan="10">タイミング</td> <td>11</td> <td>21</td> <td>-特例止線通過前</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>23</td> <td>-特例止線通過前</td> <td>右</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>右</td> <td>左</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td colspan="4">2段階停止なし。</td> </tr> </table>				一時停止 2 (停止線通過時間 11:25、チェック開始時間 11:21)		備考		安全確認行動				一時停止回数	動画時間			分	秒	位置	首振り方向	タイミング	11	21	-特例止線通過前	右	11	23	-特例止線通過前	右	位置	右	左	計	回数	0	0	2	2	0	0	0		計	2	2		2	0	2	2段階停止なし。																																							
一時停止 2 (停止線通過時間 11:25、チェック開始時間 11:21)		備考																																																																																						
安全確認行動																																																																																								
一時停止回数	動画時間																																																																																							
	分	秒	位置	首振り方向																																																																																				
タイミング	11	21	-特例止線通過前	右																																																																																				
	11	23	-特例止線通過前	右																																																																																				
	位置	右	左	計																																																																																				
	回数	0	0	2																																																																																				
	2	0	0	0																																																																																				
		計	2	2																																																																																				
		2	0	2																																																																																				
	2段階停止なし。																																																																																							

一時停止2 (停止線通過時間 15:07 チェック開始時間 15:03)					
安全確認行動					備考
<input type="radio"/> 一時停止。 <input type="radio"/> 一時停止場所で先行車があり、一時停止せず先行車について左折してしまった。					
タイミング	動画時間 分	位置	位置 番振り方向	首振り方向	
15	5	右	右	右	
回数	動画時間 秒				
1	0	0	0	1	
計	1	0	0	1	

指揮のタイミング : 一時不停止直後に移動中に実施。

番号	動画時間 分	発話者	発話内容
227	15	08	指導員 今日は一時停止じゃないよ。動いたらやつてる。ね。
228	15	10	指導員 止まってないです。
229	15	13	指導員 今は止まってないですよ。
230	15	14	受講者 かあざう。
231	15	14	指導員 うんうん。油まつちやいりますよ。(笑う)ねえ?
232	15	16	受講者 ああざうが。
233	15	18	指導員 さっきもそうだったよ。

整理番号 282	認知機能検査結果の分類 年齢 75歳未満 性別 男性 その他指導項目チェック数 0	第3分類 ○○ : 受講者の名前 △△ : 受講者以外の人名 ???: 半回不正確な音声。	指導員 K	
は、受講者の安全確認行動。 一時停止 1 (停止線通過時間 4:28. チェック開始時間 4:24.) 安全確認行動				
		動画時間 分	位置	首振り方向
タイミング		4	25	-90°止める直面
一時停止		4	27	-90°止める直面
停止		4	28	-90°止める直面
				左
				右
				左
				右
				左
				右
				左
				右
				左
				右
				左
				右
回数	位置	左	右	左
1	計	1	1	計
回数	位置	左	右	左
1	計	2	2	計
回数	位置	左	右	左
1	計	3	3	計
回数	位置	左	右	左
1	計	3	3	計
回数	位置	左	右	左
1	計	3	3	計

指導のタイミング : 一時不停止直後に実施。

発話番号	動画時間 秒	発話内容
084	04	ちょっと待ってね。これ一時停止だから。
085	04	指導員 止まらないよね。

整理番号 296	認知機能検査結果の分類 BSC 年齢 75歳以上80歳未満	第3分類		○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 その他指導項目チェック数 2 222：判別不能な音声。	備考 （一時停止：2 （ 停止線通過時間 5:59 チェック開始時間 5:55 ）			
		性別 女性	安全確認行動					
（は、受講者の安全確認行動。								
（一時停止 1 （ 停止線通過時間 2:17 チェック開始時間 2:13 ） 備考 ○ 2段階停止なし。								
一時停止上目回	安全確認行動	タイミング	動画時間	位置 首振り方向	動画時間			
		タイミング	分 秒	位置 首振り方向	分 秒			
		タイミング	2 15	右	5 58			
		タイミング	2 16	左	6 0			
		タイミング	2 19	右	6 0			
		回数	2 19	左	6 0			
一時停止上目回	安全確認行動	タイミング	動画時間	位置 首振り方向	動画時間			
		タイミング	2 15	右	5 58			
		タイミング	2 16	左	6 0			
		タイミング	2 19	右	6 0			
		回数	2 19	左	6 0			
		回数	2 19	右	6 0			
（一時停止 2 （ 停止線通過時間 5:03 チェック開始時間 4:59 ） 備考 ○ 一時不停止。								
一時停止上目回	安全確認行動	タイミング	動画時間	位置 首振り方向	動画時間			
		タイミング	4 59	左	5 59			
		タイミング	5 1	右	5 59			
		タイミング	5 1	左	5 59			
		回数	5 1	右	5 59			
		回数	5 1	左	5 59			
2 指導のタイミング：一時不停止直後、左折中に実施。								
一時停止上目回	安全確認行動	発話番号	動画時間	発話者	発話内容			
		発話番号	分 秒	発話者	発話内容			
		128	05 03	指導員	ほら、止まつてないんですよー一時停止が。これ。			
		129	05 06	受講者	ういません。			
		130	05 07	指導員	ね。			
		131	05 08	指導員	今止まってないもんね。			
		132	05 09	受講者	完全に止まつてないです。			

整理番号		認知機能検査結果の分類		第1分類		指導員									
305		年齢 75歳以上30歳未満		性別 男性		○○：受講者の名前 △△：受講者以外の人名 ※記入事項)チェック表 総数 5 重複指導項目チェック表 総数 2 その他指導項目チェック表 総数 2									
指導のタイミング： 一時停止標識の見える位置で、信号待機中の車内で実施。															
は、受講者の安全確認行動。															
一時停止 1	(停止線通過時間 12:56、チェック開始時間 12:52)	備考		発話内容											
安全確認行動															
○ 一時不停止															
○ 補助ブレーキ															
動画時間															
番号															
分 秒															
12 52															
-時停止線通過前 左															
12 54															
-時停止線通過前 右															
12 56															
補助ブレーキ															
13 7															
-時停止線通過後 右															
位置															
右															
回数															
-時停止線通過前 1															
-時停止線通過後 1															
計 2															
合計 2															
2															
-時停止 1 (停止線通過時間 16:07、チェック開始時間 16:03)															
安全確認行動															
○ 2段階停止なし。															
備考															
指導のタイミング：															
一時停止後の一時停止標識ブレーキで停車。停車中の車内で実施。															
一時停止 2	(動画時間 12:56、チェック開始時間 12:52)	備考		発話内容											
動画時間															
番号															
分 秒															
289 12 54															
指導員 ああ、○○さん、もうちょっといらっしゃらないと。															
290 12 57															
指導員 いいやつたんだよ。															
指導のタイミング：															
1 移動中の車内で実施。															
指導のタイミング	(動画時間 12:56、チェック開始時間 12:52)	備考		発話内容											
動画時間															
番号															
分 秒															
305 13 27															
指導員 うん。今の所ね、あのー一時停止の所・・・															
306 13 30															
受講者 はい。															
307 13 31															
受講者 ああ															
308 13 32															
受講者 ビタッと止まんないとね。															
309 13 33															
受講者 うん。はい。分かりました。															
310 13 33															
指導のタイミング：															
移動中の車内で実施。															
指導のタイミング	(動画時間 12:56、チェック開始時間 12:52)	備考		発話内容											
動画時間															
番号															
分 秒															
317 13 50															
指導員 さっきのこの一時停止が失敗気味でやったよ。															
318 13 52															
指導員 あの、動いたらやつてるので。															
319 13 54															
受講者 ああ、すいません。															
320 13 55															
指導員 ビタッと止まつてないからさ。															
321 13 56															
受講者 はい、すいません。															

整理番号 306 認知機能検査結果の分類 第2分類 ○○：受講者の名前
年齢 80歳以上 性別 女性 △△：受講者以外の人名
重複指導項目チェック表 5 その他指導項目チェック表 0 222：判別不能な音声。

は、受講者の安全確認行動。

指導のタイミング：一時停止検査前の信号のある交差点で実施（一時停止標識は建物の形で見えない）。				
回数	目次	発話		発話内容
		動画時間	秒	
148	05	04	04	指導員 あの人、はつきり確認してね。
149	05	05	05	受講者 はい。
150	05	05	05	指導員 顔をあの辺に見て
151	05	06	06	受講者 ああ、はい、
152	05	07	07	指導員 日玉キヨロキヨロ見てるかどうかがわからないからね。

一時停止 1 (停止線通過時間 5:24, チェック開始時間 5:20)

安全確認行動				備考	
回数	目次	動画時間			位置
		分	秒	秒	
1	1	5	23	右側の直進直前	右
		5	24	一時停止直後	左
		5	24	右側の直進直後	右
		5	32	右側の直進直後	右
		5	32	二時停止直後	左
		5	34	右側の直進直後	右
		5	47	一時停止直後	右
		5	54	右側の直進直後	右
		5	57	二時停止直後	右
		5	58	右側の直進直後	右
		位置	右	左	計
		回数	1	0	1
			1	2	9
			計	2	10
			計	8	10

指導のタイミング：移動中に実施。				
回数	目次	発話		発話内容
		動画時間	秒	
1	16	32	32	右側の直進直後
	位置	右	左	計
	回数	1	0	1
		計	1	0

一時停止 2 (停止線通過時間 16:30, チェック開始時間 16:26)

安全確認行動				備考	
回数	目次	動画時間			位置
		分	秒		
2	2	16	36	指導員 うん、もうちょっとピタッと止まつたほうがいいよ。	
		345	16	受講者 かか。はい。	
		346	16		

指定自動車教習所におけるドラレコの利用実態調査

アンケート票

印刷用 ※アンケートの回答は同封のエクセルファイルにお願いします。

～ 本アンケートの趣旨 ～

自動車安全運転センターでは、警察庁の協力の下、高齢運転者の交通事故防止のため、各分野の専門家を交えた会議を開催し、高齢者講習のドラレコ映像を活用して更なる交通安全に資することを目的に、「高齢者講習のドラレコ映像の交通安全教育への活用に関する調査研究」を行っています。

つきましては、実際にドラレコ映像を高齢者講習の個人指導に活用されている教習所の皆様に対してアンケート調査を実施することで、今後の検討をより実態に即した有効なものにさせていただきたいと考えておりますので、調査に御協力を賜れば幸いです。

記入が必要な欄が残っていますと左端に「未回答」と表示されます。回答を終えられた際、全ての「未回答」表示が消えていることを確認して下さい。

本アンケートは、高齢者講習の管理的立場の方がご回答下さい。
※問5は、普段高齢者講習を担当されている方にお聞き取りの上ご回答下さい。

回答欄

フェイスシート

ご回答頂く方の肩書きをお答え下さい(○○部長、○○課長等)→[]

ご回答頂く方が、これまでに高齢者講習を指導された
経験年数をお答え下さい(指導経験が無い場合 0 年)→[]年

ご回答頂く教習所の所在地を都道府県でお答え下さい →[]

ご回答頂く教習所の名称をお答え下さい →[]

問1 貴教習所で高齢者講習に使用されているドラレコ(※)についてお聞きします。
※ドラレコはドライブレコーダーの略。

- 回答時は一度セル内を選択して下さい。↓
- 1-(1) どこのメーカーをお使いですか。
「その他」の場合は具体的に入力して下さい→[]
- 1-(2) どの機種をお使いですか 機種名を具体的に入力して下さい→[]
- 1-(3) 分かれば、型番名を具体的に入力して下さい →[]
※分からない場合は「不明」と入力して下さい
- 1-(4) 現在、カメラの数はいくつで使用されていますか
- 1-(5) そのカメラで撮影している箇所を全て答えて下さい。
※該当するもの全ての□をチェック(複数回答)→
- 「その他」の場合は具体的に入力して下さい→[]
- | | |
|---------------|----------|
| 選択して下さい。 | 選択して下さい。 |
| セルスター | 1 |
| ユピテル | 2 |
| シリバーアイ | 3 |
| CAMOS | それ以上 |
| アサヒリサーチ | わからない |
| コダック | |
| その他※下のセルに具体的に | |
- | |
|-----------|
| 前方 |
| 運転者の顔 |
| アクセル・ブレーキ |
| 後方 |
| その他 |

1-(6) GPSを利用して走行位置を地図表示させる機能がありますか 選択して下さい。 選択して下さい。
 ※GPSユニットがオプションの場合、これをついている場合は「ある」
 つけていない場合は「ない」を選択して下さい ある
 ない
 わからない

問2 高齢者講習のドラレコ映像データの 現在の保管環境についてお尋ねします。
 以下の項目のうち該当するもの全ての□をチェックしてください。(複数回答)

- インターネット等外部ネットワークに常時接続された(ほかの用途にも用いる)パソコン
- 必要な際にインターネット等に接続して用いる(ほかの用途にも用いる)パソコン
- 内部のみのネットワークに接続する(ほかの用途にも用いる)パソコン
- ネットワークに接続しない(ほかの用途にも用いる)パソコン
- 内部ネットワークに接続する(ほかの用途に用いない専用の)パソコン
- ネットワークに接続しない(ほかの用途に用いない専用の)パソコン
- 所内のサーバー・共有フォルダー
- 外部のサーバー・クラウドデータサービス
- 外部記憶媒体(DVD, Blu-ray, 外付けハードディスクなど)
- ドラレコの記録メディア(SDカード等)をそのまま保管している
- その他

※ドラレコ記録
メディアは
含まない

「その他」の場合は具体的に入力して下さい→[]

問3 高齢者講習のドラレコ映像データの保管期間の 今後の方針についてお尋ねします。
 該当する期間を右の中から選んで下さい。

- 個人指導を実施した後、1年以内に廃棄する予定である。
- 個人指導を実施した後、1~3年程度は保存する予定である。
- 個人指導を実施した後、次回の運転免許更新まで(最大4年程度)は保存する予定である。
- 個人指導を実施した後、5年以上の期間を定めて保存する予定である。
- 保存期間を定めず、永年保存する予定である。
- その他

「その他」の場合は具体的に入力して下さい→[]

3-(2) 3-(1)でお答えになった期間について、より長期間の保管を実施しない理由など、
 その根拠について、ございましたらご記入ください。(自由回答)

[]

問4 問3で回答した方針に従い、高齢者講習のドラレコ映像データを保管することを想定した場合、今後どのような環境で保管することが適切と考えるか、以下の項目のうち該当するもの全ての□をチェックしてください。(複数回答)

- インターネット等外部ネットワークに常時接続がった(ほかの用途にも用いる)パソコン
- 必要な際にインターネット等に接続して用いる(ほかの用途にも用いる)パソコン
- 内部のみのネットワークに接続する(ほかの用途にも用いる)パソコン
- ネットワークに接続しない(ほかの用途にも用いる)パソコン
- 内部ネットワークに接続する(ほかの用途に用いない専用の)パソコン
- ネットワークに接続しない(ほかの用途に用いない専用の)パソコン
- 所内のサーバー・共有フォルダー
- 外部のサーバー・クラウドデータサービス
- 外部記憶媒体(DVD、Blu-ray、外付けハードディスクなど)
- ドラレコの記録メディア(SDカード等)をそのまま保管する
- その他

※ドラレコ記録
メディアは
含まない

「その他」の場合は具体的に入力して下さい→[]

問5 現在実施している個人指導における高齢者講習のドラレコ映像の使い方にについてお尋ねします。※この質問は、普段高齢者講習を担当されている方にお聞き取りの上お答え下さい。

個人指導の際にドラレコ映像を活用する際の使用場面を、よく用いる順に答えて下さい。
最もよく使用する走行場面

「その他」の場合は具体的に入力して下さい→[]

二番目によく使用する走行場面

「その他」の場合は具体的に入力して下さい→[]

三番目によく使用する走行場面

「その他」の場合は具体的に入力して下さい→[]

問6 高齢者講習のドラレコ映像の再利用についてお尋ねします。

6-(1) 撮影したドラレコ映像を、CD-R・DVD-RやUSBメモリーにコピーするなどして、受講者本人やその家族に渡していますか。

選択して下さい。

選択して下さい。

6-(2) ドラレコ映像を、受講日当日に行われる実車走行後の個人指導以外に利用する予定はありますか。

選択して下さい。

選択して下さい。

6-(3) 6-(2)で「ある」と回答した方は、その予定について以下の項目のうち該当するもの全ての□をチェックしてください。(複数回答)

- 次回の高齢者講習(臨時高齢者講習等も含む)に活用する予定である。
- 教習所における受講者本人へのサービスに活用する予定である。
- 双方向講義の際に活用する予定である。
- 教習所における別の受講者への講習等の際に活用する予定である。
- 教習所の職員の研修等に活用する予定である。
- 有効な個人指導のあり方を検討する際の資料として活用する予定である。
- その他

※双方向講義以外のもの

「その他」の場合は具体的に入力して下さい→[]

6-(4) 6-(3)で回答した利用を行う理由についてご記入ください。
(自由回答)

※例えば、6-(1)でお聞きした「撮影したドラレコ映像を本人・家族に渡す」ことを実施している場合は、『データを家に持ち帰ってもらうことにより、本人が自分で見て指導内容を復習できる。家族に観てもらつた場合には、受講者が運転する際の問題を知つてもらうことで、より良いサポートが受けられるようになることが期待されるため。』など。

6-(5) 6-(3)で回答した利用を行う際、工夫していることなどがございましたら、ご記入ください。(自由回答)

※例えば、6-(1)でお聞きした「撮影したドラレコ映像を本人・家族に渡す」ことを実施している場合は、『お渡ししたデータがそのまま忘れられたりされないよう、目に付きやすい色つきの封筒に入れ、データが何であるかと、取り扱い方法について分かりやすく記した、ご家族の方に宛てた手紙を添付している。』など。

6-(6) 6-(3)で回答した利用予定について受講者の同意は得ていますか。
「その他」の場合は具体的に入力して下さい→[選択して下さい。]

選択して下さい。
得ている
得ていない
その他※下のセルに具体的に

6-(7) 6-(6)で回答した理由、および同意を得ている場合は
その取得方法について具体的に記入して下さい。(自由回答)

6-(8) 6-(3)で回答した予定について、高齢者講習のドラレコ映像データの保管のため
今後どのような環境を整備することが適切と考えるか(現在、既に整備済みの場合も含める)、
以下の項目のうち該当するもの全ての□をチェックしてください。(複数回答)

- インターネット等外部ネットワークに常時繋がった(ほかの用途にも用いるパソコン)
- 必要な際にインターネット等に繋げて用いる(ほかの用途にも用いるパソコン)
- 内部のみのネットワークに繋げる(ほかの用途にも用いるパソコン)
- ネットワークに繋げない(ほかの用途にも用いるパソコン)
- 内部ネットワークに繋げる(ほかの用途に用いない専用のパソコン)
- ネットワークに繋げない(ほかの用途に用いない専用のパソコン)
- 所内のサーバー・共有フォルダー
- 外部のサーバー・クラウドデータサービス
- 外部記憶媒体(DVD, Blu-ray, 外付けハードディスクなど)
- ドラレコの記録メディア(SDカード等)をそのまま保管する
- その他

※ドラレコ記録
メディアは
含まない

「その他」の場合は具体的に入力して下さい→[]

6-(9) 6-(8)で回答した理由について自由にご記入ください。(自由回答)

問7 高齢者講習のドラレコ映像データが 今後よりよく活用されるためには

どのような問題点を改善したら良いとお考えになるかお伺いします。

以下の項目のうち該当するもの全ての□をチェックしてください。(複数回答)

- 今現在、すでに十分活用されており、改善しなければならない問題はない。
- 指導のために、記録メディアを本体から抜き差しすることが大変である。
- 同時に複数の受講者が運転するので、誰の時の運転映像かがまざらわしい。
- 指導したい場面がぱっと出てこない。
- 映像を見せて指導に使えるようなものが写っていない。
- 複数カメラのシステムだが、見せたいカメラの映像に切り替えるのが面倒だ。
- 複数カメラのシステムで、映像を並べて見せたいのにできない。
- 速度・加速度や位置情報を指導に使えない。やろうとしても使いづらい。
- 顔が映っているなど、プライバシーにかかるデータなので取り扱いに気を遣う。
- 問題受講者の運転の映像を、他の人に見せたら良い教材になる。
- 受講者本人の過去の映像を使えば、もっと良い指導ができると思う。
- その他

「その他」の場合は具体的に入力して下さい→[]

問8 ドラレコ映像の活用について自由にご記入ください。(自由回答)

※ 効果的だと考える独自の活用方法など、何でも結構です。

それがどういった場合に、どのように効果的なのか等もまじえ、

理由等についてもご解説頂けましたら、調査の参考として
大変役立ちます。

以上でアンケートはおわりです。ご協力、ありがとうございました。

※ 本アンケートは右のメールアドレス宛てに電子メールでご返送下さい: chousa2018@tkpco.co.jp

平成 30 年度調査研究報告書
高齢者講習のドラレコ映像の交通安全教育への活用に関する調査研究

この著作物の著作権は、自動車安全運転センターに属します。
無断使用を禁じます。

平成 31 年 3 月



自動車安全運転センター調査研究部
〒102-0084 東京都千代田区二番町 3 番地
URL <https://www.jsdc.or.jp/library/research/tabcid/123/Default.aspx>